札幌市立大学年報
平成19年度

札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY

はじめに　―２年度目の概観―

公立大学法人札幌市立大学は平成18年4月1日に創立し、2年度目を迎えた。

この年、附属研究所として地域連携研究センター、入試委員会を発展させアドミッションセンターを開設した。地域連携研究センターは、センター長1名、副センター長2名、教員10名、事務局職員2名により構成し、研究活動、知的財産、地域貢献、サテライトキャンパス、産学官連携、国際交流等の推進体制を整備した。また､アドミッションセンターは､センター長1名､副センター長1名、教員7名、事務局職員2名により構成し、入学者選抜試験、学生確保の体制を確立した。

国際交流では、初年度の韓国又松大学に次いで、中華人民共和国河北省の承徳医学院との間に学術交流協定を締結した。

教育活動面では、本学の特色であるデザイン学部と看護学部の1年生が共同して提案等を行う「スタートアップ演習」が2年度目を迎え、ますますその対象領域を拡げた。デザイン学部では専門教育科目の基本科目に重点を置きながら、それぞれの専門の展開科目と学芸員などの資格取得のための自由科目等を開講した。また、看護学部では、専門教育科目の専門基礎科目に重点を置きながら、専門科目の概論等を開講した。

入学者選抜試験では、デザイン学部受験者は前期169名（3.17倍）、後期122名（14.43倍）、特別選抜43名（3.58倍）で､看護学部受験者は前期137名（2.90倍）､特別選抜104名（3.25倍）であった。また、編入学者選抜試験では、デザイン学部16名、看護学部8名が入学した。

研究面では、学内研究費配分として、学術奨励研究11件、学内共同研究6件を採択した。学外研究費は、科学研究費補助金14件、受託研究費14件、共同研究費1件、研究助成2件、寄附金8件を得た。海外研修は24件実施した。個人研究業績件数は、デザイン学部222件、看護学部は283件である。ここで科学研究費補助金取得件数が大学の研究水準の評価指標となっていることを考えると、教員数64名に対して、取得数14件（取得率22％）の状況は本学の大きな課題である。

社会活動面では、地域連携研究14件、中高大連携活動13件、学生参加活動30件、その他の地域貢献諸活動50件、公開講座57件、講演会研修会講師等はデザイン学部38件、看護学部107件であった。このように本学の社会活動は極めて活発に行われているといえる。

この年、文部科学省の大学改革の一環として実施されている「特色ある大学教育支援プログラム」（特色GP）にデザイン学部と看護学部が共同して申請したが､残念ながら採択には至らなかった。しかし「大学教育の改善に資する種々の取組のうち、特色ある優れたものを選定」する趣旨であることから、本学の特色である異分野横断型連携教育の成果を踏まえ申請を継続しなければならないとの思いを強く抱いている。

開学2年度目は学生数が2倍になり、共同して本学を作り上げるエネルギーとなってきたのと同時に、教職員同士の結束が強くなった。何といっても教育、研究や社会活動は人間相互の協同のたまものである。幸いに平成19年度の年度計画もほぼ目標通りに達成できた。このことが市民の思いによって支えられた結果であることをあらためて思う。

少子高齢化、国際経済の混迷、価値意識の転換期の中にあって、目先の困難ばかりでなく、なぜ札幌に「人を根幹とする」大学を開設したのかという問いに対する明確な答えを我々自身が自己確認してゆかねばならないだろう。

札幌市立大学学長　原　田　　昭

目　次

はじめに

概要

1　大学設置の経緯…… 1
2　デザイン学部の概要…… 3
3　看護学部の概要…… 4
4　運営体制図…… 6
5　行事…… 7
6　地域連携研究センターの開設…… 8
7　アドミッションセンターの開設…… 9
8　承徳医学院との学術交流協定締結……10

教育活動

1　教育活動概要……11
2　共通教育・連携教育……12
3　デザイン学部……17
4　看護学部……27
5　その他……38

研究活動

1　研究活動概要……41
2　連携研究一覧……42
3　個人研究費による研究一覧……43
4　学内公募研究課題一覧……46
5　学外からの研究費、研究補助金などの受入状況……47
6　寄附金の受入状況……49
7　海外研修記録……50
8　個人別業績一覧……52

社会活動

1　地域貢献諸活動……84
2　公開講座開催実績……95
3　学会及び社会における活動…… 101
4　非常勤講師等実績…… 112
5　専門職支援・セミナー講師等…… 115
6　国際交流…… 124
7　サテライトキャンパスの利用状況…… 124

平成２０年度入学者選抜結果

1　入学者選抜要項…… 125
2　選抜状況…… 130

附属図書館

1　概要…… 132
2　利用状況…… 133

役員会、経営審議会及び教育研究審議会

1　役員会及び審議会の審議状況…… 134
2　役員及び審議会委員名簿…… 136

学内運営の概要

1　部局長会議…… 137
2　企画戦略会議…… 139
3　教授会…… 140
4　地域連携研究センター…… 142
5　アドミッションセンター…… 145
6　学内委員会…… 147
7　学部長等の選考…… 162

資料

1　中期計画…… 165
2　平成１９年度年度計画…… 180
3　平成１９年度決算…… 193
4　教職員数…… 194
5　管理職一覧表…… 194
6　教員一覧表…… 195
7　学生定員及び学生数…… 196
8　授業料等…… 196
9　奨学金貸与・授業料減免実施状況…… 196
10　学生の入選・受賞…… 197
11　学生の課外活動…… 197
12　後援会…… 198
13　教育･研究刊行物一覧 …… 198
14　施設…… 198
15　大学への交通アクセス…… 204

編集後記

概要

1　大学設置の経緯

環境問題や少子高齢化、高度情報化、国際化などの進展に伴い、社会構造がますます複雑化する中で、学術研究の高度化、学際化とともに、社会では高い資質と能力を持った職業人が強く求められている。特に、札幌市においては、公共事業の削減が進む中、IT産業に代表される札幌の産業特性に対応したデザイン分野、積雪寒冷という札幌の気候風土に着目したデザイン分野など、地域社会に密着した産業の振興への取組が特に重要であり、こうした取組に対応できる幅広いデザイン能力を持った職業人が求められている。

また、今後も当分の間、看護職の不足が続くと予測されているにもかかわらず､看護職養成施設の廃止や定員の削減に伴う新卒看護職の減少が懸念されている。そうした中、在宅医療を支える訪問看護等の需要増加を始めとして、今後は、患者の生活の質向上を目指したケアを行うことができる、広範で高度な看護能力を有する看護職の確保が求められている。

一方、今日の高等教育機関には、その高度な教育研究機能を通じて、これまで以上に地域社会への貢献を果たすことが大きな社会的要請となっている。

平成3年に開校した札幌市立高等専門学校は、中学卒業時から5年間の早期一貫教育を行うデザイン系高等教育機関として、実践的職業人を数多く輩出してきたほか、企業や行政からの受託研究などを通じて、産業の振興や市民生活の向上に貢献してきた。

また、昭和40年に開校した札幌市立高等看護学院は、高校卒業後の3年課程の専修学校として、市立札幌病院を始めとする札幌市内の医療機関に看護職を多数輩出し、市民の健康支援に貢献してきた。

このような状況の中で、先の地域課題への対応や社会的要請にこたえるために、札幌市立高等専門学校と札幌市立高等看護学院の大学化の必要性と方向性について幅広い論議を行うべく、平成13年11月、「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化検討懇話会」を設置した。

大学化検討懇話会は、市民論議の中心的役割を担う立場から、インターネットを始め、さまざまな形で寄せられる市民の意見に耳を傾け、審議経過を逐次公開しながら検討を進め、平成14年12月、約1年間にわたる市民論議の集大成として、「札幌市立高等専門学校と札幌市立高等看護学院が社会構造の変化に的確に対応し、かつ、地域社会の要請にこたえていくためには、4年制大学化によるレベルアップをできるだけ早期に図る必要がある。」とした「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化に関する提言」をまとめた。

こうした市民論議の経過を踏まえて、札幌市では、平成15年9月に「（仮称）札幌市立大学基本構想」を策定し、平成18年春の札幌市立大学の開学を目指すこととした。

そして、この基本構想に盛り込まれた方向性を具体化するために、平成15年11月に大学教育の専門家を中心とする「（仮称）札幌市立大学設置準備委員会」を設置して調査・審議を進め、学部・学科や教育課程、学生の受入れ、校地・校舎のあり方といった事項について準備委員会における検討内容を踏まえて、平成16年7月に「（仮称）札幌市立大学基本計画」を策定し、平成17年4月に札幌市立大学の設置認可申請を行った。同年12月に大学の設置が認可され、「人間重視を根幹とした人材の育成」と「地域社会への積極的な貢献」を理念とした札幌市立大学を平成18年4月に開学した。

沿革

昭和40年4月	「札幌市立高等看護学院」開校
平成3年4月	「札幌市立高等専門学校」開校
平成8年4月	「札幌市立高等専門学校専攻科」開設 「札幌市立高等専門学校附属研究所」開設
平成13年11月	「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化検討懇話会」設置
平成14年12月	同懇話会による「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化に関する提言」
平成15年9月	「（仮称）札幌市立大学基本構想」策定
平成15年11月	「（仮称）札幌市立大学設置準備委員会」設置
平成16年7月	「（仮称）札幌市立大学基本計画」策定
平成17年12月	「札幌市立大学」大学設置認可
平成18年3月	「公立大学法人札幌市立大学」設立認可
平成18年4月	「札幌市立大学」開学
平成18年10月	「サテライトキャンパス」開設
平成19年4月	「地域連携研究センター」開設 「アドミッションセンター」開設

２　デザイン学部の概要

1)　特色

デザイン学部では、大学の特色を踏まえ、幅広い職業人の育成を行うことを基盤とし、デザインという特定の専門分野の教育研究を通じて、社会に貢献することを特色としている。具体的には、優秀で創造的な人材を社会に輩出するほか、企業との共同研究や受託研究といった産学連携、個人の創造性・スキルに基盤を置き、知的資産によって価値を生み出す創造的な産業の振興などを通じて社会に貢献するものである。

したがって、デザイン学部では、平成17年1月中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」にある七つの機能のうち、「幅広い職業人養成」を主軸とするほか、デザインという「特定の専門的分野の教育・研究」及び「社会貢献機能」に比重を置いて教育研究に取り組むことを特色としている。

2)　教育目的

デザイン学部では、次のような人材の育成を目的とする。

①　幅広いデザイン能力を持った人材の育成

デザインの基礎的な理論や技術について幅広く教育を行い、高度な職業人に必要なデザイン能力を持った人材を育成する。

②　人間中心の視点に立ったデザインに取り組める人材の育成

造形の基盤となる芸術的要素に機能の基盤となる工学的要素を融合させ、人にやさしいデザインや使いやすいデザインなど、人間中心の視点に立ったデザインに取り組むことのできる人材を育成する。

③　地域社会に貢献できる人材の育成

時代や社会の要請を的確に捉えた教育研究に取り組むとともに、地域産業や芸術・文化の振興を始め、都市機能や都市景観の向上など、まちづくり全体に幅広く貢献する人材を育成する。

3)　育成する人材像

札幌市においては、IT産業に代表される札幌の産業特性に対応したデザイン分野や、積雪寒冷という札幌の気候風土に着目したデザイン分野など、地域社会に密着した産業の振興への取組が特に重要視されており、こうした取組に対応できる幅広いデザイン能力を持った職業人が求められている。

デザイン学部では、そうした社会の人材需要にこたえるとともに、教育目的を達成するため、次の能力を備えた人材を育成する。

①　高いコミュニケーション能力

的確に意思疎通を図り、豊かな人間関係を形成することができる能力のほか、海外とのコミュニケーションに必要な実用的な英語能力、高度情報化社会に不可欠な情報処理能力を養う。

②　課題探求能力と問題解決能力

社会の課題やニーズを自ら探求する能力と、その問題をデザインによって解決することのできる能力を養う。

③　デザインの基礎となる表現力
豊かな感性を涵養するとともに、創造的な発想と豊かな表現力を養う。
④　人間や環境に配慮したデザイン能力
人間にとって使いやすいデザインや環境への負荷に配慮したデザインを行う能力を養う。
⑤　新たな価値を発見する柔軟な発想
固定観念にとらわれず、さまざまな視点からデザインに取り組むことのできる柔軟な発想を養う。
⑥　企画力や管理・運営能力
デザインを実践的に活用することのできる企画力や管理・運営能力を養う。

3　看護学部の概要

1)　特色

看護学部では、大学の特色を踏まえ、幅広い職業人の育成を行うことを基盤として、看護学という特定の専門的分野の教育研究を通じて、社会貢献を果たしていくことを特色としている。具体的には、確実な看護実践力を持ち、高い資質を有する看護職を輩出するとともに、保健・医療・福祉行政や関係機関などと連携し、地域看護の充実や市民の健康の保持増進につながる研究を通して社会に貢献するものである。

したがって、看護学部では、平成17年1月中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」にある七つの機能のうち、「幅広い職業人養成」を主軸とするほか、看護という「特定の専門的分野の教育・研究」及び「社会貢献機能」に比重を置いて教育研究に取り組むことを特色としている。

2)　教育目的

看護学部では、看護職として活躍する次のような人材の育成を目的とする。

①　的確な実践力を有する人材の育成

看護は、看護の理論や知識を基盤とした看護実践を通して研鑽を重ねつつ専門性を深める学問である。

高度・専門化する医療、多様化する看護ニーズに対応するためには、緻密な観察に基づく的確な判断能力と技術力、さらにこれらを基盤とした問題解決能力が求められる。また、人々がより高い水準の健康を維持・獲得するためには、科学的根拠に基づいた専門的知識・技術を用いて、自律的にケアを推進する実践的な援助能力が求められる。

このため、あらゆる健康レベルや場において、人々が快適で安全に安心して生活できるよう、理論・知識・根拠に基づき的確に看護を実践できる技術と能力を有する看護職を育成する。

②　人間性を尊重した対人関係形成能力を備えた人材の育成

看護の援助過程は、看護職と看護を必要とする人との人間関係形成により援助過程が進行するものである。看護職は、人間の尊厳を重視し、安心感を与える態度･態様が求められるとともに、看護行為を実施する上では、すべての人に対する人権の擁護と倫理的判断ができるよう常に志向することが肝要である。

また、医療施設における看護はもとより、福祉施設や在宅における看護、地域における看護な

ど看護職に求められる能力、期待される役割が増大しているとともに、高度化する医療は、さまざまな職種の医療従事者を必要としており、看護職や他の従事者と連携・協働し、対象である人間を中心とする視点に立った医療・看護を提供することが重要である。

このため、対象あるいは医療従事者間との意思疎通を図り、対人関係の形成のために、身体的側面だけではなく、心理的、社会的側面から人間を理解し、幅広い教養を基盤とした豊かな人間性と倫理観を備えた看護職を育成する。

③　地域社会に貢献できる人材の育成

市民の健康に対するニーズの増大や価値観の多様化などに伴い、看護職に対する需要は増大、複雑化してきており、札幌市立大学では、このような地域の看護需要に対応することが必須になる。

このため、保健・医療・福祉などの学びに加えて、幅広い分野・職種と連携し、創造的、主体的に学習することで、積極的に地域社会における市民の健康の保持増進に貢献できる人材を育成する。また、看護職に対する需要は、それぞれの地域ごとに異なっており、札幌市はもとより、北海道内、あるいは全国的な視点から看護の発展に寄与できる看護職を育成する。

3)　育成する人材像

札幌市には、多くの高度・専門的医療機関が立地し、北海道における高度、先進的医療技術の中核的役割を担っている。少子高齢化が急速に進行し、さらに、独居老人世帯数、高齢夫婦世帯数も増加しており、このような社会情勢に的確に対応した看護職が求められている。

しかし、看護職は今後も当分の間、不足が続くことが予測されているにもかかわらず、看護職の養成施設の廃止や定員の削減に伴う新卒看護職の減少が懸念されている。

このため、看護学部では、医療機関における高度・専門的医療を担う看護職を育成することはもとより、在宅の高齢者等に対する看護、保健指導など地域の看護需要に対応できる看護職を育成することとし、こうした社会の人材需要の充足と教育目的を達成するため、次の能力を備えた人材を育成する。

①　対人関係形成能力

豊かな人間性と倫理的判断力を備え、安心感を与える的確な意思疎通により対人関係を形成できる能力を養う。

②　権利擁護・安全なケア提供能力

さまざまな健康レベル、あらゆる発達段階、さまざまな場において、対象の権利を擁護し、安全なケアを提供できる能力を養う。

③　的確な判断能力と問題解決能力に基づく看護実践技術力

緻密な観察と科学的知識に基づく的確な判断能力と問題解決能力を培い、これらを基盤とした看護実践技術力を養う。

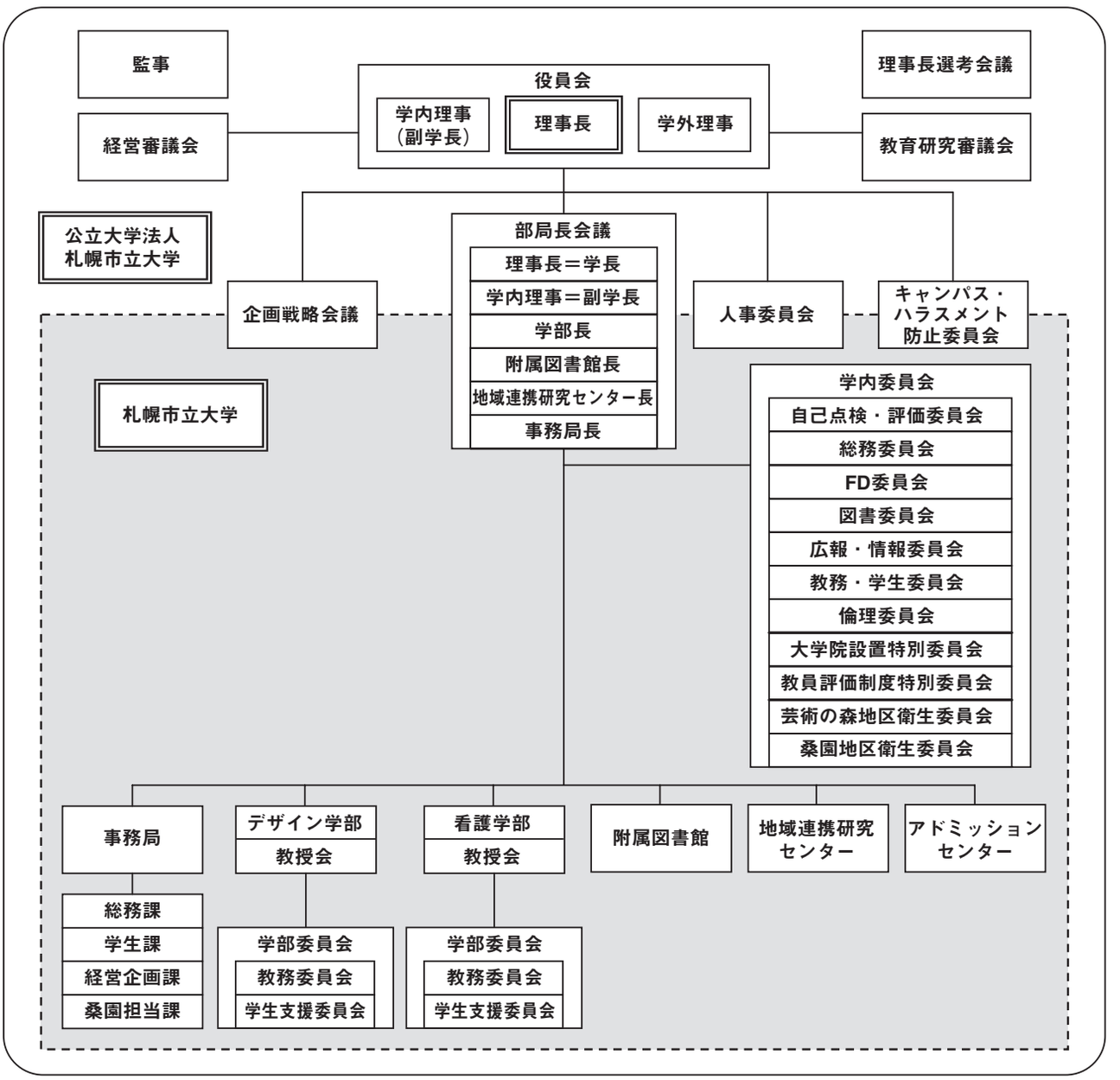
④　医療従事者間における調整・指導のための基礎的能力

看護対象者の視点から保健・医療・福祉を追究し、各分野における看護の専門性と役割を認識の上、医療従事者間の調整や指導的役割を担うための基礎的な能力を養う。

⑤　課題解決力を高めるための自己研鑽能力

主体的・創造的に課題探求に取り組み、解決する力を高めるために継続的に自己研鑽できる能力を養う。

4　運営体制図


監事
経営審議会
役員会
学内理事（副学長）
理事長
学外理事
理事長選考会議
教育研究審議会
公立大学法人 札幌市立大学
企画戦略会議
部局長会議
理事長＝学長
学内理事＝副学長
学部長
附属図書館長
地域連携研究センター長
事務局長
人事委員会
キャンパス・ハラスメント防止委員会
札幌市立大学
学内委員会
自己点検・評価委員会
総務委員会
FD委員会
図書委員会
広報・情報委員会
教務・学生委員会
倫理委員会
大学院設置特別委員会
教員評価制度特別委員会
芸術の森地区衛生委員会
桑園地区衛生委員会
事務局
デザイン学部
教授会
看護学部
教授会
附属図書館
地域連携研究センター
アドミッションセンター
総務課
学生課
経営企画課
桑園担当課
学部委員会
教務委員会
学生支援委員会
学部委員会
教務委員会
学生支援委員会

5　行事

前期開始	4月1日
春季休業	4月2日～5日
入学式・後援会設立総会	4月5日
ガイダンス	4月6日
前期授業開始	4月9日
履修登録期間	4月9日～20日
健康診断	4月25日
第1回オープンキャンパス	6月30日
編入学試験（推薦）　デザイン学部	7月28日
前期定期試験期間	8月6日～10日
夏季休業	8月13日～9月9日
編入学試験　看護学部	9月15日
ガイダンス	9月28日
第2回オープンキャンパス	9月29日
前期終了	9月30日
後期開始	10月1日
後期授業開始	10月1日
履修登録期間	10月1日～12日
大学祭	10月6日～7日
編入学試験（一般）　デザイン学部	10月13日～14日
特別選抜入学試験	11月24日
冬季休業	12月24日～1月6日
後期定期試験期間	2月13日～19日
一般選抜入学試験（前期課程）	2月25日
春季休業	3月10日～31日
一般選抜入学試験（後期課程）	3月12日
後期終了	3月31日

６　地域連携研究センターの開設

「札幌市立大学学則」（平成18年学則第1号）第3条第2項の規定に基づき、「公立大学法人札幌市立大学附属研究所規則」（平成19年規則第1号）を制定し、この規則に則り、平成19年4月に地域連携研究センターを開設した。

地域連携研究センターは、センター長1名、副センター長2名の他、デザイン学部教員6名、看護学部教員4名及び事務局職員2名によって構成されている。

【目的】

本学における研究活動､地域貢献及び国内外のネットワーク形成の推進を図ることを目的とする。

【業務】

1）　研究費、研究成果の公表等研究活動の推進に関する事項
2）　共同研究・受託研究、研究に係る寄附金等外部資金に関する事項
3）　知的財産に関する事項
4）　市民講座等地域貢献に関する事項
5）　サテライトキャンパスの活用に関する事項
6）　産学官連携に関する事項
7）　国際交流その他の国内外のネットワークに関する事項
8）　その他理事長が定める事項

【業務担当部門及びその機能】

1）　研究推進部門

横断的な研究を奨励し、支援するとともに、札幌のまちづくり事業や企業・研究機関の研究開発プロジェクトへ積極的に参画するなど、本学の有する研究成果等の知的資産を積極的に地域に還元また発信する。

①　学内外における研究活動の推進
②　共同研究・受託研究、研究に係る寄附金等外部資金等の受け入れ
③　教員プロフィール、紀要等本学の研究活動に係る情報発信
④　知的財産に関する事項
⑤　その他研究推進に関連する事項

2）　人材育成・地域貢献部門

本学の有する教育資源を活かし、社会のニーズに対応した社会人教育、職能人教育など幅広い人材育成事業を体系的に行う。

①　市民講座等地域貢献に関する事項
②　サテライトキャンパスの活用に関する事項
③　その他人材育成・地域貢献に関連する事項

3)　産学連携部門

本学の研究、地域貢献を進める上で不可欠な学部間の連携、国内外大学間の連携、海外の教育研究機関との連携交流、民間企業や経済団体との産学連携、札幌市等行政との連携など、多様な連携協力体制を構築し、その拡充を図る。

①　産学官の連携の推進

②　国際交流その他の国内外のネットワークの構築

③　その他地域連携に関する事項

4)　事務部門

研究推進部門、人材育成・地域貢献部門、産学連携部門が推進する事項に係る事務的な手続きを担当する。

①　研究センターに係る事務全般

7　アドミッションセンターの開設

「札幌市立大学学則」（平成18年学則第1号）第16条第2項の規定に基づき、「公立大学法人札幌市立大学アドミッションセンター規則」（平成19年規則第2号）を制定し、入学者選抜試験の実施、学生確保に係る事業の計画的な推進を行う組織として、平成19年4月にアドミッションセンターを開設した。

アドミッションセンターは、センター長1名、副センター長1名の他、デザイン学部教員3名、看護学部教員4名及び事務局職員2名によって構成されている。

【目的】

センターは､札幌市立大学の教育理念に基づき使命感及び勉学意欲を持った学生を確保するため、入学者選抜（編入学者選抜を含む｡）に係る改善・充実、方策等を実施することを目的とする。

【業務】

1)　入学者選抜試験の実施に関する事項

2)　入試広報に関する事項

3)　入学者選抜方法の調査研究及び統計に関する事項

4)　その他入学者選抜に関する事項

8　承徳医学院との学術交流協定締結

承徳医学院は、昭和20年に中華人民共和国河北省承徳市上二道河子に医学大学として設立された。平成19年現在、専任教員364名を含む教職員700名、看護学部学生1,500名を含む6学部（中医学、看護学、心理学、中薬学、生物医学工学、基礎医学）に6,000名の学生が在籍している。この他、社会科学、公共体育学、臨床学、継続教育学等も学ぶことができる。看護学部は昭和59年に3年制看護短期大学として開設され、平成9年に4年制看護大学へと移行した。

敷地面積は104.54万m^2、施設面積21.51万m^2であり、5棟の修士課程教育棟、7棟の専門教育棟、6棟の研究棟ならびに8 ヶ所の附属病院、54 ヶ所の実習病院を持つ。

承徳医学院はこれまで、タイ、カナダ、シンガポール、日本（山形大学医学部）の大学と連携をしてきたがこれらの連携は医学部のみで、看護学部との連携はなかった。

平成19年8月24日から29日まで中村恵子副学長とスーディ神崎和代看護学部教授が訪中し、张树峰（Zhang Shu Feng）承徳医学院院長とお互いの大学の紹介及び本学と承徳医学院との連携へ向けての意向を確認した。また、両教授が承徳医学院において特別講義を行った。

平成20年3月2日から4日まで张树峰（Zhang Shu Feng）承徳医学院院長、王振方（Wang Zhen Fang）教授、单伟颖（Shan Wei Ying）看護学部長が本学に来訪し、①承徳医学院院長による学術交流協定調印記念講演の開催、②学術交流に関する協定書の調印、③今後の提携に係る意見交換、④研究・教育内容に係る情報交換を行った。

【特別講義】平成19年8月27日
会　　場：承徳医学院
タイトル：「日本の看護学教育について、札幌市立大学の看護学教育」
講　　師：中村　恵子（札幌市立大学　副学長・看護学部長）
タイトル：「Current Status of the Elderly and Healthcare System in Japan」
講　　師：スーディ神崎　和代（札幌市立大学　看護学部教授・地域連携研究センター産学連携部門委員）

【学術交流協定調印記念講演と調印式】平成20年3月3日
＜学術交流協定調印記念講演＞
会　　場：札幌市立大学　サテライトキャンパス
タイトル：「中国医学に於ける予防医療に関する学術的考察」
－Academic Thoughts of Preventive Treatment in Traditional Chinese Medicine－
講　　師：张树峰（承徳医学院　院長・教授）
＜学術交流協定調印式＞
会　　場：札幌グランドホテル
協定内容：①教員及び研究者の交流
②学生の交流
③学術資料、刊行物及び情報等の交換
④共同研究・シンポジウムの実施

教育活動

1　教育活動概要

「共通教育科目」は、デザインと看護の両学部共通とし、両学部に共通する「人間重視」の考え方を基本に、両学部の学生が一緒に学習することにより、学部間の交流を深め、異なる分野を志す学生が互いの発想に触れ、広い視野を持つことができるよう体系化した。また、「共通教育科目」は、①大学における心構えや履修方法、あるいは基本的な学習の進め方や研究方法を学ぶ「導入科目」、②文化や人間、社会に対する理解を目的とする「教養科目」、③語学などのコミュニケーション・ツールの習得を目的とする「コミュニケーション科目」の3つの区分で構成した。

デザイン学部の「専門教育科目」は、デザインの基礎的な理論や技術から、より専門性の高い知識や技術、実践的・発展的な知識やデザインの方法までを体系的に理解できるよう、①「基本科目」、②「展開科目」、③「発展科目」の3つの科目群で構成した。また、学芸員の資格を取得するために必要となる自由科目の一部を開講した。その他、専門教育科目を履修する上で必要な技術を補完する目的で「マッキントッシュ講習会」及び「木工室安全講習会」を、幅広い知識と経験を得る目的で「アートセラピー講習会」や「世界における近現代空間デザインの潮流と課題」等の特別講義を実施した。

看護学部の「専門教育科目」は、専門知識と高度な技術を系統的に学習できるよう、①専門科目を学ぶ前提や基礎となる「専門基礎科目」と、②看護の専門的知識・技術を学ぶ「専門科目」の2つの科目群で構成した。看護学実習は、さまざまな場で生活する人の健康レベル、あらゆる発達段階における人々に対して、それまでに学んだ理論や知識、技術を実践し、実際のかかわりを通して、総合的な看護実践能力を養うことを目的とし、看護職や関連職種の活動を見学体験する「看護初期実習」をはじめ、「基礎看護学臨地実習Ⅰ・Ⅱ」「成人看護学臨地実習Ⅰ」を段階的・体系的に実施した。さらに、実践的な技術の修得のために、演習科目において模擬患者を活用した演習を行うとともに、客観的臨床能力試験（OSCE）を用いた評価を実施し、学生にフィードバックした。

また、看護学部における教育課程と実習の位置付けの理解を得るため、主たる実習施設である市立札幌病院看護部を対象とした実習指導者会議と、全実習施設を対象とした臨地実習指導者会議を開催するとともに、本学の教員が各実習施設における看護業務を把握するための研修を実施した。さらに、看護学部の教員を対象に、カリキュラムの体系性等を理解するため、学部長による大学及び看護学部の教育研究上の理念等と教育課程の構成に係る概要の説明や、より実践的な看護職を育成するためにOSCEの導入に係るFD研修等を実施した。

2　共通教育・連携教育

1）　教育活動

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・目標
スタートアップ演習 ◎原　　俊彦 上遠野　敏 城間　祥之 杉　　哲夫 田中　敏明 中原　　宏 細谷　多聞 那須　　聖 松井　美穂 三谷　篤史 山田　　良 加藤　登紀子 河野　總子 スーディ神崎 和代 松浦　和代 守村　　洋 吉川　由希子 菅原　美樹 髙室　典子 新納　美美 村松　真澄 保田　玲子	演習 60時間	1年次 前期	「デザインと看護の連携」をテーマに、大講義室での合同講義や少人数編成によるグループ活動を通じ、文献講読、図書館の活用、レポート・論文作成、グループ討論など、主体的に勉学・研究を進めるための基礎的学習法、課題解決の手法などを習得するとともに、調査・分析プロジェクトを通じ、4年間の学生生活や将来の職業生活への展望を持ってもらうためのコア科目。
哲学と倫理 ★山田　友幸	講義 30時間	1年次 前期	知識とは何か、われわれはどのようなことを知ることが出来るか、知るということはどのようにして成り立つのかを主題に、具体例を取り上げてじっくり考える哲学的思考の体験レッスンを目指す。
環境を考える 矢部　和夫	講義 30時間	1年次 前期	地球環境問題の根源となっているのは、都市領域が人間の生存環境を作る自然領域を蚕食していったことである。また、地球は地域の集合体であると考えられ、その保全はそれぞれの地域で環境を保全することで達成される。このような視点から、地域環境保全の意義や地球環境の諸問題を取り上げ、その対策について、人間の暮らし、文化との関連で考える。
人間関係を考える ★椿　武愛子	講義 30時間	1年次 前期	挨拶から始まる対人関係と常識的なコミュニケーションが望まれているにもかかわらず、なかなかうまく表現できない人が多いといわれている。同じ職場に長く勤務できないのは、仕事がいやだからではなく、人間関係のトラブルからが多い。我々の日常生活は、家庭、学校、職場などを中心として営まれている。そのいずれにも､必ず他者とかかわらなければならない。そのためにまず、相手を知り、相手を認めることがいかに大切かを知り、コミュニケーションを上手にとるため、そして楽しい生き方をするための人間関係をつくることを目的とする。
現代社会と家族 原　　俊彦	講義 30時間	1年次 前期	日常当たり前の存在のように考えられがちな家族は、その時代により、社会により、また個人によって、その意味や位置付けが異なる。現代においては、社会構造の複雑化、グローバル化等が進んでおり、家族のありようや個人と家族のかかわりも大きく変化している。ここでは、現代の社会的な問題と、家族・地域社会の関係について学び、日本の家族が抱える課題について考察する。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・目標
札幌を学ぶ 原　　俊彦	講義 30時間	1年次 前期	さまざまな分野で活躍している方をゲストスピーカーとしてお招きし、札幌の地域特性や、道都としての札幌と北海道各地の関係について、お話をお聞きしともに考える。科目担当の専任教員は、ゲストスピーカーの紹介、学生への情報提供と評価を担当する。
英語ＩＡ ★大野　拓恵 ★水島　梨紗 ★亘理　陽一	演習 30時間	1年次 前期	高校までに習得した英語の基礎的な読解力をさらに発展させることを目標とする。ここでは様々なトピックに関する比較的平易な英文を読みながら、英文読解力、語彙力の向上を目指す。進度によっては、英文の新聞・雑誌記事などを副教材とし英語力の更なるレベルアップをはかる。
英語ＩＢ 松井　美穂 ★白土　淳子 ★向井　千和子	演習 30時間	1年次 前期	高校までに習得した文法を再確認するとともに、英文の構造を理解しながら、英語でコミュニケーションをするために必要な作文力を身に付ける。ここではセンテンス・レベルから始まり、一定の長文（前期ではパラグラフ程度の長さの文）を表現できるレベルの英作文力の習得を目標とする。
英語ＩＣ ★ﾏｯﾏﾄﾞｳﾞｧ ｾｳﾞｨﾝｼﾞ ★山田　パトリシア	演習 30時間	1年次 前期	英語による口頭でのコミュニケーション能力の基礎習得を目標とする。伝えたいことを正確に英語で表現する力を身に付けるとともに、英語で自分の意見を発信する能力を養う。CD等の教材を使用し、リスニング力の向上に努めながら、（日常の英会話で必要な表現力についても学ぶ一方）英語でのプレゼンテーション能力を身に付けることを主たる目的とする。
日本語表現法 ★千葉　孝一	演習 30時間	1年次 前期	まず、言葉とは何かについて多角的に考えるための基礎概念を学ぶ。その上で、さまざまな事例を通じて適切な日本語表現とは何かを考え、自らの意図する所を相手にわかりやすく、的確に伝える文章力を培う。
基礎カウンセリング ★小坂　守孝	演習 30時間	1年次 前期	カウンセリングは、適応上の課題を有する個人が、専門家の援助を受け課題解決を図る過程である。ここではロールプレイ等を通じ、カウンセリングの基礎を学ぶ。併せて、カウンセリングが必要となる心理的な状況や症状、また、カウンセラーの役割について理解を深める。
情報リテラシーＩ ◎原　　俊彦 大渕　一博	演習 30時間	1年次 前期	これから大学で勉強をしてゆく上でも、また社会に出て働く上でもパーソナルコンピュータを日常のコミュニケーション・ツールとして自由自在に使いこなすことが求められます。このため情報リテラシーＩではコンピュータの仕組みや操作方法、データの保存方法などについて学ぶとともに日常業務に不可欠なワープロ・表計算・プレゼンテーションなどのアプリケーション操作の基礎や自在に使いこなすための工夫・テクニックについて学びます。
宗教と思想 ★堀　　雅彦	講義 30時間	1年次 後期	宗教と思想はそれぞれ、「信じること」と「考えること」として、互いに異質な営みであるように見えます。実際、「宗教を信じるのは自分の頭で考えることの放棄だ！」と主張する人も珍しくありません。しかし、そのような主張に賛成の手を挙げる前に、様々な宗教的伝統のただ中で育まれ、継承されてきたものの見方に、目を向けてみませんか。そこには人間や社会、自然などをめぐる広い意味での「思想」があり、私たち自身のものの見方に反省を迫るような要素が少なからずあるはずです。この講義では、そのような「宗教の中の思想」の輪郭を捉えるためのヒントを、様々な角度から示したいと思います。
芸術と文化 ★望月　由美子	講義 30時間	1年次 後期	「人と芸術」とのかかわりについて学び、考察する。さまざまな芸術文化活動の事例を通して、「美とは何か」、「芸術とは何か」を探求する。また、絵画や彫刻をはじめとするさまざまな芸術作品や著名な作者を通して、芸術が社会や人間に与える影響についても考察する。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・目標
心のしくみ ★橋本　道子	講義 30時間	1年次 後期	日常の生活行動に見られる人間の行動を理解するに当たって、それらの行動をコントロールしているさまざまなシステムや現象について、心理学的に理解する。また、人間の心を科学的に研究した知見と現代心理学の各分野を概観し、人間の心と行動についての基礎を学ぶ。
体のしくみ 田中　敏明	講義 30時間	1年次 後期	体のしくみについて運動･動作を中心に学習し、ヒトの正常状態について学ぶ。具体的には、正常な身体運動を運動学的分析の視点から考察する。また、講義･実習等を通じて筋や関節が運動・動作にどのようにかかわっているかについて、生体の構造と機能との関連から理解を深める。 到達目標 1 生体の構造と機能を運動学的観点から理解する。 2 身体運動を理解するための運動学的分析方法を説明できる。 3 動作分析方法について説明できる。 4 歩行、姿勢に関して運動学的な見方を説明できる。 5 体表解剖の基礎を理解する。
現代社会と経済 ★近藤　公彦	講義 30時間	1年次 後期	現代社会のさまざまな経済活動を理解するために、経済学や経営学の基本的な知識を習得する。また、身近な経済トピックスなどを通じて、経済のグローバル化、情報化の現状を概観する。我々は普段、消費者としてモノやサービスを買い、利用している。コンビニでお弁当を買い、ファッション専門店で服を買い、シネマコンプレックスで映画を鑑賞し、携帯電話を使っている。一方、売り手である企業は、そうした製品やサービスを消費者に提供することで利益を上げる。その過程で企業は、消費者の好みを探り、彼らを満足させられる製品･サービスの開発に努め、ライバル製品との競争にどのように勝つかを常に考えている。この講義では､社会の経済主体の中心である企業の「マーケティング」活動に焦点を当て、その理解を通じて現代の社会や経済を見る眼を養う。具体的には、企業戦略の基本的な考え方をマーケティングの視点から提供し、具体的な事例を多く交えながら説明するとともに、適宜、テーマに則したビデオを見たり、記事を読み、ディスカッションやレポートを通じてマーケティングの理解を深める。
統計の世界 原　俊彦	講義 30時間	1年次 後期	さまざまなデータの分析を行うための基礎となる統計学的な考え方や基本的な手法を理解・習得することを目標とする。このため、表計算ソフトを用いてデータを加工し、必要な情報を探り出すための簡単な統計処理方法を学ぶ。また、データに基づいて物事を考える力を養う。
英語ⅡA ★大野　拓恵 ★水島　梨紗 ★亘理　陽一	演習 30時間	1年次 後期	「英語ⅠA」で培った読解力をさらにレベルアップし、アカデミック･スタディに必要な英文読解力の充実を目指す。さまざまな英文について、正確かつ的確に内容を理解する訓練を行うとともに、平易な長文の大意を短時間で把握する速読、パラグラフ・リーディングの練習も行う。また、併せて辞書を使用せずに一定レベルの英文を読み取れる語彙力も身に付ける。
英語ⅡB 松井　美穂 ★白土　淳子 ★向井　千和子	演習 30時間	1年次 後期	「英語ⅠB」で培った作文力をもとに、英語で自分の考えや意見を論理的に表現できる力や研究レポート等を英語で表現できる力を身に付ける。英文の文章構成力を習得し、最終的にはエッセイ・ライティングレベルの長文を書く技術を身に付けることを目指す。
英語ⅡC ★ﾏｯﾏﾄﾞｳﾞｧ ｾｳﾞｨﾝｼﾞ ★山田　パトリシア	演習 30時間	1年次 後期	「英語ⅠC」で培ったスピーキング力、リスニング力、プレゼンテーション能力をさらに向上させ、一定レベルの内容を英語で受信、発信する力を養う。ネイティブの会話や説明内容を正確に理解できるように、CD等の教材を活用し、リスニング力を身に付けるとともに、英語で自らの考えや意見を論理的に発信できることを目指す。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・目標
プレゼンテーション ◎吉田　和夫 齋藤　利明 原　俊彦	演習 30時間	1年次 後期	今日の社会では、文書・画像・音声などさまざまな表現手段を組み合わせ、情報を効果的に伝達することが重要になっている。ここでは、情報を伝達する相手や目的に合った情報の収集や編集方法を学ぶとともに、プレゼンテーション用のソフトを活用し、多様な表現手段と説得力あるプレゼンテーション技術を習得する。
対人コミュニケーション ★町田　佳世子	演習 30時間	1年次 後期	私たちはコミュニケーションなしに社会生活を送ることはできない。コミュニケーションの仕組みを知ることは、よりよいコミュニケーションの担い手への第一歩である。この授業では、心理学、社会学、言語学、社会心理学などの研究成果を基に、コミュニケーションという現象にアプローチする。
手話 ★高橋　淨	演習 30時間	1年次 後期	このクラスでは、実技指導などを通し、日本人ろう者のコミュニケーション手段の1つである「日本手話」の基礎を学びます。また、ろう者及びろうをめぐる問題についても考えてみたいと思います。
情報リテラシーⅡ ◎原　俊彦 大渕　一博	演習 30時間	1年次 後期	これから大学で勉強をしてゆく上でも、また社会に出て働く上でもパーソナルコンピュータを日常のコミュニケーション・ツールとして自由自在に使いこなすことが求められます。このため情報リテラシーⅡでは、インターネットを通じ、さまざまなデータベースから情報を的確に収集・検索する方法を学ぶとともに、情報の加工やホームページの作成などを通じ、自ら情報発信する技術を身に付けます。またセキュリティの問題や個人情報の扱い方などについても学びます。
ジェンダーを考える ★笹谷　春美	講義 30時間	2年次 前期	人権問題やジェンダーの基本的な考え方について、基礎的な知識を習得する。また、ジェンダーを生み出す社会的な構造や、最近のジェンダーの課題について、とりわけ、看護・介護の領域に焦点をあてて考察する。
現代社会と国際関係 ★佐々木　政文	講義 30時間	2年次 前期	私たちは今、海外のニュースが瞬時に伝わってくる時代に生きています。毎日のように飛び込んでくるニュースも「なぜ？」を考えなければ、関心を持ち得ないし真相も見えません。この授業では､新聞などのニュースを基に「なぜ？」を伝えたいと思います。東アジアを軸に､「現代社会と国際関係」をともに考えてみませんか。
実践英語A 松井　美穂 ★水島　梨紗	演習 30時間	2年次 前期	英語Ⅰ、英語Ⅱ（各A、B、C）で学んだことを基礎に、デザイン・看護の各専門に関する英語図書の講読を通じ専門英語に慣れ、語彙を習得し、最終的には英文で書かれた論文を読んだり、また、英文で論文を書くことができるレベルの語学力の習得を目指す。
中国語 ★照井　はるみ	演習 30時間	2年次 前期	中国語を学ぶ上での基礎として、文字・発音・文法・会話等を習得するとともに、中国の歴史、文化等についても触れ、中国に対する理解を深める。15回終了した時点で中国語の自己紹介文が書け、自分の言葉として発表できるようになることを目指す。語学の学習を通して近くて遠い中国を実感し、国際社会に日本の考え方や文化などを発信していくための第一歩とする。
ロシア語 ★ジダーノフ ウラジーミル	演習 30時間	2年次 前期	ロシア語を学ぶ上での基礎として、文字・発音・文法・会話等を習得するとともに、ロシアの歴史、文化等についても触れ、ロシアに対する理解を深める。
グループ･ダイナミックス ★鹿内　啓子	演習 30時間	2年次 前期	人は家族、学校、職場等さまざまなグループの中で、お互いに影響を与え合い、行動を変化させながら生活しており、そこにおいてはグループ・ダイナミックス（集団力学）が作用している。この授業では、人がどのように他者から影響されるのかを身の回りの事例から学び、集団における人間の心理や行動についての基礎的な理解を深める。またこのような影響力の要因から集団が持つ機能や意思決定の仕組みなどについて学んでいく。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・目標
教育を考える ★小 内　　透	講義 30時間	2年次 後期	家庭教育、学校教育、生涯教育などの教育が人間や人間形成にとってなぜ必要なのかといった教育の意義や、人間が教育に求めたものについて歴史的変遷から学ぶ。また、教育問題や教育が抱える課題といった日本の教育の現状について考える。
健康とスポーツ ★服 部　　正 明	講義 30時間	2年次 後期	多くの日本人の生活は、栄養過多の一方、運動が不足しており、ストレスの解消や発散も十分になされない状態にある。また、こうしたことが、体力の低下やさまざまな健康障害を引き起こす原因となっており、スポーツの必要性がますます増加している。ここではスポーツによる健康維持と体力づくりのための知識の習得を目的とする。
実践英語B ★山田　パトリシア	演習 30時間	2年次 後期	英語Ⅰ、英語Ⅱ（各A、B、C）で学んだことを基礎に、専門に関する事柄を英語でプレゼンテーションでき、また会議等において英語でディスカッション等ができるレベルの語学力の習得を目指す。授業はそれぞれの学部に分かれて行います。
韓国語 ★松 田　　由 紀	演習 30時間	2年次 後期	韓国語を学ぶ上での基礎として、文字・発音・文法・会話等を習得するとともに、韓国の歴史、文化等についても触れ、韓国に対する理解を深める。

◎印：科目責任者（オムニバス形式等の場合）
★印：非常勤講師

3　デザイン学部

1)　平成１９年度時間割

①１年前期

		月	火	水	木	金
1	9:00 〜 10:30		デザイン史　原田 羽深 武邑	情報リテラシーⅠ　原 情報リテラシーⅠ　大渕	環境を考える　矢部	情報リテラシーⅠ　原 情報リテラシーⅠ　大渕
2	10:40 〜 12:10	デザイン原論　原田 吉田(惠) 武邑	色彩設計論　中井	札幌を学ぶ　原	日本語表現法　千葉 英語ⅠB　松井 英語ⅠB　向井 英語ⅠC　マッマドヴァ 英語ⅠA　大野	哲学と倫理　山田(友)
3	13:10 〜 14:40	造形基礎実習Ⅰ　石崎 上遠野 杉 齋藤(利)	造形基礎実習Ⅰ　石崎 上遠野 杉 齋藤(利)	英語ⅠA　水島 英語ⅠA　亘理 英語ⅠB　白土 英語ⅠC　山田(パ)	日本語表現法　千葉 英語ⅠB　松井 英語ⅠB　向井 英語ⅠC　マッマドヴァ 英語ⅠA　大野	現代社会と家族　原
4	14:50 〜 16:20	造形基礎実習Ⅰ　石崎 上遠野 杉 齋藤(利)	造形基礎実習Ⅰ　石崎 上遠野 杉 齋藤(利)	英語ⅠA　水島 英語ⅠA　亘理 英語ⅠB　白土 英語ⅠC　山田(パ)	スタートアップ演習　原・河野※ ※他両学部教員計20名	基礎カウンセリング　小坂 英語ⅠC　山田(パ) 英語ⅠC　マッマドヴァ 英語ⅠA　大野 英語ⅠB　白土
5	16:30 〜 18:00			人間関係を考える　椿	スタートアップ演習　原・河野※ ※他両学部教員計20名	基礎カウンセリング　小坂 英語ⅠC　山田(パ) 英語ⅠC　マッマドヴァ 英語ⅠA　大野 英語ⅠB　白土

②１年後期

		月	火	水	木	金
1	9:00 〜 10:30	プログラミングⅠ　大渕	デザイン方法論　酒井		体のしくみ　田中	情報リテラシーⅡ　原 情報リテラシーⅡ　大渕 手話　高橋
2	10:40 〜 12:10	プログラミングⅠ　大渕	感性科学　張	英語ⅡA　水島 英語ⅡA　亘理 英語ⅡB　白土 英語ⅡC　マッマドヴァ	統計の世界　原	情報リテラシーⅡ　原 情報リテラシーⅡ　大渕 手話　高橋
3	13:10 〜 14:40	コンピュータ基礎実習Ⅰ　城間 大渕 吉田(和) 造形基礎実習Ⅱ　石崎 上遠野 杉 齋藤(利)	コンピュータ基礎実習Ⅰ　城間 大渕 吉田(和) 造形基礎実習Ⅱ　石崎 上遠野 杉 齋藤(利)	英語ⅡA　水島 英語ⅡA　亘理 英語ⅡB　白土 英語ⅡC　マッマドヴァ	対人コミュニケーション　町田 英語ⅡB　向井 英語ⅡB　松井 英語ⅡC　山田(パ) 英語ⅡA　大野	プレゼンテーション　原、齋藤(利)、吉田(和) 英語ⅡC　山田(パ) 英語ⅡC　マッマドヴァ 英語ⅡA　大野 英語ⅡB　松井
4	14:50 〜 16:20	コンピュータ基礎実習Ⅰ　城間 大渕 吉田(和) 造形基礎実習Ⅱ　石崎 上遠野 杉 齋藤(利)	コンピュータ基礎実習Ⅰ　城間 大渕 吉田(和) 造形基礎実習Ⅱ　石崎 上遠野 杉 齋藤(利)	宗教と思想　堀	対人コミュニケーション　町田 英語ⅡB　向井 英語ⅡB　松井 英語ⅡC　山田(パ) 英語ⅡA　大野	プレゼンテーション　原、齋藤(利)、吉田(和) 英語ⅡC　山田(パ) 英語ⅡC　マッマドヴァ 英語ⅡA　大野 英語ⅡB　松井
5	16:30 〜 18:00			心のしくみ　橋本	芸術と文化　望月	現代社会と経済　近藤

③２年前期

		月	火	水	木	金
1	9:00〜10:30		実践英語A 松井 実践英語A 水島 ロシア語 ジダーノフ	デザイン法規 津幡	創造産業論 武邑	ユニバーサルデザイン論 酒井
2	10:40〜12:10	現代芸術論 上遠野	実践英語A 松井 実践英語A 水島 ロシア語 ジダーノフ 中国語 照井	感性デザイン論 張	デザイン材料加工実習I 上遠野 石崎 齋藤（利） コンピュータ基礎実習IIA（3D） 望月	プログラミングII 城間
3	13:10〜14:40	ヒューマンファクターズ入門 田中	ジェンダーを考える 笹谷 中国語 照井	中国語 照井	デザイン材料加工実習I 上遠野 石崎 齋藤（利） コンピュータ基礎実習IIA（3D） 望月	デザイン材料加工実習I 上遠野 石崎 齋藤（利） コンピュータ基礎実習IIA（3D） 望月
4	14:50〜16:20	デザイン解析論 中原	現代社会と国際関係 佐々木 中国語 照井	中国語 照井		デザイン材料加工実習I 上遠野 石崎 齋藤（利） コンピュータ基礎実習IIA（3D） 望月
5	16:30〜18:00		グループ・ダイナミックス 鹿内			

※集中講義：認知科学は、9月3日〜6日

④２年後期

		月	火	水	木	金
1	9:00〜10:30	ヒューマンファクターズ 田中 広告デザイン 吉田（和）	健康とスポーツ 服部 視聴覚教育メディア論 武邑 江川	コンピュータ基礎実習IIB（ムービー） 田辺	コンピュータ基礎実習IIB（ムービー） 望月	家具・インテリアデザイン 那須 中村 メディアビジネス フィッシャー・ニーナ
2	10:40〜12:10	空間デザイン論 吉田（惠） 那須 山田（良） 製品デザイン論 杉 コンテンツデザイン論 望月 メディアデザイン論 武邑	教育を考える 小内	コンピュータ基礎実習IIB（ムービー） 田辺 コンピュータグラフィクス 水越	コンピュータ基礎実習IIB（ムービー） 望月	情報社会論 月尾
3	13:10〜14:40	エコロジーデザイン論 矢部	実践英語B 山田（パ）	コンピュータグラフィクス 水越	デザイン材料加工実習II 石崎 上遠野 コンピュータ基礎実習IIC（CAD） 城間 那須	デザイン材料加工実習II 石崎 上遠野 コンピュータ基礎実習IIC（CAD） 城間 那須
4	14:50〜16:20	デザイン総合実習I	韓国語 松田	博物館概論 矢部 奥岡 山田（悟） 高橋	デザイン材料加工実習II 石崎 上遠野 コンピュータ基礎実習IIC（CAD） 城間 那須	デザイン材料加工実習II 石崎 上遠野 コンピュータ基礎実習IIC（CAD） 城間 那須
5	16:30〜18:00	デザイン総合実習I	生涯学習概論 木村		製品造形論 石崎 細谷	空間デザイン史 羽深 ダイナミックオブジェクトデザイン 齋藤（利） 城間 広告デザイン 吉田（和）

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

区分			授業科目の名称	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	修得単位数
共通教育科目	導入科目		スタートアップ演習	2		1年前期	2単位
	教養科目	文化に対する理解	哲学と倫理		2	1年前期	4単位以上
			宗教と思想		2	1年後期	
			芸術と文化		2	1年後期	
			環境を考える		2	1年前期	
			教育を考える		2	2年後期	
		人間に対する理解	心のしくみ		2	1年後期	4単位以上
			体のしくみ		2	1年後期	
			ジェンダーを考える		2	2年前期	
			人間関係を考える		2	1年前期	
			健康とスポーツ		2	2年後期	
		社会に対する理解	現代社会と家族		2	1年前期	6単位以上
			現代社会と国際関係		2	2年前期	
			現代社会と経済		2	1年後期	
			札幌を学ぶ		2	1年前期	
			ボランティア活動を考える		2	2年後期	
			統計の世界	2		1年後期	
	コミュニケーション科目	外国語	英語ⅠA	1		1年前期	8単位以上
			英語ⅠB	1		1年前期	
			英語ⅠC	1		1年前期	
			英語ⅡA	1		1年後期	
			英語ⅡB	1		1年後期	
			英語ⅡC	1		1年後期	
			実践英語A		1	2年前期	
			実践英語B		1	2年後期	
			韓国語		1	2年後期	
			中国語		1	2年前期	
			ロシア語		1	2年前期	
		コミュニケーション・情報技術	日本語表現法		1	1年前期	4単位以上
			プレゼンテーション	1		1年後期	
			基礎カウンセリング		1	1年前期	
			対人コミュニケーション		1	1年後期	
			グループ・ダイナミックス		1	2年前期	
			手話		1	1年後期	
			情報リテラシーⅠ	1		1年前期	
			情報リテラシーⅡ	1		1年後期	
合計							28単位以上

区分			授業科目の名称	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	修得単位数	
専門教育科目	基本科目	デザイン基礎	デザイン原論	2		1年前期	16単位以上	さらに基本科目から10単位以上
			デザイン史	2		1年前期		
			デザイン方法論	2		1年後期		
			色彩設計論	2		1年前期		
			感性科学	2		1年後期		
			感性デザイン論	2		2年前期		
			ユニバーサルデザイン論	2		2年前期		
			創造産業論	2		2年前期		
			現代芸術論		2	2年前期		
			デザイン解析論		2	2年前期		
			ヒューマンファクターズ入門		2	2年前期		
			認知科学		2	2年前期		
			デザイン法規		2	2年前期		
			エコロジーデザイン論		2	2年後期		
			情報社会論		2	2年後期		
		造形基礎	造形基礎実習Ⅰ	2		1年前期	6単位以上	
			造形基礎実習Ⅱ	2		1年後期		
			デザイン材料加工実習Ⅰ	2		2年前期		
			デザイン材料加工実習Ⅱ		2	2年後期		
		情報基礎	コンピュータ基礎実習Ⅰ	2		1年後期	8単位以上	
			コンピュータ基礎実習ⅠA(3D)		2	2年前期		
			コンピュータ基礎実習ⅠB(ムービー)		2	2年後期		
			コンピュータ基礎実習ⅠC(CAD)		2	2年後期		
			プログラミングⅠ	2		1年後期		
			プログラミングⅡ		2	2年前期		
合計							40単位以上	

区分			授業科目の名称	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	修得単位数
専門教育科目	展開科目	空間デザイン系	空間デザイン論		2	2年後期	展開科目から一つの系の全科目を含め合計34単位以上を修得
			空間デザイン史		2	2年後期	
			景観デザイン論		2	3年前期	
			都市計画論		2	3年前期	
			空間デザイン法規		2	3年後期	
			構造力学		2	3年後期	
			建築構法		2	3年後期	
			構造・材料実験		2	3年後期	
			建築設備計画		2	4年前期	
			建築計画論		2	3年前期	
			環境計画論		2	3年前期	
			家具・インテリアデザイン		2	2年後期	
			住宅論		2	4年前期	
		製品デザイン系	製品デザイン論		2	2年後期	
			製品デザイン史		2	3年後期	
			製品造形論		2	2年後期	
			製品計画論		2	3年前期	
			感性情報学		2	3年前期	
			ヒューマンファクターズ		2	2年後期	
			インタラクションデザイン		2	3年前期	
			メカトロニクス		2	3年後期	
			ロボティクス		2	4年前期	
			感性インタラクションデザイン		2	3年後期	
			プロトタイプシミュレーションⅠ		2	3年前期	
			プロトタイプシミュレーションⅡ		2	3年後期	
			ヒューマンケア機器デザイン		2	4年前期	
		コンテンツデザイン系	コンテンツデザイン論		2	2年後期	
			デジタル映像史		2	3年後期	
			コンテンツ制作システム論		2	3年前期	
			物語デザイン論		2	3年前期	
			バーチャルリアリティ		2	3年後期	
			コンピュータグラフィクス		2	2年後期	
			アニメーションⅠ		2	3年前期	
			アニメーションⅡ		2	3年後期	
			デジタル音響デザイン		2	4年前期	
			ダイナミックオブジェクトデザイン		2	2年後期	
			マルチメディアコンテンツデザイン		2	3年前期	
			デジタル映像コンテンツデザイン		2	3年後期	
			ネットワークシステムデザイン		2	4年前期	
		メディアデザイン系	メディアデザイン論		2	2年後期	
			メディア文化史		2	3年前期	
			知的財産権論		2	3年前期	
			メディア芸術論		2	3年後期	
			アートマネジメント論		2	3年後期	
			広告デザイン		2	2年後期	
			ブランド構築		2	3年前期	
			デジタルアーカイブ		2	3年後期	
			コンテンツ流通技術		2	4年前期	
			メディアビジネス		2	2年後期	
			出版メディアデザイン		2	3年前期	
			インターネットメディアデザイン		2	3年後期	
			放送メディアデザイン		2	4年前期	
合計							34単位以上

区分			授業科目の名称	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	修得単位数
専門教育科目	発展科目	デザイン応用	寒冷地デザイン論		2	3年後期	8単位以上
			観光とデザイン		2	3年後期	
			地場産業振興論		2	3年後期	
			デザインマネジメント		2	4年前期	
			起業論		2	4年前期	
			デザイン英語		2	4年前期	
			学外実習A(インターンシップ)		2	3年前期	
			学外実習B(フィールドスタディ)		2	3年前期	
		学部連携	学部連携演習	2		3後～4前	2単位
		デザイン総合実習	デザイン総合実習Ⅰ	2		2年後期	6単位
			デザイン総合実習Ⅱ	2		3年前期	
			デザイン総合実習Ⅲ	2		3年後期	
		卒業研究	卒業研究	6		4年	6単位
合計							22単位以上

区分		授業科目の名称	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	修得単位数
自由科目	学芸員課程関連科目	生涯学習概論	1(自由)		2年後期	11単位
		博物館概論	2(自由)		2年後期	
		博物館経営論	1(自由)		3年前期	
		博物館資料論	2(自由)		3年前期	
		博物館情報論	1(自由)		3年前期	
		博物館実習	3(自由)		3年前期	
		視聴覚教育メディア論	1(自由)		2年後期	

② 卒業要件

区分	必修	選択	合計
共通教育科目	13	15	28
専門教育科目	40	56	96
（基本科目）	(26)	(14)	(40)
（展開科目）	−	(34)	(34)
（発展科目）	(14)	(8)	(22)
合計	53	71	124

3） 教育活動

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・目標
デザイン原論 ◎吉田　恵介 原田　昭 武邑　光裕	講義 30時間	1年次 前期	デザインの概説とこれまでのあるいはこれからのデザインについて、デザインの基本的な考え方と広範なデザインの対象を理解する。まず、原田はデザインの基本的な考え方や概念について述べ、また、さまざまな製品のデザインについて、デザインの対象、設計・計画手法、最新の取組を概説する。つぎに、吉田は公園や緑地等の大規模空間を含む空間のデザインについて、デザインの対象や設計思想・計画手法を具体的な事例を取り上げて解説する。さらに、武邑はデジタル映像やゲーム、ウェブに至る多様なコンテンツ創造とメディア流通計画やビジネスモデルのデザインについて、最新の取組を具体的な事例を取り上げて解説する。
デザイン史 ◎武邑　光裕 原田　昭 羽深　久夫	講義 30時間	1年次 前期	デザインの理解を深めるため、社会、産業、生活、文化が変化する中で、どのようにデザインが変遷してきたのか、デザインの時系列的な変遷を背景となる環境と対比しながら概説する。デザインの歴史的変遷について、代表的なデザイン思想とその歴史的意味について概観し、あわせて現代デザインの問題点とその展開について理解することを目的とする。
色彩設計論 ★中井　和子	講義 30時間	1年次 前期	色彩はデザインの基礎となる重要な要素である。色彩の基本的原理を学習するとともに、平面・立体・空間・環境など、いろいろな造形物や空間へ応用する能力の習得を目指す。色の見え方、色のイメージと性質、色の測定方法と表現、色彩の心理作用など、人間の生活環境との関係性のなかで、色彩の有効活用や色彩計画について考え学習する。
造形基礎実習Ⅰ ◎齋藤　利明 石崎　友紀 上遠野　敏 杉　哲夫	実習 60時間	1年次 前期	対象を的確にとらえる観察力や洞察力と、取り込んだイメージを正確に表現する基礎的能力を身に付けるため、鉛筆デッサン等のトレーニングを行う。モチーフを観察し、そこに潜むかたち・色・材質感などの特徴をとらえながら、用具の特性を生かして描写することにより、デザインの基礎となる観察力や平面での描写力、構成力、表現力などを身に付ける。
デザイン方法論 酒井　正幸	講義 30時間	1年次 後期	生活者のニーズを把握し、それに適合する製品･サービスのコンセプトの創出、プロトタイプの制作、検証、市場導入に至るまでの一連のデザインプロセスと各ステージでの方法論を学ぶ。具体的には下記各項目について講義と演習を通じて学習する。 1 フォーカスグループや直接観察による課題発見 2 ブレーンストーミングや商品地図法によるコンセプトメイキング 3 ユーザビリティテスト、アピアランステスト等による検証と見直し 4 市場導入にあたって配慮すべき事項の確認

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・目標
感性科学 張　浦華	講義 30時間	1年次 後期	人間は理性によって合理的判断をすることのほかに、感性の働きによって心地よいといった感情を持つが、こうした感性の働きはデザインに大きく取り入れられようとしている。感性は曖昧であるという理由で自然科学の対象とされてこなかったが、近年になって感性の働きが理性の働きと同様に重要な意味を持っていることが解明されてきた。感性の働きが人間にとってどのような役割を果たしているのか、これまでの感性科学の取組を紹介しながら、感性科学の基礎を理解させる。
造形基礎実習Ⅱ ◎杉　哲夫 石崎　友紀 上遠野　敏 齋藤　利明	実習 60時間	1年次 後期	造形基礎実習Ⅰで身に付けた平面の表現能力をもとに、立体的なアイデアをスケッチ・パースや展開図、投影図等により平面表現する手法を習得する。平面の図案から紙やクレイ、石膏といった実材を使った立体モデルを制作することによって、2次元の図面と3次元モデルの関係やデザインに必要な立体物の構成について理解させるとともに、立体物の制作を通じて3次元の表現力を養う。
コンピュータ基礎実習Ⅰ ◎大渕　一博 城間　祥之 吉田　和夫	実習 60時間	1年次 後期	コンピュータを利用したデザイン作業において一般的に用いられるフォトレタッチソフト及びドロー系ソフトの基本操作を理解させる。フォトレタッチソフトでは、写真画像の補正、効果、変形の技術をフォトコラージュ作品の制作を通して学習させる。ドロー系ソフトでは、ベジェ曲線の操作技術習得を目的として図面、イラストレーション、オリジナルタイプフェース制作を行う。また、これらのソフトを連携して活用する手法や、ページレイアウトソフト・PDF加工などへの展開も見据えながら、印刷物･Web･オンラインプレゼンテーションなどに応用可能な表現手法を身につけさせる。
プログラミングⅡ 大渕　一博	演習 30時間	1年次 後期	Webサイト構築に必要とされるプログラミング技術を理解させる。Web制作の現場では、Web制作用ソフトウェアを利用することが多いが、その場合でも基本的なHTMLの知識は必要とされる。具体的には、インターネットのしくみを理解させながら、HTML・XHTMLとスタイルシート（CSS）によるWebサイト制作演習を行う。
感性デザイン論 張　浦華	講義 30時間	2年次 前期	デザインの評価は論理的側面ばかりでなく感性的側面による点に特徴がある。人間特有の外界認識方法である感性が、感性評価、情報処理、情報検索などの認識過程で、どのような特徴を有するのか、方法論的な視点も加えながら、人間の感性の働きをデザインにどのように組み込んでいけばよいかについて解説する。感性的概念形成（印象・連想）などのように感性工学の側面からデザイン企画を行うと、いかに効果的であるかについて理解させる。
ユニバーサルデザイン論 酒井　正幸	講義 30時間	2年次 前期	ユニバーサルデザインを生み出す背景となった現代社会の高齢化、IT化に伴う社会システムの複雑化の現状等を理解した上で、ユニバーサルデザイン開発方法論について学習する。障害者や機能の低下した高齢者のみならず多様性を持つ健常者の心身特性や生活実態を理解し、すべての製品・システム・サービスが具備すべき特性とそれを実現するためのプロセスや方法論について事例を交えて学習する。
創造産業論 武邑　光裕	講義 30時間	2年次 前期	英国の創造産業振興政策に始まり、世界的な潮流となった「創造産業」を概観し、創造性（Creativity）を原資とする新たなデザイン産業のあり方とは何かを理解させる。インクルーシブデザイン、ブランド･アイデンティティ、コミュニケーションデザイン、経験デザインといったデザインの新潮流と、芸術文化産業に求められる「創造性」と「コンテクスト」の意味を解説する。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・目標
現代芸術論 上遠野　敏	講義 30時間	2年次 前期	現代芸術の基本理念とその特徴を、時代背景や地域特性とともに概説する。モダンアート、ダダイズム、シュルレアリズム、抽象表現主義、ポップアート、ミニマルアート、アースワーク、コンセプチュアルアート、ポストモダニズム等について、代表的な作家の作品を紹介しながら、歴史的・地域的特徴について概観する。
デザイン解析論 中原　宏	講義 30時間	2年次 前期	デザインを進める上で重要となる、要素間の関連性やデータの背後に潜む要因を探求する能力、主要要因を識別する能力などの養成を図る。具体的には、社会調査・意識調査の調査手法と分析手法、相関分析、回帰分析、多変量解析など、各種データ分析手法の基礎について学ぶ。
ヒューマンファクターズ入門 田中　敏明	講義 30時間	2年次 前期	人間に適合する機器・環境システムを設計することは人の生活の質を高めるうえで今日重要な課題となっており、このため人間・機械・環境系を統合的に考慮する事が必要である。本講義では人間の生活が快適なものとなる環境設計・機器開発をデザインするうえで必要な人間の基本的・正常な諸特性を人間工学的視点から講義する。さらに、人の作業能力に適合した快適で、疲労の少ない、安全な機器・環境・作業条件等を構築するための分析手法等の基礎を講義する。 1 ヒトの運動・動作に必要な機能の基本的特性を理解する。 2 ヒトの生体計測及び動作分析方法の基礎を学ぶ。 3 ヒトの快適性と環境条件を理解する。
デザイン法規 ★津幡　笑	講義 30時間	2年次 前期	デザインの開発を行う上で、他人の権利を侵害せず、かつ自己の新たな権利を構築するには、知的財産権の制度を理解し、情報を調査･分析する必要があり、デザインに関連したさまざまな法律や制度を踏まえておく必要がある。ここでは、著作権、意匠権、商標権といった知的財産権を中心にしながら、デザインと関連の深い各種法規について、基本的な知識を体系的に習得するほか、法規が制定された背景や意義を理解する。
デザイン材料加工実習Ⅰ ◎上遠野　敏 石崎　友紀 齋藤　利明	実習 60時間	2年次 前期	デザインの材料にはさまざまなものがあるが、ここでは木やプラスチック、セラミックスといった材料の特性について概説した上で、実際に課題を制作させ、材料の特性に合わせた加工技術や各種工作機械の活用方法を習得させる。また、デザインの目的に合致した材料の選択と、その加工方法についても理解させる。
コンピュータ基礎実習ⅡA(3D) 望月　澄人	実習 60時間	2年次 前期	コンピュータの三次元空間を用いた造形表現を学び、モデリング、マッピング、レンダリング等のCG(コンピュータグラフィクス)独自の技術を理解した上で、その性質をデザインや表現に結び付ける手法を学ぶ。また、自由度の高い連続した曲面を定義できるサフェースモデラーやメッシュ系のアルゴリズムを持った3DCGソフトウエアを用いることにより、建築やプロダクトなどの人工物だけでなく、人間や動植物といった有機的な形態や材質感の表現を含めた立体造形物を構築する技術を習得させる。
プログラミングⅡ 城間　祥之	演習 30時間	2年次 前期	VisualBasicプログラミング演習を通してプログラミング言語への興味を喚起し､他のスクリプト言語への足掛かりを得ることを目標とする。特にここでは、簡単な数値計算・図形描画プログラムの作成を通して、VisualBasicの画面を構成するウィンドウやツールボックスの役割と操作を習得させるほか、フォームウィンドウに配置した各種ツールとその動作を制御する関数プロンジャーの作成を通してプログラムで制御する方法を習得して、インタフェースデザインとの関係を理解させる。また、これらのプログラム演習を通して、VisualBasicの基本文法を習得させる。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・目標
認知科学 ★吉橋　昭夫	講義 30時間	2年次 前期	人間の認知と思考に関する研究を中心に、「わかること」「理解すること」に関する認知科学の知見を概観する。さらに、これまでの文献や実験などを参照しながら、知的な人工物と人間との関わりについて探り、インタフェース・デザインへの応用について考察する
エコロジーデザイン論 矢部　和夫	講義 30時間	2年次 後期	生物を分子レベルから、生態系レベルまで幅広い階層構造から把握し、この過程を通じて、生命現象の生と死の不可逆性、生物の利己的な本質や空間内の多種共生のしくみを学びながら、地域の生物多様性を保全・向上することの意義について論じる。また、主要な自然生態系の構造と機能の概要を解説するとともに、これを基にしてビオトープ造成や自然再生の先進的な技術や事業を紹介しながら、エコロジーデザインの基礎的な概念を理解させる。
情報社会論 ◎★月尾　嘉男 ★小泉　昌弘 ★佐藤　太紀 ★服部　裕之 ★堀田　太	講義 30時間	2年次 後期	近年、情報技術の進展は著しく、ボーダーレスでリアルタイムな情報の伝達や共有は、これまでの社会を大きく変えようとしている。ここでは、社会、文化、生産活動における情報の役割や仕組みを概説するとともに、近代以降の情報技術の進展や、現代の情報社会がもたらす社会システムの変革について、さまざまな角度から講義する。
デザイン材料加工実習Ⅱ ◎石崎　友紀 上遠野　敏	実習 60時間	2年次 後期	デザイン材料加工実習Ⅰで習得した知識や加工技術を発展させるために、ここでは金属を取り上げる。さまざまな金属の特性について概説した上で、実際に課題を制作させ、金属の切除・曲げ、溶接、ロウ付け、組立てといった加工技術を習得させる。また、デザインの目的に合致した金属の選択と、金属に合わせた加工方法についても理解させる。
コンピュータ基礎実習ⅡB（ムービー） ◎望月　澄人 ★田辺　達也	実習 60時間	2年次 後期	デジタル映像技術の進歩は、合成技術の革新でもあるとも言え、レイヤーに分けられたキャラクター、小道具、背景などの画像やムービーについて、性質の異なったソースを自在に融合させた映像制作が可能なため、さまざまな表現を行うことができる。ここでは、CGアニメーションの基本的技術を学び、動く、変形する、出現と消滅、繰り返すなどの映像の基礎的手法を学び、映像制作を通して表現技術を養う。
コンピュータ基礎実習ⅡC（CAD） ◎城間　祥之 那須　聖	実習 60時間	2年次 後期	3次元物体形状を図面に表現する製図法の基礎について、実際の製図を通して習得させたうえで、コンピュータを利用した設計技術・表現技術、特にCAD（ComputerAidedDesign）を通して図面表現と具体的設計方法について理解させる。授業では、CADの利用法について、①基本的な設定、②作図法、③表現方法の3段階に分けて解説し、複数のアプリケーションを複合的に用いた表現能力を養う。特にここでは、建築系CAD（VectorWorks）と製品系CAD（Solid Works）の操作・表現技術を修得し、授業後半ではCADを用いたオリジナルの設計を行い、デザインツールとしてCADを利用する基礎的能力を養成する。
空間デザイン論 ◎吉田　恵介 那須　聖 山田　良	講義 30時間	2年次 後期	デザイン基礎科目（デザイン原論、デザイン史等）を踏まえ、人間と環境を考えた空間デザインのありようと課題について具体的に理解し、さまざまな空間デザインを行う際の視点と姿勢を学ぶ。具体的には、空間デザインを行う意義と有用性について哲学・倫理・技術面からのパースペクティブな思考を行い、屋内外、都市・自然風景地といったさまざまな空間デザインの具体的な事例に基づき、その背景とプロセスについて学ぶ。様々な空間を通して、私たちが作る人工環境の意味・意匠・機能について思考する基礎力を養う。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・目標
空間デザイン史 羽深　久夫	講義 30時間	2年次 後期	空間デザインを地域ごとに分け、各地域の時代を古代、中世、近世に分けて、住宅を中心とした空間デザインの歴史的な成立と展開を概説する。19世紀以降は近代デザインと現代デザインに分けて、日本と世界における住宅を中心とする空間デザインの歴史を国際様式、地域、環境の視点から、その展開と系譜を概説し、21世紀における日本の空間デザインの方向性を明らかにする。また、北海道における空間デザインの歴史的な過程についても概説する。
家具・インテリアデザイン ◎那須　聖 ★中村　昇	講義＋演習 30時間	2年次 後期	日常生活の居住環境の中でかかわりの深い家具と、建築物の内部空間を構成するインテリアのデザインについて、具体的な事例を用いて理解を深める。また、建築空間や都市空間における要素としての家具や内部空間について、的確な空間把握と利用目的に応じた設計をするための能力を養う。授業では、家具・インテリアデザインの歴史、インテリアデザインの因子を理解した上で、演習を通して、使用目的や素材・形態・使用環境それぞれの関係を考慮したデザイン能力を身に付ける。さらに、実物大の家具モデルの制作を通して具体的なデザイン能力を養う。
製品デザイン論 杉　哲夫	講義 30時間	2年次 後期	製品デザインは、未来への夢を描く中から人とモノと環境との間にある課題を発見し、具体的なカタチを通じて解決を図っていくものである。ここでは、具体的な製品デザインの事例を取り上げながらアイデア発想の視点や、製品をデザインしていく上で必要な条件やプロセスを理解し、自らの考えをデザインする方法論の基礎を身に付けることを目標とする。
製品造形論 ◎石崎　友紀 細谷　多聞	講義 30時間	2年次 後期	「形態は機能に従う」と語ったのは20世紀初頭、アメリカの建築家ルイス・サリバンだが、それ以後「機能美」などという表現も出現して人間が作るあらゆる道具に多大な影響を与え、合理主義的な近代製品デザイン造形の基本的な考え方とされている。ここでは、機能の完全進化形としての生物や植物の持つ構造や形態を製品造形に応用する手法を解読する。また、情報化に伴う社会的価値観と生活意識の変化により、機能よりも感性的な評価やメッセージ性等が製品の造形に考慮されるべき要素として求められる傾向もあり、そうした事柄についても考察する。
ヒューマンファクターズ 田中　敏明	講義＋演習 30時間	2年次 後期	基本科目として学んだヒューマンファクターズ入門の理解のもとに、人間の様々な機能・能力障害等を理解するための人間工学・福祉工学的手法について学ぶ。また、実習等において動作課題に関する運動学的分析を行い人間の関節・筋活動・動作等の正常と異常を理解する。さらにヒトの機能・能力障害を補償するための医療福祉機器について理解を深める。 1 ヒトの運動・動作を中心とした機能・能力に関する正常と異常を理解する。 2 実習を通してヒトの様々な障害を理解するための運動学的分析手法を学ぶ。 3 各種福祉機器について学ぶ。
コンテンツデザイン論 望月　澄人	講義 30時間	2年次 後期	コンピュータグラフィクスを始め、アニメーションやウエブ等を対象とするコンテンツデザインの基本的な考え方を理解させる。多様化するさまざまなメディアが存在する中で、コンテンツを制作することは、知的欲求や感情的欲求を満たすコンテンツを生産し供給することである。コンテンツはどのような欲求に対して制作され、どのようにデザインされるのか、他のデザインとどこが違うのかなどについて論じる。
コンピュータグラフィクス ★水越　洋	講義＋演習 30時間	2年次 後期	コンピュータグラフィクスの技術進化を解説し、進化を遂げるCG表現技術などを、主要なソフトウエアを用いて学ぶ。高度化する3次元コンピュータグラフィクス技術や実写との合成技術など、映画等で用いられている先端のCG表現領域についても触れる。

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・目標
ダイナミックオブジェクトデザイン ◎齋藤　利明 城間　祥之	演習 30時間	2年次 後期	ロボットのようなダイナミックオブジェクトは高度情報化社会における動態人工物である。ここでは、人工物の表現制作と動態技術の側面からダイナミックオブジェクトデザインについて学ぶ。
メディアデザイン論 武邑　光裕	講義 30時間	2年次 後期	マスメディアからマルチメディアまで、多様なメディア形式の中で流通するコンテンツをプロデュースし、具体的なメディアの選択から流通形態にまで及ぶ新たなデザイン領域の可能性を概観する。クリエイティブな発想、構想力によるメディアの創造とその展開過程など、放送、映画、音楽、出版、インターネットなど、主要メディアを通した「文化の産業化」過程について学ぶ。特に、グローバル化するメディア産業を見据え、国際戦略としてのコンテンツ流通とメディア・プロデュースの文脈、具体的なメディアビジネスを通しての国際競争力あるメディアデザインを概説します。各国の版権ビジネスや、ローカリゼーション（地域化）とグローバル化（世界化）とのダイナミックな対話によるコンテンツ・プロデュース手法、デザイン戦略におけるグローバル化への対応など、近年のグローバル・メディアデザインの戦略的な背景などを考察することで、世界市場で通用するコンテンツの創造とはいかなるものかを、権利発生からその販売までを通してシミュレーションします。
広告デザイン 吉田　和夫	講義＋演習 30時間	2年次 後期	広告を取り巻く環境の変化はITの技術革新と消費者のライフスタイルの多様化に集約される。IT技術の進歩によるメディアの再評価は広告そのものの概念まで変容させている。同時に消費者の行動様式の解釈も、意識と心の分析など、より本質的な観点からのアプローチが要求されている。これらを踏まえメディアの多様性を意識した次世代の広告のあり方を探る。演習では世代別ライフスタイルを基にしたコミュニケーションコンセプトの立案と企画・発想力の開発に力点を置いた広告課題の制作を行う。
メディアビジネス フィッシャー ニーナ	演習 30時間	2年次 後期	メディアビジネスを事業化するまでの筋道を核として、多様なメディアビジネスモデルを取り上げる。主要メディア（テレビ、映画、音楽、出版、インターネット、イベントなど）における新たなビジネスモデルを、各メディアを代表する事例研究とその分析を通して学ぶ。メディア形式と内容を理解し、テレビから携帯電話に至る一連のメディア環境から生まれるメディアビジネスについても考察する。今期は、映像関連産業をターゲットとするサッポロにおける都市ブランディングを実証し、世界の映画とメディア・コミッションの役割やその成功事例を検証するとともに、実際にサッポロの映像ブランディング事業をシミュレートする。北海道、サッポロ地域における映画とメディアビジネス開発のための映像プロモーション制作の提案を行う。
デザイン総合実習Ⅰ （空間デザインコース） ◎吉田　惠介 中原　宏 羽深　久夫 矢部　和夫 斉藤　雅也 那須　聖 山田　良	実習 60時間	2年次 後期	デザイン基本科目（デザイン原論、デザイン史、色彩設計論、ユニバーサルデザイン論、造形基礎実習、コンピュータ基礎実習等）や展開科目（空間デザイン論、家具・インテリアデザイン等）の習得を踏まえ、学生に簡単な制作課題を与え、作品制作を通してよりデザインに関する知識・技術を深める。身近な住環境の把握から住空間計画、街並み景観計画の基礎実習へと徐々に制作プロセスに従いながら、空間デザインの基礎的な表現方法を学ぶと共に、併せて空間をデザインすることの意義を学ぶ。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・目標
デザイン総合実習Ⅰ (製品デザインコース) ◎杉　哲夫 石崎　友紀 酒井　正幸 田中　敏明 張　浦華 三谷　篤史	実習 60時間	2年次 後期	デザイン基本科目等の基礎的な知識・技術の習得を踏まえ、実験や制作などの実習を通じ、デザインに関する知識・技術をより深める。デザイン総合実習Ⅰでは、製品デザインとして必要な調査分析や実験、デザインモデル制作やレポート作成などの基礎的能力を身に付ける。
デザイン総合実習Ⅰ (コンテンツデザインコース) ◎齋藤　利明 城間　祥之 望月　澄人 細谷　多聞 大渕　一博	実習 60時間	2年次 後期	デザイン基本科目等の基礎的な知識・技術の習得を踏まえ、学生に簡単な制作課題を与え､作品制作を通してよりデザインに関する知識･技術を深める。徐々に制作課題のレベルを上げながらデザイン能力を身に付けさせ、併せてデザインにおいて制作することの意義を学ぶ。
デザイン総合実習Ⅰ (メディアデザインコース) ◎武邑　光裕 上遠野　敏 吉田　和夫 エル サニ マロアン フィッシャー ニーナ	実習 60時間	2年次 後期	デザイン基本科目等の基礎的な知識・技術の習得を踏まえ、学生に簡単な制作課題を与え､作品制作を通してよりデザインに関する知識･技術を深める。徐々に制作課題のレベルを上げながらデザイン能力を身に付けさせ、併せてデザインにおいて制作することの意義を学ぶ。多様なメディアを対象とするデザイン・プロジェクトを理解し、経済活動や文化の創造に寄与するメディア・デザインの方法論を、多様な実習過程を通して学ぶ。
生涯学習概論 ★木村　純	講義 15時間	2年次 後期	今日、生涯学習の重要性が増し、人々が様々な機会と方法で継続的に学習することが求められるようになった。人々の生涯学習は､従来の「生活拡充共生型」の社会教育にとどまらず、職業やまちづくりなどに必要な専門的能力の獲得を目指す「リカレント教育」(あるいは継続教育) を含むものとして展開しているが、後者も含む生涯学習活動を支援・促進する理論・方法等の理解を図る。
博物館概論 ◎矢部　和夫 ★奥岡　茂雄 ★高橋　信裕 ★山田　悟郎	講義 30時間	2年次 後期	博物館の歴史を通して博物館の概念を理解し、併せて博物館法を通して博物館への基本的認識を深める。また、文化財の収集や保存、展示等の基礎的知識を習得することにより、博物館施設への関心を喚起することを目標とする。
視聴覚教育メディア論 ◎武邑　光裕 ★江川　克之	講義 15時間	2年次 後期	コミュニケーション・メディアの中でも、視聴覚教育メディアの役割と意義について論ずる。特に、博物館・美術館における視聴覚メディアの利用から、マルチメディアやクロスプラットフォーム・メディア、デジタル情報を処理するメディアの利活用法など、知的財産権や著作権処理を含むメディアリテラシーの観点からも概説する。20世紀に大規模な進化を遂げた電子メディアは、社会的、文化的な公共空間にも浸透し、従来の言語コミュニケーションに視覚情報やデジタル･コミュニケーションの特性を付加してきた。近年のIT (情報技術) 革命など、急速に変化するメディアとグローバルな文化空間の中で機能する視聴覚メディアの可能性を考察し、メディアが人間社会に与える影響を考え、メディアに対する正しい理解を促すことも、本授業のねらいのひとつである。博物館・美術館における次世代の視聴覚メディアの効果的な支援教具としての位置付けについても、多彩な事例を分析し、世界の博物館・美術館における先進的な視聴覚メディアのデザイン計画についても概観する。

◎印：科目責任者（オムニバス形式等の場合）
★印：非常勤講師

4　看護学部

1)　平成１９年度時間割

①１年前期

		月		火		水		木		金	
		前半（4/9～）	後半（6/4～）	前半（4/10～）	後半（5/29～）						
1	9:00～10:30	形態機能学Ⅰ　高野				情報リテラシーⅠ　原 情報リテラシーⅠ　大渕		環境を考える　矢部		情報リテラシーⅠ　原 情報リテラシーⅠ　大渕	
2	10:40～12:10	形態機能学Ⅰ　高野		看護学原論 河野		札幌を学ぶ　原		日本語表現法　千葉 英語ⅠB　松井 英語ⅠB　向井 英語ⅠC　ﾏｯﾏﾄﾞｳﾞｧ 英語ⅠA　大野		哲学と倫理　山田（友）	
3	13:10～14:40	地域保健学概論 清水 加藤 新納		看護観察技術論　大野 佐藤 星 ※隔週開講		英語ⅠA　水島 英語ⅠA　亘理 英語ⅠB　白土 英語ⅠC　山田（パ）		日本語表現法　千葉 英語ⅠB　松井 英語ⅠB　向井 英語ⅠC　ﾏｯﾏﾄﾞｳﾞｧ 英語ⅠA　大野		現代社会と家族　原	
4	14:50～16:20			看護観察技術論　大野 佐藤 星 ※隔週開講		英語ⅠA　水島 英語ⅠA　亘理 英語ⅠB　白土 英語ⅠC　山田（パ）		スタートアップ演習　原・河野※ ※他両学部教員計20名		基礎カウンセリング　小坂 英語ⅠC　山田（パ） 英語ⅠC　ﾏｯﾏﾄﾞｳﾞｧ 英語ⅠA　大野 英語ⅠB　白土	
5	16:30～18:00					人間関係を考える　椿		スタートアップ演習　原・河野※ ※他両学部教員計20名		基礎カウンセリング　小坂 英語ⅠC　山田（パ） 英語ⅠC　ﾏｯﾏﾄﾞｳﾞｧ 英語ⅠA　大野 英語ⅠB　白土	

※集中講義：看護初期実習　6月11日～15日
　　看護初期実習オリエンテーション　5月8日

②１年後期

		月		火		水		木		金	
		前半（10/1～）	後半（12/3～）	前半（10/2～）	後半（11/27～）						
1	9:00～10:30	形態機能学Ⅱ　高野		薬理学 富樫	看護過程論 大野 佐藤 渡邉			体のしくみ　田中		情報リテラシーⅡ　原 情報リテラシーⅡ　大渕 手話　高橋	
2	10:40～12:10	形態機能学Ⅱ　高野		看護理論 中村	看護過程論 大野 佐藤 渡邉	英語ⅡA　水島 英語ⅡA　亘理 英語ⅡB　白土 英語ⅡC　ﾏｯﾏﾄﾞｳﾞｧ		統計の世界　原		情報リテラシーⅡ　原 情報リテラシーⅡ　大渕 手話　高橋	
3	13:10～14:40	基礎看護技術論　樋之津 大野 佐藤 渡邉 星 藤井 菊地		病理病態学　小林		英語ⅡA　水島 英語ⅡA　亘理 英語ⅡB　白土 英語ⅡC　ﾏｯﾏﾄﾞｳﾞｧ		対人コミュニケーション　町田 英語ⅡB　向井 英語ⅡB　松井 英語ⅡC　山田（パ） 英語ⅡA　大野		プレゼンテーション　原､齋藤(利)､吉田(和) 英語ⅡC　山田（パ） 英語ⅡC　ﾏｯﾏﾄﾞｳﾞｧ 英語ⅡA　大野 英語ⅡB　松井	
4	14:50～16:20	基礎看護技術論　樋之津 大野 佐藤 渡邉 星 藤井 菊地		病理病態学　小林		宗教と思想　堀		対人コミュニケーション　町田 英語ⅡB　向井 英語ⅡB　松井 英語ⅡC　山田（パ） 英語ⅡA　大野		プレゼンテーション　原､齋藤(利)､吉田(和) 英語ⅡC　山田（パ） 英語ⅡC　ﾏｯﾏﾄﾞｳﾞｧ 英語ⅡA　大野 英語ⅡB　松井	
5	16:30～18:00	感染予防論 滝沢		人間発達援助論　宮﨑 松浦 中村 坂倉		心のしくみ　橋本		芸術と文化　望月		現代社会と経済　近藤	

※集中講義：基礎看護学臨地実習Ⅰ　10月29日～11月2日

③２年前期

		月		火		水		木		金	
		前半（4/9～）	後半（6/18～）			前半（4/11～）	後半（6/13）	前半（4/12）	後半（6/21）	前半（4/13～）	後半（6/22～）
1	9:00〜10:30	社会福祉学 大内		実践英語A 松井 実践英語A 水島 ロシア語 ジダーノフ		生命科学 山田（恵）			環境保健 加藤	人間工学 樋之津 田中	
2	10:40〜12:10	疾病治療学B 向井		実践英語A 松井 実践英語A 水島 ロシア語 ジダーノフ 中国語 照井		疾病治療学概論 富樫		疾病治療学A 小倉		臨床栄養学 高野	
3	13:10〜14:40	成人看護学概論 中村	家族社会学 原	ジェンダーを考える 笹谷 中国語 照井		生命倫理 村上		症状マネジメント論 樋之津 大野 須田 藤井		老年看護学概論 坂倉	
4	14:50〜16:20		成人看護援助論 中村	現代社会と国際関係 佐々木 中国語 照井		医療情報 櫻井		症状マネジメント論 樋之津 大野 須田 藤井			
5	16:30〜18:00		成人看護援助論 中村	グループ・ダイナミックス 鹿内		医療情報 櫻井					

※集中講義：基礎看護学臨地実習Ⅱ　5月21日～6月1日
基礎看護学臨地実習Ⅱオリエンテーション　5月7日
公衆衛生学　9月10日～11日
精神看護学概論　6月20日、6月27日、7月18日、7月25日

④２年後期

		月		火		水		木		金	
		前半（10/1～）	後半（12/3～）			前半（10/3～）	後半（12/12～）	前半（10/4～）	後半（12/13～）	前半（10/5～）	後半（12/14～）
1	9:00〜10:30	看護倫理学 宮﨑	精神看護援助論 守村 阿保 安田	健康とスポーツ 服部		韓国語 松田		臨床薬理学 唯野			在宅看護援助論 菊地 坂倉 工藤
2	10:40〜12:10	在宅看護学概論 中村	精神看護援助論 守村 阿保 安田	教育を考える 小内		臨床心理学 葛西			母性看護学概論 宮﨑		在宅看護援助論 菊地 坂倉 工藤
3	13:10〜14:40		小児看護学概論 松浦	実践英語B 山田（パ）		疾病治療学C 三澤		援助的人間関係論 大野 樋之津 藤井		老年看護援助論 坂倉 東出	がん看護学 樋之津 松山
4	14:50〜16:20		感染管理論 スーディ 石角	韓国語 松田				援助的人間関係論 大野 樋之津 藤井		老年看護援助論 坂倉 東出	がん看護学 樋之津 松山
5	16:30〜18:00		チーム医療論 河野 中村					手話 高橋			

※集中講義：成人看護学臨地実習Ⅰ　11月5日～23日

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

区分			授業科目の名称	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	修得単位数
共通教育科目	導入科目		スタートアップ演習	2		1年前期	2単位
	教養科目	文化に対する理解	哲学と倫理		2	1年前期	4単位以上
			宗教と思想		2	1年後期	
			芸術と文化		2	1年後期	
			環境を考える		2	1年前期	
			教育を考える		2	2年後期	
		人間に対する理解	心のしくみ		2	1年後期	4単位以上
			体のしくみ		2	1年後期	
			ジェンダーを考える		2	2年前期	
			人間関係を考える		2	1年前期	
			健康とスポーツ		2	2年後期	
		社会に対する理解	現代社会と家族		2	1年前期	6単位以上
			現代社会と国際関係		2	2年前期	
			現代社会と経済		2	1年後期	
			札幌を学ぶ		2	1年前期	
			ボランティア活動を考える		2	2年後期	
			統計の世界	2		1年後期	
	コミュニケーション科目	外国語	英語ⅠA	1		1年前期	8単位以上
			英語ⅠB	1		1年前期	
			英語ⅠC	1		1年前期	
			英語ⅡA	1		1年後期	
			英語ⅡB	1		1年後期	
			英語ⅡC	1		1年後期	
			実践英語A		1	2年前期	
			実践英語B		1	2年後期	
			韓国語		1	2年後期	
			中国語		1	2年前期	
			ロシア語		1	2年前期	
		コミュニケーション・情報技術	日本語表現法		1	1年前期	4単位以上
			プレゼンテーション		1	1年後期	
			基礎カウンセリング		1	1年前期	
			対人コミュニケーション		1	1年後期	
			グループ・ダイナミックス		1	2年前期	
			手話		1	1年後期	
			情報リテラシーⅠ	1		1年前期	
			情報リテラシーⅡ	1		1年後期	
合計							28単位以上

区分			授業科目の名称	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	修得単位数
専門教育科目	専門基礎科目	人間と命	形態機能学Ⅰ	2		1年前期	5単位以上
			形態機能学Ⅱ	2		1年後期	
			生命科学		1	2年前期	
			生命倫理		1	2年前期	
			環境保健		1	2年前期	
			人間工学		1	2年前期	
		健康と健康障害と予防	薬理学	1		1年後期	10単位
			臨床薬理学	1		2年後期	
			臨床栄養学	1		2年前期	
			病理病態学	2		1年後期	
			疾病治療学概論	1		2年前期	
			疾病治療学A	1		2年前期	
			疾病治療学B	1		2年前期	
			疾病治療学C	1		2年後期	
			感染予防論	1		1年後期	
		保健と医療と福祉	公衆衛生学	1		2年前期	6単位以上
			社会福祉学		1	2年前期	
			家族社会学		1	2年前期	
			チーム医療論		1	2年後期	
			感染管理論		1	2年後期	
			臨床心理学		1	2年後期	
			地域保健学概論	1		1年前期	
			保健医療福祉制度論	1		3年前期	
			保健統計	1		3年前期	
			医療情報	1		2年前期	
合計							21単位以上

区分			授業科目の名称	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	修得単位数
専門教育科目	専門科目	看護の基盤となるもの	ヒューマンケアの基本	看護学原論	1		1年前期	7単位
				看護理論	1		1年後期	
				援助的人間関係論	1		2年後期	
				人間発達援助論	1		1年後期	
				看護初期実習	1		1年前期	
				看護倫理学	1		2年後期	
				健康教育指導法	1		3年後期	
			看護の基本的展開	看護過程論	1		1年後期	10単位
				看護観察技術論	1		1年前期	
				症状マネジメント論	2		2年前期	
				基礎看護技術論	2		1年後期	
				基礎看護学臨地実習Ⅰ	1		1年後期	
				基礎看護学臨地実習Ⅱ	2		2年前期	
				研究方法論	1		3年後期	
		健康レベルに応じて生活を援助するもの	小児	小児看護学概論	1		2年後期	5単位
				小児看護援助論	1		3年前期	
				小児看護技術論	1		3年後期	
				小児看護学臨地実習	2		3年後期	
			母性	母性看護学概論	1		2年後期	5単位
				母性看護援助論	1		3年前期	
				母性看護技術論	1		3年後期	
				母性看護学臨地実習	2		3年後期	
			成人	成人看護学概論	1		2年前期	8単位
				成人看護援助論	1		2年前期	
				成人看護技術論	1		3年前期	
				成人看護学臨地実習Ⅰ	3		2年後期	
				成人看護学臨地実習Ⅱ	2		3年前期	
			老年	老年看護学概論	1		2年前期	6単位
				老年看護援助論	1		2年後期	
				老年看護技術論	1		3年後期	
				老年看護学臨地実習Ⅰ	1		3年前期	
				老年看護学臨地実習Ⅱ	2		3年後期	
			精神	精神看護学概論	1		2年前期	5単位
				精神看護援助論	1		2年後期	
				精神看護技術論	1		3年前期	
				精神看護学臨地実習	2		3年前期	
			在宅	在宅看護学概論	1		2年後期	5単位
				在宅看護援助論	1		2年後期	
				在宅看護技術論	1		3年前期	
				在宅看護学臨地実習	2		3年前期	
			健康問題への対応	リハビリテーション看護学	1		3年前期	5単位以上
				がん看護学	1		2年後期	
				認知症ケア	1		3年前期	
				透析ケア		1	3年後期	
				重症集中ケア		1	3年後期	
				救急看護学		1	3年後期	
				放射線医療管理論		1	3年後期	
				ペリネイタルケア		1	3年後期	
				バリアティブケア		1	3年後期	
				寒冷地医療		1	3年後期	
		コミュニティケアに関するもの		地域看護学概論	1		3年前期	8単位
				地域看護援助論	2		3年後期	
				地域看護技術論	1		4年前期	
				ヘルスプロモーション活動論	1		4年前期	
				地域看護学臨地実習	3		4年前期	
		発展・統合に関するもの		看護管理学	1		4年前期	11単位以上
				看護教育学	1		3年後期	
				卒業研究	4		4年	
				ヘルスケアマネジメント実習	3		4年後期	
				看護情報学		1	4年前期	
				災害看護学		1	4年前期	
				国際看護学		1	4年前期	
				国際保健学		1	4年前期	
				医療経営学		1	4年前期	
				医療安全管理論		1	4年前期	
				現代専門職論		1	4年前期	
		学部連携		学部連携演習	2		3後～4前	2単位
合計								77単位以上

② 卒業要件

区分		必修	選択	合計
共通教育科目		12	16	28
専門教育科目		92	6	98
	（専門基礎科目）	(19)	(2)	(21)
	（専門科目）	(73)	(4)	(77)
合計		104	22	126

3） 教育活動

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・目標
形態機能学Ⅰ ★高野　廣子	演習 60時間	1年次 前期	形態機能学では、生物学的側面の人間、身体の構造と機能、生命現象の論理的な思考について理解する。ここでは、人体を構成する細胞・組織など基本となる構造のほか、人間の身体の調節系と統御系について、その構造と機能を病態に関連付けて学習する。（人体の構造、細胞、組織、神経系、内分泌系、呼吸器系、泌尿器系、消化器系）
地域保健学概論 ◎清水　光子 加藤　登紀子 新納　美美	講義 15時間	1年次 前期	保健・医療・福祉の考え方を基盤に、住民主体の保健・医療・福祉活動の基本理念や考え方について学習する。また、産業保健の基本的な知識や保健指導の基礎についても学ぶ。
看護学原論 河野　總子	講義 15時間	1年次 前期	看護学の構築（要素）を基盤とし､生活する人々の体験として健康と健康障害、それを巡る人々の取り組み、そこにかかわる看護実践の方法や場を通し､「看護とは何か」について考え、さらに発展させる基礎とする。
看護初期実習 ◎大野　夏代 清水　光子 守村　洋 菊地　ひろみ 佐藤　公美子 菅原　美樹 髙室　典子 新納　美美 藤井　瑞恵 星　美和子 村松　真澄 保田　玲子 渡邉　由加利	実習 45時間	1年次 前期	保健・医療・福祉の看護職が活動する場において、看護職や関連職種の活動を見学体験し、保健・医療・福祉分野への関心と理解を深め、看護学を学ぶ動機付けとする。看護の実際を見学することにより、他職種の専門性と看護職とのかかわりを理解する。
看護観察技術論 ◎大野　夏代 佐藤　公美子 星　美和子	演習 30時間	1年次 前期	アセスメントを基本的人間観察論と位置付け、バイタルサインズ及びフィジカルアセスメントを中心とした技術演習を行う。特に看護過程の一部として状態把握の基礎技術の重要性について演習を通して学ぶ。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・目標
形態機能学Ⅱ ★高野　廣子	演習 60時間	1年次 後期	人体の構造と機能について、ここでは、循環器系、血液・造血器系、免疫系、生殖器系、発生学、感覚器系、運動器系について構造と機能を統合して学ぶ。さらに、人体の構造と機能が人間の健康障害や疾病、特に病態生理とどのように関連しているかを習得する。
薬理学 ★富樫　廣子	講義 15時間	1年次 後期	医薬品の生体に及ぼす作用について理解し、医薬品の有効性、安全性、薬物が生体に作用する仕組みを幅広く学ぶ。また、薬物の相互作用による副作用を学ぶとともに、主な疾患の薬物療法に必要な基礎知識を習得する。
病理病態学 ★小林　正伸	演習 60時間	1年次 後期	病理学の概念、病因論、病変の特徴、健康障害の仕組みについて学び、各器官における疾病を学ぶ上での基礎知識を習得する。また、人体に備わる病態からの回復機構とともに生態防御機構についての概要を理解する。
感染予防論 ★滝沢　慶彦	講義 15時間	1年次 後期	微生物学的基礎を踏まえ感染症の概念、病原体の特徴と疾患、治療について理解し、免疫現象が病気･病態とどのようにかかわっているかを理解する。また、病原体と免疫反応から感染の予防について学ぶ。
看護理論 中村　恵子	講義 15時間	1年次 後期	看護の実践において用いられている看護理論の意義と理論構成について、歴史的発展を踏まえて理解する。また、それぞれの理論や看護モデルを通して、看護の主要な要素とその概念について学ぶ。
人間発達援助論 ◎宮崎　みち子 中村　恵子 坂倉　恵美子 松浦　和代	演習 30時間	1年次 後期	人間を生涯発達の視点でとらえ､人間発達の共通性と特異性を理解する。また、人間の発達段階各期における看護援助の視点を明らかにし、母性、小児、成人、老年における看護を理解するための基礎的知識を学ぶ。
看護過程論 ◎大野　夏代 佐藤　公美子 渡邉　由加利	演習 30時間	1年次 後期	対象の健康問題を解決するために、アセスメント、看護診断、計画立案、実施、評価と一連の“問題解決思考と行動”及びそれを支える看護理論を用いながら看護過程の実際を学習する。
基礎看護技術論 ◎樋之津　淳子 大野　夏代 菊地　ひろみ 佐藤　公美子 藤井　瑞恵 星　美和子 渡邉　由加利	演習 60時間	1年次 後期	対人関係の基本を学ぶとともに、看護行為に共通な援助技術、日常生活行動を促進する技術、生命活動を支える技術、治療・処置に伴う援助技術などの導入として、看護の基本となる実践的援助技術を主体的に学ぶ。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・目標
基礎看護学臨地実習Ⅰ ◎樋之津　淳子 大野　夏代 菊地　ひろみ 佐藤　公美子 星　美和子 渡邉　由加利 太田　晴美 神島　滋子 河村　奈美子 工藤　京子 小坂　美智代 進藤　ゆかり 多賀　昌江 塚辺　繭子 鶴木　恭子 照井　レナ 福島　眞理 松村　寛子 三上　智子	実習 45時間	1年次 後期	患者のおかれている入院施設ならびに生活環境を看護の視点で観察し、看護の働きかけを体験的に学び、今後の学修の動機づけとする。 具体的には、 1 入院している人々の生活環境を知り、療養生活への思いや健康状態、健康ニーズを学ぶ。 2 実習病院の保健医療福祉チームを構成している各部門の概要と役割機能について学ぶ。 3 対象に行われている看護援助場面を観察する。 4 看護実践に必要な基本的態度を身につけ、ヒューマンケアの基本を学ぶ。
生命科学 ★山田　恵子	講義 15時間	2年次 前期	分子生物学からゲノムサイエンスまでの発展の歴史を概観しながら、生命観の変遷を学ぶ。また、生命科学の基本である遺伝情報について、遺伝情報の流れや遺伝子発現制御などに関する理解を深める。さらに癌、老化と寿命、生活習慣病と遺伝子の関係について学び、生命と科学に対する理解を深める。
生命倫理 ★村上　友一	講義 15時間	2年次 前期	近年、先端医療において、従来の生命観と価値観が対立するような事例が生じ、それらを反映して医療をめぐる倫理観にも新しい変化が生じてきた。対象の意思を尊重し、人権と自由の保護を基盤とした生命と倫理について理解する。
環境保健 ◎加藤　登紀子 ★齋藤　健	講義 15時間	2年次 前期	健康を考える上で、環境は重要なウエイトを占める。とりわけ、現代社会では人間活動の影響を強く受けた環境によって、かつて経験したことのない新たな健康問題が引き起こされている。環境破壊と健康障害等の事例から、健康にとって環境の持つ意味及びそれらが人間の活動にどれだけ影響を及ぼしているかを理解する。
人間工学 ◎樋之津　淳子 田中　敏明	講義 15時間	2年次 前期	保健・医療・福祉分野、看護援助における機械・器具、空間と人間との好ましい対応関係など、安全性・快適性・効率性を考慮した人間工学の基礎的な概念を理解する。 1 人間工学の基礎的概念と看護学との関係を理解する。 2 人の動作に必要な機能の特性を理解する。 3 人の生体計測及び動作分析方法の基礎を学ぶ。 4 看護ケア・福祉機器、病院環境の諸課題を人間工学の視点から学ぶ。
臨床栄養学 ★高野　良子	演習 30時間	2年次 前期	栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的な栄養マネジメントの考え方を理解し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について学ぶ。 到達目標 1 健康時の「栄養状態」を評価・判定できる 2「栄養状態の特徴」に応じた栄養マネジメントを理解できる 3 患者に「栄養マネジメント」の基本を説明できる

授業科目・ 担当教員	授業形態・ 時数	年次	科目のねらい・目標
疾病治療学概論 ★富 樫　武 弘	演習 30時間	2年次 前期	人の健康を損ねるものには極めて多くの疾病がある。しかしながら、多くの疾病に共通した発生の要因があり、いくつかの疾病で似たような特質を有している。ここでは、主な疾病の基礎となる症状並びに疾病発生の仕組み、検査の方法、治療法に関する基本的な知識を学ぶ。また、治療を行う上で必要となる麻酔法に関する基礎的な知識についても習得する。
疾病治療学A ★小 倉　滋 明	演習 30時間	2年次 前期	疾病治療学概論を踏まえ、疾患の成立にかかわる基本的病態の概念とそれぞれの疾患について各臓器・器官がどのような病態を疾病と称し、要治療となるのか学習する。ここでは、呼吸・循環器系、血液代謝系についての機能のメカニズムと心身との相関関係について理解し、あらゆる健康状態にある対象と家族への看護実践に必要な健康障害と診療方法の基礎的知識を学習する。
疾病治療学B ★向 井　正 也	演習 30時間	2年次 前期	疾病治療学概論を踏まえ、疾患の成立にかかわる基本的病態の概念とそれぞれの疾患について各臓器・器官がどのような病態を疾病と称し、要治療となるのか学習する。ここでは、消化器系、骨・筋肉、腎・泌尿器系の機能のメカニズムと心身との相関関係について理解し、あらゆる健康状態にある対象と家族への看護実践に必要な健康障害と診療方法の基礎的知識を学習する。
公衆衛生学 ★村 松　宰	講義 15時間	2年次 前期	人々を取り巻く環境は、人間の生理機能に影響を与え、健康の保持増進、健康障害の発生にかかわっている。地域で生活するすべての人々の疾病の予防から、より良い健康レベル獲得を目指すなどの健康に関する問題について、医学的、社会学的、疫学的、医療行政的視点から学び、組織的な保健活動について学習する。また、人々の健康を守り、増進するための基礎的知識を習得する。
社会福祉学 ★大 内　高 雄	講義 15時間	2年次 前期	現代における社会福祉の概念とその歴史的変遷について学習し、併せて、社会福祉と社会保障の関係を理解する。また、保健・医療・福祉の連携が重視されていることから、日常生活における福祉の果たす役割、今後の方向性についても学ぶ。
家族社会学 原　俊 彦	講義 15時間	2年次 前期	人間生活の基礎的な単位である家族が、現代社会で大きく変化しつつある現状を見据えながら、社会における家族の役割及び生活の場として家族が個人に果たす役割や機能について理解する。
医療情報 ★櫻井　恒太郎	演習 30時間	2年次 前期	医療情報学は比較的新しい学問分野であるが、コンピュータ技術だけを扱う学問ではない。医療の専門家として適切な方針の選択をしたり、病院や地域で医療の質を向上するために、各種の情報を適切に扱うための知識、技能及び倫理を身につける必要がある。この授業では、そのような広い視野に立っての医療情報学の教育を目指す。
症状マネジメント論 ◎樋之津　淳子 大 野　夏 代 菅 原　美 樹 藤 井　瑞 恵 村 松　真 澄 ★須 田　恭 子	演習 60時間	2年次 前期	健康障害時の臨床症状の表れ方と人体機能の変化、特に生体試料である血液や尿等における種々の成分の変化との関連性を解析する。また、代表的な病態の自覚的及び他覚的な臨床所見の見方、臨床検査データの読み方、治療経過の評価を基に、看護の臨床の場で役立つ症状マネジメントを修得する。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・目標
基礎看護学臨地実習Ⅱ ◎樋之津　淳子 大野　夏代 菊地　ひろみ 佐藤　公美子 星　美和子 渡邉　由加利 太田　晴美 神島　滋子 河村　奈美子 工藤　京子 小坂　美智代 進藤　ゆかり 多賀　昌江 塚辺　繭子 鶴木　恭子 照井　レナ 福島　眞理 松村　寛子 三上　智子	実習 90時間	2年次 前期	医療機関で療養生活を送る患者様を担当し、基本的な欲求に基づく生活援助を中心に看護過程を展開する。生活援助における基礎看護技術の一部を安全・安楽に実践するとともに、ケアの説明と同意を得るためのコミュニケーションスキル、看護ケアの実践的方法を学ぶ。以上により、看護の対象となる患者様やご家族の特性及び看護の必要性についての理解を深め、今後の学修のモチベーションを高める。
成人看護学概論 中村　恵子	講義 15時間	2年次 前期	成人期にある対象の身体・精神・社会的な特徴を理解し、対象の成長・発達を促す成人看護の中心概念とその理論について学ぶ。また、成人期にある人々の健康上の諸問題を総合的に学ぶとともに生活習慣と健康障害の関連など成人保健活動の基本について理解する。
成人看護援助論 ◎中村　恵子 菅原　美樹 ★須田　恭子	講義 30時間	2年次 前期	健康障害の病態と治療等を通して、成人期における生活習慣病などの健康障害を有する対象と、その家族に対する基本的看護援助方法について学習する。また、生活習慣病予防のための健康増進対策など、成人保健活動の援助についても学ぶ。
老年看護学概論 坂倉　恵美子	講義 15時間	2年次 前期	社会の構成員としての高齢者の存在の意味を考え、高齢期の特徴とその生活について、加齢による健康的側面と社会環境の側面から理解を深める。また、老年保健及び老年看護活動の基本的考え方、方法について学習する。
精神看護学概論 ★阿保　順子	講義 15時間	2年次 前期	精神保健医療の変遷と現状を学びつつ、精神の成り立ちとメカニズムを知り、精神健康の保持増進及び疾病の予防と回復を援助する精神看護の役割と課題について理解する。また、精神障害のある対象の人権や福祉、精神保健について考える。
臨床薬理学 ★唯野　貢司	演習 30時間	2年次 後期	薬理学で学んだ基礎的知識をもとに、臨床で使用されている薬物の中で、特に基本となる薬物について、投与方法及び量と薬理効果の関係、薬物が人体に作用する仕組みとともに理解する。また、薬物を使用する際に安全面で重要なことや看護における注意点を理解する。
疾病治療学C ★三澤　一仁	演習 30時間	2年次 後期	疾病治療学概論を踏まえ、疾患の成立にかかわる基本的病態の概念とそれぞれの疾患について各臓器・器官がどのような病態を疾病と称し、要治療となるのか学習する。ここでは、脳・神経系、感覚器系の機能のメカニズムと心身との相関関係について理解し、あらゆる健康状態にある対象と家族への看護実践に必要な健康障害と診療方法の基礎的知識を学習する。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・目標
チーム医療論 ◎河野　總子 中村　恵子	講義 15時間	2年次 後期	医療従事者として、チーム医療について必要な知識を習得する。社会環境の変化に伴い、医療が細分化されるとともに高度な内容となってきており、医師が中心であった医療から対象を中心とした専門家集団による医療が求められるようになった。このことを踏まえ、医療従事者間の連携や協働について学ぶ。
感染管理論 ◎スーディ神崎 和代 ★石角　鈴華	講義 15時間	2年次 後期	人間を中心とした医療、看護、介護の立場から感染管理対策を学ぶ。また、医療機関などの施設における感染管理の重要性について理解する。
臨床心理学 ★葛西　康子	講義 15時間	2年次 後期	本講義では、臨床心理学を対人援助学及び「ケアをすること」として捉え、健康問題と人間心理の関係や、病的状態における心理的な援助方法など臨床心理学の基本的考え方の習得をめざす。「ケアをすること（＝ケアリング）」とは、健康問題に関わる援助実践を含んだ、人間の成長･発達の支援を意味している。このプロセスに生起するケアの受け手との関係性と協働作業について、治療的人間関係、信頼関係を形成するための心理学的方法論など看護実践の場で利用可能な基本技術について、臨床心理学の知見を紹介し学び合いたい。
援助的人間関係論 ◎大野　夏代 樋之津　淳子 藤井　瑞恵	演習 30時間	2年次 後期	看護の基本をなす対象との援助的人間関係の形成について理解を深めると共に、コミュニケーションの理論と技術を修得する。また、受容共感や自己の対応パターンを確認し、信頼関係を確立して自己と他者との関係が成立することによって援助が可能となることを学ぶ。
看護倫理学 ◎宮﨑　みち子 ★リボウィッツ志村 よし子	講義 15時間	2年次 後期	看護職に必要な倫理に関する基本的な知識と倫理的意思決定を行うための枠組みを理解する。さらに、看護ケアを行うという状況の中で、自分の価値と他者の価値を吟味し、倫理的観点からその価値の意味を考察する。
小児看護学概論 松浦　和代	講義 15時間	2年次 後期	前半の講義では、乳児期から思春期までの「子どもの成長・発達」及び「家族の発達」に関する知識と基礎理論を学習する。後半の講義では、子どもの健康生活、育児支援、生活指導、ヘルスプロモーションやセイフティプロモーションの概要を学ぶとともに、今日の課題を考察する。総じて、小児看護の役割、責務及び実践活動の意義を理解する。
母性看護学概論 宮﨑　みち子	講義 15時間	2年次 後期	周産期のみならず広く各ライフステージにある母性とその家族の特性を身体的、心理的、社会的側面から捉え、現代社会に生きる対象について多面的に理解し、母性保健及び看護活動について学習する。
成人看護学臨地実習Ⅰ ◎藤井　瑞恵 菅原　美樹 太田　晴美 神島　滋子 河村　奈美子 工藤　京子 小坂　美智代 進藤　ゆかり 多賀　昌江 塚辺　繭子 鶴木　恭子 照井　レナ 福島　眞理 松村　寛子 三上　智子 ★須田　恭子	実習 135時間	2年次 後期	成人期にある対象を科学的視点でアセスメントする能力を習得し、個々の対象の健康レベルに応じた援助を実践するため、学習した技術を用いて看護過程を展開する能力を養う。 実習目標 1 成人期にある対象をライフサイクルの側面から捉えることができる。 2 成人期にある対象の健康障害、健康レベル、環境をアセスメントすることができる。 3 成人期にある対象を身体的、心理的、社会的側面を持つ人として捉えることができる。 4 健康課題を解決するために援助方法を計画することができる。 5 受け持った事例の状況に合わせて援助を実施し、評価することができる。 6 援助的人間関係を通して自己及び他者の成長につながるかかわりを考えることができる。 7 自己の看護に対する考え方を深めることができる。

授業科目・担当教員	授業形態・時数	年次	科目のねらい・目標
老年看護援助論 ◎坂倉　恵美子 村松　真澄 ★東出　俊之	演習 30時間	2年次 後期	老年期の加齢的変化や特有の疾病、症状についてその背景、原因、病態、治療等を学び、高齢者及びその家族を対象とした基本的看護援助方法について学習する。老年期にある人の健康障害に対する診断・治療過程における看護の方法を自立支援という視点から学習する。要介護者家族や高齢者ケアシステムについて理解し、政策的課題を明らかにする。
精神看護援助論 ◎守村　洋 ★阿保　順子 ★安田　素次	演習 30時間	2年次 後期	精神障害のある対象の生活を理解するとともに、健康障害の病態と治療などを学び、精神の健康上の問題に直面している対象とその家族に対する基本的看護援助方法を学ぶ。また、社会生活の上で生じるさまざまな心の健康障害を持つ人の理解を深め、ライフサイクル各期の精神保健について学ぶ。
在宅看護学概論 中村　恵子	講義 15時間	2年次 後期	地域での在宅生活の継続を目指して、対象の生活困難を解消するため、在宅看護の概念・諸制度を理解し、生活の維持・改善、健康の保持や増進に必要な看護活動の目的、展開方法と技術について学ぶ。
在宅看護援助論 ◎菊地　ひろみ 坂倉　恵美子 ★工藤　和子	演習 30時間	2年次 後期	健康障害をきたし、在宅看護の対象である在宅療養者及び要介護支援高齢者とその家族への理解を深めるとともに、在宅看護に必要な基本的な援助方法と、保健・医療・福祉システムの利用について学習する。
がん看護学 ◎樋之津　淳子 ★松山　茂子	演習 30時間	2年次 後期	がんの予防から診断と治療、さらに終末期における対象と家族を取り巻く状況を看護の視点から理解する。痛みの緩和等の症状マネジメント、対象の心身両面の苦痛を和らげる緩和ケアについても学び、がん看護の役割と看護活動について学修する。

◎印：科目責任者（オムニバス形式等の場合）
★印：非常勤講師

4） 実習概要

科目名	実習期間	実習機関	延べ人数
看護初期実習	平成19年6月11日～15日	市立札幌病院	81人
		札幌市第二かしわ学園	15人
		札幌市あかしあ学園	15人
		札幌市はるにれ学園	12人
		札幌市かしわ学園	12人
		札幌市みかほ整肢園	15人
		札幌市ひまわり整肢園	12人
		札幌北訪問看護ステーション	7人
		札幌白石訪問看護ステーション	9人
		札幌厚別訪問看護ステーション	6人
		札幌清田訪問看護ステーション	7人
		札幌西訪問看護ステーション	7人
		札幌市北区第2地域包括支援センター	15人
		札幌市東区第1地域包括支援センター	15人
		札幌市豊平区第1地域包括支援センター	15人
		札幌市中央老人福祉センター	15人
		札幌市東老人福祉センター	15人
		札幌市厚別老人福祉センター	12人
		札幌市豊平老人福祉センター	12人
		札幌市南老人福祉センター	12人
		札幌市西老人福祉センター	15人
基礎看護学臨地実習Ⅰ	平成19年10月29日～11月2日	市立札幌病院	216人
		手稲渓仁会病院	108人
基礎看護学臨地実習Ⅱ	平成19年5月21日～6月1日	市立札幌病院	481人
		手稲渓仁会病院	241人
成人看護学臨地実習Ⅰ	平成19年11月5日～22日	市立札幌病院	736人
		手稲渓仁会病院	236人
		KKR札幌医療センター	134人

5　その他

1)　ゲストスピーカー

①　デザイン学部

授業科目	年月日	講師	授業担当教員
札幌を学ぶ	平成19年5月16日	築島　健 （札幌市保健福祉局保健福祉部精神保健福祉センター　所長）	原　　俊彦
	平成19年5月23日	三井　一敏 （札幌市子ども未来局子ども育成部　子ども企画課長）	
	平成19年5月30日	坂本　将司 （札幌市観光文化局観光部観光企画課　事業調整担当課長）	
	平成19年6月6日	児玉　芳明 （㈱北海道フットボールクラブ　代表取締役社長）	
	平成19年6月20日	中田　美知子 （㈱エフエム北海道　放送本部副本部長）	
	平成19年6月27日	飯田　俊郎 （札幌国際大学現代社会学部　准教授）	
	平成19年7月4日	三井　雅勝 （札幌市市民まちづくり局総合交通計画部　交通企画課長）	
	平成19年7月11日	竹中　万紀子 （北海道東海大学　非常勤講師）	
	平成19年7月18日	上田　文雄 （札幌市長）	
ヒューマンファクターズ	平成19年10月22日	宮坂　智哉 （みらい研究開発コンサルタント　代表）	田中　敏明
体のしくみ	平成19年12月6日	宮坂　智哉 （みらい研究開発コンサルタント　代表）	田中　敏明
デザイン方法論	平成20年1月15日	片山　泰治 （三菱電機㈱宣伝部事業宣伝グループ　専任）	酒井　正幸
空間デザイン論	平成20年2月4日	長谷川　演 （㈱アトリエテンマ　代表取締役）	吉田　恵介

② 看護学部

授業科目	年月日	講師	授業担当教員
看護初期実習	平成19年5月8日	油谷　清美 (㈱北海道総合在宅ケア事業団訪問看護部　主幹)	大野　夏代
医療情報	平成19年5月9日	竹鼻　敏治 (北海道大学附属図書館情報サービス課　参考調査係長)	櫻井恒太郎
	平成19年6月6日	高橋　久美子 (北海道大学病院　看護師長)	
症状マネジメント論	平成19年6月14日	石川　朗 (札幌医科大学保健医療学部　准教授)	樋之津淳子
	平成19年7月19日、7月26日	大科　宣子 (札幌市立高等看護学院　看護教員)	
環境保健	平成19年7月19日	高橋　広夫 (札幌市保健所　生活環境担当部長)	加藤登紀子
援助的人間関係論	平成19年11月1日	細谷　悦子 (札幌あゆみの園　看護部長)	大野　夏代
基礎看護技術論	平成19年11月5日	齊竹　一子 (動作介助研究会)	樋之津淳子
精神看護援助論	平成19年12月17日	細川　潮 (NPO法人全国精神障害者団体連合会　常任理事) 大井　暢之 (北海道精神障害者回復者クラブ連合会　会長)	守村　洋
がん看護学	平成20年1月11日	高口　弘美 (市立札幌病院看護部　がん化学療法認定看護師)	樋之津淳子
在宅看護援助論	平成20年2月8日	油谷　清美 (㈱北海道総合在宅ケア事業団訪問看護部　主幹)	菊地ひろみ

2） 特別講義

年月日	タイトル	講師
平成19年9月25日	ギリシャにおける歴史的建造物の保存と近代建築の共生	武田　明純 （室蘭工業大学工学部建設システム工学科　助教）
平成19年9月25日 ～26日	脳と精神心理学とアートセラピー −サイコ&アートセラピーが脳にどう作用し人の精神を支えるか。アメリカの医療現場から−	佐藤　文子 （アンティオキア大学シアトル校博士課程 後期在籍：臨床心理士、アートセラピー専門）
平成19年9月26日	スペインにおける近代建築の潮流と課題	中渡　憲彦 （北海道職業能力開発大学校　准教授）
平成19年9月27日	オランダにおける近現代建築の潮流と課題	小澤　丈夫 （北海道大学大学院工学研究科　准教授）
平成19年9月28日	開拓使建築にあらわれた初期アメリカ建築様式の潮流と課題	池上　重康 （北海道大学大学院工学研究科　助教）
平成19年11月22日	ロンドンに暮らすドイツ人デザイナーの視点と生き方	ユリア　ローマン （札幌アーティスト・イン・レジデンス　招聘作家）

3） その他

年月日	講習会・補講等	対象者	担当教員
平成19年9月25日	マッキントッシュ講習会	デザイン学部1年生	大渕　一博
平成19年9月27日	木工室安全講習会	デザイン学部1年生	上遠野　敏
平成20年3月28日	iMovieによる映像編集ワークショップ	デザイン学部1年生	大渕　一博

研究活動

1　研究活動概要

本学では、教育研究上の特長として「デザイン学部と看護学部の連携」ならびに「幅広いネットワーク」を掲げている。また、教育研究上の目的として「学術研究の高度化等に対応した職業人の育成」ならびに「まちづくり全体により大きな価値を生み出す『知と創造の拠点』の形成」を掲げている。平成19年度は、この特長ならびに目的を念頭に置き、デザイン学部教員28名、看護学部教員37名の合計65名が、研究活動を行った。

「デザイン学部と看護学部の連携」の観点からは、デザイン学部教員と看護学部教員が協働する「積雪・寒冷地区特性に見る高齢者の生活史と生活行動」「小児・母性看護学で活用できる感性教材モデルの開発」「病院施設におけるアプローチ空間の癒し効果に関する研究」「地域にある動植物との触れ合いを活かす環境共生コミュニティの創出」などを通じて、健康、医療・福祉等の幅広い分野で、デザインと看護の共同研究を推進した。

「幅広いネットワーク」の観点からは、共同研究ならびに受託研究等において公設試験場、北海道ティー・エル・オー㈱を含む民間企業、医療法人等各界との連携を深め、地域に求められる課題に対応した研究を推進した。行政、地元企業や他大学等と連携を促進した共同研究・受託研究としては、「滝野すずらん丘陵公園ランドスケープデザイン」（滝野管理センター）、「シーニックバイウェイ制度を活用したまちづくりの研究」（札幌市南区）など都市機能・都市景観の向上に係る研究（5件）、「生態展示サービス施設向け顧客参加型コミュニケーションシステムの開発」（北海道立工業試験場、室蘭工業大学、札幌医科大学、㈱データクラフト）などデザインやIT関連等の産業振興等に関する研究（6件）を行った。

「学術研究の高度化等に対応した職業人の育成」の観点からは、「看護学教育における模擬患者（SP：Simulated Patient）養成プログラムの開発」を通じて、よりよい看護職育成のための研究に取り組んでいるほか、看護職育成に不可欠な看護の基礎的な研究においては「在宅看護サービスの多様化に関する基礎的研究」他11件、地域看護の充実に係る研究「精神障害者への地域生活支援に関する研究」他13件、市民の健康の保持増進に寄与する研究「ヘルスプロモーションと環境整備」他6件を行った。

「まちづくり全体により大きな価値を生み出す『知と創造の拠点』の形成」の観点からは、「『創造都市さっぽろ』のブランド構築に関する研究」を学内の共同研究として採択し、その研究を促進した。

このほか、都市再生に関する研究、農村等の環境や景観向上に関する研究、地場産品のデザイン研究、産業や芸術・文化の振興に関する研究、さらに、道内の他の自治体やその地域を対象とし、まちづくりに医療の側面から貢献する地域看護に関する研究に取り組んだ。

2　連携研究一覧

共同研究

教員名	研究課題
◎坂倉　恵美子　中村　恵子 片山　めぐみ　村松　真澄 進藤　ゆかり	積雪・寒冷地区特性に見る高齢者の生活史と生活行動－質的・帰納的研究方法－
◎松浦　和代　細谷　多聞 斉藤　雅也　吉川　由希子 福島　眞里	小児・母性看護学で活用できる感性教材モデルの開発－「温もり」のある新生児モデルの試作と実用性の検討－
◎吉田　惠介　齋藤　利明 山田　良　渡邉　由加利 神島　滋子　工藤　京子	病院施設におけるアプローチ空間の癒し効果に関する研究
◎酒井　正幸　石崎　友紀 矢部　和夫　吉田　和夫 張　浦華　細谷　多聞 斉藤　雅也　三谷　篤史 片山　めぐみ　河野　總子 守村　洋　河村　奈美子	地域にある動植物との触れ合いを活かす環境共生コミュニティの創出－円山動物園を核とする「円山メソッド」によるまちづくり－

◎印：代表者

3　個人研究費による研究一覧

デザイン学部

教員名	研究課題
原田　昭	・札幌市立大学の外部連携研究環境構築のための研究
吉田　惠介	・北海道のランドスケープ景観評価 ・都市軸と土地利用 ・地域振興のための住民ワークショップ
武邑　光裕	・CGM（Customer Generated Media）流通環境におけるCreative Commons Licenseの展開意義
石崎　友紀	・北海道地域様式デザイン製品の開発（セミプロダクト、クラフト、福祉機器、遊具等の造形デザイン）
上遠野　敏	・現代美術創作研究 ・同時代の美術研究 ・日本の美意識の研究
齋藤　利明	・ビスクドールによる人形コンテンツ制作とディスプレイにおける空間演出
酒井　正幸	・製品のインタフェースデザイン研究
城間　祥之	・３D CADによるRapid Prototyping 向き形状モデリング法に関する研究
杉　哲夫	・プロダクトデザイン事例研究 ・デザインマネジメント事例研究 ・デザイナーの職能資格認証研究
田中　敏明	・高齢者・障がい者のバランストレーニング ・上肢リハビリのためのコンピュータセラピー ・高齢者・障がい者の福祉機器開発研究
中原　宏	・地域構造分析よりみた市街地の再生に関する研究
羽深　久夫	・北海道における歴史的建造物の保存・再生・活用 ・米国・東欧・北欧における木造建築の保存・再生・活用 ・世界の高等教育機関における建築教育調査と相互交流
原　俊彦	・ドイツ連邦共和国・第7次家族報告書：少子化の動向と家族政策の転換 ・年齢別出生率の時系列変化－サーモグラフ化による分析手法の開発－ ・日本の長期出生動向に関する分析
望月　澄人	・CGアニメーションの制作
矢部　和夫	・湿原景観の保全と再生に関する研究
吉田　和夫	・組織活性化におけるVI（ビジュアル・アイデンティティ）の役割とその生成について
エル サニ マロアン	・Research about unique profile strategies of “creative cities” for the cultural and structural development of the region Sapporo / Hokkaido
張　浦華	・香りのイメージと感性的効果に関する研究
フィッシャー ニーナ	・Research about creative industries / film-industries for the cultural and structural development of the region Sapporo / Hokkaido
細谷　多聞	・生活用具における高度情報表現の創出に関する実証型研究
大渕　一博	・WBTアプリケーションの開発研究
斉藤　雅也	・ヒトの温度感覚と環境調整行動の誘発の対応関係
那須　聖	・形態の類似性に見る建築空間の構成

教員名	研究課題
松井　美穂	・アメリカ南部女性文学とモダニズム
三谷　篤史	・非対称表面を有するマイクロパーツフィーダの開発
山田　良	・外部と内部の領域・空間認識に関する研究（北海道地区における建築実施設計を通じて）
片山　めぐみ	・世界遺産･知床における登録地の保全に関する研究－住民の環境認知･行動を重視した管理計画に向けて－
須之内　元洋	・ネットワーク型音楽コミュニケーション環境の研究

看護学部

教員名	研究課題
中村　惠子	・人材育成に関する研究
加藤　登紀子	・産業看護職による健康診断後の保健指導技術評価尺度の開発
河野　總子	・看護師集団におけるキャリア・アンカーと組織のキャリア開発支援 ・看護職の組織コミットメントと職務満足調査－看護管理者が副院長である施設と看護部長の施設の比較検討－
坂倉　恵美子	・積雪寒冷地における高齢者における高齢者の外出行動に関連する研究
スーディ神崎 和代	・夕張市に於ける在宅ケア従事者間の連携促進
樋之津　淳子	・客観的臨床能力試験（OSCE）を用いた1年次の看護技術教育プログラムの検証
松浦　和代	・患児の退院後の生活復調に関する実態調査
宮崎　みち子	・胎児の生きる権利に関する研究 ・就学前の子どもを育てる働く女性の現状
大野　夏代	・国際的に通用する看護職の人材育成 ・病床環境の安全に関する研究 ・病室環境における「快適性」実現のための調査研究－足部撮影により得た看護師の立ち位置の検討－
清水　光子	・ヘルスプロモーションと環境整備
守村　洋	・精神障害者への地域生活支援に関する研究
吉川　由希子	・臨地実習指導者の役割意識について ・幼児をもつ母親の育児行動に対する自己効力感
菊地　ひろみ	・在宅看護サービスの多様化に関する基礎的研究
佐藤　公美子	・占領期における看護政策の決定過程に関する研究 ・模擬患者の看護過程への導入についての検討
菅原　美樹	・救急看護認定看護師の看護ケアに対する看護管理者の評価に関する研究 ・救急・クリティカルケアに従事する看護師の職業的体験の意味に関する研究
高室　典子	・子育て支援プランの実施と参画に関する基礎的研究
新納　美美	・わが国における司法看護の現状に関する研究
藤井　瑞恵	・糖尿病患者の合併症予防のためのセルフコントロールに関する研究
星　美和子	・Self-Transcendence, vulnerability, and well-being in hospitalized Japanese elders
村松　真澄	・看護職が地域で連携できる口腔アセスメントと口腔ケアプランに関する研究
保田　玲子	・地域の健康づくりグループに関する研究
渡邉　由加利	・病院の窓からみた景観に対する心理的反応と景観構成要素の関連

教員名	研究課題
太田　晴美	・大学が地域の病院と連携する意義 ・災害時医療体制の認識調査－地域住民に焦点を当てて－
神島　滋子	・急性期の脳卒中患者への看護と現任教育に関する研究
河村　奈美子	・Exploring the well-being of breastfeeding Japanese mothers ・認知症高齢者へのアニマル・セラピー－犬と控えめに交流をする参加者の言葉から見る心の動き－
工藤　京子	・HOT患者における患者会の果たす役割
小坂　美智代	・外来化学療法を受ける胃がん患者が体験する困難に関する研究
進藤　ゆかり	・帯状疱疹後神経痛を抱えた在宅高齢者の実態とその影響 ・積雪寒冷地域高齢者の健康生活に関する研究 ・老年看護教育に関する研究
多賀　昌江	・出産に立ち会う夫の心理
塚辺　繭子	・支援専門職のサポートに関する研究　北海道における産業看護職の実態（－属性・雇用状況等に関して－） ・子どもの虐待等に関わる保育士が経験する負担と対処
鶴木　恭子	・重曹使用による清拭が皮膚表面に与える影響
照井　レナ	・在宅慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者の介入モデルの基礎的研究－訪問看護記録の分析－
原井　美佳	・高齢者看護と看護教育
福島　眞里	・二分脊椎患児の就学上の課題と発達への影響
渕本　雅昭	・急性期における意識障害患者の意識回復に向けた看護介入に関する研究
松村　寛子	・保健師の育児支援に関する研究　4か月児をもつ母親の母乳育児継続に関連する要因の検討
三上　智子	・臨地実習における子供の事故防止に対する意識の獲得に向けた学生への教育実践と学修効果

4　学内公募研究課題一覧

学術奨励研究

教員名	研究課題
斉藤　雅也	北海道の気候を生かす「涼房・温房」システムの開発
山田　良	地球環境の保全・再生に関する基礎的研究／“十勝千年の森”アートプロジェクトを通じて
片山　めぐみ	環境探索ツールの開発によるエコツアー体験の質的変化に関する研究－世界自然遺産・知床における海洋生態環境を伝える手法の提案に向けて－
須之内　元洋	ネットワーク型音楽コミュニケーション環境の研究
スーディ神崎 和代	小規模多機能居宅介護施設モデルの検証
新納　美美	重大な他害行為を犯した精神障害者の再犯予防を目的とした支援に伴う看護師の職業性ストレスとその対処に関する研究
保田　玲子	健康なまちづくりにおける、地域住民グループの育成支援の効果に関する基礎研究
小坂　美智代	外来治療を受けるがん患者の対処能力育成・向上に向けた支援プログラムの構築
多賀　昌江	夫立ち会い分娩における夫の心理と育児期への影響－札幌市における自宅出産と助産院での出産に焦点をあてて－
鶴木　恭子	重曹使用による清拭が皮膚表面に与える影響
照井　レナ	訪問看護職の人材確保と育成－予防的離職対策の考察－

共同研究

教員名	研究課題
◎坂倉　恵美子　中村　恵子 片山　めぐみ　村松　真澄 進藤　ゆかり	積雪・寒冷地区特性に見る高齢者の生活史と生活行動－質的・帰納的研究方法－
◎樋之津　淳子　中村　恵子 加藤　登紀子　河野　總子 坂倉　恵美子　スーディ神崎 和代 松浦　和代　宮﨑　みち子	看護学教育における模擬患者（SP：Simulated Patient）養成プログラムの開発
◎松浦　和代　細谷　多聞 斉藤　雅也　吉川　由希子 福島　眞里	小児・母性看護学で活用できる感性教材モデルの開発－「温もり」のある新生児モデルの試作と実用性の検討－
◎吉田　惠介　齋藤　利明 山田　良　渡邉　由加利 神島　滋子　工藤　京子	病院施設におけるアプローチ空間の癒し効果に関する研究
◎酒井　正幸　石崎　友紀 矢部　和夫　吉田　和夫 張　浦華　細谷　多聞 斉藤　雅也　三谷　篤史 片山　めぐみ　河野　總子 守村　洋　河村　奈美子	地域にある動植物との触れ合いを活かす環境共生コミュニティの創出－円山動物園を核とする「円山メソッド」によるまちづくり－
◎武邑　光裕　上遠野　敏 エル サニ マロアン　フィッシャー ニーナ 山田　良　須之内　元洋	「創造都市さっぽろ」のブランド構築に関する研究

◎印：代表者

採択状況

学術奨励研究		共同研究		合計	
応募件数	採択件数	応募件数	採択件数	応募件数	採択件数
16	11	22	6	38	17

5　学外からの研究費、研究補助金などの受入状況

科学研究費補助金

研究代表者	研究課題	審査区分 （交付元）	金額（円）
原田　昭	鶏の形態嗜好に関する日本とタイの多面的比較感性モデル	基盤研究A一般 （日本学術振興会）	10,700,000
中村　恵子	救急部門勤務後2、3年目看護師の職場適応（適応力）と支援モデル構築に関する研究	基盤研究C一般 （日本学術振興会）	1,000,000
田中　敏明	視空間認知障害用バリアフリー機器開発のための視覚情報呈示方法に関する福祉工学研究	基盤研究B一般 （日本学術振興会）	6,000,000
原　俊彦	札幌市の少子化：政令指定都市の出生力のシステム・ダイナミック・モデル構築	基盤研究C一般 （日本学術振興会）	1,200,000
矢部　和夫	人為的干渉による湿原からハンノキ林への移行メカニズムの解明	基盤研究B一般 （日本学術振興会）	3,400,000
那須　聖	非整形形態がもつ建築的意味と形態から発見される使用法に関する研究	若手研究B （文部科学省）	400,000
三谷　篤史	微小物体輸送におけるトライポロジ特性を考慮したダイナミクスの解明	若手研究B （文部科学省）	800,000
樋之津　淳子	客観的臨床能力試験（OSCE）による卒業時看護技術到達度評価に向けた教授法の検証	基盤研究C一般 （日本学術振興会）	1,700,000
守村　洋	精神障害者の地域生活における‘Empowerment’のあり方と援助の方向性	基盤研究C一般 （日本学術振興会）	1,400,000
新納　美美	職員の精神的健康維持・増進に寄与する職場風土とその形成を促す保健活動に関する研究	若手研究B （文部科学省）	1,100,000
星　美和子	慢性疾患を持つ高齢者のSelf-TranscendenceとWell-being	若手研究(スタートアップ) （日本学術振興会）	800,000
河村　奈美子	高齢者と家族・施設職員の架け橋となるアニマル・セラピーの構築	基盤研究C一般 （日本学術振興会）	1,500,000
進藤　ゆかり	帯状疱疹後神経痛を抱えた在宅高齢者の実態とその影響	若手研究(スタートアップ) （日本学術振興会）	990,000
松村　寛子	地域における母乳育児の継続に影響を与える要因の検討	若手研究B （文部科学省）	1,200,000

受託研究費

研究代表者	研究課題	受託元	金額（円）
吉田　惠介	国際園芸博覧会構想検討基礎調査・研究	札幌市市民まちづくり局	3,969,000
吉田　惠介	大学と地域の連携による都市再生のあり方研究	札幌市市民まちづくり局	2,730,000
吉田　惠介	滝野すずらん丘陵公園ランドスケープデザイン	㈶公園緑地管理財団滝野管理センター	990,000
武邑　光裕	創造的健康情報プラットフォームの研究	㈶北海道地域総合振興機構	1,050,000
齋藤　利明 吉田　和夫	景観重要建築物等の指定プレート作成に係る受託研究	札幌市市民まちづくり局	367,500
酒井　正幸	生態展示サービス施設向け顧客参加型コミュニケーションシステムの開発	経済産業省 サービス産業生産性向上支援調査事業	9,962,400
酒井　正幸	円山動物園のリニューアル計画に関する研究	札幌市円山動物園	2,200,000
酒井　正幸	1 ユーザテスト記録・分析プロセスの標準化研究 2 ペルソナ（被験者）最適化指標の研究	㈱ユーザデザインラボ	234,643
田中　敏明	平成19年度イノベーション実用化開発助成事業（大学発事業創出実用化研究開発事業)「半側空間無視者支援のための視覚情報バリアフリー機器開発」	北海道ティー・エル・オー㈱	4,060,875
羽深　久夫	シーニックバイウェイ制度を活用したまちづくりの研究	札幌市南区	2,700,000
羽深　久夫	商店街の魅力向上に関する事前研究	札幌市経済局	1,050,000
吉田　和夫	保護・介護製品パンフレットの企画及び制作研究	㈱特殊衣料	600,000
吉田　和夫	医療法人渓人会西円山病院 西円山ピッコロ保育園・壁画デザインの提案	医療法人渓仁会西円山病院	100,000
斉藤　雅也 山田　　良	札幌市円山動物園環境共生カフェの基本計画	北海道コカ・コーラボトリング㈱	200,000

共同研究費

教員名	研究課題	助成元	金額（円）
細谷　多聞	中小製造企業における戦略的デザイン活用支援ツールの開発	北海道立工業試験場	900,000

研究助成

教員名	研究課題	助成元	金額（円）
スーディ神崎 和代	財政再建途上の道内地方自治体における在宅サービス実態に即応した現任者研修の試み：在宅ケア従事者間の連携促進	㈶在宅医療助成勇美記念財団	1,000,000
菊地　ひろみ	在宅・医療機関・入所施設間の看護情報共有様式の開発	㈶北海道高齢者問題研究協会	629,781

６　寄附金の受入状況

教員名	寄附目的	寄附元	金額（円）
中村　恵子	看護の資質向上のため	特定医療法人社団碩心会 心臓血管センター北海道大野病院	800,000
中村　恵子	札幌市民のニーズに応じた教育活動支援のため	医療法人札幌中央病院	300,000
武邑　光裕	札幌市立大学産学連携公開講座 「価値創造経済へのロードマップ」	㈱デジタルガレージ	5,000,000
城間　祥之	余市町における産業クラスター推進に対する支援	㈱産クラよいち	190,000
城間　祥之	余市町における産業クラスター推進に対する支援	㈶北海道科学技術総合振興センター	32,222
矢部　和夫	「ウトナイ湖北西岸湿地の長期植生動態の解析と湖の水位改変による影響の評価に関する研究」に対する研究助成のため	㈶リバーフロント整備センター	1,000,000
矢部　和夫	釧路湿原生態系保全に関する研究のため	環境コンサルタント㈱	1,000,000
三谷　篤史	フェムト秒レーザ加工を用いた微細加工表面による微生物体操作に関する研究	㈶メカトロニクス技術高度化財団	1,800,000

7　海外研修記録

期間	教員名	目的国	目的
平成19年4月17日～22日	杉　　哲夫	イタリア共和国	2007年ミラノサローネにおけるプロダクトデザイン研究
平成19年5月17日～20日	原田　　昭	大韓民国	ソウル、東西大学にて、日韓感性工学国際会議で特別講演
平成19年6月17日～21日	スーディ神崎 和代	マルタ共和国	高齢者医療・福祉の質に関する研修参加（免許更新）
平成19年6月22日～28日	スーディ神崎 和代	アメリカ合衆国	国際感染予防学会参加・研修（免許更新）
平成19年8月11日～15日	吉田　惠介	台湾	大通りの対称性と土地利用に関する調査。台北市の大通空間に対する土地利用実態と景観調査、成立過程に対する文献調査。
平成19年8月14日～22日	守村　　洋	フィンランド共和国	科学研究費補助金「精神障害者の地域生活におけるEmpowermentのあり方と援助の方向性」現地調査
平成19年8月14日～22日	河村　奈美子	フィンランド共和国	科学研究費補助金「精神障害者の地域生活におけるEmpowermentのあり方と援助の方向性」現地調査及び精神科入院患者に対するアニマル・セラピーの実際に関する情報収集
平成19年9月2日～9日	三谷　篤史	スイス連邦	2007 IEEE/ASME International Conference on Advanced Intelligent Mechatronics（AIM2007）にて研究発表
平成19年9月20日～28日	山田　　良	ノルウェー王国	オスロ建築トリエンナーレの視察・取材
平成19年9月22日～26日	武邑　光裕	中華人民共和国	上海創造産業振興センター及び北京市芸術区の視察
平成19年9月22日～25日	三谷　篤史	アメリカ合衆国	IEEE 2007 3rd Conference on Automation Science and Engineering（CASE2007）にて研究発表
平成19年9月25日～26日	斉藤　雅也	ドイツ連邦共和国	Fraunhofer-Institute（ドイツ・カッセル）にてエクセルギーに関する国際共同研究会議にて研究発表
平成19年9月27日～29日	斉藤　雅也	ギリシャ共和国	2nd PALENC Conference and 28th AIVC Conference（国際会議、ギリシャ・クレタ島）にて研究発表
平成19年11月6日～11日	佐藤　公美子	アメリカ合衆国	占領期におけるGHQによる医療・看護改革研究のため「Little Company of Mary Hospital」において研究調査の相談
平成19年11月18日～21日	武邑　光裕	中華人民共和国	上海創造産業週間国際創意産業展参加
平成20年2月5日～10日	羽深　久夫	オーストラリア連邦	医療施設におけるナースステーションの計画基準づくりのための海外事例調査
平成20年2月5日～13日	斉藤　雅也	スイス連邦、ドイツ連邦共和国	欧州における環境共生型の生態展示システム及び放射・対流式暖房と換気システムの複合に関する先進事例の視察、研究発表、日欧の研究者・学芸員のネットワーク構築

期間	教員名	目的国	目的
平成20年2月5日 ～9日	河野　總子	オーストラリア連邦	急性期病院から老健及びリハビリ施設・在宅に至る連携クリニカルパスの実情と各々のナースステーションの現状を視察
平成20年2月18日 ～21日	スーディ神崎 和代	アメリカ合衆国	Wound Careの医療・看護に関する最新技術研修
平成20年3月13日 ～22日	原　俊彦	ドイツ連邦共和国	㈶サントリー文化財団の人文科学・社会科学に関する研究助成による調査（共同研究）
平成20年3月17日 ～24日	山田　良	アイスランド共和国	アイスランド芸術大学の視察、作品講評会参加
平成20年3月19日 ～26日	片山　めぐみ	ドイツ連邦共和国、スイス連邦	欧州動物園視察（展示室の温熱環境、展示システムコンセプト調査）
平成20年3月22日 ～27日	星　美和子	アメリカ合衆国	科学研究費補助金「慢性疾患を持つ高齢者のSelf-TranscendenceとWell-being」のための研究相談
平成20年3月26日 ～4月4日	髙室　典子	アメリカ合衆国	㈶青少年野外教育財団からの依頼研修。ハワイ島の教育委員会との共同事業で、ハワイと日本の子どもたちとの交流事業に同行し、現地の小学校や自然環境センターなどで研修を実施。

8　個人別業績一覧

デザイン学部

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
原田　昭	＜学術論文等＞ 1　日本におけるクリエイティブインダストリーズに関する考察	単著	平成20年2月	日本感性工学会感性フォーラム札幌2008、第21回あいまいと感性研究部会論文集
	2　鶏の形態研究に関する多面的構造モデル	単著	平成20年3月	平成17年度～19年度文部科学省科学研究費補助金（基盤研究(A)）研究成果報告書（初出）
	3　Kansei Model on Preference of Chicken Figure in Japan and Thailand	共著	平成20年3月	平成17年度～19年度文部科省科学研究費補助金基盤研究(A)研究成果報告書(初出)
	＜研究報告書＞ 1　生き物の形態とヒトとの関わり－ニワトリの形態嗜好に関する日本とタイの比較感性モデル－	共同	平成20年3月	平成17年度～19年度文部科学省科学研究費補助金（基盤研究(A)）研究成果報告書、pp.1-7、pp.36-47、pp.48-65、pp.347-386、総467ページの編著
	＜学会発表等＞ 1　Role of Kansei Engineering in Creative Industries	単独	平成19年5月	日韓合同感性工学国際会議特別講演
	2　日本におけるクリエイティブインダストリーズに関する考察	単独	平成20年2月	日本感性工学会感性フォーラム札幌2008、第21回あいまいと感性研究部会論文集（別配布研究論文）
	＜入選・受賞＞ 1　日本感性工学会2007論文賞		平成19年8月	日本感性工学会
	＜その他＞ 1　感性産業の創成	単著	平成19年9月	㈶北海道開発協会「開発こうほう」2007年10月号、pp.14-15
	2　感性価値とクリエイティビティ	単著	平成19年9月	日本感性工学会誌「感性工学」、Vol.7、No.3、巻頭言 pp.413-414
吉田　惠介	＜学術論文等＞ 1　滝野すずらん丘陵公園におけるランドスケープデザインの実践	共著	平成20年3月	札幌市立高等専門学校紀要、第17号、p.49、p.62
	＜研究報告書＞ 1　国際園芸博覧会構想検討基礎調査・研究	共著	平成20年3月	受託研究費研究成果報告書
	2　大学と地域の連携による都市再生の推進のあり方研究：景観研究会報告書	共著	平成20年3月	受託研究費研究成果報告書
	＜学会発表＞ 1　病院の窓からみた緑景観と心理的反応の関連	共同	平成19年9月	第15回看護人間工学部会研究会抄録集、p.15

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
武邑　光裕	＜著書＞			
	1「アーカイヴズ　Archives」「創造するアーカイヴズ－なぜわれわれは記憶を外在化するのか」	単著	平成19年7月	大林組広報室　季刊大林No.50、pp.10-21（アーカイヴズ年表編纂執筆、pp.36-41）
	＜研究報告書＞			
	1　地域におけるコンテンツの流通の促進に関する調査研究報告書	共著	平成19年4月	平成18年度総務省コンテンツ流通促進室報告書
	2　札幌市「地域映像コンテンツのマルチユース促進のための調査研究」報告書	単著	平成19年4月	平成18年度札幌市総合情報センター報告書・巻頭緒言
	3　総務省事業「コンテンツ制作者の人材育成に関する調査研究」報告書	単著	平成19年4月	平成18年度総務省委託事業・札幌市報告書・巻頭緒言
	4　札幌市「創造都市さっぽろ推進事業検討委員会」報告書	共著	平成19年4月	平成18年度札幌市報告書
	＜その他＞			
	1　北海道新聞連載時評「魚眼図」	単著	平成19年4月～平成20年3月	北海道新聞社　連載時評「魚眼図」月1回のコラム連載12回
	2　図書館の歩き方	単著	平成20年1月	札幌市立大学附属図書館ニュースレター「のほほん」創刊号、p.2
石崎　友紀	＜著書＞			
	1　わくわくゴロリのうごくきょうりゅうをつくろう	共著	平成19年4月	日本放送出版協会
	2　道具学叢書001　道具学への招待	共著	平成19年4月	ラトルズ
	3　わくわくゴロリの牛乳パックでつくろう３	共著	平成19年12月	日本放送出版協会
	＜学会発表＞			
	1　テレビ番組と連携した造形工作製品の開発1	単独	平成19年11月	日本デザイン学会第一支部大会
	2　ライカ型カメラと模倣品の考察	単独	平成20年1月	道具学会フォーラム
	＜展覧会＞			
	1　グループ展	単独	平成19年8月	青山桃林堂
	2　冬を彩るクラフト	単独	平成19年11月	渋谷東急本店
	3　日本クラフト展	単独	平成20年1月	日本クラフトデザイン協会
	4　新しい金工の美	単独	平成20年2月	石洞美術館
	5　小箱展	単独	平成20年2月	銀座はせがわ
	6　日本のクラフト北のクラフト	単独	平成20年2月	函館地域交流まちづくりセンター
	＜その他の図書＞			
	1　NHKテレビテキストつくってあそぼ4 ～ 7月	単著	平成19年4月	日本放送出版協会
	2　NHKテレビテキストつくってあそぼ9 ～ 12月	単著	平成19年9月	日本放送出版協会
	3　NHKテレビテキストつくってあそぼ1 ～ 3月	単著	平成20年1月	日本放送出版協会
	＜入選・受賞＞			
	1　入選・日本クラフト展		平成20年1月	日本クラフトデザイン協会

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
上遠野　敏	＜学術論文等＞			
	1　滝野すずらん丘陵公園におけるランドスケープデザインの実践	共著	平成20年3月	札幌市立高等専門学校紀要、第17号、pp.54-57
	＜研究報告書＞			
	1　現代芸術論におけるデザイン学生の授業感想と教員からの通信　#1　ダダイズムからポップアートと1960年代までの現代美術	単著	平成20年3月	札幌市立大学研究論文集、第2巻第1号、pp.39-58
	2　現代芸術論におけるデザイン学生の授業感想と教員からの通信　#2　ミニマルアートからニューペインティングまでの現代美術	単著	平成20年3月	札幌市立大学研究論文集、第2巻第1号、pp.59-76
	3　現代芸術論におけるデザイン学生の授業感想と教員からの通信　#3　1980年代の美術から現在（2007年）までの現代美術	単著	平成20年3月	札幌市立大学研究論文集、第2巻第1号、pp.77-94
	＜その他＞			
	1「ランドスケープから捉えた、炭鉱産業の遺構と地域再生」パネルディスカッション　パネリスト	共同	平成19年9月	平成19年度日本造園学会北海道支部大会
	2　札幌市立大学附属図書館ニュースレター「のほほん」創刊号　企画制作の編集長	共同	平成20年1月	札幌市立大学附属図書館ニュースレター「のほほん」創刊号、pp.1-16
齋藤　利明	＜個展＞			
	1「齋藤利明人形展」	単独	平成19年10月	銀座東和ギャラリー（東京）
	＜作品＞			
	1　創作人形「リラ<lilac>」	単独	平成19年10月	銀座東和ギャラリー（東京）
	2　創作人形「山査子」	単独	平成19年10月	銀座東和ギャラリー（東京）
	3　創作人形「茱萸」	単独	平成19年10月	銀座東和ギャラリー（東京）
	4　創作人形「烏羽玉」	単独	平成19年10月	銀座東和ギャラリー（東京）
	5　創作人形「花水木」	単独	平成19年10月	銀座東和ギャラリー（東京）
	6　創作人形「馬酔木」	単独	平成19年10月	銀座東和ギャラリー（東京）
	7　創作人形「杏」	単独	平成19年10月	銀座東和ギャラリー（東京）
	8　創作人形「芙蓉」	単独	平成19年10月	銀座東和ギャラリー（東京）
	9　創作人形「ほおずき」	単独	平成19年10月	銀座東和ギャラリー（東京）
	10 創作人形「黒百合」	単独	平成19年10月	銀座東和ギャラリー（東京）
	11 創作人形「ネモフィラ」	単独	平成19年10月	銀座東和ギャラリー（東京）
酒井　正幸	＜学術論文等＞			
	1　Comprehensive Analysis of the Attributes of Functional Descriptions from the Perspective of Universal Design	共著	平成19年10月	Proc. International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007, D-9,（CD-ROM版）
	2　Proposal of Method to Make Product Design Concepts by Evaluation Structure	共著	平成19年10月	Proc. International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007, D-17,（CD-ROM版）

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
酒井　正幸	3 A Study on Esthetic Design of A Housing for Health Care IT Appliance（APMOS）and on The Interface Design of Its Display	共著	平成19年10月	Proc. International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007, E-3,（CD-ROM版）
	4 A Proposal of Usability Evaluation Method by Rough Set Theory	共著	平成19年11月	IASDR（International Association of Societies of Design Researche）
	5 製品デザインコンセプト策定手法の提案	共著	平成20年3月	日本感性工学会研究論文集、第7巻3号、pp.477-487
	6 製品デザインコンセプト策定手法の提案（その2）	共著	平成20年3月	日本感性工学会研究論文集、第7巻3号、pp.525-535
	7 携帯電話機デザインの男女差の調査分析	共著	平成20年3月	日本感性工学会研究論文集、第7巻3号、pp.449-460
	8 点滴スタンドのユーザビリティ評価（第1報）患者と看護師の使用感についての考察	共著	平成20年3月	札幌市立大学研究論文集、第2巻第1号、pp.25-32
	9 点滴スタンドのユーザビリティ評価（第2報）点滴スタンド使用時の騒音についての考察	共著	平成20年3月	札幌市立大学研究論文集、第2巻第1号、pp.33-38
	＜研究報告書＞			
	1 生態展示サービス施設向け顧客参加型コミュニケーションシステムの開発	共同	平成20年2月	平成19年度経済産業省サービス産業生産性向上支援調査事業（サービス工学適用実証分野）報告書、pp.1-29、pp.121-124
	2 円山動物園のリニューアル計画に関する研究	共同	平成20年3月	平成19年度札幌市円山動物園受託研究費報告書
	＜学会発表＞			
	1 ラフ集合理論を用いたユーザビリティ評価法の研究と提案	共同	平成19年6月	第5回ラフ集合と感性工学ワークショップ
	2 ラフ集合理論を用いたユーザビリティ評価法の提案	共同	平成19年6月	日本デザイン学会第54回春季研究発表大会
	3 ユニバーサルデザイン－デザインと看護の接点－	単独	平成19年9月	第15回日本人間工学会看護人間工学部会
	4 点滴スタンドの使用感に関する調査（第1報）－患者と看護師へのインタビュー調査結果－	共同	平成19年9月	第15回看護人間工学部会研究会抄録集、p.7
	5 点滴スタンドのユーザビリティ評価（第2報）－患者へのSD法を用いた質問紙調査結果－	共同	平成19年9月	第15回看護人間工学部会研究会抄録集、p.8
	6 点滴スタンドのユーザビリティ評価（第3報）－使用時の騒音に関する考察－	共同	平成19年11月	平成19年度日本人間工学会北海道支部大会抄録集、p.6
	7 高齢者ユーザーによる家電機器操作用語の理解度評価－操作用語の多面的属性分析に基づくわかりやすさの評価－	共同	平成19年11月	平成19年度日本人間工学会北海道支部大会抄録集、p.7
	8 ラフ集合理論を用いたユーザビリティ評価手法の研究	共同	平成19年12月	日本人間工学会中国・四国支部大会第40回大会
	9 パワーポイントを用いたインタフェースデザイン開発支援ツールの制作	共同	平成19年12月	日本人間工学会中国・四国支部大会第40回大会
	10 家電機器操作用語の修辞法的属性分析に基づくわかりやすさの評価	共同	平成20年2月	日本感性工学会感性フォーラム札幌2008

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
酒井　正幸	11 インタフェースデザイン開発支援ツールの制作	共同	平成20年2月	第2回日本感性工学会中国・四国・九州支部大会
	12 ラフ集合を用いた製品の視覚的な使いやすさの調査分析	共同	平成20年3月	日本感性工学会春季大会
	13 顧客と動物との距離を縮めるビフォーアフター動物園の実証実験	共同	平成20年3月	第14回NORTHインターネット・シンポジウム2008（北海道地域ネットワーク協議会）
	＜学術集会　座長＞ 1 International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007, Culture	座長	平成19年10月	International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007
	＜知財（特許・意匠）＞ 1 意匠に係る物品：脈波形 意匠権者：城間祥之、学校法人東海大学 意匠の創作をした者：桝田聡志、酒井正幸、杉哲夫、城間祥之、上滝實 登録日：平成19年4月13日 登録番号：1300925号 備考：脈波形（本体）	共同	平成19年4月	
	2 意匠に係る物品：脈波形 部分意匠 意匠権者：城間祥之、学校法人東海大学 意匠の創作をした者:桝田聡志、酒井正幸、杉哲夫、城間祥之、上滝實 登録日：平成19年4月13日 登録番号：1300926号 備考：脈波形（表示画面）	共同	平成19年4月	
	＜作品紹介＞ 1 文部科学省知的クラスター創成事業「札幌ITカロッツェリアの創成」研究成果	共著	平成20年3月	札幌市立大学研究論文集、第2巻第1号、pp.97-99
城間　祥之	＜学術論文等＞ 1 A Study on Esthetic Design of a Housing for Health Care IT Appliance（APMOS）and on The Interface Design of Its Display	共著	平成19年10月	Proc. International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007, E-3,（CD-ROM版）
	＜学術集会　座長＞ 1 International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007, KANSEI Application	座長	平成19年10月	International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007
	2 International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007, Interface Interaction	座長	平成19年10月	International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007
	3 International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007, Vision	座長	平成19年10月	International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
城間　祥之	＜研究成果の出展＞ 1 「視覚障がい者用音声・触覚情報表示器（TAJODAマウス型固定タイプ)」、「加圧脈波計（APMOS)」、「高齢者ドライバーサポートシステムのログ収集端末」の試作品展示	共同	平成19年6月	北洋銀行ものづくりテクノフェア2007、札幌コンベンションセンター、平成19年6月12日
	2 「『札幌ITカロッツェリアの創成』構想プロジェクト－地域発のものづくりIT産業の構築を目指して－」パネル展示	共同	平成19年9月	DESIGN SCHOOL LEAGUE 2007、東京ミッドタウン・デザインハブ、平成19年9月8日～20日
	3 「札幌ITカロッツェリア構想」研究プロジェクトの成果：「デジタル通話録音機MY LOGGER」、「視覚障がい者用音声・触覚情報表示器（TAJODAマウス型固定タイプ、可動タイプ)」、「加圧脈波計(APMOS)」、「高齢者ドライバーサポートシステムのログ収集端末」の試作品展示	共同	平成19年10月	ビジネスEXPO第21回北海道技術・ビジネス交流会、アクセスサッポロ、平成19年10月24日～25日
	4 「携帯型健康管理IT機器：加圧脈波計（APMOS)」、「視覚障がい者用音声・触覚情報表示器：TAJODAマウス型固定タイプ」、「高齢者ドライバーサポートシステムのログ収集端末」の試作品展示、および「Sapporo-Delft Design Workshop 2006」のスタディモデル展示	共同	平成19年11月	札幌デザインウィーク2007、日本生命札幌ビル、平成19年11月1日～4日
	＜知財（特許・意匠）＞ 1 意匠に係る物品：脈波形 意匠権者：城間祥之、学校法人東海大学 意匠の創作をした者:桝田聡志、酒井正幸、杉哲夫、城間祥之、上滝實 登録日：平成19年4月13日 登録番号：1300925号 備考：脈波形（本体）	共同	平成19年4月	
	2 意匠に係る物品：脈波形 部分意匠 意匠権者：城間祥之、学校法人東海大学 意匠の創作をした者:桝田聡志、酒井正幸、杉哲夫、城間祥之、上滝實 登録日：平成19年4月13日 登録番号：1300926号 備考：脈波形（表示画面）	共同	平成19年4月	
	3 意匠に係る物品：触覚情報提示機付計算機入力機 意匠権者：㈱アニモ 意匠の創作をした者：森晋太郎、桝田聡志、大島康彰、城間祥之、木村晋太 登録日：平成19年10月12日 登録番号：1314812号 備考：TAJODAマウス型固定タイプ	共同	平成19年10月	
	＜作品紹介＞ 1 文部科学省知的クラスター創成事業「札幌ITカロッツェリアの創成」研究成果	共著	平成20年3月	札幌市立大学研究論文集、第2巻第1号、pp.97-99

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
杉　哲夫	＜学術論文等＞ 1　A Study on Esthetic Design of A Housing for Health Care IT Appliance（APMOS）and on The Interface Design of Its Display	共著	平成19年10月	Proc. International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007, E-3,（CD-ROM版）
	＜知財（特許・意匠）＞ 1　意匠に係る物品：脈波形 意匠権者：城間祥之、学校法人東海大学 意匠の創作をした者:桝田聡志、酒井正幸、杉哲夫、城間祥之、上滝實 登録日：平成19年4月13日 登録番号：1300925号 備考：脈波形（本体） 2　意匠に係る物品：脈波形 部分意匠 意匠権者：城間祥之、学校法人東海大学 意匠の創作をした者:桝田聡志、酒井正幸、杉哲夫、城間祥之、上滝實 登録日：平成19年4月13日 登録番号：1300926号 備考：脈波形（表示画面）	共同 共同	平成19年4月 平成19年4月	
	＜作品紹介＞ 1　文部科学省知的クラスター創成事業「札幌ITカロッツェリアの創成」研究成果	共著	平成20年3月	札幌市立大学研究論文集、第2巻第1号、pp.97-99
田中　敏明	＜学術論文等＞ 1　左半側視空間無視患者におけるヘッドマウントディスプレイを用いた視空間認知評価の検討（第2報）－複数の座標系による影響について－	共著	平成19年4月	第42回日本理学療法学術大会論文集、Vol.34、No.2、p.81
	2　脳血管障害患者に対する感覚刺激付きバランス機器による評価・トレーニング方法の検討	共著	平成19年4月	第42回日本理学療法学術大会論文集、Vol.34、No.2、p.357
	3　Influence of load change on the arch in different positions-evaluation of arch using a motion analysis system and calipers	共著	平成19年6月	15th International Congress of the World Confederation for Physical Therapy, Proceedings, RR-PO-2104, p.93
	4　Control of center of pressure displacement using a vibratory feedback on foot soles: Comparison of the young adults and the elderly	共著	平成19年6月	15th International Congress of the World Confederation for Physical Therapy, Proceedings, RR-PO-1171, p.93
	5　Clinical assessment method of left unilateral spatial neglect using a head mounted display system	共著	平成19年6月	15th International Congress of the World Confederation for Physical Therapy, Proceedings, RR-PO-1443, p.93

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
田中　敏明	6　A study of dynamic postural control by perturbation rotational stimulation with a movable platform	共著	平成19年6月	15th International Congress of the World Confederation for Physical Therapy, Proceedings, RR-PO-1465, p.93
	＜講演＞ 1　振動刺激付バランス機器で検査しトレーニング！－転倒の危険を振動で知らせるバランス訓練機器を開発－		平成19年8月	平成19年度文部科学省科学研究費補助金事業「健康とスポーツ科学の祭典　ゆうばり2007」、ゆうばり文化スポーツセンター
中原　宏	＜学会発表＞ 1　本学会改革の軌跡と展望－権威ある学会づくりに向けて－ 2　積雪寒冷地方都市の高齢者の外出に関する研究（第1報）夏季と冬季の健康及び社会活動 3　積雪寒冷地方都市の高齢者の外出に関する研究（第2報）積雪・寒冷が外出に及ぼす影響	 単独 共同 共同	 平成19年9月 平成19年10月 平成19年10月	 第45回北海道都市地域学会研究発表会梗概集、pp.14-15 第66回日本公衆衛生学会総会抄録集、p.316 第66回日本公衆衛生学会総会抄録集、p.316
羽深　久夫	＜学術論文等＞ 1　北海道における近代和風建築の地域的特徴 2　江上天主堂の祭壇と鉄川與助の役割	 共著 共著	 平成19年7月 平成19年8月	 日本建築学会北海道支部研究報告集、No.80、pp.373-380 日本建築学会2007年度大会学術講演梗概集、F-2、建築歴史・意匠、pp.497-498
	＜研究報告書＞ 1　シーニックバイウェイ制度を活用したまちづくりの研究 2　商店街の魅力向上に関する事前調査	 共著 共著	 平成20年3月 平成20年3月	 受託研究費研究成果報告書 受託研究費研究成果報告書
	＜展示会＞ 1　東京ミッドタウン・デザインハブ第5回企画展デザインスクールリーグ2007「札幌市立大学展示」 2　札幌デザインウィーク2007「札幌市立大学概要紹介、研究成果展示」 3　札幌デザインウィーク2007「屋台開発プロジェクト及び札幌市立大学紹介展示」	 共同 共同 共同	 平成19年9月 平成19年11月 平成19年11月	 東京ミッドタウン・デザインハブ、平成19年9月8日～20日 札幌市立大学・NPO法人北海道デザインネットワーク、平成19年11月1日～4日、日本生命札幌ビル1階オフィスロビー ㈱内田洋行北海道支社・札幌市デジタル創造プラザ・ものづくり工房・札幌市立大学・札幌市立高等専門学校、平成19年11月1日～4日、㈱内田洋行北海道支社1階ユビキタス協創広場「U-cala」

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
羽深　久夫	4　北海道ビジネスフォーラム2007　第9回北海道ビジネス交流会「こんにちは札幌市立大学です」展示	共同	平成19年11月	北海道銀行・札幌市・日経BP社「日経ベンチャー」経営者クラブ、平成19年11月5日、ロイトン札幌
	＜その他＞ 1　北海道テレビ放送㈱「イチオシ！」 火曜特集「ナゾ解き調査隊」札幌市南区にある五重塔の解説	単独	平成19年5月	北海道テレビ放送㈱「イチオシ！」午後4時15分～ 30分（15分間）、平成19年5月8日
原　俊彦	＜著書＞ 1　人口減少時代の日本社会	共著	平成19年8月	原書房、pp.187-208
	＜学術論文等＞ 1　地方と都市の格差と生活課題－超高齢化・人口減少時代に向けて 2　札幌市の少子化：人口学的特徴・社会経済的背景・政策的対応可能性	単著 単著	平成19年7月 平成20年3月	生活協同組合研究、Vol.378、pp.5-11 札幌市立大学研究論文集、第2巻第1号、pp.5-15
	＜学会発表＞ 1　ドイツの少子化と家族政策の転換 2「人口減少と地域人口構造」（地域人口第1章）	単独 単独	平成19年6月 平成20年2月	第59回日本人口学会 人口学研究会　第502回定例会
	＜その他＞ 1　地域人口の将来 2　札幌の少子化を考える－男女共同参画社会の「子産み・子育て」	単独 単独	平成19年10月 平成19年12月	平成19年度人口問題基礎講座資料、㈶厚生統計協会、Vol.11、pp.113-130 男女共同参画情報誌「りぷる」、Vol.16、pp.1-2
望月　澄人	＜作品＞ 1　イシヤマバード「ルウの家」 2　イシヤマバード「ギンズの実験室」 3　12peaces of Loop Animation「視線で飲むカクテル」（上映版） 4　12peaces of Loop Animation「視線で飲むカクテル」vol.1ポスター 5　12peaces of Loop Animation「視線で飲むカクテル」vol.2ポスター 6　12peaces of Loop Animation「視線で飲むカクテル」（iPod版）	単独 単独 単独 単独 単独 単独	平成19年7月 平成19年7月 平成19年7月 平成19年12月 平成19年12月 平成19年12月	地球色展 地球色展 地球色展 ディジタル・イメージ2007 ディジタル・イメージ2007 ディジタル・イメージ2007
	＜作品紹介＞ 1　Exhibition View 2007	単著	平成20年3月	札幌市立大学研究論文集、第2巻第1号、pp.101-105
矢部　和夫	＜著書＞ 1　北のランドスケープ　保全と創造	共著	平成19年4月	環境コミュニケーションズ、pp.285-294
	＜研究報告書＞ 1　円山動物園のリニューアル計画に関する研究	共同	平成20年3月	平成19年度札幌市円山動物園受託研究費報告書

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
矢部　和夫	＜学会発表＞			
	1　ハンノキ侵入による湿原の環境変化	共同	平成19年9月	農業環境工学関連学会府中大会
	2　釧路湿原におけるハンノキ林とフェンの土壌呼吸の比較	共同	平成19年9月	農業環境工学関連学会府中大会
	3　差圧センサーを用いた湿原の動水勾配計測方法の開発と釧路湿原での使用例	共同	平成19年9月	日本陸水学会水戸大会
	4　札幌市平岡公園における人工湿地5年後の植物相の解析	単独	平成19年9月	応用生態工学会名古屋大会
	5　釧路湿原における築堤が水文化学環境に及ぼす影響	共同	平成19年9月	応用生態工学会名古屋大会
	6　病院の窓からみた緑景観と心理的反応の関連	共同	平成19年9月	第15回看護人間工学部会研究会抄録集、p.15
	7　湿原における比抵抗電気探査	共同	平成19年10月	物理探査学会札幌大会
	8　釧路湿原におけるハンノキ林拡大と蒸発散量の関係	共同	平成19年12月	陸水物理研究会大津大会
	9　探査を用いた湿原環境調査－釧路湿原、ウトナイ湖岸湿地－	共同	平成19年12月	開発技術研究会室蘭大会
	10 Effects of Levee Construction on Hydro-chemical Conditions in the Kushiro Mire, Northern Japan	共同	平成19年12月	American Geophysical Union
	11 Effects of Levee Construction on Groundwater Flow in Kushiro Mire, Northern Japan	共同	平成19年12月	American Geophysical Union
	12 年輪判読から推定された釧路湿原南部におけるハンノキの定着と成長の関係	共同	平成20年3月	日本生態学会福岡大会
	13 ハンノキ侵入による湿原の泥炭環境への影響	共同	平成20年3月	日本農業気象学会下関大会
吉田　和夫	＜研究報告書＞			
	1　円山動物園のリニューアル計画に関する研究	共同	平成20年3月	平成19年度札幌市円山動物園受託研究費報告書
	＜その他＞			
	1　札幌市立大学VI関連デザイン制作 ・表紙デザイン 札幌市立大学研究論文集第2巻第1号、札幌市立大学年報平成18年度第1号、リクルートガイドブック、学生募集要項 ・サイン 桑園キャンパス、サテライトキャンパスエントランス ・07デザイナーズウィーク日生ビル展示パネル ・07デザインリーグ展示パネル ・オープンキャンパス展示パネルおよび配布資料 ・掲載広告 地下鉄構内電飾看板、北海道新聞半5段広告、デザイナーズウィークパンフ	単独	平成19年4月～ 平成20年3月	
	2　書籍装幀デザイン 「文学研究は何のため－英米文学試論集」	単独	平成20年3月	北海道大学出版会
エルサニマロアン	＜著書＞			
	1　10th International Istanbul Biennial exh. cat	共著	平成19年9月	Foundation for Culture and Arts, Istanbul
	2　Neue Heimat - Berlin Contemporary exh. cat	共著	平成19年9月	Kerber Publisher, Bielefeld

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
エルサニマロアン	＜作品発表＞			
	1 The Rise - film screening	共同	平成19年5月	Exhibitions and Festivals WRO 07, Media Biennial, Wroclaw, Poland
	2 Toute la memoire du monde - film screening	共同	平成19年9月～11月	10th International Istanbul Biennial
	3 The Rise - film screening	共同	平成19年9月～平成20年1月	Neue Heimat（New Home）International art in the new Berlin Berlinische Galerie, Landesmuseum für moderne Kunst, Fotografie und Architektur, Berlin
	4 Palace of the Republic - film installation	共同	平成19年10月～11月	City without a center Institute for Contemporary Art, Dunaújváros
	5 The Rise - film screening	共同	平成19年11月	24. Kasseler Dokumentarfilm & Videofest
	6 Palace of the Republic - film installation	共同	平成19年12月～平成20年2月	QUOBO Kunst in Berlin 1989-1999 KUMU Art Museum, Tallin Fischer / el Sani
	7 The Rise - film screening	共同	平成20年3月～5月	The Rise Stedelijk Museum Bureau, Amsterdam（Solo Show）
張　浦華	＜学術論文等＞			
	1 Development of Control System for Blending and Generating of Scent	共著	平成19年10月	Proc. International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007, L-18,（CD-ROM版）
フィッシャーニーナ	＜著書＞			
	1 10th International Istanbul Biennial exh. cat	共著	平成19年9月	Foundation for Culture and Arts, Istanbul
	2 Neue Heimat - Berlin Contemporary exh. cat	共著	平成19年9月	Kerber Publisher, Bielefeld
	＜作品発表＞			
	1 The Rise - film screening	共同	平成19年5月	Exhibitions and Festivals WRO 07, Media Biennial, Wroclaw, Poland
	2 Toute la memoire du monde - film screening	共同	平成19年9月～平成20年1月	Neue Heimat（New Home）International art in the new Berlin
	3 The Rise - film screening	共同	平成19年10月～11月	Berlinische Galerie, Landesmuseum für moderne Kunst, Fotografie und Architektur, Berlin

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
フィッシャー ニーナ	4 Palace of the Republic - film installation	共同	平成19年11月	City without a center Institute for Contemporary Art, Dunaújváros
	5 The Rise - film screening	共同	平成19年12月	24. Kasseler Dokumentarfilm & Videofest
	6 Palace of the Republic - film installation	共同	平成20年2月	QUOBO Kunst in Berlin 1989-1999 KUMU Art Museum, Tallin
	7 The Rise - film screening	共同	平成20年3月～5月	Fischer / el Sani The Rise Stedelijk Museum Bureau, Amsterdam（Solo Show）
	8 Toute la memoire du monde - film screening	共同	平成20年2月～4月	Biennale Cuvée OK Center for Contemporary Art Linz, Austria
細谷 多聞	＜学術論文等＞ 1 Research on an Experimental Method for Recording Nursing-Care Activities Near Sickbeds	共著	平成19年10月	Proc. International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007, C-22,（CD-ROM版）
	＜研究報告書＞ 1 生態展示サービス施設向け顧客参加型コミュニケーションシステムの開発	共著	平成20年2月	平成19年度経済産業省サービス産業生産性向上支援調査事業（サービス工学適用実証分野）報告書、pp.43-54
	＜学会発表＞ 1 病床環境における「快適性」実現のための調査研究（1）－足部撮影により得た看護師の立ち位置の検討－	共同	平成19年9月	第15回看護人間工学部会研究会抄録集、pp.2-3
	＜学術集会　座長＞ 1 International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007, Perception	座長	平成19年10月	International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007
	＜入選・受賞＞ 1 Excellent Paper Award	共著	平成19年10月	International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007
大渕 一博	＜学会発表＞ 1 イメージ嗜好によるデザイン作品評価手法の一検討	単独	平成19年8月	第9回日本感性工学会大会予稿集2007CD-ROM（講演番号H15）
	2 ポータルサイトによる授業運営支援	単独	平成19年11月	平成19年度情報教育研究集会講演集CD-ROM（講演番号D3-5）

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
大渕　一博	＜その他＞ 1　OSCEタイマー・OSCE実施支援システムの開発	共同	平成20年2月	札幌市立大学
斉藤　雅也	＜学術論文等＞ 1 Human Temperature Sensitivity and Self-conscious Environmental Behavior for Passive Heating and Cooling	単著	平成19年10月	Proc. International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007, D-23, (CD-ROM版)
	＜国際会議論文＞ 1 Residential Active Cooling toward Cold Regions in Japan and Human Temperature Sensitivity for Passive and Low Energy Cooling	単著	平成19年9月	Proceeding of 2nd PALENC Conference and 28th AIVC Conference, pp.860-864
	＜研究報告書＞ 1 生態展示サービス施設向け顧客参加型コミュニケーションシステムの開発	共同	平成20年2月	平成19年度経済産業省サービス産業生産性向上支援調査事業（サービス工学適用実証分野）報告書、pp.30-42、pp.75-100
	2 自然のポテンシャルを活かす「感覚－行動」プロセスの解明	共同	平成20年3月	平成17年度～平成19年度文部科学省科学研究費補助金（基盤研究(B)(一般)）研究成果報告書、pp.51-52、pp.59-62、pp.87-90、pp.156-160、pp.189-195、pp.202-221、pp.244-247、pp.264-275、pp.300-302
	3 円山動物園のリニューアル計画に関する研究	共同	平成20年3月	平成19年度札幌市円山動物園受託研究費報告書、pp.44-57
	＜学会発表＞ 1 日射・雪・土のポテンシャルを活かす温房・涼房をもつ住宅の提案	共同	平成19年7月	日本建築学会北海道支部研究報告集80、pp.265-266
	2 ヒトの温度感覚と環境調整行動に関する考察（想像室温と想像MRT）	単独	平成19年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集環境工学(D-2)、pp.501-502
	3 Cognitive temperature scale for occupants' self-environmental control	単独	平成19年10月	2nd Working Phase Meeting, IEA/ECBCS/Annex49, Low Exergy Systems for High-Performance Buildings and Communities
	＜学術集会　座長＞ 1 International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007, Environment	座長	平成19年10月	International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
斉藤　雅也	＜その他＞ 1「温度感覚」を培う環境教育の可能性－環境情報の感知から環境調整行動へのつながり	単独	平成19年9月	日本建築士事務所協会連合会アーガス・アイ Argus-eye、Vol.45、No.9（通号527）、pp.19-21
	2　考える力	単著	平成20年1月	札幌市立大学附属図書館ニュースレター「のほほん」創刊号、p.6
那須　聖	＜学術論文等＞ 1　滝野すずらん丘陵公園におけるランドスケープデザインの実践	共著	平成20年3月	札幌市立高等専門学校紀要第17号、p.49、pp.58-59
	＜研究報告書＞ 1　大学と地域の連携による都市再生の推進のあり方研究　景観研究会報告書	共著	平成20年3月	受託研究費研究成果報告書、pp.1-8
	＜学会発表＞ 1　類似的な図形要素の反復に見る建築の構成	単独	平成19年8月	日本建築学会大会学術講演梗概集、歴史・意匠部門、F2分冊、pp.781-782
	＜その他＞ 1　計画設計過程における形の決定にみる論理の包含関係	単著	平成19年8月	日本建築学会大会計画系研究懇談会寄稿論文、pp.56-57
	2　上遠野徹自邸展示企画・模型制作・展示	共同	平成20年1月	日本建築家協会北海道支部「建築家展」、北海道立近代美術館
松井　美穂	＜著書＞ 1　文学研究は何のため－英米文学試論集	共著	平成20年3月	北海道大学出版会、pp.289-306
	＜学会発表＞ 1　ハードボイルド・モダニスト-Frances Newman の *The Hard-Boiled Virgin*、ジェンダー、モダニズム	単独	平成19年11月	日本アメリカ文学会北海道支部第125回研究談話会
	＜その他＞ 1　フォークナー事典	共著	平成20年１月	松柏社
三谷　篤史	＜学術論文＞ 1　Feeding Submillimeter Microparts along a Saw-tooth Surface Using Only Horizontal Vibration: Effects of Saw-tooth Pitch, Vibration Frequency, and Humidity	共著	平成19年7月	International Journal of Automation Technology, Vol.1, No.1, pp.27-34
	2　点滴スタンドのユーザビリティ評価（第1報）患者と看護師の使用感についての考察	共著	平成20年3月	札幌市立大学研究論文集、第2巻第1号、pp.25-32
	3　点滴スタンドのユーザビリティ評価（第2報）点滴スタンド使用時の騒音についての考察	共著	平成20年3月	札幌市立大学研究論文集、第2巻第1号、pp.33-38
	＜その他の学術論文＞ 1　Development of Control System for Blending and Generating of Scent	共著	平成19年10月	Proc. International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007, L-18,（CD-ROM版）

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
三谷　篤史	＜国際会議＞			
	1 Feeding of Submillimeter-sized Microparts along a Sawtooth Surface Using Only Horizontal and Symmetric Vibration: Effect of the Differences of Two Types of Capacitors on Feeding Velocity, Stability, and Rotational Motion	共同	平成19年7月	JSME-KSME Joint 2007 International Conference on Machine Design and Tribology（ICMDT2007）
	2 Feeding of Submillimeter-sized Microparts along a Saw-tooth Surface Using Only Horizontal Vibration: Effects of Saw-tooth Pitch, Vibration Frequency, and Humidity	共同	平成19年9月	2007 IEEE/ASME International Conference on Advanced Intelligent Mechatronics（AIM2007）
	3 Feeding of Submillimeter-sized Microparts along a Saw-tooth Surface Using Only Horizontal Vibration: Analysis of Convexities on the Surface of Microparts	共同	平成19年9月	IEEE 2007 3rd Conference on Automation Science and Engineering（CASE2007）
	＜学会発表＞			
	1 のこぎり歯形状を有する表面によるサブミリサイズマイクロパーツの 水平対称振動輸送－パーツの回転による輸送速度の低下に関する解析－	共同	平成19年5月	日本機械学会ロボティクスメカトロニクス部門講演会（ROBOMEC2007）
	2 点滴スタンドの使用感に関する調査（第1報）－患者と看護師へのインタビュー調査結果－	共同	平成19年9月	第15回看護人間工学部会研究会抄録集、p.7
	3 点滴スタンドのユーザビリティ評価（第2報）－患者へのSD法を用いた質問紙調査結果－	共同	平成19年9月	第15回看護人間工学部会研究会抄録集、p.8
	4 点滴スタンドのユーザビリティ評価（第3報）－使用時の騒音に関する考察－	共同	平成19年11月	平成19年度日本人間工学会北海道支部大会抄録集、p.6
	5 のこぎり歯形状を有する表面によるマイクロパーツの輸送 ～第6報　フェムト秒レーザ加工表面を用いた微小パーツの輸送に関する検討～	共同	平成19年12月	計測自動制御学会システムインテグレーション部門学術講演会（SI2007）
	＜学術集会　座長＞			
	1 International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007, Robotics	座長	平成19年10月	International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007
山田　良	＜学術論文＞			
	1 滝野すずらん丘陵公園におけるランドスケープデザインの実践	共著	平成20年3月	札幌市立高等専門学校紀要、第17号、pp.50-51
	＜学会発表＞			
	1 実務報告4作品：ランドスケーププロジェクト	単独	平成19年9月	日本造園学会北海道支部大会研究事例報告発表要旨、第11号、p.33
	2 地域再生を目的とした建築、環境芸術プロジェクト	単独	平成19年11月	環境芸術学会第8回全国大会研究発表概要集、p.18
	3 空間アート・コミュニケーション－ノルウェーでの作品制作を通じて	単独	平成20年3月	第8回癒しの環境研究会全国大会「アートと癒し」抄録集、p.74
	＜作品＞			
	1 養生シェルター／ The Land of Snow & Wind展	単独	平成20年1月	北海道立文学館
	2 モエレ山荘／スノースケープ・モエレⅢ展	単独	平成20年2月	モエレ沼公園

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
山田　良	＜作品紹介＞ 1　被災地における仮設プライベート空間研究　その1「養生シェルター」	単著	平成20年3月	札幌市立大学研究論文集、第2巻第1号、pp.107-109
	＜入選・受賞＞ 1「モエレ沼公園スノービレッジプロジェクト・プラン公募」最優秀	単独	平成19年12月	モエレ沼公園
	＜その他＞ 1　卒業設計は卒業しない「卒業設計日本一展2007」に見る卒制再認識	単著	平成19年10月	新建築住宅特集10月号、新建築社
片山　めぐみ	＜研究報告書＞ 1　円山動物園のリニューアル計画に関する研究	共同	平成20年3月	平成19年度札幌市円山動物園受託研究費報告書
須之内　元洋	＜研究報告書＞ 1　地域コミュニティにおけるクリエイティブコンテンツの情報流通に関する調査研究、第7章　創造性を拡張する次世代のコンテンツプラットフォーム	共同	平成20年3月	㈶ニューメディア開発協会
	＜その他＞ 1　戦略的デザイン－デジタルアーカイブによる新たなコミュニケーションのために	単著	平成19年5月	大日本印刷「artscape」ミュージアムIT情報、http://www.dnp.co.jp/artscape/artreport/it/t_0705.html
	2　ウェブ環境再考－その可能性と限界を掴む	単著	平成19年７月	大日本印刷「artscape」ミュージアムIT情報、http://www.dnp.co.jp/artscape/artreport/it/t_0707.html
	3　ウェブの生態系－デジタルアーカイブのサステイナビリティ	単著	平成19年9月	大日本印刷「artscape」ミュージアムIT情報、http://www.dnp.co.jp/artscape/artreport/it/s_0709.html
	4　ソーシャルメディアとEverywareーメディア化するアーカイブ	単著	平成19年11月	大日本印刷「artscape」ミュージアムIT情報、http://www.dnp.co.jp/artscape/artreport/it/s_0711.html
	5　ポッドキャスト－開かれたプラットフォーム	単著	平成20年1月	大日本印刷「artscape」ミュージアムIT情報、http://www.dnp.co.jp/artscape/artreport/it/s_0801.html
	6　デジタルアーカイブの未来－パーソナライズされる環境のなかで	単著	平成20年3月	大日本印刷「artscape」ミュージアムIT情報、http://www.dnp.co.jp/artscape/artreport/it/s_0803.html

看護学部

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
中村 惠子	＜著書＞			
	1 外傷初期看護ガイドライン JNTEC	編集･共著	平成19年8月	へるす出版、全253ページ、分担pp.2-4及びpp.251-253
	2 救急看護QUESTION　BOX1　第2版	監修	平成19年11月	中山書店、全134ページ
	3 JNTECコースガイドブック	編集･共著	平成19年11月	へるす出版、全102ページ、分担pp.2-3
	＜学術論文＞			
	1 看護・介護職者が入所した認知症高齢者の適応を判断する視点と適応を促進する援助	共著	平成20年3月	日本ヒューマンケア科学会誌、第1巻第1号、pp.84-93
	＜その他の論文＞			
	1 疾患別看護過程－慢性腎不全－	監修	平成19年4月	プチナース
	2 疾患別看護過程－肝硬変－	監修	平成19年5月	プチナース
	3 疾患別看護過程－肺炎－	監修	平成19年6月	プチナース
	4 疾患別看護過程－乳がん－	監修	平成19年7月	プチナース
	5 疾患別看護過程－心不全－	監修	平成19年8月	プチナース
	6 疾患別看護過程－肺がん－	監修	平成19年9月	プチナース
	7 疾患別看護過程－大腸がん－	監修	平成19年10月	プチナース
	8 疾患別看護過程－白血病－	監修	平成19年11月	プチナース
	9 疾患別看護過程－肝がん－	監修	平成19年12月	プチナース
	10 疾患別看護過程－うつ病－	監修	平成20年1月	プチナース
	11 疾患別看護過程－前立腺がん－	監修	平成20年2月	プチナース
	12 疾患別看護過程－腰椎椎間板ヘルニア－	監修	平成20年3月	プチナース
	＜研究報告書＞			
	1 救急部門勤務後2､3年目看護師の職場適応（適応力）と支援モデル構築に関する研究	共同	平成20年3月	平成18年度～19年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書
	＜学術集会＞			
	1 1年次を対象とした客観的臨床能力試験（OSCE）を用いた基礎看護技術の評価	共同	平成19年8月	日本看護学教育学会第17回学術集会講演集、p.254
	2 看護師の職場適応に関する研究－救急部門勤務看護師の卒後3年目までの体験とその適応－	共同	平成19年11月	第9回日本救急看護学会学術集会抄録、A72
	3 看護師の職場適応に関する研究－救急部門勤務看護師の卒後2年目までの体験とその受け止め－	共同	平成19年11月	第9回日本救急看護学会学術集会抄録、p.31
	4 積雪寒冷地域に居住する高齢者の主観的幸福感を規定する要因研究　第一報：過疎地域（漁村）	共同	平成19年12月	第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.416
	5 積雪寒冷地域に居住する高齢者の主観的幸福感を規定する要因研究　第二報：都市部	共同	平成19年12月	第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.417
	6 客観的臨床能力試験（OSCE）トライアルにおける課題評価	共同	平成19年12月	第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.334
	＜学術集会　司会・座長＞			
	1 看護学会：成人看護Ⅰ　教育講演「いま、急性期看護に求められるもの」	座長	平成19年10月	㈳日本看護協会
	2 特別講演「救急医療の将来展望」	司会	平成19年11月	日本救急看護学会
	3 第13回日本集団災害医学会「看護教育」	座長	平成20年2月	日本集団災害医学会

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
加藤　登紀子	＜学会発表＞ 1　中小規模事業所における主体的な健康職場づくりに向けて（その2）－多機関多職種による支援ツールを活用した中小規模事業場支援の可能性－ 2　中小規模事業所における主体的な健康職場づくりに向けて（その3）－地域産業保健センターにおけるコーディネーターの活動の実態と今後の課題－ 3　Factors associated with Spirituality and the Meaning of Working Life among Japanese Workers in a Large-scale Company	共同 共同 共同	平成19年4月 平成19年4月 平成20年2月	第80回日本産業衛生学会 第80回日本産業衛生学会 The 1st Conference on Occupational Health Nursing 2008
	＜その他＞ 1　楽しみを失わないことが養生のもと～貝原益軒著「養生訓」より～	単著	平成20年1月	札幌市立大学附属図書館ニュースレター「のほほん」創刊号、p.5
河野　總子	＜著書＞ 1　系統看護学講座 専門分野20 老年看護学「第9章　治療に関するマネジメントとケアの技法」「第13章　各施設における看護ケア（A 早期回復を主とする病院の看護）」	単著	平成20年2月	医学書院、pp.230-239、pp.340-346
	＜学会発表＞ 1　1年次を対象とした客観的臨床能力試験（OSCE）を用いた基礎看護技術の評価 2　病院・訪問看護ステーションに勤務する看護師の雇用形態別キャリア・アンカー 3　病院・訪問看護ステーションに勤務する看護師の年齢別キャリア・アンカー	共同 共同 共同	平成19年8月 平成19年9月 平成19年10月	日本看護学教育学会第17回学術集会講演集、p.254 北海道医療大学看護福祉学部学会第4回学術大会 第45回日本病院・医療管理学会学術総会
坂倉　恵美子	＜学会発表＞ 1　1年次を対象とした客観的臨床能力試験（OSCE）を用いた基礎看護技術の評価 2　看護学生の老年者観と身近な高齢者インタビュー体験による変化－ＳＤ法と老人観スケールを用いて－ 3　客観的臨床能力試験（OSCE）トライアルにおける課題評価 4　積雪寒冷地域に居住する高齢者の主観的幸福感を規定する要因研究　第一報：過疎地域（漁村） 5　積雪寒冷地域に居住する高齢者の主観的幸福感を規定する要因研究　第二報：都市部	共同 共同 共同 共同 共同	平成19年8月 平成19年11月 平成19年12月 平成19年12月 平成19年12月	日本看護学教育学会第17回学術集会講演集、p.254 日本老年看護学会第12回学術集会抄録集、p.210 第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.334 第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.416 第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.417
スーディ神崎　和代	＜学会発表＞ 1　Searching for QOL Indicators among Aged Japanese 2nd Report 2　A Qualitative Study on the Effectiveness of Glide Mattress Systems on Aged Patients with Pressure Ulcers 3　新設小規模多機能型居宅介護施設の検証－開設計画時から開設後6か月の課題－	単独 共同 単独	平成19年6月 平成20年2月 平成20年3月	第7回International Association of Homes and Services for the Ageing 第29回Burn and Wound Care Symposium抄録集、p.76 日本在宅ケア学会誌、Vol.11、No.2、p.100

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
樋之津　淳子	＜学術論文等＞ 1　Research on an Experimental Method for Recording Nursing-Care Activities Near Sickbeds	共著	平成19年10月	Proc. International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007, C-22,（CD-ROM版）
	＜学会発表＞ 1　看護過程論に模擬患者（SP）を導入した授業展開の試み	共同	平成19年8月	日本看護学教育学会第17回学術集会講演集、p.250
	2　1年次を対象とした客観的臨床能力試験（OSCE）を用いた基礎看護技術の評価	共同	平成19年8月	日本看護学教育学会第17回学術集会講演集、p.254
	3　病床環境における「快適性」実現のための調査研究(1)－足部撮影により得た看護師の立ち位置の検討－	共同	平成19年9月	第15回看護人間工学部会研究会抄録集、pp.2-3
	4　病院の窓からみた緑景観と心理的反応の関連	共同	平成19年9月	第15回看護人間工学部会研究会抄録集、p.15
	5　客観的臨床能力試験（OSCE）トライアルにおける課題評価	共同	平成19年12月	第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.334
	6　基礎看護学実習における看護学生の心理的な変化と社会的スキルとの関連	共同	平成19年12月	第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.351
	7　病院の窓からみた景観に対する心理的反応と景観構成要素の関連	共同	平成19年12月	第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.361
	＜入選・受賞＞ 1　Excellent Paper Award	共著	平成19年10月	International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007
	＜その他＞ 1　基礎看護学領域での看護実践力到達度とOSCEによる実践能力評価	単著	平成20年2月	看護展望、第33巻、第3号、pp.278-282
松浦　和代	＜著書＞ 1　小児看護学辞典（担当：生活年齢、発達検査、発達指数、発達診断、発達段階、発達年齢）	共著	平成19年5月	へるす出版
	2　医療保育テキスト　日本医療保育学会認定医療保育専門士研修用テキスト	共著	平成19年6月	日本医療保育学会、pp.5-2-1～5-2-8、pp.5-11-1～5-11-8
	＜学術論文＞ 1　教育と看護の協働が支える病気の子どもの未来	共著	平成19年10月	小児看護、30(11)、pp.1504-1511
	2　セルフケア・ライフスキルの向上をはかる小児看護	共著	平成19年10月	小児看護、30(11)、pp.1583-1588
	3　小児看護学に活用したい生涯学習･成人教育の理論	共著	平成19年10月	小児看護、30(11)、pp.1589-1593
	4　小児医療における心理社会的支援専門職の役割分担と協働（2）子どもの「育ち」を援助する教育とライフスキル	共著	平成19年10月	病気の子どもと医療･教育、第14号、pp.29-35

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
松浦　和代	＜学会発表＞			
	1 Development of occupational readiness action scale for nurses advanced beginner	共同	平成19年5月	ICN Conference 2007
	2 大学生の血圧値及び肥満度に影響を及ぼす生活習慣要因の検討	共同	平成19年7月	第33回日本看護研究学会学術集会
	3 1年次を対象とした客観的臨床能力試験（OSCE）を用いた基礎看護技術の評価	共同	平成19年8月	日本看護学教育学会第17回学術集会講演集、p.254
	4 子どもの生活環境を創造する協働の可能性を考える、病院－地域－学校をフィールドとして（シンポジウム／シンポジスト）	共同	平成19年9月	日本特殊教育学会第45回大会
	5 思春期女子における月経の実態と月経教育に関する調査研究	共同	平成19年10月	第48回日本母性衛生学会学術集会
	6 助産学生の職業準備行動尺度の信頼性と妥当性の検討	共同	平成19年10月	第48回日本母性衛生学会学術集会
	7 客観的臨床能力試験（OSCE）トライアルにおける課題評価	共同	平成19年12月	第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.334
宮崎　みち子	＜学術論文＞			
	1 The history of abortion-related acts and current issues in Japan	単著	平成19年12月	Medicine and Law, Vol.26, No.4, pp.791-799
	＜その他の論文＞			
	1 Development of Control System for Blending and Generating of Scent	共著	平成19年10月	Proc. International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007, L-18,（CD-ROM版）
	＜研究報告書＞			
	1 就学前の子どもを育てる働く女性の現状－札幌市認可保育所を利用する母親たち－	共同	平成20年3月	札幌市立大学共同研究費研究成果報告書
	＜学会発表＞			
	1 1年次を対象とした客観的臨床能力試験（OSCE）を用いた基礎看護技術の評価	共同	平成19年8月	日本看護学教育学会第17回学術集会講演集、p.254
	2 客観的臨床能力試験（OSCE）トライアルにおける課題評価	共同	平成19年12月	第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.334
	3 就学前の子どもを持つ勤労女性の実態（第1報）－就労環境と育児にかかわる負担－	共同	平成20年3月	第22回日本助産学会学術集会集録、p.156
	4 就学前の子どもを持つ勤労女性の実態（第2報）－育児を支える要因の分析－	共同	平成20年3月	第22回日本助産学会学術集会集録、p.157
大野　夏代	＜学術論文等＞			
	1 Research on an Experimental Method for Recording Nursing-Care Activities Near Sickbeds	共著	平成19年10月	Proc. International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007, C-22,（CD-ROM版）
	＜学会発表＞			
	1 細菌学的手法を用いての手洗いの教育方法の評価－培養プレート実物を用いることの効果－	共同	平成19年7月	第33回日本看護研究学会学術集会

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
大野　夏代	2　手指の状態別除菌効果と気候環境との関連	共同	平成19年7月	第33回日本看護研究学会学術集会
	3　看護過程論に模擬患者（SP）を導入した授業展開の試み	共同	平成19年8月	日本看護学教育学会第17回学術集会講演集、p.250
	4　日本の看護基礎教育用テキストにおける異文化看護の記述	単独	平成19年9月	国際看護研究会第10回学術集会
	5　病床環境における「快適性」実現のための調査研究(1)－足部撮影により得た看護師の立ち位置の検討－	共同	平成19年9月	第15回看護人間工学部会研究会抄録集、pp.2-3
	6　病院の窓からみた緑景観と心理的反応の関連	共同	平成19年9月	第15回看護人間工学部会研究会抄録集、p.15
	7　基礎看護学実習における看護学生の心理的な変化と社会的スキルとの関連	共同	平成19年12月	第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.351
	8　病院の窓からみた景観に対する心理的反応と景観構成要素の関連	共同	平成19年12月	第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.361
	＜入選・受賞＞ 1　Excellent Paper Award	共著	平成19年10月	International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007
清水　光子	＜学術論文等＞ 1　地域に根ざす住民主体の健康づくりグループ活動の発展に関する一考察	共著	平成20年3月	札幌市立大学研究論文集、第2巻第1号、pp.17-24
	＜研究報告書＞ 1　健康高齢者は外出に意欲的	共著	平成19年10月	札幌市立大学共同研究費研究成果報告書
	2　おすすめの外出場所	共著	平成19年10月	札幌市立大学共同研究費研究成果報告書
	＜学会発表＞ 1　都市に居住する健康高齢者の外出行動とその背景要因に関する検討－心理社会的要求に焦点をあてて－	共同	平成19年7月	日本地域看護学会第10回学術集会講演集、p.187
	2　積雪寒冷地方都市の高齢者の外出に関する研究（第1報）夏季と冬季の健康及び社会活動	共同	平成19年10月	第66回日本公衆衛生学会総会抄録集、p.316
	3　積雪寒冷地方都市の高齢者の外出に関する研究（第2報）積雪・寒冷が外出に及ぼす影響	共同	平成19年10月	第66回日本公衆衛生学会総会抄録集、p.316
	4　子どもの虐待等に関わる保育士が経験する負担と対処	共同	平成19年12月	第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.468
	5　積雪寒冷地域に居住する高齢者の主観的幸福感を規定する要因研究　第一報：過疎地域（漁村）	共同	平成19年12月	第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.416
	6　積雪寒冷地域に居住する高齢者の主観的幸福感を規定する要因研究　第二報：都市部	共同	平成19年12月	第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.417
	＜その他＞ 1　健康な高齢者の冬の外出－ためになるあれこれ－	共著	平成19年10月	桑園福まちだより、第16号
守村　洋	＜研究報告書＞ 1　円山動物園のリニューアル計画に関する研究	共同	平成20年3月	平成19年度札幌市円山動物園受託研究費報告書

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
守村　洋	＜学会発表＞			
	1　母乳育児をめぐる母親の精神的健康－母親の主観的体験から介入のニーズを探る－	共同	平成19年6月	第17回日本精神保健看護学会学術集会抄録集、pp.42-43
	2　精神障害セルフヘルプ・グループのもつエンパワーメント－精神障害を抱えて生きる人達からの「語り」から－	単独	平成19年9月	日本質的心理学会第4回大会
	3　どっこい俺らも生きている－セルフヘルプ・グループ「すみれ会」の変革期を共にして－	単独	平成19年11月	日本精神障害者リハビリテーション学会第15回名古屋大会
	4　積雪寒冷地域に居住する高齢者の主観的幸福感を規定する要因研究　第一報：過疎地域（漁村）	共同	平成19年12月	第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.416
	5　積雪寒冷地域に居住する高齢者の主観的幸福感を規定する要因研究　第二報：都市部	共同	平成19年12月	第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.417
	6　子どもの虐待等に関わる保育士が経験する負担と対処	共同	平成19年12月	第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.468
吉川　由希子	＜学術論文等＞			
	1　セルフケア･ライフスキルの向上をはかる小児看護	共著	平成19年10月	小児看護、30(11)、pp.1583-1588
	2　保健師の視点からみた医療過疎地域における母子ケアのための保健師と助産師の連携	共著	平成20年3月	三重県立看護大学紀要、第11巻、pp.9-19
	3　医療過疎地域の病院で出産した褥婦の視点からみた周産期における良質なケアの構成概念について	共著	平成20年3月	三重県立看護大学紀要、第11巻、pp.59-71
	＜研究報告書＞			
	1　臨地実習環境の変化に伴う実習到達度と実習形態についての検討	共著	平成19年4月	平成17～18年度科学研究費補助金(基盤研究C)研究成果報告書、pp.1-8、pp.55-74
	＜学会発表＞			
	1　臨地実習環境の変化に伴う問題と実習形態のあり方－第1報 基礎看護学実習・成人看護学実習において－	共同	平成19年12月	第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.354
	2　臨地実習環境の変化に伴う問題と実習形態のあり方－第2報 小児看護学実習・母性看護学実習において－	共同	平成19年12月	第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.354
	3　臨地実習環境の変化に伴う問題と実習形態のあり方－第3報 老年看護学実習・精神看護学実習において－	共同	平成19年12月	第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.325
菊地　ひろみ	＜学術論文等＞			
	1　多発性硬化症患者の生活の質構成要素に関する予備調査	共著	平成19年6月	BRAIN & NERVE, Vol.59, No.6, pp.617-622
	2　在宅・医療機関・入所施設間の看護情報共有様式の開発	共著	平成20年3月	高齢者問題研究No.24、pp.35-48
	＜学会発表＞			
	1　訪問看護ステーション・病院・老人保健施設の円滑な看護情報授受に向けて－受け手はどんな情報を必要としているか－	共同	平成20年3月	第12回日本在宅ケア学会学術集会講演集、p.57
	＜その他＞			
	1　日本人多発性硬化症患者のQOL調査－多施設大規模調査－	共同	平成20年1月	厚生労働科学研究費補助金免疫性神経疾患に関する調査研究班平成19年度班会議

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
佐藤　公美子	＜著書＞ 1　考える基礎看護技術Ⅱ・第3版4刷 「第Ⅳ編　第28章　胃・腸・膀胱洗浄のための看護」	共著	平成20年１月	ヌーヴェルヒロカワ、 pp.353-371
	＜学術論文等＞ 1　Research on an Experimental Method for Recording Nursing-Care Activities Near Sickbeds	共著	平成19年10月	Proc. International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007, C-22,（CD-ROM版）
	＜学会発表＞ 1　戦前からの連続性の視点で検討した看護改革－北海道の事例から－ 2　看護過程論に模擬患者（SP）を導入した授業展開の試み 3　病床環境における「快適性」実現のための調査研究(1)－足部撮影により得た看護師の立ち位置の検討－ 4　病院の窓からみた緑景観と心理的反応の関連 5　基礎看護学実習における看護学生の心理的な変化と社会的スキルとの関連 6　病院の窓からみた景観に対する心理的反応と景観構成要素の関連	共同 共同 共同 共同 共同 共同	平成19年7月 平成19年8月 平成19年9月 平成19年9月 平成19年12月 平成19年12月	日本看護研究学会第33回学術集会抄録集、p.280 日本看護学教育学会第17回学術集会講演集、p.250 第15回看護人間工学部会研究会抄録集、pp.2-3 第15回看護人間工学部会研究会抄録集、p.15 第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.351 第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.361
	＜入選・受賞＞ 1　Excellent Paper Award	共著	平成19年10月	International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007
菅原　美樹	＜著書＞ 1　救急看護の技術とケア 2　外傷初期看護ガイドライン JNTEC 3　早わかり急変ノート（第2版）	共著 共著 共著	平成19年7月 平成19年8月 平成19年9月	メディカ出版、pp.9-26 へるす出版、pp.210-212 照林社、pp.1-65
	＜その他論文＞ 1　JNTECを知ろう！　受け入れ準備 2　急変時の輸液と薬剤投与のポイント	単著 単著	平成19年11月 平成20年3月	EMERGENCY CARE20(11) EXPERT NURSE24(3)
高室　典子	＜著書＞ 1　こんにちは赤ちゃん！産前産後ガイドブック（家族用） 2　こんにちは赤ちゃん！産前産後ガイドブック（サポーター用）	共著 共著	平成20年3月 平成20年3月	NPO法人子育て応援かざぐるま、pp.18-28 NPO法人子育て応援かざぐるま、pp.18-29
	＜研究報告書＞ 1　就学前の子どもを育てる働く女性の現状－札幌市認可保育所を利用する母親たち－ 2　大学と地域の連携による都市再生の推進のあり方研究：子育て支援研究会報告書	共著 共著	平成20年3月 平成20年3月	札幌市立大学共同研究費研究成果報告書 受託研究費研究成果報告書

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
高室　典子	＜学会発表＞			
	1　乳幼児へのベビーマッサージの効果	単独	平成19年8月	第5回国際インファントマッサージ研究会学術集会
	2　分娩後の腰痛評価方法に関する基礎的研究　第1報	共同	平成19年11月	第48回日本母性衛生学会学術集会
	3　分娩後の腰痛評価方法に関する基礎的研究　第2報	共同	平成19年11月	第48回日本母性衛生学会学術集会
	4　就学前の子どもを持つ勤労女性の実態（第1報）－就労環境と育児にかかわる負担－	共同	平成20年3月	第22回日本助産学会学術集会集録、p.156
	5　就学前の子どもを持つ勤労女性の実態（第2報）－育児を支える要因の分析－	共同	平成20年3月	第22回日本助産学会学術集会集録、p.157
新納　美美	＜学術論文等＞			
	1　インターネット嗜癖に関する知見とわが国における地域精神保健活動の方向性	単著	平成19年6月	アディクション看護、4巻1号、pp.34-40
	2　自助グループに学ぶ（その1）　NABAメンバーの体験から	単著	平成19年6月	アディクション看護、4巻1号、pp.59-64
	＜学会発表＞			
	1　自治体における職場風土と職員のメンタルヘルスに関する検討	単独	平成19年6月	第14回日本産業精神保健学会学術集会
	2　職場風土別にみる職員のメンタルヘルスと職員間の支援的関係性	単独	平成19年7月	日本地域看護学会第10回学術集会
	3　都市に居住する健康高齢者の外出行動とその背景要因に関する検討－心理社会的要求に焦点をあてて－	共同	平成19年7月	日本地域看護学会第10回学術集会講演集、p.187
	4　積雪寒冷地方都市の高齢者の外出に関する研究（第1報）夏季と冬季の健康及び社会活動	共同	平成19年10月	第66回日本公衆衛生学会総会抄録集、p.316
	5　積雪寒冷地方都市の高齢者の外出に関する研究（第2報）積雪・寒冷が外出に及ぼす影響	共同	平成19年10月	第66回日本公衆衛生学会総会抄録集、p.316
	6　勤労者の精神保健に寄与する職場風土とその関連要因の検討 －職員間の関わりに焦点をあてて－	単独	平成19年12月	第27回日本看護科学学会学術集会
藤井　瑞恵	＜学術論文＞			
	1　変形性膝関節症を患う在宅患者の語り	共著	平成20年3月	名寄市立大学紀要、第2巻、pp.21-27
	＜その他の論文＞			
	1　疾患別看護過程－腰椎椎間板ヘルニア－	共著	平成20年2月	プチナース、pp.51-71
	＜研究報告書＞			
	1　救急部門勤務後2､3年目看護師の職場適応（適応力）と支援モデル構築に関する研究	共同	平成20年3月	平成18年度～19年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書、pp.52-57
	＜学会発表＞			
	1　外来手術を受ける患者の術前オリエンテーションの改善	共同	平成19年4月	北海道看護研究学会
	2　Study on Telephone Consultation Service by Nurses During Nighttime and Holidays	共同	平成19年5月	ICN conference
	3　人工関節全置換術後の訓練の継続を支える要因	共同	平成19年7月	第33回日本看護研究学会
	4　在宅糖尿病患者の夜間・休日における電話相談と看護師の対応	共同	平成19年7月	第33回日本看護研究学会

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
藤井　瑞恵	5　患者参画型看護計画の導入と効果－人工膝関節置換術を受ける患者の意欲向上、意思決定を支援して－	共同	平成19年9月	第38回日本看護学会老年
	6　無作為化試験（札幌ライフスタイルスタディ）におけるメタボリックシンドローム該当者の食生活の課題	共同	平成19年9月	第12回日本糖尿病教育・看護学会
	7　在宅糖尿病患者の夜間・休日における電話相談と看護師の対応	共同	平成19年9月	第12回日本糖尿病教育・看護学会
	8　術後片手生活となる患者に対する石鹸手洗いの啓蒙の評価	共同	平成19年10月	第38回日本看護学会管理
	9　メタボリックシンドロームとインスリン－札幌ライフスタイルスタディ第2期－	共同	平成19年11月	第41回日本糖尿病学会北海道地方会
星　美和子	＜その他＞ 1　ユビキタス社会の電子ジャーナル－いちユーザーの視点から－	単著	平成20年1月	札幌市立大学附属図書館ニュースレター「のほほん」創刊号、p.4
村松　真澄	＜学術論文＞			
	1　計画的口腔ケアによる高齢の口腔癌入院患者の合併症予防に関する研究	共著	平成19年4月	高齢者問題研究№23、pp.31-43
	2　アルツハイマー認知症患者の専門的口腔ケアに関する検討、咀嚼機能を回復したアルツハイマー認知症患者の1事例の報告	単著	平成19年6月	日本口腔ケア学会1(1)、pp.31-35
	3　Fitting complete dentures after multiple tooth extraction in a patient with severe dementia	共著	平成19年9月	Special Care Dentistry, 27(5), pp.187-190
	4　チームで実践する口腔ケア－簡単な口腔アセスメントとお口のお手入れ	単著	平成19年10月	日本在宅医学会雑誌、9(1)、pp.68-71
	5　チームで進める口腔ケアの実際	共著	平成19年11月	日本呼吸ケアリハビリテーション誌、17(2)、pp.130-142
	6　肺炎予防と口腔ケア	共著	平成19年11月	日本呼吸ケアリハビリテーション誌、17(2)、pp.133-138
	7　地域自立高齢者の口腔の健康と主観的幸福感	共著	平成19年12月	北海道歯学会雑誌、28(2)、pp.120-127
	8　地域自立高齢者の自己評価に基づく咀嚼能力と栄養状態、体力との関係	共著	平成19年12月	日本老年歯科医学会雑誌、22(3)、pp.300-318
	＜その他の論文＞ 1　摂食嚥下障害を助ける口腔ケア	単著	平成20年2月	エキスパートナース、Vol.24、No.2、pp.61-65
	＜研究報告書＞ 1　専門的口腔ケアによる高齢入院患者の合併軽減とQOL向上に関する研究	共同	平成19年6月	平成18年度8020公募研究報告書、pp.111-123
	＜学会発表＞			
	1　地域連携できる口腔アセスメントと標準ケアプランに関する研究	共同	平成19年6月	第18回日本老年歯科医学会抄録集
	2　統合失調症患者における口腔ケア介入研究	共同	平成19年6月	第18回日本老年歯科医学会抄録集
	3　長期人工呼吸器患者の口腔ケア	共同	平成19年7月	第29回日本呼吸療法医学会抄録集

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
村松　真澄	4　マウスウォッシュ®とオーラルバランス®を導入した口腔環境改善への取り組み	共同	平成19年10月	第43回日本赤十字社医学会抄録集
	5　看護学生の老年者観と身近な高齢者インタビュー体験による変化－SD法と老人観スケールを用いて－	共同	平成19年11月	日本老年看護学会第12回学術集会抄録集、p.210
	＜教育講演・シンポジスト等＞			
	1　第18回日本老年歯科医学会総会シンポジウムⅠシンポジスト「口腔ケア－他職種との連携－」	共同	平成19年6月	第18回日本老年歯科医学会抄録集
	2　第60回九州歯科医学会シンポジウムのシンポジスト「健康長寿を目指して口腔ケア」	共同	平成19年10月	第60回九州歯科医学会抄録集
	3　第12回日本老年看護学会交流集会「高齢者の口腔ケアにおける看護の役割と他職種の連携」	共同	平成19年11月	第12回日本老年看護学会抄録集
	4　第4回日本口腔ケア学会教育講演「看護師が病棟で行う口腔ケア」	単独	平成19年11月	第4回日本口腔ケア学会抄録集
	5　第22回日本がん看護学会教育講演「がん患者の口腔ケア」	単独	平成20年2月	第22回日本がん看護学会
保田　玲子	＜学術論文等＞			
	1　地域に根ざす住民主体の健康づくりグループ活動の発展に関する一考察	共著	平成20年3月	札幌市立大学研究論文集、第2巻第1号、pp.17-24
	＜学会発表＞			
	1　都市に居住する健康高齢者の外出行動とその背景要因に関する検討－心理社会的欲求に焦点をあてて－	共同	平成19年7月	日本地域看護学会第10回学術集会講演集、p.187
	2　積雪寒冷地方都市の高齢者の外出に関する研究（第1報）夏季と冬季の健康及び社会活動	共同	平成19年10月	第66回日本公衆衛生学会総会抄録集、p.316
	3　積雪寒冷地方都市の高齢者の外出に関する研究（第2報）積雪・寒冷が外出に及ぼす影響	共同	平成19年10月	第66回日本公衆衛生学会総会抄録集、p.316
	4　北海道天塩町の酪農家の腰痛強度と作業内容・セルフケアの関連	共同	平成19年10月	第66回日本公衆衛生学会総会抄録集、p.242
渡邉　由加利	＜学術論文等＞			
	1　Research on an Experimental Method for Recording Nursing-Care Activities Near Sickbeds	共著	平成19年10月	Proc. International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007, C-22,（CD-ROM版）
	＜学会発表＞			
	1　看護過程論に模擬患者（SP）を導入した授業展開の試み	共同	平成19年8月	日本看護学教育学会第17回学術集会講演集、p.250
	2　病床環境における「快適性」実現のための調査研究(1)－足部撮影により得た看護師の立ち位置の検討－	共同	平成19年9月	第15回看護人間工学部会研究会抄録集、pp.2-3
	3　病院の窓からみた緑景観と心理的反応の関連	共同	平成19年9月	第15回看護人間工学部会研究会抄録集、p.15
	4　基礎看護学実習における看護学生の心理的な変化と社会的スキルとの関連	共同	平成19年12月	第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.351
	5　病院の窓からみた景観に対する心理的反応と景観構成要素の関連	共同	平成19年12月	第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.361

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
渡邉　由加利	＜入選・受賞＞ 1　Excellent Paper Award	共著	平成19年10月	International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007
太田　晴美	＜学会発表＞ 1　災害看護への取り組みを支える要因の分析－災害看護に興味を持った経験のある看護師の動機づけ－ 2　積雪寒冷地域に居住する高齢者の主観的幸福感を規定する要因研究　第一報：過疎地域（漁村） 3　積雪寒冷地域に居住する高齢者の主観的幸福感を規定する要因研究　第二報：都市部	 単独 共同 共同	 平成19年7月 平成19年12月 平成19年12月	 日本災害看護学会第9回年次大会 第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.416 第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.417
神島　滋子	＜学術論文＞ 1　高齢の通院脳血管障害患者の健康管理に関するセルフエフィカシーの検討 2　脳神経領域における業務に関する困難さと疲労に関する考察 3　脳神経領域看護の院外教育支援プログラムの構築に向けて3－院外教育支援プログラムの活用状況からみた評価－ 4　脳神経領域看護のキャリア形成に於ける教育研修ニーズ 5　点滴スタンドのユーザビリティ評価（第1報）患者と看護師の使用感についての考察 6　点滴スタンドのユーザビリティ評価（第2報）点滴スタンド使用時の騒音についての考察 7　通院脳卒中患者の服薬行動に関連する要因の検討－アドヒアランスの視点から－	 単著 共著 共著 共著 共著 共著 共著	 平成19年4月 平成20年1月 平成20年1月 平成20年2月 平成20年3月 平成20年3月 平成20年3月	 ブレインナーシング、23(4)、pp.104-111 第38回日本看護学会論文集看護教育、pp.174-176 第38回日本看護学会論文集看護教育、pp.376-379 ブレインナーシング、24(2)、pp.105-111 札幌市立大学研究論文集、第2巻第1号、pp.25-32 札幌市立大学研究論文集、第2巻第1号、pp.33-38 日本看護科学会誌、28(1)、pp.21-30
	＜研究報告書＞ 1　救急部門勤務後2､3年目看護師の職場適応（適応力）と支援モデル構築に関する研究	共同	平成20年3月	平成18年度～19年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書
	＜学会発表＞ 1　脳血管障害により服薬を継続する患者の服薬行動を獲得するプロセス 2　脳神経領域における業務に関する困難と疲労に関する考察 3　脳神経領域看護のキャリア形成における研修ニーズの実態 4　脳神経領域看護への院外教育支援プログラムの評価－活用状況から見た研修効果の実態－ 5　脳神経看護に関する院外教育支援に関する検討－フィジカルアセスメントの研修の評価－ 6　点滴スタンドの使用感に関する調査（第1報）－患者と看護師へのインタビュー調査結果－ 7　点滴スタンドのユーザビリティ評価（第2報）－患者へのSD法を用いた質問紙調査結果－	 単独 共同 共同 共同 共同 共同 共同	 平成19年7月 平成19年8月 平成19年8月 平成19年8月 平成19年9月 平成19年9月 平成19年9月	 第10回日本病院脳神経外科学会収録集、p.148 第38回日本看護学会看護教育収録集、p.113 第38回日本看護学会看護教育収録集、p.257 第38回日本看護学会看護教育収録集、p.258 第34回日本脳神経看護研究学会収録集、p.71 第15回看護人間工学部会研究会抄録集、p.7 第15回看護人間工学部会研究会抄録集、p.8

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
神島　滋子	8　点滴スタンドのユーザビリティ評価（第3報）－使用時の騒音に関する考察－	共同	平成19年11月	平成19年度日本人間工学会北海道支部大会抄録集、p.6
	9　看護師の職場適応に関する研究－救急部門勤務看護師の卒後2年目までの体験とその受け止め－	共同	平成19年11月	第9回日本救急看護学会学術集会抄録、p.31
	10 看護師の職場適応に関する研究－救急部門勤務看護師の卒後3年目までの体験とその適応－	共同	平成19年11月	第9回日本救急看護学会学術集会抄録、A72
	＜その他＞			
	1　解剖がわかれば看護がわかる／同じ障害でもケアが異なるのはなぜ？－日常生活動作を中心に－ 5. 動かない・つかめない・握れない	単著	平成20年1月	ブレインナーシング、24(1)、pp.44-50
	2　特別座談会－脳神経ナースの現状と未来－	共同	平成20年1月	ブレインナーシング、24(1)、pp.2-10
河村　奈美子	＜研究報告書＞			
	1　円山動物園のリニューアル計画に関する研究	共同	平成20年3月	平成19年度札幌市円山動物園受託研究費報告書
	＜学会発表＞			
	1　母乳育児をめぐる母親の精神的健康－母親の主観的体験から介入のニーズを探る－	共同	平成19年6月	第17回日本精神保健看護学会学術集会抄録集、pp.42-43
	2　認知症高齢者へのアニマル・セラピー－犬と控えめに交流をする参加者の言葉から見る心の動き－	単独	平成19年9月	第4回日本質的心理学会アブストラクト集、p.88
	3　Therapeutic communication: Animal assisted therapy for elderly Japanese dementia patients	共同	平成19年10月	25th International Psychogeriatric Association 2007 Osaka Silver Congress, final program, 90
	4　子どもの虐待等に関わる保育士が経験する負担と対処	共同	平成19年12月	第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.468
	＜入選・受賞＞			
	1　第4回日本質的心理学会研究発表表現奨励賞		平成19年9月	日本質的心理学会
工藤　京子	＜研究報告書＞			
	1　救急部門勤務後2､3年目看護師の職場適応（適応力）と支援モデル構築に関する研究	共同	平成20年3月	平成18年度～19年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書、pp.37-51
小坂　美智代	＜学術論文等＞			
	1　緩和ケア病棟における家族を対象としたサポート・グループでの語りの様相	共著	平成19年7月	日本がん看護学会誌、第21巻第1号、pp.14-21
	＜研究報告書＞			
	1　外来化学療法を受けている術後胃がん患者の困難と対処に関する研究	単著	平成19年9月	平成18年度千葉大学21世紀COEプログラム拠点報告書、pp.241-246
進藤　ゆかり	＜その他の論文＞			
	1　疾患別看護過程－前立腺がん－	単著	平成20年2月	プチナース、pp.51-70

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
進藤ゆかり	＜研究報告書＞ 1 帯状疱疹後神経痛を抱えた在宅高齢者の実態とその影響	単独	平成20年3月	平成19年度科学研究費補助金若手研究（スタートアップ）研究成果報告書
	＜学会発表＞ 1 母乳育児をめぐる母親の精神的健康－母親の主観的体験から介入のニーズを探る－	共同	平成19年6月	第17回日本精神保健看護学会学術集会抄録集、pp.42-43
	2 看護学生の老年者観と身近な高齢者インタビュー体験による変化－SD法と老人観スケールを用いて－	共同	平成19年11月	日本老年看護学会第12回学術集会抄録集、p.210
	3 積雪寒冷地域に居住する高齢者の主観的幸福感を規定する要因研究　第一報：過疎地域（漁村）	共同	平成19年12月	第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.416
	4 積雪寒冷地域に居住する高齢者の主観的幸福感を規定する要因研究　第二報：都市部	共同	平成19年12月	第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.417
	5 子どもの虐待等に関わる保育士が経験する負担と対処	共同	平成19年12月	第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.468
多賀　昌江	＜学術論文等＞ 1 Comparative sequence analysis of leucine-rich repeats（LRRs）within vertebrate toll-like receptors	共著	平成19年5月	BMC Genomics 2007, Vol.8,No.124
	2 Comprehensive Analysis of the Attributes of Functional Descriptions from the Perspective of Universal Design	共著	平成19年10月	Proc. International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007, D-9,（CD-ROM版）
	3 点滴スタンドのユーザビリティ評価（第1報）患者と看護師の使用感についての考察	共著	平成20年3月	札幌市立大学研究論文集、第2巻第1号、pp.25-32
	4 点滴スタンドのユーザビリティ評価（第2報）点滴スタンド使用時の騒音についての考察	共著	平成20年3月	札幌市立大学研究論文集、第2巻第1号、pp.33-38
	＜研究報告書＞ 1 就学前の子どもを育てる働く女性の現状－札幌市認可保育所を利用する母親たち－	共著	平成20年3月	札幌市立大学共同研究費研究成果報告書
	＜学会発表＞ 1 排泄時の消音行為と日本人女性－トイレ用擬似音装置にみる羞恥とジェンダー－	単独	平成19年7月	2007年度北海道民族学会第1回研究会、北海道民族学第4号、pp.81-83
	2 点滴スタンドの使用感に関する調査（第1報）－患者と看護師へのインタビュー調査結果－	共同	平成19年9月	第15回看護人間工学部会研究会抄録集、p.7
	3 点滴スタンドのユーザビリティ評価（第2報）－患者へのSD法を用いた質問紙調査結果－	共同	平成19年9月	第15回看護人間工学部会研究会抄録集、p.8
	4 点滴スタンドのユーザビリティ評価（第3報）－使用時の騒音に関する考察－	共同	平成19年11月	平成19年度日本人間工学会北海道支部大会抄録集、p.6
	5 高齢者ユーザーによる家電機器操作用語の理解度評価－操作用語の多面的属性分析に基づくわかりやすさの評価－	共同	平成19年11月	平成19年度日本人間工学会北海道支部大会抄録集、p.7
	6 家電機器操作用語の修辞法的属性分析に基づくわかりやすさの評価	共同	平成20年2月	日本感性工学会感性フォーラム札幌2008
	7 就学前の子どもを持つ勤労女性の実態（第1報）－就労環境と育児にかかわる負担－	共同	平成20年3月	第22回日本助産学会学術集会集録、p.156

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
多賀　昌江	8　就学前の子どもを持つ勤労女性の実態（第2報）－育児を支える要因の分析－	共同	平成20年3月	第22回日本助産学会学術集会集録、p.157
	＜その他＞ 1　A Profile of Female Japanese Bathroom Sound Culture	単独	平成19年8月	北海学園大学大学院経営学研究科特別講演会・セミナー
塚辺　繭子	＜学術論文等＞ 1　地域に根ざす住民主体の健康づくりグループ活動の発展に関する一考察	共著	平成20年3月	札幌市立大学研究論文集、第2巻第1号、pp.17-24
	＜学会発表等＞ 1　母乳育児をめぐる母親の精神的健康－母親の主観的体験から介入のニーズを探る－	共同	平成19年6月	第17回日本精神保健看護学会学術集会抄録集、pp.42-43
	2　都市に居住する健康高齢者の外出行動とその背景要因に関する検討－心理社会的要求に焦点をあてて－	共同	平成19年7月	日本地域看護学会第10回学術集会講演集、p.187
	3　積雪寒冷地方都市の高齢者の外出に関する研究（第1報）夏季と冬季の健康及び社会活動	共同	平成19年10月	第66回日本公衆衛生学会総会抄録集、p.316
	4　積雪寒冷地方都市の高齢者の外出に関する研究（第2報）積雪・寒冷が外出に及ぼす影響	共同	平成19年10月	第66回日本公衆衛生学会総会抄録集、p.316
	5　子どもの虐待等に関わる保育士が経験する負担と対処	共同	平成19年12月	第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.468
照井　レナ	＜学術論文等＞ 1　Comprehensive Analysis of the Attributes of Functional Descriptions from the Perspective of Universal Design	共著	平成19年10月	Proc. International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007, D-9,（CD-ROM版）
	2　地域に根ざす住民主体の健康づくりグループ活動の発展に関する一考察	共著	平成20年3月	札幌市立大学研究論文集、第2巻第1号、pp.17-24
	3　点滴スタンドのユーザビリティ評価（第1報）患者と看護師の使用感についての考察	共著	平成20年3月	札幌市立大学研究論文集、第2巻第1号、pp.25-32
	4　点滴スタンドのユーザビリティ評価（第2報）点滴スタンド使用時の騒音についての考察	共著	平成20年3月	札幌市立大学研究論文集、第2巻第1号、pp.33-38
	5　在宅・医療機関・入所施設間の看護情報共有様式の開発	共著	平成20年3月	高齢者問題研究No.24、pp.35-48
	＜学会発表＞ 1　病院・訪問看護ステーションに勤務する看護師の雇用形態別キャリア・アンカー	共同	成19年9月	北海道医療大学看護福祉学部学会第4回学術大会
	2　点滴スタンドの使用感に関する調査（第1報）－患者と看護師へのインタビュー調査結果－	共同	平成19年9月	第15回看護人間工学部会研究会抄録集、p.7
	3　点滴スタンドのユーザビリティ評価（第2報）－患者へのSD法を用いた質問紙調査結果－	共同	平成19年9月	第15回看護人間工学部会研究会抄録集、p.8
	4　点滴スタンドのユーザビリティ評価（第3報）－使用時の騒音に関する考察－	共同	平成19年11月	平成19年度日本人間工学会北海道支部大会抄録集、p.6
	5　高齢者ユーザーによる家電機器操作用語の理解度評価－操作用語の多面的属性分析に基づくわかりやすさの評価－	共同	平成19年11月	平成19年度日本人間工学会北海道支部大会抄録集、p.7

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
照井　レナ	6　積雪寒冷地域に居住する高齢者の主観的幸福感を規定する要因研究　第一報：過疎地域（漁村）	共同	平成19年12月	第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.416
	7　積雪寒冷地域に居住する高齢者の主観的幸福感を規定する要因研究　第二報：都市部	共同	平成19年12月	第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.417
	8　訪問看護ステーション・病院・老人保健施設の円滑な看護情報授受に向けて－受け手はどんな情報を必要としているか－	共同	平成20年3月	第12回日本在宅ケア学会学術集会講演集、p.57
原井　美佳	＜学術論文＞ 1　看護師長アイデンティティに関連する要因の検討	単著	平成20年3月	日本看護管理学会誌、11(2)、pp.59-66
福島　眞里	＜研究報告書＞ 1　就学前の子どもを育てる働く女性の現状－札幌市認可保育所を利用する母親たち－	共著	平成20年3月	札幌市立大学共同研究費研究成果報告書
	＜学会発表＞ 1　二分脊椎患児の学校生活の課題－自己導尿を必要とする1事例のインタビューの分析から－	単独	平成19年4月	北海道小児保健研究会
	2　就学前の子どもを持つ勤労女性の実態（第1報）－就労環境と育児にかかわる負担－	共同	平成20年3月	第22回日本助産学会学術集会集録、p.156
	3　就学前の子どもを持つ勤労女性の実態（第2報）－育児を支える要因の分析－	共同	平成20年3月	第22回日本助産学会学術集会集録、p.157
測本　雅昭	＜学術論文＞ 1　脳神経領域における業務に関する困難さと疲労に関する考察	共著	平成20年1月	第38回日本看護学会論文集看護教育、pp.174-176
	2　脳神経領域看護の院外教育支援プログラムの構築に向けて3－院外教育支援プログラムの活用状況からみた評価－	共著	平成20年1月	第38回日本看護学会論文集看護教育、pp.376-379
	3　脳神経領域看護のキャリア形成に於ける教育研修ニーズ	共著	平成20年2月	ブレインナーシング、24(2)、pp.105-111
	＜学会発表＞ 1　脳神経領域における業務に関する困難と疲労に関する考察	共同	平成19年8月	第38回日本看護学会看護教育収録集、p.113
	2　脳神経領域看護のキャリア形成における研修ニーズの実態	共同	平成19年8月	第38回日本看護学会看護教育収録集、p.257
	3　脳神経領域看護への院外教育支援プログラムの評価－活用状況から見た研修効果の実態－	共同	平成19年8月	第38回日本看護学会看護教育収録集、p.258
	4　脳神経看護に関する院外教育支援に関する検討－フィジカルアセスメントの研修の評価－	共同	平成19年9月	第34回日本脳神経看護研究学会収録集、p.71
	＜その他＞ 1　エキスパートはココを見る！危機回避のためのフィジカルアセスメントの極意・胸痛と呼吸困難を訴える患者	単著	平成19年5月	呼吸器ケア、pp.44-51
	2　酸素療法	単著	平成19年6月	エキスパートナース、pp.36-38

教員名	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
松村　寛子	＜学術論文等＞			
	1　地域に根ざす住民主体の健康づくりグループ活動の発展に関する一考察	共著	平成20年3月	札幌市立大学研究論文集、第2巻第1号、pp.17-24
	＜学会発表＞			
	1　母乳育児をめぐる母親の精神的健康－母親の主観的体験から介入のニーズを探る－	共同	平成19年6月	第17回日本精神保健看護学会学術集会抄録集、pp.42-43
	2　子どもの医療受診時におけるバンコク滞在中の母親の不安－質問紙調査を用いた自由記載内容の分析－	共同	平成19年7月	第11回日本渡航医学会学術集会抄録集、p.25
	3　東南アジアで育児をする日本人の母親の主観的健康感に影響を及ぼす要因の検討	共同	平成19年7月	第10回日本地域看護学会学術集会講演集、p.88
	4　都市に居住する健康高齢者の外出行動とその背景要因に関する検討－心理社会的要求に焦点をあてて－	共同	平成19年7月	日本地域看護学会第10回学術集会講演集、p.187
	5　積雪寒冷地方都市の高齢者の外出に関する研究（第1報）夏季と冬季の健康及び社会活動	共同	平成19年10月	第66回日本公衆衛生学会総会抄録集、p.316
	6　積雪寒冷地方都市の高齢者の外出に関する研究（第2報）積雪・寒冷が外出に及ぼす影響	共同	平成19年10月	第66回日本公衆衛生学会総会抄録集、p.316
	7　子どもの虐待等に関わる保育士が経験する負担と対処	共同	平成19年12月	第27回日本看護科学学会学術集会講演集、p.468
三上　智子	＜学術論文＞			
	1　Comparative sequence analysis of leucine-rich repeats（LRRs）within vertebrate Toll-like receptors	共著	平成19年8月	BMC Genomics, pp.124-143
	2　小児用サークルベッドの安全性に関する検討	単著	平成19年10月	北海道小児保健研究会会誌、pp.42-44
	3　喫煙習慣を有する初産婦の妊娠期から出産3ヶ月後までの喫煙行動	共著	平成19年12月	札幌医科大学保健医療学部紀要、第10号、pp.19-26
	4　男子医療系専門学校生の骨の健康についての関心の有無が食・生活習慣や自覚的健康状態に及ぼす影響	共著	平成19年12月	札幌医科大学保健医療学部紀要、第10号、pp.1-9
	＜学会発表＞			
	1　小児用サークルベッドの安全性に関する検討	単独	平成19年5月	北海道小児保健研究会
	2　ロイシンリッチリピート（LRR）蛋白質とリガンドとの相互作用	共同	平成19年12月	第30回日本分子生物学会年会・第80回日本生化学会大会合同大会
	3　就職活動時期の看護学生が望む職場及びプリセプター像	共同	平成19年12月	第27回日本看護科学学会学術集会
	4　生命情報学的アプローチによるロイシンリッチリピート蛋白質のIslandドメインの研究	共同	平成20年3月	日本生物物理学会北海道支部例会

社会活動

1　地域貢献諸活動

1）　地域との連携研究

研究課題	期間	概要	連携先
円山動物園のリニューアル計画に関する研究	平成19年6月1日 ～平成20年2月29日	円山動物園のリニューアル計画として、基本構想に基づく以下の5つのプロジェクトを実施し、整備計画の導入部を学術的に支援した。 ①ビオトープ植物群落整備デザイン ②アニマルセラピー効果の基礎的検証 ③わかりやすい展示デザイン ④環境に配慮した施設計画と環境教育 ⑤新生　円山動物園にイメージ連動したインフォメーションデザイン・システムの構築	札幌市円山動物園
大学と地域の連携による都市再生のあり方研究	平成19年8月3日 ～平成20年3月31日	札幌市では平成19年度において、「大学と地域の連携による都市再生の推進」を目的とする調査事業を実施した。当該事業を効果的に推進するために、本学地域連携研究センターでは、4つのテーマの研究会（都市景観研究会、子育て支援研究会、図書館連携研究会、大学地域連携研究会）を設置し、調査研究を行い、その成果を取りまとめた。	札幌市市民まちづくり局
シーニックバイウェイ制度を活用したまちづくりの研究	平成19年9月10日 ～平成20年3月31日	札幌市南区における沿道景観調査として、国道230号線などの街並み景観の修景計画を行い、景観意識調査として、2,000名の区民を対象に、南区の景観に対する意識調査を行った。また、南区ブランドの形成として、札幌軟石のブランド化に向けた検討を行った。その他、札幌市南区シーニックバイウェイ検討協議会へ参加し、専門的見地から助言や政策提言を行った。	札幌市南区
国際園芸博覧会構想検討基礎調査・研究	平成19年10月1日 ～平成20年3月31日	国際園芸博覧会を札幌市で開催する可能性について、環境と園芸、デザインをテーマにした博覧会を提案した。調査・研究内容項目は、テーマ、候補地、開催意義、開催時期、目標入場者数、事業費、経済波及効果等である。	札幌市市民まちづくり局

研究課題	期間	概要	連携先
商店街の魅力向上に関する事前研究	平成20年2月15日 ～3月31日	札幌市における110の商店街のうち、行啓通商店街、栄町中央商店街、発寒商店街、手稲本町商店街、末広商店街の5商店街の現況調査と各商店街振興組合のヒヤリングを行い、商店街の魅力向上に向けた眼に見える部分のデザイン要素と眼に見えないデザイン要素について検討し、札幌市立大学デザイン学部として貢献できる点について検討した。	札幌市経済局産業振興部
景観重要建築物等の指定プレート作成に係る受託研究	平成20年3月3日 ～3月28日	景観重要建造物などの保存･活用推進事業の一つである「札幌市景観重要建築物」指定制度が、条例改正に伴い法に基づく指定が新たにできるようになったこと、また、自主条例として、これまでの指定要件の枠を広げ、銅像や橋なども指定することができるよう「札幌景観資産」に改名したことなどから、従来の指定プレートを見直し、新たなデザインの方向性を模索して具体的な提案を行った。	札幌市市民まちづくり局
生態展示サービス施設向け顧客参加型コミュニケーションシステムの開発	平成19年9月3日 ～平成20年2月29日	生活者のライフスタイルの変化などにより、再構築を迫られているサービス産業のひとつである動物園の生産性向上を目的として実施した。生産性向上をコスト削減とサービスの付加価値向上と定義し、そのためにITを導入した新たなシステム（弟路郎ファミリーシステム）を提案、79家族を被験者として実証実験を札幌市円山動物園で実施した。その結果、ITが業務の効率化によるコスト削減だけでなく、動物と顧客との間の距離の短縮、接触時間の延長に一定の効果があることが確認できた。	経済産業省サービス産業生産性向上支援調査事業
滝野すずらん丘陵公園ランドスケープデザイン	平成19年6月1日 ～10月31日	国営滝野すずらん丘陵公園において、ランドスケープデザインの提案を行った。開設当初に整備された渓流ゾーンを対象地として、札幌市立高等専門学校専攻科「環境デザイン特別演習」「建築デザイン特別演習」の授業の中で、新たなデザイン提案と作品制作を行った。	㈶公園緑地管理財団滝野管理センター

研究課題	期間	概要	連携先
医療法人渓人会　西円山病院 西円山ピッコロ保育園・壁画デザインの提案	平成19年6月1日 ～平成20年2月29日	西円山ピッコロ保育園の新築計画にあたり、新築建物の外壁を活用して、地域に親しみのある、感性・創造性に訴える壁画デザインの提案を、本学の学生作品コンペティション形式によって実施した。作品は11名13作品の応募があり、施設内での投票結果と研究担当者の調整作業によって実施・施行1案を選定した。	医療法人渓仁会　西円山病院
保護・介護製品パンフレットの企画及び制作研究	平成19年8月1日 ～平成20年3月31日	㈱特殊衣料が国際福祉機器展2008で発表する新製品用販促ツールなどの作成を、デザインとブランディングの視点から実施した。新素材EVAを使った保護帽インターのパンフレットの企画提案、HCR展におけるブースアイコンのデザイン企画並びに既存の販促物の商品内容変更に伴うデザインの更新を行った。また、関連するブランドにおいてデザインに関する助言を継続的に行っている。	㈱特殊衣料
平成19年度イノベーション実用化開発助成事業（大学発事業創出実用化研究開発事業）「半側空間無視者支援のための視覚情報バリアフリー機器開発」	平成19年9月10日 ～平成20年3月31日	脳卒中後遺症の一つである半側空間無視等の視覚認知障害を解決する福祉機器として、小型CCDカメラつきヘッドマウントディスプレイ（HMD）システムの開発研究を行った。	北海道ティー・エル・オー㈱
1. ユーザテスト記録・分析プロセスの標準化研究 2. ペルソナ（被験者）最適化指標の研究	平成19年9月14日 ～平成20年3月31日	ユーザビリティ評価手法の要素研究として、ペルソナ（対象ユーザー）最適化の検討、ユーザテストの記録・分析の効率化のため、Power Pointを用いたラピッドプロトタイピングと連動した被験者のプロファイルデータ、操作ログ、主観評価データの自動記録方式の基礎的検討を実施。実用化への道筋をつけることができた。	㈱ユーザデザインラボ
創造的健康情報プラットフォームの研究	平成19年11月10日 ～平成20年3月31日	NTTデータ㈱の健康創造事業である「クリエイティブヘルスビデオ」の情報配信システムのプロトタイプ研究開発を行い、当該プロジェクトの運用フロー、実証実験映像コンテンツ制作からポッドキャスト配信を実現した。一般公開コンテンツ配信システムのプロトタイプを創出した。	㈶北海道地域総合振興機構
札幌市円山動物園環境共生カフェの基本計画	平成19年11月15日 ～平成20年3月31日	札幌市円山動物園内に出展する環境共生カフェの基本計画（監修）を行い、同カフェにおけるサービス内容（飲食物の提供、リサイクル、環境教育プログラム等のイベントなど）について提案を行った。	北海道コカ・コーラボトリング㈱

2） 高大連携

①デザイン学部　第1回高大連携公開講座

開催日	高校名	参加生徒数	タイトル	担当教員
平成19年12月17日	北海道札幌旭丘高等学校 北海道札幌開成高等学校 北海道札幌藻岩高等学校 北海道札幌清田高等学校 北海道札幌新川高等学校 北海道札幌平岸高等学校	169人	プロジェクト・メガネ／空間デザインの魅力	山　田　　良
			デザインの領域－印刷から映像まで－	望　月　　澄　人

②看護学部　高大連携講座

期間	高校名	受講生徒数	受講科目名	担当教員
平成19年10月2日 ～平成20年2月4日	北海道札幌新川高等学校	2人	人間発達援助論	◎宮崎　みち子 中村　恵子 坂倉　恵美子 松浦　和代
		3人	チーム医療論	◎河野　總子 中村　恵子

◎印：科目責任者（オムニバス形式等の場合）

3） 高校出前講義

開催日	高校名	テーマ	担当教員
平成19年10月11日	北海道札幌新川高等学校	母性看護学－リプロダクティブヘルス・ライツ－	宮崎　みち子
平成19年10月30日	市立函館高等学校	住まいのデザイン	那　須　　聖
平成19年11月14日	北海道札幌平岸高等学校	アートとデザインを理解する方法	武　邑　光　裕
平成19年11月14日	北海道札幌旭丘高等学校	21世紀デザインにおける道具学的視座	石　崎　友　紀
平成19年11月14日	北海道札幌国際情報高等学校	デザインが我々にもたらすコト	細　谷　多　聞
平成19年12月7日	北海道小樽潮陵高等学校	学部説明分科会（デザイン学部）	矢　部　和　夫

4） 中学生を対象にした職業体験のキャリア教育

開催日	中学校名	タイトル	担当教員
平成19年8月22日	網走市立第一中学校	進路体験学習	吉川　由希子
平成19年8月28日	江別市立江別第一中学校	総合的な学習	吉川　由希子
平成19年8月29日	網走市立第三中学校	訪問学習	渡邉　由加利
平成19年8月30日	滝上町立滝上中学校	修学旅行自主研修	樋之津　淳子
平成19年11月13日	札幌市立八軒中学校	職場体験学習	坂倉　恵美子

5） 学生参加事業

参加日・期間	内容	主催者	会場	参加学生数	担当教員
平成19年4月	乳がん検診PRポストカードのデザイン	㈱北海道新聞社、㈱道新サービスセンターオントナ事業部		26人	齋藤　利明
平成19年6月16日	北海道神宮祭例祭において、第十六桑園祭典区の委員として、また、同区所有の御輿の手古舞として参加	北海道神宮	札幌市中央区	4人	照井　レナ
平成19年6月17日	小樽市の塩谷丸山登山に参加し、市民と交流	桑園地区連合町内会体育部	塩谷丸山	1人	照井　レナ
平成19年7月1日	白石区民まつり　広報ポスターデザイン・プロジェクト	札幌市白石区	札幌市白石区役所	1人	斉藤　雅也
平成19年7月8日	「第12回精神障害者社会参加促進研修会及び第23回道回連総会」の運営補助業務	北海道精神障害者回復者クラブ連合会	札幌市社会福祉総合センター	3人	守村　洋 河村　奈美子
平成19年7月13日	地域のイベントであるさくらんぼ祭りの実行委員長として企画・運営、サイン・看板作成などを実施（来場者4,000人以上）	さくらんぼ祭り実行委員会	札幌市南区砥山	3人	吉田　惠介
平成19年7月31日 ～9月15日	「西円山ピッコロ保育園」外壁デザイン・プロジェクトをデザインコンペティション形式によって運営	医療法人渓仁会西円山病院	医療法人渓仁会西円山病院	9人	吉田　和夫 大渕　一博 斉藤　雅也 守村　洋
平成19年8月 ～平成20年2月	大学生と考える景観研究会「With“U”Project」	札幌市	札幌市立大学サテライトキャンパス、札幌サンプラザ、他市内各所	5人	吉田　惠介 那須　聖
平成19年8月1日 ～平成20年2月10日	㈳日本建築家協会北海道支部20周年記念建築家展における上遠野徹家住宅模型制作監修	㈳日本建築家協会北海道支部	北海道立近代美術館	3人	羽深　久夫 那須　聖
平成19年8月19日	札幌テレビ放送㈱「24時間テレビ」で「エコバック」のデザインを実地で制作	札幌テレビ放送㈱	イオン札幌発寒ショッピングセンター	10人	細谷　多聞
平成19年8月22日	児童会館に遊びに来ている幼児や児童を対象とした絵本の読み聞かせ	桑園児童会館	桑園児童会館	8人	保田　玲子
平成19年8月24日	小学生を対象とした絵本の読み聞かせ	札幌市立桑園小学校	札幌市立桑園小学校	7人	保田　玲子
平成19年8月25日	老年領域研究のフィールドであるイベント「はまなす・ふうどフォーラム」に参加し、他大学学生及び参加市民と交流	石狩市	浜益区	6人	加藤　登紀子 坂倉　恵美子

参加日・期間	内容	主催者	会場	参加学生数	担当教員
平成19年8月25日	桑園地区子ども大縄跳び大会の運営協力	桑園地区青少年育成委員会	札幌市立桑園小学校	8人	守村　洋 進藤　ゆかり
平成19年9月1日、9月2日	札幌メディア・アート・トライアル2007 コンペティションにおいて､「ゴモラ」というキャラクターと、子供たちがゴミ分別の知識を体で理解できる「ゴミ体操」を提案し、グランプリと市民賞を受賞	札幌メディア・アート・フォーラム	北翔大学北方圏学術情報センターPORTO	11人	須之内　元洋
平成19年9月2日	桑園地区運動会の運営協力	桑園地区連合町内会	札幌市立桑園小学校	5人	保田　玲子
平成19年9月20日	第4回感性技術フォーラム	北海道感性産業開発ネットワーク（KIND）	札幌市立大学サテライトキャンパス	10人	酒井　正幸 城間　祥之 細谷　多聞
平成19年9月23日～11月4日	札幌デザインウィーク期間中の屋台開発プロジェクトのマネジメント及び札幌市立大学紹介展示のマネジメント	㈱内田洋行北海道支社	㈱内田洋行北海道支社	10人	羽深　久夫
平成19年9月30日	「がまんしないで生理痛－あなたの悩みはみんなの悩み－」の開催協力､「生理痛を和らげるツボ」に関するパネルによるプレゼンテーション、パンフレット作成、運営補助など実施	性と健康を考える女性専門家の会北海道支部	プラニスホール	4人	宮﨑　みち子 渡邉　由加利
平成19年10月3日～平成20年1月12日	平成19年度芸術の森地区「雪あかりの祭典」	札幌市南区芸術の森地区町内会連合会	札幌市立大学芸術の森キャンパス	60人	羽深　久夫
平成19年10月10日～平成19年11月1日	札幌市が毎年年末に札幌市のPRを兼ねて市長名で作成し、海外に向けて送付する「グリーティングカード」の制作と審査	札幌市	札幌市総務局	22人	望月　澄人
平成19月11月～平成20年3月2日	「地域協働事業in赤平よりみちの駅サイン&プロモーション計画」の計画と制作	中空知地域協働研究会、北海道開発局	よりみちの駅「幌岡SOUKO」	5人	上遠野　敏
平成19年11月1日～平成20年3月31日	大学生参加による町内会加入・活動参加促進ポスター検討・制作事業	札幌市市民まちづくり局	さっぽろテレビ塔	9人	羽深　久夫 望月　澄人
平成19年11月3日	第22回桑園地区ボウリング大会に参加し、市民と交流	桑園地区連合町内会体育部	サンコーボウル	2人	守村　洋
平成19年11月8日～29日	「第2次札幌新まちづくり計画書」冊子の表紙デザイン（学内募集）	札幌市		14人	吉田　和夫

参加日・期間	内容	主催者	会場	参加学生数	担当教員
平成19年11月14日～平成20年2月17日	第2回学生まちづくりプレゼンテーション－雪あかりの祭典ARTOU－	札幌市市民まちづくり局	サッポロファクトリー	60人	羽深　久夫
平成19年12月5日～7日	札幌市電「イルミネーション電車」デザイン・制作	路面電車沿線活性化協議会	札幌市交通局	5人	山田　良
平成19年12月7日～平成20年3月28日	「少子化を考える学生プロジェクト」の一環として「ワーク・ライフ・バランス」をテーマにした映画館用のCM（シネアド）、柱巻き広告（アドピラー）の制作	札幌市	さっぽろ地下街オーロラタウン、札幌シネマフロンティア	33人	武邑　光裕 上遠野　敏 吉田　和夫 エル サニ マロアン フィッシャー ニーナ 須之内　元洋
平成20年2月27日	「少子化を考える学生プロジェクト」の一環として「ワーク・ライフ・バランス」をテーマにした映画館用のCM（シネアド）、柱巻き広告（アドピラー）制作の市長への事業発表会	札幌市	市長会議室	30人	武邑　光裕 吉田　和夫
平成20年3月	札幌市職員募集ポスターのデザイン制作	札幌市		20人	齋藤　利明

6）　その他の地域貢献諸活動

参加日・期間	内容	主催者	会場	教員名
平成19年4月～平成20年3月	札幌市南区農業地帯の地域振興を図るため、市民の農業体験、食関連商品開発、国際交流事業などを隊長として運営	八剣山発見隊	札幌市南区砥山	吉田　惠介
平成19年4月～12月	グループホームにおける人材開発指導	ひたちの里 風神の湯	ひたちの里 風神の湯	スーディ神崎 和代
平成19年4月～平成20年3月	ラジオ番組「いいこいいこ」での健康情報や子育て情報の発信と育児相談（月1回）	三角山放送局	三角山放送局	髙室　典子
平成19年4月～平成20年3月	こころの健康相談	NPO法人こころ	北海道医療大学札幌サテライトキャンパス	塚辺　繭子
平成19年4月21日	講演会「札幌市南区芸術の森地区まちづくりをふりかえって」の主旨説明・司会進行	札幌市南区芸術の森地区町内会連合会	札幌市立大学芸術の森キャンパス	羽深　久夫
平成19年4月21日	石山古民家解体現場見学会の解説	NPO法人北の民家の会	岩本家住宅（札幌市南区石山）	羽深　久夫

参加日・期間	内容	主催者	会場	教員名
平成19年4月27日、10月27日	「全国心臓病の子どもを守る会」北海道支部において定例会活動に参加	全国心臓病の子どもを守る会北海道事務局	北海道難病センター	松浦　和代
平成19年5月10日、7月12日	「まちの保健室」において、保健師・助産師・看護師の三者が協力し合い、市民の心身の相談事に対応	㈳北海道看護協会	旭山公園通地区センター	宮﨑　みち子
平成19年5月12日	医療通訳ボランティアの養成活動及び異文化間の国際ボランティア活動	NPO法人外国人医療を考える会（エスニコ）	札幌国際プラザ	髙室　典子
平成19年6月23日	北海道口腔ケア研究会第3回研修会の企画運営	北海道口腔ケア研究会	札幌コンベンションセンター	村松　真澄
平成19年6月29日	「栄久庵憲司デザイン講演会in札幌」の実行委員として企画運営	栄久庵憲司デザイン講演会札幌実行委員会	大学共同利用施設ACU	石崎　友紀 三谷　篤史
平成19年6月30日	NPO法人北の民家の会第3回定期総会・記念講演会「海老崎棟梁、錦帯橋を語る」の司会進行	NPO法人北の民家の会	札幌市立大学サテライトキャンパス	羽深　久夫
平成19年7月7日	園芸作業	市立札幌病院ボランティアの会「やさしさ・ジェントル」	市立札幌病院	大野　夏代
平成19年7月18日	ブナ里C（夏の特別レクチャー）「学校を測ろう　身体で感じる（五感）、道具で測る」	環境省、黒松内町教育委員会	黒松内町立黒松内中学校	斉藤　雅也
平成19年7月21日	地域づくりフォーラム「クリエイティブシティへ向けて」において市民と対話	北海道東海大学	北海道東海大学	原田　昭
平成19年7月21日	製材ワークショップ（第2弾）と家具制作体験の司会進行	NPO法人北の民家の会	クラレインテリア㈱	羽深　久夫
平成19年7月26日～28日	トライアスカル　小学生体験学習キャンプ	江別市、江別市教育委員会、アトリエ陶「風の村」	アトリエ陶「風の村」	矢部　和夫
平成19年7月26日	エアコンにたよらない暑さ対策は「すだれ」が有効（北海道建設新聞3面に掲載）	㈱北海道建設新聞社		斉藤　雅也
平成19年7月27日～29日	第7回青森県小児糖尿病サマーキャンプ　に参加し、キャンパーの糖尿病患児の健康管理や日常生活の支援	青森県小児糖尿病サマーキャンプ実行委員会	国民宿舎おおわに山荘	吉川　由希子
平成19年7月27日	乳幼児を持つ母親対象の「親子のためのふれあい教室」でベビーマッサージを教授	札幌市子ども未来局	札幌市宮の沢児童会館	髙室　典子
平成19年8月	夕張市炭鉱機関車機械遺産申請協力	機関車保存会	夕張市南清水沢集会場	スーディ神崎 和代

参加日・期間	内容	主催者	会場	教員名
平成19年8月5日	古き建物を描く会「第22回　旧永山武四郎邸」の解説	古き建物を描く会	旧永山武四郎邸	羽深　久夫
平成19年8月10日～13日	第34回北海道小児糖尿病サマーキャンプに参加し、キャンパーの糖尿病患児の健康管理や日常生活の支援	北海道つぼみの会	北海道立青年の家	吉川　由希子
平成19年8月25日	シンポジウム「近藤棟梁を語る会」の司会進行	NPO法人北の民家の会	北海道開拓の村	羽深　久夫
平成19年8月30日	第1回札幌市円山動物園市民会議にて委員長を担当し、市民と討論	札幌市環境局	札幌市円山動物園	原田　昭
平成19年9月2日	古き建物を描く会「第23回　日本キリスト教団札幌教会」の解説	古き建物を描く会	日本キリスト教団札幌教会	羽深　久夫
平成19年9月8日	札幌市南区における歴史的建造物と公園施設見学会の解説	㈳日本造園学会北海道支部	藤野むくどり公園、旧黒岩家住宅、札幌市アイヌ文化交流センター、滝野すずらん丘陵公園	吉田　惠介 羽深　久夫
平成19年9月15日	羅臼町「クジラの見える丘公園」（展望デッキと看板）のデザイン提供、共同制作	知床クジラの会		片山　めぐみ
平成19年9月16日	「すみれ祭」の運営補助業務	NPO法人すみれ会	NPO法人すみれ会	守村　洋
平成19年9月23日	シンポジウム「公共建築物の再生・活用を考える」の司会進行	NPO法人北の民家の会	アルテピアッツァ美唄	羽深　久夫
平成19年9月29日～10月14日	滝野すずらん丘陵公園の渓流ゾーンで札幌市立高等専門学校専攻科生制作のアースワークイベントを実施	㈶公園緑地管理財団　滝野管理センター	滝野すずらん丘陵公園	吉田　惠介 上遠野　敏 那須　聖 山田　良
平成19年10月6日～8日	「第6回全国ヤングDMカンファレンス in Hokkaido」に企画運営委員等として参加し、青年期以降の1型糖尿病患者の学習・交流会を企画運営	㈳日本糖尿病協会	登別万世閣	吉川　由希子 福島　眞里
平成19年10月7日	古き建物を描く会「第24回　旧小熊邸（ろいず珈琲館）」の解説	古き建物を描く会	旧小熊邸	羽深　久夫
平成19年10月21日	デザイン技術指導	NPO法人札幌村文化センター	札幌グランドホテル	石崎　友紀
平成19年10月21日	第19回桑園地区文化祭の会場設営・運営協力	桑園地区連合町内会文化部	桑園ふれあいセンター	保田　玲子 進藤　ゆかり 照井　レナ
平成19年10月27日	「薪をエネルギーとして活用する建物の見学会」の司会進行	NPO法人北の民家の会	寧楽共働学舎	羽深　久夫
平成19年11月1日～3日	札幌デザインウィーク、㈶札幌市公園緑化協会主催の市民講演会を実施し、緑のボランティア育成講座を運営	NPO法人北海道デザインネットワーク、㈶札幌市公園緑化協会	札幌市立大学サテライトキャンパス	吉田　惠介

参加日・期間	内容	主催者	会場	教員名
平成19年11月2日	番組Coke Friend' sにて「札幌市立大学の紹介」	㈱エフエムとよひら	㈱エフエムとよひら	斉藤　雅也
平成19年11月9日	IDCID(International Digital Context Innovation Design) 日本訪問団　札幌市立大学デザイン学部の視察プログラムにて、地域連携研究「Redesign Project on the Sapporo Maruyama Zoo Park」の紹介	IDCID、札幌市立大学デザイン学部	札幌市立大学芸術の森キャンパス	斉藤　雅也
平成19年11月16日	サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト（SPP）講師を担当し、高校生向けに講義「『温房』・『涼房』のメカニズム」	㈱科学技術振興機構	北海道旭川東高等学校	斉藤　雅也
平成19年11月16日～17日	第4回北海道ホスピタルショウ2007において、口腔ケアセッションで地域の病院看護師による口腔ケアに関する実演・相談コーナーを企画	㈳日本経営協会	札幌コンベンションセンター	村松　真澄
平成19年11月30日	第2回札幌市円山動物園市民会議にて委員長を担当し、市民と討論	札幌市環境局	札幌市円山動物園	原田　昭
平成19年12月8日～平成20年3月31日	「OYOYO（大通まち×アートセンター）」市民のためのギャラリー空間設立プロジェクトに参画	大通地区まちづくり協議会	第2三谷ビル	山田　良
平成19年12月10日	ブナ里C（冬の特別レクチャー）「温度を知ることから始まる　快適エコライフ」	環境省、黒松内町教育委員会	黒松内町立黒松内中学校	斉藤　雅也
平成19年12月14日～平成20年1月18日	札幌市交通局の共通ウィズユーカード（大人用、子供用）のデザイン（札幌市立高等専門学校視覚デザインコースより募集）	札幌市交通局		吉田　和夫
平成20年1月15日	札幌市文化芸術基本計画策定に係る懇話会	札幌市観光文化局	札幌市役所	上遠野　敏
平成20年1月19日	平成19年度訪問看護師実践発表会司会	㈳北海道看護協会	北海道看護研修会館	菊地　ひろみ
平成20年2月2日	北海道口腔ケア研究会第4回研修会の企画、運営	北海道口腔ケア研究会	旭川大雪クリスタルホール	村松　真澄
平成20年2月5日	ホスピタルスノーふれあいフェスティバル	市立札幌病院ボランティアの会「やさしさ・ジェントル」	市立札幌病院	大野　夏代
平成20年3月1日	第3回札幌市円山動物園市民会議にて委員長を担当し、市民と討論	札幌市環境局	札幌市円山動物園	原田　昭

7） 札幌市円山動物園プロジェクト

年月	内容	参加学生数	担当教員
平成19年7月	類人猿館屋外放養場基本デザイン案の提示	－	◎斉藤　雅也 片山　めぐみ
	札幌市長定例記者会見にて、上田市長より「アニマルセラピーに関する札幌市立大学と円山動物園の共同研究について」記者発表	－	◎守村　洋 河村　奈美子
	動物個別ピクトグラムデザインの方向性提案（オリジナルグッズ「木のZOO」とのデザイン連動）	1人	吉田　和夫
平成19年8月	こども動物園（ヤギ山）のデザイン案提案 （札幌市立大学生と札幌市立高等専門学校生との共同プロジェクト）	5人	◎片山　めぐみ 酒井　正幸 張　浦華 斉藤　雅也
	こども動物園雨水利用システムの技術提案	－	斉藤　雅也
	円山動物園内生態系調査	2人	◎矢部　和夫 酒井　正幸
平成19年9月	デザインスクールリーグ2007（東京）にて円山動物園プロジェクトの成果発表	－	◎吉田　和夫 酒井　正幸 斉藤　雅也
	経済産業省のサービス産業生産性向上支援調査事業（サービス工学適用実証分野）に「生態展示サービス施設向け顧客参加型コミュニケーションシステムの開発」で応募､採択。応募主体はコンソーシアム「北海道感性サービス産業ネットワーク」（代表団体　札幌市立大学）	4人	◎酒井　正幸 細谷　多聞 斉藤　雅也 他
平成19年10月	市民向け「円山動物園の森」観察会（秋季）インストラクター	－	◎矢部　和夫 酒井　正幸
平成20年1月	こども動物園建物壁面の色彩計画	－	◎片山　めぐみ 斉藤　雅也
平成20年2月	経済産業省の「サービス産業生産性向上支援調査事業（サービス工学適用実証分野）－生態展示サービス施設向け顧客参加型コミュニケーションシステムの開発－」終了、最終報告（東京）	－	◎酒井　正幸 細谷　多聞 斉藤　雅也 他
	円山動物園・上田市長と語る会参加（札幌市立大学生と札幌市立高等専門学校生）	2人	◎酒井　正幸 片山　めぐみ
	欧州動物園視察（展示室の温熱環境、展示システムコンセプト調査）	－	◎斉藤　雅也 片山　めぐみ
	「地球温暖化影響展」における冬の過ごし方に関する調査 （円山動物園、チームマイナス6%（環境省）との共同調査）	1人	斉藤　雅也
平成20年3月	円山動物園スネークアート展支援	－	◎細谷　多聞 斉藤　雅也
	市民向け「円山動物園の森」整備計画説明会（コーディネータ、発表者）	－	◎矢部　和夫 酒井　正幸
	円山動物園オフィシャルショップシンボルマークとロゴタイプ作成	1人	吉田　和夫
	こども動物園、オオカミ・エゾシカ館サインデザイン作成（JIS図記号の運用、館名板）	1人	◎吉田　和夫 斉藤　雅也
	類人猿館 館名板等デザイン提案	1人	◎吉田　和夫 斉藤　雅也

◎：主担当者

2　公開講座開催実績

延べ26コース、58コマ、総受講者数2,393人

コース名／開催日	テーマ	講師	受講者数
札幌市立大学　産学連携講座－価値創造経済へのロードマップ－			
平成19年4月27日	アイデアが生み出す新しいビジネス		100
	第1部：「FON is a revolution」 第2部：「FONと地域情報化」	Nina Nikkhou （フォン・ジャパン㈱コーポレートコミュニケーショングループ　ディレクター） 井上　恒一 （㈱DGインキュベーション　マネージャー） 司会・コーディネータ 武邑　光裕 （札幌市立大学　附属図書館長・デザイン学部教授）	
平成19年5月25日	映像コンテンツと地域再生		100
	欧州コンテンツ流通の最前線－ベルリンフィルムコミッションの挑戦	エル サニ マロアン （札幌市立大学　デザイン学部准教授） フィッシャー ニーナ （札幌市立大学　デザイン学部准教授） 司会・コーディネータ 武邑　光裕 （札幌市立大学　附属図書館長・デザイン学部教授）	
平成19年6月30日	クラブデザインの秘術 感応する空間デザインの技法－Esoteric Methods for Club Design－		30
	講座1：空間デザイン総合ワークショップ 講座2：クラブデザイン・ワークショップ 講座3：クラブ音楽ワークショップ	江川　克之 （㈱SPフォーラム　代表取締役） 広瀬　郁 （㈱都市デザインシステム　事業開発プロデューサー） 大黒　淳一 （Composer/Sound Media Artist） 司会・コーディネータ 武邑　光裕 （札幌市立大学　附属図書館長・デザイン学部教授）	
平成19年7月13日	創造する図書館の未来像：ハイブリットライブラリーに向けて		90
	基調講演：「情報流通社会における図書館の課題とクリエイティブ・コモンズ」 特別事例研究：「デジタルシネマの未来、物質なき映画の流通に向けて」	野口　祐子 （弁護士・クリエイティブコモンズジャパン事務局長・国立情報学研究所　客員助教授） 藤井　竜也 （未来ねっと研究所メディアイノベーション研究部　グループリーダー） 司会・コーディネータ 武邑　光裕 （札幌市立大学　附属図書館長・デザイン学部教授）	

コース名／開催日	テーマ	講師	受講者数
札幌市立大学　産学連携講座－価値創造経済へのロードマップ－			
平成19年8月17日	世界におけるCreative Commons の潮流とiCommons Summit2008	Heather Ford （iCommons　取締役） 司会・コーディネータ 武邑　光裕 （札幌市立大学　附属図書館長･デザイン学部教授）	90
平成19年12月21日	DJ.ECONOMY： Tuning for Synesthesia	水口　哲也 （ゲームプロデューサー） DJ Toby （DJ） 新宮　圭輔 （Creative Producer, Beatport） 伊藤　博之 （クリプトンフューチャーメディア　代表） 元気ロケッツ （Koji Morimoto New Music Clip） 司会・コーディネータ 武邑　光裕 （札幌市立大学　附属図書館長･デザイン学部教授）	90
平成19年12月22日	創造する伝統	Oki 司会・コーディネータ 武邑　光裕 （札幌市立大学　附属図書館長･デザイン学部教授）	90
人的資源活用セミナー			
Aコース　「マナー定着のためのシステムづくり」			
平成19年5月19日	ホスピタリティマナー定着のシステム作り	長谷川　和子 （長谷川塾　代表）	15
平成19年5月26日	マナーレベル向上と院内インストラクター養成		12
平成19年6月16日	ロールプレイングと新人指導		11
平成19年6月23日	プリセプターの役割とOJTの基本ステップ		13
Bコース　「コーチング活用術」			
平成19年7月7日	コーチングの基本スキルを身につける	宇治　由美子 （ユニバーサル・ジョブズ･インク　代表）	42
平成19年7月21日	人のタイプを理解する		44
平成19年8月11日	コーチング応用スキルを身につける		37
平成19年8月25日	職場に活かすコーチング		40
Cコース　「リーダーシップ」			
平成19年9月15日	リーダーの役割を確認するとともに担当チームの目標や課題の達成をうまく進めるためのマネジメント･スキルを学びます	佐野　晴行 （酪農学園大学　環境システム学部教授）	48
平成19年9月22日	リーダーシップ力を発揮するためにどのようなスキルアップをはかり、スタッフへ働きかければよいかについて実習します		41

コース名／開催日	テーマ	講師	受講者数
人的資源活用セミナー			
Dコース 「看護管理の今までとこれから」			
平成19年10月6日	看護部門の役割	河野　總子 （札幌市立大学　看護学部教授）	59
平成19年10月20日	看護ケアの質評価		63
平成19年11月10日	看護部の組織運営		56
平成19年11月17日	人的資源の活用		48
07年ミラノサローネに見るプロダクトデザイン			
平成19年7月27日	07年ミラノサローネに見るプロダクトデザイン	杉　哲夫 （札幌市立大学　デザイン学部教授）	23
北国のポテンシャルを活かす住まいの環境～「涼しさ」・「温かさ」のデザインとは何か～			
平成19年9月5日	住まいの「涼しさ」・「温かさ」	斉藤　雅也 （札幌市立大学　デザイン学部講師）	52
平成19年9月20日	「涼しさ」・「温かさ」の提供	河野　總子 （札幌市立大学　看護学部教授）	15
平成19年10月23日	動物の暮らしと環境	本田　直也 （札幌市円山動物園飼育展示課）	26
平成19年11月30日	植物の暮らしと環境	矢部　和夫 （札幌市立大学　デザイン学部教授）	27
平成19年12月21日	人の「涼しさ」・「温かさ」感覚と環境	宿谷　昌則 （武蔵工業大学　環境情報学部教授）	28
日本の看護の歴史を学ぶ			
平成19年9月8日	日本の看護の歴史を学ぶ	Ryder島﨑　玲子 （青森中央短期大学　看護学科顧問・教授）	41
デザインスクールリーグ平成19年セミナー：創造都市とデザイン－21世紀の公立大学と地域貢献－			
平成19年9月16日	創造都市とデザイン教育 欧州創造都市とアート都市戦略 創造都市さっぽろの取り組みとiCommonsサミット開催に向けて 創造都市サッポロのブランド構築	原田　昭 （札幌市立大学　理事長・学長） 吉本　光宏 （㈱ニッセイ基礎研究所　芸術文化プロジェクト室長） 井上　力 （札幌市市民まちづくり局企画部企画課　調整担当課長） 武邑　光裕 （札幌市立大学　附属図書館長・デザイン学部教授）	20
アメリカの簡単な口腔ケア～誤嚥性肺炎予防と口から食べる支援～			
平成19年10月4日	アメリカの簡単な口腔ケア～誤嚥性肺炎予防と口から食べる支援～	Cindy Kleiman （CDA, RDH, BS）	94
アメリカの医療・看護・介護・福祉の今！			
平成19年10月13日	アメリカ医療・看護の現状	星　美和子 （札幌市立大学　看護学部講師）	13
平成19年10月18日	アメリカの医療・看護の現状と将来	スーディ神崎　和代 （札幌市立大学　看護学部教授）	29

コース名／開催日	テーマ	講師	受講者数
アメリカの医療・看護・介護・福祉の今！			
平成19年11月14日	高齢者の医療システム・看護・介護・福祉の日米比較	スーディ神崎　和代 （札幌市立大学　看護学部教授）	26
世界の歴史的建造物から学ぶ札幌のまちづくりの在り方－北欧、カフカス、東南アジアそして北海道の歴史軸を追って－			
平成19年10月26日	アルメニア共和国におけるアルメニア正教会の歴史的建造物とまちづくり－東アナトリアの建築文化と人々の生活－	篠野　志郎 （東京工業大学大学院　総合理工学研究科教授） コーディネータ 羽深　久夫 （札幌市立大学　デザイン学部教授）	41
平成19年11月27日	インドネシアにおける歴史的建造物とまちづくり	大和　智 （筑波大学大学院　人間総合科学研究科教授） コーディネータ 羽深　久夫 （札幌市立大学　デザイン学部教授）	22
平成19年12月7日	北海道のアイヌの文化期におけるチセの歴史的展開過程とまちづくり	小林　孝二 （北海道開拓記念館　主任学芸員） コーディネータ 羽深　久夫 （札幌市立大学　デザイン学部教授）	20
平成19年12月11日	フィンランドにおける歴史的建造物とまちづくり	伊藤　大介 （北海道東海大学　国際文化学部教授） コーディネータ 羽深　久夫 （札幌市立大学　デザイン学部教授）	29
平成20年1月18日	札幌市における開拓使様式建築の源流とこれからの札幌づくり	駒木　定正 （北海道職業能力開発大学校　助教授） コーディネータ 羽深　久夫 （札幌市立大学　デザイン学部教授）	32
花と緑のまちづくりデザイン講座			
平成19年11月1日	アートプロジェクトと地域デザイン	村上　修一 （滋賀県立大学　環境科学部准教授）	68
平成19年11月2日	環境共生のデザイン	酒匂　徹 （自然農園ウレシパモシリ　代表）	70
平成19年11月3日	五感を癒す庭園芸術	井上　剛宏 （作庭家）	70
	世界遺産の街並み保存と修復	三宅　理一 （慶応義塾大学大学院　政策･メディア研究科教授）	70

コース名／開催日	テーマ	講師	受講者数
SAPPOROエコデザイン			
平成19年11月3日	講義：廃材からの創造「こんにちはSECCOです」	ニーナ・パルタネン（SECCO　創設者）	88
平成19年11月4日	ワークショップ：廃材を使って自分だけのエコグッズを作ろう	ニーナ・パルタネン（SECCO　創設者） 松本　純一（リサイクルデザイナー） 鴨下　玄（金工作家）	16
子育て応援講座「はじめは誰でも1年生！」			
平成19年11月8日	子育てはじめは誰でも一年生	髙室　典子（札幌市立大学　看護学部講師） 渡邉　由加利（札幌市立大学　看護学部講師）	7
平成19年11月15日	赤ちゃんとの発達と親の関わり	髙室　典子（札幌市立大学　看護学部講師） 渡邉　由加利（札幌市立大学　看護学部講師）	9
平成19年11月22日	親から子どもにつなげるもの	藤田　春義（札幌「ニキティキろばのこ」 店主・㈲札幌第一こどものとも社　代表取締役）	13
平成19年11月29日	子どもとの遊びを学ぼう	山田　智子（NPO法人子育て応援かざぐるま　代表理事・保育士）	12
福祉工学デザイン講座「足振動刺激付きバランス機器による転倒予防」－バランストレーニングで健やかな老後を－			
Aコース			
平成19年12月1日	Aコース①	田中　敏明（札幌市立大学　デザイン学部教授）	24
平成19年12月22日	Aコース②		23
平成20年1月26日	Aコース③		23
平成20年2月23日	Aコース④		23
Bコース			
平成19年12月1日	Bコース①	田中　敏明（札幌市立大学　デザイン学部教授）	22
平成19年12月22日	Bコース②		22
平成20年1月26日	Bコース③		22
平成20年2月23日	Bコース④		22

コース名／開催日	テーマ	講師	受講者数
創造都市さっぽろ市民公開セミナー－建設から再生への転換：まちづくりへの展望－			
平成19年12月14日	第1部 基調講演「建設から再生への転換：まちづくりへの展望」 第2部 まちづくり対談	月尾　嘉男 （東京大学　名誉教授） 月尾　嘉男 （東京大学　名誉教授） 上田　文雄 （札幌市長） 武邑　光裕 （札幌市立大学　附属図書館長･デザイン学部教授）	90
臨床看護師のための指圧・マッサージ講座			
平成20年1月31日	指圧マッサージ法の基礎的知識 指圧マッサージ手技の基本 看護場面で活用できる指圧マッサージ手技とツボ（実技）	河内　香久子 （治療室シーズ　院長） 大野　夏代 （札幌市立大学　看護学部准教授）	42

3　学会及び社会における活動

デザイン学部

教員名	所属学会・委員会等
原田　昭	・日本デザイン学会　監査 ・日本感性工学会　会長／編集委員会委員 ・日本認知科学会 ・㈳日本インダストリアルデザイナー協会（JIDA）　委員 ・札幌ブランド構築･推進事業　札幌スタイル･デザイン会議（第1回～第5回）委員長（札幌市経済局） ・札幌市円山動物園市民会議（第1回～第3回）　委員長（札幌市環境局） ・感性工学と感情研究に関する国際会議2007（International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007(KEER 2007)）実行委員会　組織委員会委員長／国際会議運営委員会委員長／総務委員会委員長／論文編集・審査委員会査読者（日本感性工学会）
吉田　惠介	・日本造園学会　北海道支部常任幹事 ・㈳環境情報科学センター　論文査読者 ・日本都市計画学会 ・人文地理学会 ・地域中小企業サポーター（中小企業庁） ・全国学生指導研究集会協力者会議　委員（㈱日本学生支援機構） ・北海道特定開発行為審査会　委員（北海道） ・滝野公園自然観察ゾーンアドバイザー会議　委員（㈶日本緑化センター） ・㈶さっぽろ産業振興財団　評議員 ・NPO法人北海道デザインネットワーク　理事 ・札幌市緑の審議会　委員長（札幌市） ・藻岩山魅力アップ講想環境配慮ガイドライン検討懇談会　委員（札幌市） ・創成川アートワーク委員会　委員（札幌市） ・札幌市都市景観アドバイザー　委員（札幌市） ・札幌市都市景観賞選考委員会　委員（札幌市） ・環境首都札幌宣言市民会議　副会長（札幌市） ・札幌市温暖化対策地域推進計画改定専門家会議　委員（札幌市） ・「北国のガーデニング検定」準備委員会　委員（札幌商工会議所）
武邑　光裕	・日本予防医学リスクマネージメント学会　理事 ・芸術科学会 ・情報文化学会 ・ACM Siggraph ・総務省ITC国際競争力委員会コンテンツ部門　副座長（総務省） ・地域におけるコンテンツの流通の促進に関する検討委員会　副座長（総務省） ・地域映像コンテンツのマルチユース促進のための調査研究　委員長（札幌市） ・創造都市さっぽろ推進検討委員会　アドバイザー（札幌市） ・コンテンツ制作者の人材育成に関する調査研究　委員長（札幌市） ・The DIMEA 2008 International Technical Program Committee　国際査読委員（Second International Conference on Digital Interactive Media in Entertainment and Art, Perth, Western Australia） ・北海道における地域映像コンテンツ流通検討委員会　委員長（北海道総合通信局） ・芸術の森企画検討委員会　委員（㈶札幌市芸術文化財団） ・札幌市都市計画　特別顧問（市長委嘱） ・札幌駅前通公共地下歩道空間活用検討会　座長（札幌市） ・石川県新情報書府事業　特別顧問（石川県） ・総務省モバイルコンテンツ流通促進検討委員会　副座長（総務省） ・札幌市市民交流複合施設検討委員会　委員（札幌市） ・札幌市iCommons Summit実行委員会　副委員長（札幌市）

教員名	所属学会・委員会等
武邑　光裕	・札幌市次世代公立図書館検討委員会　委員長（札幌市） ・札幌市芸術の森リスタート委員会　アドバイザー（札幌市） ・札幌市「地上波デジタル放送検討委員会」 副委員長（札幌市） ・㈶デジタルコンテンツ協会　評議員 ・地域文化デジタル化推進協議会　副会長 ・DoCoMoクリエイターズカップ2007　審査副委員長 ・札幌メディア・アート・フェスタ2007　審査員（札幌メディア・アート・フォーラム） ・札幌国際スキー場30周年ロゴ策定審査会　委員長（札幌国際スキー場） ・クリエイティブ・コモンズ研究会　会長 ・公共図書館のあり方研究会　委員長（札幌市）
石崎　友紀	・道具学会　理事（研究担当） ・㈳日本クラフトデザイン協会　理事／教育・研究・交流事業委員会委員 ・日本デザイン学会 ・環境芸術学会 ・芸術工学会 ・北海道芸術学会 ・札幌芸術の森工芸部専門委員会　議長（㈶札幌市芸術文化財団） ・「公共建築の日」及び「公共建築月間」ポスターコンテスト審査委員会　審査委員（北海道開発局）
上遠野　敏	・空知産炭地域活性化戦略会議／広域景観調査会議　委員（空知支庁） ・FIX MIX MAX ！アワード　審査委員（FIX MIX MAX ！実行委員会）
齋藤　利明	・NPO法人テレビ日本美術家協会　理事／北海道支部長 ・芸術工学会 ・北海道芸術学会 ・北海道デザイン協議会
酒井　正幸	・日本人間工学会　平成19年度日本人間工学会北海道支部大会大会長 ・日本感性工学会 ・日本デザイン学会 ・日本ヒューマンインタフェース学会 ・札幌市円山動物園ビオトープ協議会　委員（札幌市円山動物園） ・北海道感性産業開発ネットワーク（KIND） 事務局長 ・感性工学と感情研究に関する国際会議2007（International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007(KEER 2007)）実行委員会　デザインオブエクセレンス委員会委員長（日本感性工学会） ・北のユニバーサルデザイン協議会（NUDA）準備会　座長
城間　祥之	・日本感性工学会　理事 ・芸術工学会　校閲委員 ・日本機械学会 ・精密工学会　デジタルスタイルデザイン研究分科会委員 ・日本設計工学会 ・情報処理学会 ・IEEE ・ACM ・北海道MOTコンソーシアム（推進協議会） 委員（経済産業省） ・NPO法人札幌ITフロント　理事 ・大学連携研究会　代表（札幌市市民まちづくり局） ・感性工学と感情研究に関する国際会議2007（International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007(KEER 2007)）実行委員会　国際会議運営委員会委員／プログラム委員会委員長／論文編集・審査委員会査読者（日本感性工学会）

教員名	所属学会・委員会等
城間　祥之	・Seventh International Symposium on Tools and Methods of Competitive Engineering（TMCE 2008）Organizing Committee　論文審査委員（Delft University of Technology）
杉　　哲夫	・日本デザイン学会 ・㈳日本インダストリアルデザイナー協会（JIDA）アクレジット委員会　委員 ・日本感性工学会 ・札幌スタイル・デザイン開発プロジェクト　副会長（札幌市経済局） ・平成19年北海道地域活性化　支援アドバイザー（㈱中小企業基盤整備機構）
田中　敏明	・㈳日本理学療法士協会 ・日本リハビリテーション工学協会 ・日本義肢装具学会 ・新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）　技術評価委員
中原　　宏	・北海道都市地域学会　理事 ・日本都市計画学会 ・日本建築学会 ・日本公衆衛生学会 ・「北のまちづくり賞」選考委員会　委員長（北海道） ・北海道建築士審査会　会長（北海道） ・北海道建築審査会　委員（北海道）
羽深　久夫	・日本建築学会　建築歴史・意匠委員会日本建築史小委員会委員 ・日本建築学会　北海道支部歴史意匠専門委員会委員 ・日本建築学会　北海道支部学術委員会委員 ・日本建築学会　北海道支部特定課題研究委員会主査 ・日本建築学会　論文集委員会論文査読委員 ・建築史学会 ・日本生活文化史学会 ・日本家政学会 ・北海道考古学会 ・NPO法人日本民家再生リサイクル協会　理事 ・NPO法人北の民家の会　理事長 ・NPO法人アルテピアッツァびばい ・札幌市文化財保護審議会　委員（札幌市） ・「建築学および建築学関連分野」JABEE審査プログラム　審査委員（日本技術者教育認定機構・日本建築学会） ・空知生活文化創造産業創出産官学連携推進委員会　委員長（北海道中小企業家同友会） ・札幌市南区シーニックバイウェイ検討協議会　委員（札幌市南区） ・大学生参加による町内会加入・活動参加促進ポスター検討・制作事業　オブザーバー（札幌市市民まちづくり局） ・上ノ国町文化財保護審議会　特別委員（上ノ国町教育委員会） ・芸術の森地区「雪あかりの祭典」実行委員会　委員（札幌市南区芸術の森地区町内会連合会）
原　　俊彦	・日本人口学会　理事／組織・制度検討委員会副委員長／東日本地域部会担当 ・日本家族社会学会　家族社会学研究専門委員 ・北海道社会学会　理事／研究活動委員会委員長 ・日本社会学会 ・日本政治学会 ・日本情報考古学会 ・研究評価委員会　委員（国立社会保障・人口問題研究所） ・感性工学と感情研究に関する国際会議2007（International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007(KEER 2007)）実行委員会　財務委員会委員（日本感性工学会）

教員名	所属学会・委員会等
望月　澄人	・ディジタル・イメージ ・ウェブシティさっぽろ管理運営業務実施状況評価委員会　委員（札幌市） ・札幌市デジタル創造プラザ（ICC）入居者審査会　選定委員（アドバイザー）
矢部　和夫	・日本造園学会　北海道支部会幹事 ・日本生態学会 ・応用生態工学会 ・安平川水系河川整備検討委員会　委員（北海道） ・植生図検討委員会　委員（環境省） ・釧路湿原自然再生協議会　委員（環境省） ・美々川自然再生技術検討委員会　美々川・ウトナイ湖自然再生ワーキンググループ委員（北海道）
吉田　和夫	・東京グラフィックデザイナーズクラブ（TGC） ・日本広告技術者協議会（NAAC） ・札幌市広告アドバイザー会議　委員（札幌市） ・札幌市景観審議会デザイン審査部会　委員（札幌市） ・札幌スタイル・デザインコンペティション実行委員会　委員（札幌市） ・中央区まちづくりPRのイメージデザイン選考委員会　委員（札幌市中央区） ・札幌市円山動物園グッズ会議　委員（札幌市） ・エコデザインアワード2007作品展　作品選考審査委員長（SAPPOROエコデザインプロジェクト2007実行委員会）
張　浦華	・日本感性工学会 ・日本デザイン学会 ・札幌市円山動物園公式ホームページ運営委員会　委員（札幌市円山動物園） ・感性工学と感情研究に関する国際会議2007（International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007(KEER 2007)）実行委員会　総務委員会委員（日本感性工学会）
細谷　多聞	・日本デザイン学会　理事／研究推進委員会 ・芸術工学会　理事／研究推進委員会 ・日本感性工学会　理事 ・札幌市円山動物園ホームページ編集会議　委員（札幌市円山動物園） ・札幌スタイル・デザイン開発会議　委員（札幌市） ・札幌スタイル・デザイン会議　事業案検討ワーキンググループ委員（札幌市） ・北海道感性産業開発ネットワーク（KIND）　理事 ・感性工学と感情研究に関する国際会議2007（International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007(KEER 2007)）実行委員会　国際会議運営委員会委員／設営委員会委員長／プログラム委員会委員／論文編集・審査委員会査読者（日本感性工学会）
大渕　一博	・電子情報通信学会 ・日本教育工学会 ・日本感性工学会 ・感性工学と感情研究に関する国際会議2007（International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007(KEER 2007)）実行委員会　イベント委員会委員（日本感性工学会）
斉藤　雅也	・日本建築学会　環境工学委員会熱環境運営委員会バイオクライマティックデザイン小委員会幹事 ・日本建築学会　論文集委員会論文査読委員 ・日本建築学会　地球環境委員会地球環境時代における教育小委員会委員 ・日本建築学会　北海道支部環境工学専門委員会委員 ・空気調和・衛生工学会 ・日本太陽エネルギー学会 ・日本感性工学会 ・北海道住まい・環境教育学会 ・Low Ex. Net（Network of International Society for Low Exergy Systems in Buildings）

教員名	所属学会・委員会等
斉藤　雅也	・PLEA（Passive and Low Energy Architecture） ・学校エコ改修と環境教育事業　環境教育検討会アドバイザー（環境省、黒松内町教育委員会） ・IEA ECBCS Annex49 日本委員会　委員（㈶建築環境・省エネルギー機構） ・BIS認定制度試験講習委員会　委員（㈱北海道住宅リフォームセンター） ・感性工学と感情研究に関する国際会議2007（International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007（KEER 2007））実行委員会　イベント委員会委員／国際委員会委員（日本感性工学会）
那須　聖	・日本建築学会　北海道支部建築計画委員会委員／北海道支部設計競技委員会 ・北海道芸術学会 ・形の科学会
松井　美穂	・日本アメリカ文学会　北海道支部編集委員（査読者）／北海道支部会計監査 ・日本英文学会 ・日本ウィリアム・フォークナー協会 ・Carson McCullers Society
三谷　篤史	・日本機械学会 ・日本ロボット学会 ・精密工学会 ・計測自動制御学会 ・IEEE ・北海道トライボロジー研究会　委員（日本トライボロジー学会北海道支部） ・北海道光科学技術研究会　委員 ・感性工学と感情研究に関する国際会議2007（International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007（KEER 2007））実行委員会　設営委員会委員（日本感性工学会）
山田　良	・環境芸術学会 ・アメリカ・ランドスケープデザイン協会 ・大通まち×アートセンター（OYOYO）実行委員会　ディレクター（大通地区まちづくり協議会） ・感性工学と感情研究に関する国際会議2007（International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007（KEER 2007））実行委員会　国際委員会委員（日本感性工学会）
片山　めぐみ	・日本建築学会　心理・生理小委員会委員 ・日本造園学会 ・日本展示学会 ・人間・環境学会 ・こども環境学会 ・感性工学と感情研究に関する国際会議2007（International Conference on *Kansei* Engineering and Emotion Research 2007（KEER 2007））実行委員会　財務委員会委員（日本感性工学会）
須之内　元洋	・芸術科学会 ・クリエイティブ・コモンズ研究会　委員 ・公共図書館のあり方研究会　委員（札幌市）

看護学部

教員名	所属学会・委員会等
中村　惠子	・日本救急看護学会　理事長／理事／評議員 ・日本クリティカルケア看護学会　監事／評議員 ・日本臨床救急医学会　理事／評議員／倫理委員会委員／会則委員会委員 ・日本集団災害医学会　評議員／査読委員 ・日本健康科学学会 ・日本災害看護学会　査読委員 ・日本老年看護学会 ・日本病院管理学会 ・日本看護診断学会　評議員 ・日本がん看護学会 ・日本看護科学学会 ・日本糖尿病教育・看護学会 ・日本難病看護学会 ・日本看護研究学会 ・日本看護管理学会　査読委員 ・日本集中治療医学会 ・日本看護教育学会 ・日本看護学教育学会 ・㈳日本看護協会認定看護師認定制度委員会　委員長 ・㈳日本看護協会専門看護師認定実行委員会　委員 ・㈳日本看護協会資格認定制度将来構想検討プロジェクト　委員 ・北海道医療大学認定看護師運営委員会　委員 ・青森県立保健大学救急看護認定教育課程教員会　委員 ・救急救命士試験委員　委員（㈶日本救急医療財団） ・札幌市災害時医療体制検討委員会　委員（札幌市）
加藤　登紀子	・日本地域看護学会　編集委員会委員 ・日本産業衛生学会　代議員／第81回日本産業衛生学会企画運営委員会委員 ・日本産業ストレス学会　理事 ・日本産業精神保健学会　理事 ・日本公衆衛生学会 ・日本健康教育学会 ・日本人間工学会 ・日本学校保健学会
河野　總子	・㈳日本看護協会　日本看護学会 ・北海道救急医学会 ・日本看護研究学会 ・日本病院・医療管理学会 ・北日本看護学会 ・日本看護科学学会 ・日本災害看護学会 ・日本看護学教育学会 ・医療経済学会 ・組織行動学学会 ・癒しの環境研究会 ・日本医学看護学教育学会
坂倉　恵美子	・日本老年看護学会 ・日本家族看護学会 ・日本地域看護学会 ・日本公衆衛生学会

教員名	所属学会・委員会等
坂倉　恵美子	・日本高齢者虐待防止学会 ・日本看護研究学会 ・日本看護科学学会 ・日本看護学教育学会 ・日本看護技術学会 ・北海道医学会 ・北海道建築審査会　審査委員（北海道） ・札幌市介護認定審査会　審査委員（札幌市） ・社会福祉法人札幌市福祉事業団　評議委員
ｽｰﾃﾞｨ神崎 和代	・国際感染予防学会 ・国際医療の質学会 ・日本在宅ケア学会 ・日本看護科学学会 ・日本看護学教育学会 ・北海道民族学会
樋之津　淳子	・日本看護研究学会 ・日本保健医療行動科学会 ・日本人間工学会　看護人間工学部会総務・研究誌編集委員／第15回看護人間工学部会研究会大会長 ・日本泌尿器科学会 ・日本がん看護学会 ・日本看護学教育学会 ・日本看護科学学会
松 浦　和 代	・日本小児看護学会　専任査読者 ・北海道小児保健研究会　幹事 ・全国病弱教育研究会　北海道ブロック代表 ・日本小児保健学会 ・日本母性衛生学会 ・日本看護科学学会 ・日本看護研究学会 ・日本看護学教育学会 ・日本新生児看護学会　企画運営委員会企画運営委員／査読委員
宮﨑　みち子	・北海道母性衛生学会 ・日本母性衛生学会 ・日本助産学会 ・北海道公衆衛生学会　評議員 ・北海道衛生公衆衛生セミナー ・日本看護Critical Thinking研究会 ・日米法学会 ・日本看護科学学会 ・日本助産師会 ・日本医事法学会 ・日本生命倫理学会 ・日本看護研究学会 ・日本看護学教育学会 ・㈳北海道看護協会　教育委員会委員
大 野　夏 代	・国際看護研究会　運営委員／第10回学術集会実行委員 ・看護実践における指圧マッサージ研究会　運営委員 ・日本看護科学学会 ・日本看護研究学会

教員名	所属学会・委員会等
大野　夏代	・日本渡航医学会 ・日本国際保健医療学会 ・日本人間工学会　第15回看護人間工学部会総会・研究会事務局／平成19年度日本人間工学会北海道支部大会事務局
清水　光子	・北海道衛生公衆衛生セミナー ・北海道公衆衛生学会 ・日本公衆衛生学会 ・日本地域看護学会 ・日本看護科学学会 ・桑園地区民生委員・児童委員推薦準備会　委員（札幌市）
守村　洋	・日本精神障害者リハビリテーション学会 ・日本社会福祉学会 ・日本地域福祉学会 ・日本社会福祉実践理論学会 ・日本精神保健看護学会 ・日本質的心理学会 ・日本看護科学学会 ・北星学園大学社会福祉学会 ・㈳日本精神科看護技術協会北海道支部 ・北海道精神保健福祉士協会 ・札幌市地域福祉生活支援センター契約締結審査会　委員（札幌市） ・NPO法人すみれ会　理事 ・NPO法人福祉オンブズマンほっかいどう　オンブズマン ・さっぽろ・こころの健康まつり実行委員会　実行委員
吉川　由希子	・日本看護科学学会 ・日本小児保健学会 ・日本小児看護学会 ・日本看護学教育学会 ・日本看護研究学会 ・日本医療保育学会 ・日本学校保健学会 ・日本母性衛生学会 ・日本家族看護学会　第14回学術集会企画委員会企画委員
菊地　ひろみ	・日本難病看護学会 ・日本看護学教育学会 ・日本プライマリ・ケア学会 ・日本看護科学学会 ・日本在宅ケア学会 ・看護総合科学研究会
佐藤　公美子	・日本看護科学学会 ・日本看護研究学会 ・日本看護教育学学会 ・日本看護歴史学会 ・日本医史学会 ・日本人間工学会　第15回看護人間工学部会総会・研究会事務局 ・聖路加看護学会 ・藻岩山魅力アップ構想環境配慮ガイドライン検討懇談会　委員（札幌市）
菅原　美樹	・日本クリティカルケア看護学会　理事／評議員／査読委員／評議員選出委員会委員 ・日本救急看護学会　評議員／標準外傷看護コース策定検討ワーキング委員／ JNTEC実行委員会委員／実技セミナー将来構想検討特別委員会委員

教員名	所属学会・委員会等
菅原　美樹	・日本災害看護学会 ・日本循環器看護学会 ・日本集中治療医学会 ・日本臨床救急医学会 ・㈳日本看護協会認定看護師認定実行委員会　委員
髙室　典子	・日本助産学会 ・日本母乳哺育学会 ・日本母性衛生学会 ・日本保健医療行動科学会 ・日本助産師会 ・日本公衆衛生学会 ・日本渡航医学会 ・札幌市立高等看護学院　閉校事業委員会委員 ・NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会（JALC）　国際ラクテーションコンサルタント北海道支部書記
新納　美美	・日本産業精神保健学会 ・日本地域看護学会 ・職業性ストレス研究会 ・日本アディクション看護学会　理事／評議員 ・日本公衆衛生学会 ・日本ブリーフサイコセラピー学会 ・日本看護科学学会 ・日本産業衛生学会 ・司法看護研究会　設立コアメンバー（発起人、事務担当）
藤井　瑞恵	・日本看護研究学会 ・日本看護科学学会 ・日本看護技術学会 ・日本糖尿病教育・看護学会 ・日本糖尿病学会 ・北海道看護教育研究会　広報委員 ・㈳日本看護協会　第38回日本看護学会成人看護Ⅰ学会準備委員／論文選考ワーキング委員 ・㈳日本看護協会　平成19年度日本看護学会成人看護Ⅰ抄録選考委員
星　美和子	・Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing ・Western Institute of Nursing
村松　真澄	・日本口腔ケア学会　評議員 ・日本摂食・嚥下リハビリテーション学会　評議員 ・日本老年看護学会 ・日本看護科学学会 ・日本公衆衛生学会 ・日本看護研究学会 ・日本がん看護学会 ・日本老年歯科医学会 ・日本有病者歯科医療学会 ・北海道歯学会 ・医療・福祉タウン研究学会
保田　玲子	・日本保健医療行動科学会 ・日本看護科学学会 ・日本地域看護学会 ・日本公衆衛生学会

教員名	所属学会・委員会等
渡邉　由加利	・全国助産師教育協議会 ・日本母性衛生学会 ・日本助産学会 ・日本看護学教育学会 ・日本看護科学学会 ・日本人間工学会　第15回看護人間工学部会総会・研究会事務局
太田　晴美	・日本臨床救急医学会　地域救急医療体制検討委員会委員／将来計画検討委員会トリアージナース育成検討小委員会委員 ・日本集団災害医学会 ・日本災害看護学会 ・日本看護学教育学会 ・日本看護科学学会 ・日本股関節学会 ・NPO法人のぞみ会　北海道支部運営委員会委員
神島　滋子	・日本看護科学学会 ・日本脳神経看護研究学会　北海道部会副会長／評議委員 ・日本救急看護学会 ・日本看護研究学会 ・日本公衆衛生学会 ・日本病院脳神経外科学会 ・日本更年期医学会 ・日本健康行動科学会
河村　奈美子	・日本精神保健看護学会 ・日本看護科学学会 ・日本老年精神医学会 ・日本質的心理学会　第4回大会運営スタッフ ・ヒトと動物の関係学会 ・日本看護研究学会 ・日本地域看護学会 ・日本認知症ケア学会 ・日本アディクション看護学会
工藤　京子	・日本看護学教育学会 ・日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 ・日本創傷治癒学会
小坂　美智代	・日本看護科学学会 ・日本がん看護学会 ・千葉看護学会
進藤　ゆかり	・ホスピスケア研究会 ・日本家族看護学会 ・看護総合科学研究会 ・日本老年看護学会 ・日本公衆衛生学会 ・日本看護科学学会 ・日本精神保健看護学会
多賀　昌江	・日本助産学会 ・日本看護科学学会 ・日本文化人類学会 ・北海道民族学会

教員名	所属学会・委員会等
多賀　昌江	・日本渡航医学会 ・国際看護研究会　第11回学術集会事務局準備委員／第11回学術集会事務局実行委員 ・日本助産師会 ・日本母性衛生学会 ・日本人間工学会　看護人間工学部会／平成19年度日本人間工学会北海道支部大会事務局準備委員 ・日本看護学教育学会
塚辺　繭子	・日本産業衛生学会　北海道地方会看護部会役員 ・日本看護科学学会 ・日本看護研究学会 ・日本精神保健看護学会 ・日本地域看護学会 ・日本公衆衛生学会
鶴木　恭子	・日本看護学教育学会 ・日本看護研究学会 ・日本看護科学学会 ・日本人間工学会　第15回看護人間工学部会総会・研究会事務局
照井　レナ	・日本公衆衛生学会 ・北海道公衆衛生学会 ・日本地域看護学会 ・日本在宅ケア学会 ・日本看護科学学会 ・日本人間工学会看護人間工学部会 ・日本健康行動科学会 ・北海道医療大学看護福祉学部学会
原井　美佳	・日本老年看護学会 ・日本看護科学学会 ・日本看護管理学会 ・日本看護学教育学会 ・日本死の臨床研究会　第32回年次大会実行委員
福島　眞里	・日本看護学教育学会 ・日本助産学会 ・日本助産師会
渕本　雅昭	・日本救急看護学会 ・日本臨床救急医学会 ・日本クリティカルケア看護学会 ・日本脳神経看護研究学会
松村　寛子	・日本地域看護学会 ・日本公衆衛生学会 ・日本渡航医学会 ・日本看護科学学会
三上　智子	・日本看護科学学会 ・日本看護学教育学会 ・日本看護研究学会 ・日本生化学学会 ・日本母性衛生学会 ・北海道小児保健研究会 ・日本人間工学会　第15回看護人間工学部会総会・研究会事務局

4　非常勤講師等実績

デザイン学部

教員名	大学等の名称	科目名
原　田　　昭	筑波大学大学院	感性情報学特論
吉 田　惠 介	札幌市立高等専門学校 札幌市立高等専門学校専攻科	環境デザインⅠ、環境デザインⅡ、卒業制作 環境デザイン専攻実習、都市計画設計演習、環境デザイン特別演習、修了制作
武 邑　光 裕	北海道大学大学院 放送大学大学院 札幌市立高等専門学校 札幌市立高等専門学校専攻科	アートマネージメント 情報化社会研究－メディアの発展と社会－ デザイン・マネージメント、視覚デザインⅠ デザインマーケティング特論
石 崎　友 紀	札幌市立高等専門学校 札幌市立高等専門学校専攻科	工芸デザインⅠ、工芸デザインⅡ、工芸デザイン実習、卒業制作 近代デザイン史特論、工芸デザイン特論Ⅲ
上遠野　　敏	北海道教育大学岩見沢校 北海道情報大学 札幌市立高等専門学校 札幌市立高等専門学校専攻科	実験芸術2 芸術演習「彫刻」 卒業制作 環境デザイン特別演習、修了制作
齋 藤　利 明	札幌市立高等専門学校 札幌市立高等専門学校専攻科	視覚デザイン演習、視覚デザイン実習、卒業制作 修了制作
酒 井　正 幸	札幌市立高等専門学校	人間工学、工業デザインⅠ、工業デザイン演習、卒業制作
城 間　祥 之	札幌市立高等専門学校 札幌市立高等専門学校専攻科	情報処理 CAD特講、画像設計演習
杉　　哲 夫	札幌市立高等専門学校 札幌市立高等専門学校専攻科	デザイン・マネージメント、工業デザイン演習、卒業制作 製品開発計画特論
田 中　敏 明	小樽看護専門学校 札幌市立高等専門学校	人間工学 美術解剖学、人間工学、卒業制作
中 原　　宏	札幌市立高等専門学校 札幌市立高等専門学校専攻科	環境デザインⅠ、環境デザインⅡ、環境デザイン演習、環境デザイン実習、卒業制作 都市計画設計特論、環境計画特論、修了制作
羽 深　久 夫	放送大学大学院　客員教授 札幌市立高等専門学校 札幌市立高等専門学校専攻科	修士全科生研究指導 建築デザインⅠ、建築デザイン演習、建築デザイン実習、卒業制作 建築デザイン専攻実習、建築史特論、建築デザイン特別演習、修了制作
原　　俊 彦	北星学園大学 北海道東海大学大学院	人口社会学 人口・社会動態特論
望 月　澄 人	札幌市立高等専門学校 札幌市立高等専門学校専攻科	視覚デザイン演習、視覚デザイン実習、卒業制作 視覚情報特論、修了制作
矢 部　和 夫	北海道大学 札幌市立高等専門学校 札幌市立高等専門学校専攻科	湿原の科学 環境デザインⅠ、環境デザインⅡ、環境デザイン演習、環境デザイン実習、卒業制作 環境デザイン専攻実習、環境保全論、修了制作
吉 田　和 夫	札幌市立高等専門学校 札幌市立高等専門学校専攻科	視覚デザイン演習、視覚デザイン実習、卒業制作 視覚デザイン専攻実習、視覚デザイン特論Ⅲ、修了制作

教員名	大学等の名称	科目名
エル サニ マロアン	札幌市立高等専門学校	視覚デザインⅡ
張　　浦華	札幌市立高等専門学校 札幌市立高等専門学校専攻科	工業デザインⅡ、卒業制作 工業デザイン特論Ⅲ、視覚デザイン特別演習
フィッシャー ニーナ	札幌市立高等専門学校	視覚デザインⅡ
細谷　多聞	札幌市立高等専門学校 札幌市立高等専門学校専攻科	環境デザイン実習、視覚デザインⅠ、視覚デザインⅡ、卒業制作 材料科学論、工業デザイン特別演習
大渕　一博	札幌市立高等専門学校	視覚デザインⅠ、視覚デザイン実習、卒業制作
斉藤　雅也	札幌市立高等専門学校 札幌市立高等専門学校専攻科	建築デザインⅠ、建築デザインⅡ、建築デザイン演習、建築デザイン実習、卒業制作 建築デザイン専攻実習、環境設備特論、建築デザイン特別演習
那須　　聖	札幌市立高等専門学校 札幌市立高等専門学校専攻科	建築デザインⅠ、建築デザインⅡ、建築デザイン演習、建築デザイン実習、卒業制作 建築デザイン専攻実習、建築計画特論、建築デザイン特別演習、修了制作
松井　美穂	北星学園大学 北海学園大学 札幌市立高等専門学校	アメリカ小説研究ＡⅠ、アメリカ小説研究ＡⅡ 英米文学講読Ⅰ、英米文学講読Ⅱ 英語Ⅱ（演習）、英語Ⅲ
三谷　篤史	札幌市立高等専門学校 札幌市立高等専門学校専攻科	工業デザインⅡ、卒業制作 材料力学論、工業デザイン特別演習
山田　　良	京都造形芸術大学 札幌市立高等専門学校 札幌市立高等専門学校専攻科	現代美術のための空間 環境デザインⅡ、建築デザインⅡ、建築デザイン演習、建築デザイン実習、卒業制作 建築デザイン専攻実習、建築デザイン特別演習
片山　めぐみ	札幌市立高等専門学校 札幌市立高等専門学校専攻科	建築デザインⅠ、建築デザイン演習、建築デザイン実習、卒業制作 建築デザイン専攻実習、住居形態特論、建築デザイン特別演習
須之内　元洋	札幌市立高等専門学校 札幌市立高等専門学校専攻科	視覚デザイン実習 視覚デザイン特論Ⅰ

看護学部

教員名	大学等の名称	科目名
中村　惠子	北里大学大学院 青森県立保健大学大学院　客員教授 青森県立保健大学教育センター 国士舘大学大学院 東北福祉大学	クリティカルケア看護学 救急看護学特論、特別研究 救急看護概論、安全管理、リーダーシップ 臨床薬理学（安全管理） クリティカルケア
加藤　登紀子	札幌医科大学 札幌医科大学大学院	産業看護論 地域生活支援看護学
河野　總子	北海道医療大学 北海道医療大学大学院	看護管理 看護管理
坂倉　恵美子	北海道教育大学 西札幌病院附属札幌看護学校	家庭と保育 老年看護学概論
守村　洋	北海道医療大学 西札幌病院附属札幌看護学校 王子総合病院附属看護専門学校	精神保健福祉論Ⅰ、精神保健福祉論Ⅲ 精神看護概論Ⅰ、精神看護概論Ⅱ 精神保健
髙室　典子	日本福祉看護学院 札幌大谷大学短期大学部 北海道立衛生学院 北海道立旭川高等看護学院	看護研究の基礎 小児保健実習 健康教育の実際、地域母子保健 出産前教育の実際、乳房管理と母乳育児支援
村松　真澄	岩手県立大学 小樽歯科衛生士専門学校	老年生活援助論 高齢者の歯科看護
河村　奈美子	北海道大学 王子総合病院附属看護専門学校	教育生理学 精神保健

5　専門職支援・セミナー講師等

デザイン学部

1)　専門職支援

開催日・期間	タイトル	対象者	主催者	教員名
平成19年5月11日	北欧デザイン研修会「ノルウェーの暮らしと現代建築デザインについて」	建築家、デザイナー、北欧デザイン研究者	北欧建築・デザイン協会	山田　良
平成19年5月30日	第1回学校エコ改修検討会「建物内の熱の振る舞いを学ぶ」	建築専門職（技術者）、行政担当（建築職）、高等学校教員	環境省、埼玉県教育局、埼玉県立浦和高等学校	斉藤　雅也
平成19年7月15日	集団研修－乾燥地における水資源･環境管理－「統合的流域（美々川）環境管理3」	政府又は公共団体で水質源開発、環境管理にかかる技術者	㈱国際協力機構札幌国際センター（JICA札幌）	矢部　和夫
平成19年7月27日	現代建築レクチャーシリーズ「ノルウェーの現代建築と設計事務所業務について」	建築家、デザイナー	建築情報システム研究所	山田　良
平成19年12月14日	オスロ建築トリエンナーレ報告会	建築家、デザイナー、北欧研究者	ノルウェー大使館	山田　良
平成20年1月24日	BIS認定養成講習会「開口部の計画」「防暑計画」	建築専門職（技術者）	㈳北海道住宅リフォームセンター	斉藤　雅也

2)　セミナー講師等

開催日・期間	タイトル	主催者	教員名
平成19年4月10日	UHB大学始業式特別講演「北海道の感性産業」	UHB大学	原田　昭
平成19年4月21日	森町斎藤家住宅　国登録有形文化財指定報告	NPO法人北の民家の会	羽深　久夫
平成19年6月22日	まちづくり講演会「シーニックバイウェイによる南区の魅力づくり－美しい景観づくりを通じた地域活性化－」	札幌市南区	羽深　久夫
平成19年7月20日	平成19年度総会記念講演会「感性産業の創成へ向けて－北海道の創造的産業群の開発－」	日本計画行政学会北海道支部	原田　昭
平成19年7月20日	電子技術が導くデザイン表現	北海道立工業試験場	細谷　多聞
平成19年7月21日	地域づくりフォーラム「クリエイティブシティへ向けて」	北海道東海大学	原田　昭
平成19年7月22日	エコミュージアム構想推進事業「屋根裏から覗いた駅逓所－建築構造からみる駅逓所の本当の話－」 講演会「北広島市における歴史的建造物としての旧島松駅逓所の意義」	北広島市教育委員会	羽深　久夫
平成19年7月28日	札幌軟石発掘大作戦「豊平の陣」－国登録有形文化財制度について－	札幌建築鑑賞会、札幌軟石文化を語る会	羽深　久夫
平成19年8月30日	平成19年度私学経営実務研修会　講演「北海道に根付く歴史的建造物と北海道文化の形成」	㈳北海道私学振興基金協会	羽深　久夫

開催日・期間	タイトル	主催者	教員名
平成19年9月7日	福祉工学研究－VR（バーチャルリアリティ）技術を応用した脳卒中片麻痺患者の上肢トレーニング－	札幌秀友会病院	田中　敏明
平成19年9月26日	花と緑のまちづくり	㈶札幌市公園緑化協会	吉田　惠介
平成19年10月 ～平成20年2月 計11回	ユーザビリティ評価講習	㈱ユーザデザインラボ	酒井　正幸
平成19年10月5日	第11回人口問題基礎講座「地域人口の将来」	㈶厚生統計協会	原　俊彦
平成19年11月5日	北海道ビジネスフォーラム2007　テーマセミナー「『デザイン』で読み解く市場」	㈱北海道銀行、札幌市、日経BP社・「日経ベンチャー」経営者クラブ	細谷　多聞
平成19年11月9日	デザインマネジメントセミナー 2007（インストラクター）	北海道経済部	細谷　多聞
平成19年11月10日	特別講演「人間工学と感性」	日本人間工学会北海道支部	原田　昭
平成19年11月20日	デザインの感性表現	札幌西ロータリークラブ	細谷　多聞
平成19年12月6日	サービス・イノベーションシンポジウム－「経験と勘」から「科学的・工学的手法」へ－	経済産業省、サービス産業生産性協議会、㈱産業技術総合研究所	酒井　正幸
平成19年12月18日	ウォームビズセッション2007「環境感覚から環境調整行動へのプロセス」	北海道、北海道経済産業局、北海道環境事務所、北海道開発局、北海道地方環境事務所、北海道地球温暖化防止活動推進センター	斉藤　雅也
平成20年1月18日	特別講演「感性価値創造と産業開発」	㈱クラーク総研	原田　昭
平成20年1月31日	北のまちづくりセミナー「まちが元気になる賑わいづくり」	北海道建設部	中原　宏
平成20年2月4日	地域情報発信フォーラム2008「地域情報発信におけるポッドキャスティングの可能性」	北海道総合通信局	須之内　元洋
平成20年2月7日	平成19年度札幌高等裁判所管内書記官等特別研修「統計資料の読み方」	札幌高等裁判所	原　俊彦
平成20年2月12日	第4回札幌市南区シーニックバイウェイ検討協議会「沿道景観調査の中間報告」	札幌市南区	羽深　久夫
平成20年2月13日	さっぽろ市民カレッジ2008冬季講座　ちえりあ学習ボランティア企画講座「エジプト探訪－はるかなるエジプトの食と美－世界遺産とエジプトの建築文化」	㈶札幌市生涯学習振興財団	羽深　久夫
平成20年2月15日	都市研究プラザ・ラウンドテーブル「創造都市の連携と交流に向けて」	大阪市立大学文化交流センター	武邑　光裕
平成20年2月22日	福祉のテクノロジー－人を支える工学の基礎技術コース「看護・介護学／理学療法学／福祉工学デザイン－福祉機器を導入する利点と課題－」	㈶神奈川科学技術アカデミー	田中　敏明
平成20年2月27日	社会人講座「林業・林産業が考える、間伐材の利用方法と環境問題への取組み」	飯田ウッドワークシステム㈱	羽深　久夫
平成20年2月29日	講演「都市の品質と創造的産業群」	異業種交流研究会、三菱化学㈱	原田　昭

開催日・期間	タイトル	主催者	教員名
平成20年2月29日	SOHO－地域創造フォーラム「Creative Economy（価値創造経済）による地域再生」	福岡県、矢部川をつなぐ会	武 邑　光 裕
平成20年2月29日	SOHO－地域創造フォーラム「クリエイターが地域を創る！」	福岡県、矢部川をつなぐ会	須之内　元洋
平成20年3月31日	小林酒造㈱の見学会と意見交換会	空知生活文化創造産業創出産官学連携推進委員会（北海道中小企業家同友会産官学連携事業）	羽 深　久 夫

看護学部

1）　専門職支援

開催日・期間	タイトル	対象者	主催者	教員名
平成19年4月 ～平成20年2月	札幌中央病院看護研究	札幌中央病院看護師	札幌中央病院看護部	坂倉　恵美子 菊地　ひろみ 小坂　美智代
平成19年4月 ～平成20年3月 計23回	臨床実践	心臓血管センター北海道大野病院看護師	心臓血管センター北海道大野病院	太 田　晴 美
平成19年4月12日、 7月10日、9月25日	院内勉強会・看護研修会「フィジカルアセスメント」	心臓血管センター北海道大野病院看護師	心臓血管センター北海道大野病院	樋之津　淳子 佐藤　公美子
平成19年4月23日	平成19年度看護職員研修会「実習指導者研修Ⅰ」	市立札幌病院看護師・助産師	市立札幌病院看護部	樋之津　淳子
平成19年4月24日、 8月28日、10月30日、 11月13日	看護研究研修 「看護研究についての計画書指導」 「看護研究についての指導」 「院内看護研究発表についての講評」 「看護研究についての特別講義」	心臓血管センター北海道大野病院看護師	心臓血管センター北海道大野病院	松 浦　和 代 神 島　滋 子
平成19年5月～12月 計5回	院内看護研究指導	北海道整形外科記念病院看護師	北海道整形外科記念病院	藤 井　瑞 恵
平成19年5月15日	第48回研修会「生活の質を高める簡単で効果的な口腔ケア－日常のお手入れで合併症予防－」	看護職、医師、医療従事者	札幌市北区在宅ケア連絡会	村 松　真 澄
平成19年6月 ～平成20年3月 計4回	看護研究指導	手稲ロイヤル病院看護師	手稲ロイヤル病院	大 野　夏 代
平成19年6月7日、 8月2日、10月9日	院内研修会「看護過程について」	心臓血管センター北海道大野病院看護師	心臓血管センター北海道大野病院	渡邉　由加利
平成19年6月8日	平成19年保健師助産師看護師等実習指導者講習会「看護過程①」	看護実習施設の実習指導担当、もしくは担当予定の看護職	北海道厚生局	大 野　夏 代

開催日・期間	タイトル	対象者	主催者	教員名
平成19年6月9日、6月23日、8月4日、9月1日	救急看護セミナー「救急看護師の役割」	看護師	日本救急看護学会	中村　惠子
平成19年6月16日、8月25日	研修会「職場のコミュニケーション」	看護職	板橋中央病院グループ北海道ブロック	大野　夏代
平成19年6月16日	講演「お産のヒューマニゼーション」	周産期にかかわる医師、看護職	NPO法人助産師キャリアデベロップメント（MCD）	高室　典子
平成19年6月19日	臨地実習指導者研修会	看護職	㈳北海道看護協会	松浦　和代
平成19年6月23日、12月1日	㈳日本産業衛生学会産業看護講座基礎コース「産業看護の歴史と展望」「産業保健計画の立て方と評価」	産業看護実務経験2年以上の保健師・看護師	㈳日本産業衛生学会北海道産業看護部会	加藤　登紀子
平成19年6月23日	第3回北海道口腔ケア研究会教育講演「アメリカも同じだった簡単口腔ケア」	看護職、医師、医療従事者	北海道口腔ケア研究会	村松　真澄
平成19年6月25日、7月4日	平成19年保健師助産師看護師等実習指導者講習会「看護過程②」「看護過程③」	看護実習施設の実習指導担当、もしくは担当予定の看護職	北海道厚生局	渡邉　由加利
平成19年6月30日～9月3日 計5回	平成19年度看護教員養成講習会「研究方法」	看護師養成機関に勤務する教員、勤務予定の看護職。実習機関に所属する看護職	北海道保健福祉部	菊地　ひろみ 新納　美美
平成19年7月2日～3日	看護管理者ファーストレベル「看護管理概説」	看護職	㈳青森県看護協会	中村　惠子
平成19年7月7日	助産師のための「母乳育児支援」	母乳育児にかかわる看護職	柳瀬ワイチ㈱	高室　典子
平成19年7月9日、7月11日	平成19年度保健師助産師看護師等実習指導者講習会「実習指導の評価①」「実習指導の評価②」	看護実習施設の実習指導担当、もしくは担当予定の看護職	北海道厚生局	樋之津　淳子
平成19年7月11日	実習指導者講習会 特別講義「職場の人間関係と実習指導者の役割」	看護職	北海道厚生局	中村　惠子
平成19年7月26日	母乳育児を応援する医療者のための研修会「母乳と母親役割」	母乳育児にかかわる看護職・保育職	㈱プチブレスト	高室　典子
平成19年7月31日	摂食嚥下障害患者の看護研修会「口腔ケアにおける看護師の役割」	看護職	㈳日本看護協会清瀬研修センター	村松　真澄
平成19年8月～12月 計5回	看護過程研修Ⅱ「看護過程と看護実践力の向上に向けて」	札幌中央病院看護師	札幌中央病院	菅原　美樹 工藤　京子 渕本　雅昭
平成19年8月～平成20年2月	北海道保健福祉事務所保健師の活動強化研修受講者への研究指導	北海道保健福祉事務所保健師	北海道保健福祉部	保田　玲子
平成19年8月6日～8日	臨床における看護研究の取り組みⅠ研修会	看護職	㈳北海道看護協会	吉川　由希子

開催日・期間	タイトル	対象者	主催者	教員名
平成19年8月23日	救急看護の専門性	看護職	㈶日本救急医療財団	中村　惠子
平成19年8月29日	㈳日本産業衛生学会北海道地方会看護部会実務研修会「看護記録のあり方−問題解決思考を踏まえて−」	産業看護分野に関わる看護職	㈳日本産業衛生学会　北海道地方会看護部会	塚辺　繭子
平成19年8月31日	摂食嚥下障害患者の看護研修会「口腔ケアにおける看護師の役割」	看護職	㈳日本看護協会清瀬研修センター	村松　真澄
平成19年8月31日	教育講演「生活の質を高める簡単で効果的な口腔ケア－日常のお手入れで合併症予防－」	看護職、医師、医療従事者	昭和大学摂食嚥下友の会	村松　真澄
平成19年9月1日 ～2日	指圧マッサージ研修会ベーシックコースの企画運営	看護職	看護実践における指圧マッサージ研究会	大野　夏代
平成19年9月2日	研修会「保育士のための子育て支援」	札幌市内の保育士・幼稚園教諭	全道合同保育研究会	髙室　典子
平成19年9月4日	講演「部下を育てる－保健師の現任教育を考えよう－」	保健師	保健師長会札幌支部	中村　惠子
平成19年9月6日 ～7日	平成19年保健師助産師看護師等実習指導者講習会「看護過程①」「看護過程②」	看護実習施設の実習指導担当、もしくは担当予定の看護職	北海道保健福祉部	大野　夏代
平成19年9月11日、9月13日	平成19年保健師助産師看護師等実習指導者講習会「看護過程③」「看護過程④」	看護実習施設の実習指導担当、もしくは担当予定の看護職	北海道保健福祉部	佐藤　公美子
平成19年9月15日	研修会「母親役割をさせるためのスキルを学ぶ」	広島県内に勤務する助産師	㈱プチブレスト	髙室　典子
平成19年9月16日	第6回JATCO 総合研修会「危機的状況における家族への介入と精神的援助」	移植コーディネーター	日本移植コーディネーター協議会	中村　惠子
平成19年9月20日	札幌市地域福祉生活支援センター専門員学習会「受診および服薬をしない統合失調症への支援」	札幌市地域福祉生活支援センター専門員	札幌市地域福祉生活支援センター	守村　洋
平成19年9月24日	口腔ケア研修会「実践！簡単口腔ケア－実技指導を踏まえて－」	看護職、医師、医療従事者	センチュリーメディカル㈱	村松　真澄
平成19年9月25日、9月27日	認定看護管理者研修会セカンドレベル「施設アメニティのマネジメント」「看護サービスの質評価」	北海道全域病院の看護部長・師長・師長補佐	㈳北海道看護協会	河野　總子
平成19年9月28日	リーダーシップ・エキスパート研修	KKR札幌医療センター看護職の中堅スタッフ	KKR札幌医療センター看護部	河野　總子
平成19年10月5日	看護部研修会「実践！簡単口腔ケア－実技指導を踏まえて－」	琉球大学医学部附属病院看護職	琉球大学医学部附属病院看護部	村松　真澄
平成19年10月13日 ～14日、 平成20年2月9日	AHA-BLS-Healthcare Providerコース	北海道内医師･看護師･救急救命士	NPO法人日本ACLS協会	渕本　雅昭
平成19年10月16日、10月19日	訪問看護師養成講座「訪問看護対象論1」「訪問看護対象論2」	看護師・保健師	㈳北海道看護協会	スーディ神崎 和代

開催日・期間	タイトル	対象者	主催者	教員名
平成19年10月19日	研修会「精神障害者」	札幌市厚別区内介護職及び札幌市福祉関係行政職	ヘルパーステーションつみき	守村　洋
平成19年10月20日	産業看護活動の評価	㈳日本産業衛生学会北海道産業看護部会員	㈳日本産業衛生学会北海道産業看護部会	加藤　登紀子
平成19年10月20日～21日	プライマリケア外傷蘇生コース	看護職	㈳地域医療振興協会	菅原　美樹
平成19年10月22日	新人看護師指導研修会	看護職	㈳北海道看護協会	松浦　和代
平成19年10月25日	摂食嚥下障害患者の看護研修会「口腔ケアにおける看護師の役割」	看護職	㈳日本看護協会神戸研修センター	村松　真澄
平成19年10月27日～28日	看護に役立つ脳神経領域におけるフィジカルアセスメントセミナー	北海道内の脳神経領域の病院・医院に勤務する看護師	日本脳神経看護研究学会北海道支部	神島　滋子 渕本　雅昭
平成19年10月31日	卒後2年目研修「アサーティブなコミュニケーション」	心臓血管センター北海道大野病院 卒後2年目看護師	心臓血管センター北海道大野病院	坂倉　恵美子 藤井　瑞恵
平成19年11月1日	教育講演「NSTを考慮した他職種との医療連携－看護師が行う口腔ケアの視点から－」	医療従事者	全国歯学部附属病院歯科衛生士責任者会議	村松　真澄
平成19年11月11日	第1回JNTECプロバイダーコース	看護職	日本救急看護学会	菅原　美樹
平成19年11月12日	高齢者の看護「口腔ケア」	看護職	㈳北海道看護協会	村松　真澄
平成19年11月17日	電話トリアージに関する研修会講師「救急医療体制と看護」	看護職、医師、医療従事者	電話トリアージ研究会	中村　恵子
平成19年11月21日～22日	平成19年度訪問看護師養成講習会	訪問看護に従事中、もしくは従事予定の看護職	㈳北海道看護協会	菊地　ひろみ
平成19年11月27日	キャリア開発について	心臓血管センター北海道大野病院看護師	心臓血管センター北海道大野病院	河野　總子
平成19年11月29日	リーダーシップ－看護の質向上のための具体的戦略－	道立病院看護師長	北海道保健福祉部	河野　總子
平成19年12月1日	平成19年度北海道産業看護基礎コース「保健面接技法」	産業看護職	㈳日本産業衛生学会	清水　光子
平成19年12月1日	平成19年度北海道産業看護基礎コース「職場におけるメンタルヘルス」	産業看護職	㈳日本産業衛生学会	新納　美美
平成19年12月3日	平成19年度看護職員研修会「実習指導者研修Ⅱ」	市立札幌病院看護師・助産師	市立札幌病院看護部	樋之津　淳子
平成19年12月7日	卒後3年目研修「リーダーシップについて」	心臓血管センター北海道大野病院 卒後3年目看護師	心臓血管センター北海道大野病院	河野　總子 星　美和子
平成19年12月10日～14日	施設内教育委員のための現任教育研修会	看護職	㈳北海道看護協会	吉川　由希子
平成20年1月12日～13日	第3回JNTECインストラクターコース	看護職	日本救急看護学会	菅原　美樹

開催日・期間	タイトル	対象者	主催者	教員名
平成20年１月16日 ～3月31日	連携構築用メーリングリストによる情報発信および看護研究支援	道内訪問看護師（㈳北海道看護協会主催訪問看護師養成コース終了者）	札幌市立大学看護学部	スーディ神崎 和代 菊地　ひろみ 照井　レナ
平成20年1月22日	看護の目標管理	㈳日本海員掖済会小樽掖済会病院看護職	㈳日本海員掖済会小樽掖済会病院	河野　總子
平成20年1月29日、1月31日	認定看護管理者研修会ファーストレベル「看護サービスの質評価」「看護記録の質」	北海道全域病院の看護部長・師長・師長補佐	㈳北海道看護協会	河野　總子
平成20年2月2日	旭川口腔ケア関連職種研修会・第4回北海道口腔ケア研究会「口腔ケアの実際」	看護職、医師、医療従事者	上川中部地域歯科保健推進協議会	村松　真澄
平成20年2月23日	看護部の組織運営・組織マネジメント能力向上	静和記念病院グループ看護師長	静和記念病院グループ	河野　總子
平成20年2月24日 ～25日	平成19年度看護管理者ファーストレベル研修「看護管理概説」	看護職	㈳北海道看護協会	中村　恵子
平成20年2月28日	第4回PEGネットワーク豊平＆清田研修会「最期の一口まで食べていただく口腔ケア」	看護職、医師、医療従事者	PEGネットワーク豊平＆清田	村松　真澄
平成20年3月2日	千葉大学がんプロフェッショナル養成プラン　インテンシブコース：抗がん剤静脈投与の理論と実践「胃切除術後化学療法を受ける患者の体験」	看護師	千葉大学	小坂　美智代
平成20年3月5日	北海道保健福祉事務所保健師の活動強化研修公開研究発表会での助言	北海道保健福祉事務所保健師	北海道保健福祉部	保田　玲子
平成20年3月9日	口腔ケア認定試験前研修会「認知症高齢者ならびに在宅高齢者に対する口腔ケアの重要性」	看護職、医師、医療従事者	日本口腔ケア学会	村松　真澄
平成20年3月9日	第2回JNTECプロバイダーコース	看護職	日本救急看護学会	菅原　美樹
平成20年3月21日	岡山大学特別講演「がん患者の口腔ケア－Biotenを用いた口腔ケア－」	看護職、医師、医療従事者	岡山大学病院歯学部歯周病態学分野	村松　真澄

2) セミナー講師等

開催日・期間	タイトル	主催者	教員名
平成19年5月1日～31日	NABAテレホンメッセージ放送「専門家にお尋ねします　第17回　価値観の変容－回復的変化のために－」	日本アノレキシア・ブリミア協会（NABA）	新納　美美
平成19年5月12日	教育講演「救急看護師の人材育成と日本救急看護学会の役割」	第11回日本救急医学会九州地方会	中村　惠子
平成19年5月12日	医療通訳ボランティア養成講座「通訳の守秘義務について」	NPO法人外国人医療を考える会(エスニコ)	高室　典子
平成19年5月22日	産後の母親の心と体	札幌市東区	高室　典子
平成19年6月 計4回	札幌市中央区職員研修「元気の出る職場づくりセミナー」	札幌市中央区	新納　美美
平成19年6月1日	新しいいのちの誕生	北星学園大学短期大学部	高室　典子
平成19年6月5日	自分で守る、心とからだ	北海道武蔵女子短期大学	高室　典子
平成19年6月16日	高齢者ケアにおけるアニマル・セラピーの可能性	第28回ヒューマン・アニマル・ボンド心理学研究会	河村　奈美子
平成19年6月17日	外国人のための医療通訳養成講座「日本の医療を学ぶ」	NPO法人外国人医療を考える会(エスニコ)	高室　典子
平成19年6月26日	平成19年度生きがいづくりクリエイター養成講座「集団心理」	社会福祉法人北海道社会福祉協議会	守村　洋 河村　奈美子
平成19年7月7日	日本の2地域における高齢者健康度比較研究報告	山口県大島郡周防大島町沖家室島老人会	ｽｰﾃﾞｨ神崎 和代
平成19年7月24日	米国高齢者医療事情	筑波大学大学院	ｽｰﾃﾞｨ神崎 和代
平成19年8月30日	衛星放送講義「救急患者・家族心理の理解と対応」	㈱ホスピタルリンク	中村　惠子
平成19年9月13日	平成19年度難病医療研修会「神経難病患者への支援」	宗谷保健福祉事務所	菊地　ひろみ
平成19年9月18日	楽しく大切な命を考える	札幌市厚別区	高室　典子 多賀昌江（補助）
平成19年9月20日	全校セミナー「いのちについて考えよう」	北海道千歳北陽高等学校	高室　典子
平成19年9月22日	救急医療における脳死患者の対応セミナー「脳死患者に対する看護」	厚生労働省科学研究費事業「移植医療の社会的基盤整備に関する研究」班	中村　惠子
平成19年10月20日	第4回八戸PTLS（Primary-care Trauma Life Support）講師「患者家族対応」	㈳地域医療振興協会	中村　惠子
平成19年10月20日	土曜講座「看護師・保健師・助産師の資格の仕組みと仕事の概要」	立命館慶祥高等学校	大野　夏代
平成19年10月31日	いのちと性を考える	北海道有朋高等学校	高室　典子
平成19年11月9日	健康づくりリーダー養成研修「地域を元気にする健康づくり」	札幌市東区	清水　光子
平成19年11月16日	親と子のための絆づくり「ふれあい教室」	札幌市豊平保育・子育て支援センター	高室　典子

開催日・期間	タイトル	主催者	教員名
平成19年11月17日	第4回日本循環器看護学会ランチョンセミナー 「看護教育の新しいめばえ－S-QUE院内研修1000’『Eナース』の展望－」	日本循環器看護学会	菅原　美樹
平成19年11月20日	看護部研修会「高齢者を理解する基本的知識」	市立札幌病院	坂倉　恵美子
平成19年12月8日	楽しく大切な命を考える	桑園保育園PTA	髙室　典子
平成19年12月9日、12月16日	国家試験対策講座「精神医学」「精神科リハビリテーション」「精神保健福祉援助技術」	北星学園大学	守村　洋
平成19年12月16日	高齢者に対するアニマルセラピーの現状	札幌市小動物獣医師会アニマルセラピー活動委員会	河村　奈美子
平成20年1月25日	国家試験対策講座「精神看護学」	西札幌病院附属札幌看護学校	守村　洋
平成20年3月12日	研修会「認知症について」	桑園地区福祉のまち推進センター	清水　光子
平成20年3月18日	さっぽろ市民カレッジ2008冬季講座「エクササイズの効用」	㈶札幌市生涯学習振興財団	加藤　登紀子

6　国際交流

平成19年度は、韓国・又松大学に加え、中国・承徳医学院と学術交流協定を調印した。
提携校ならびにその他の海外の大学、教育研究機関・団体との交流は以下のとおりである。

日時	内容	
平成19年4月9日	受入	台湾国立雲林科技大学デザイン学院「平成19年日本工業デザイン見学訪問」 （教員1名、学生12名）
平成19年8月17日	受入	韓国大田市関係者来学（3名）
平成19年8月24日 ～ 8月29日	派遣	中村恵子副学長とスーディ神崎和代看護学部教授が、承徳医学院を訪問し、承徳医学院にて中村恵子副学長とスーディ神崎和代看護学部教授が特別講義を行った。 （※詳細はp.10参照）
平成19年11月3日 ～ 11月7日	派遣	原田昭学長、吉田惠介デザイン学部長、城間祥之デザイン学部教授、張浦華デザイン学部准教授、上田理子地域連携担当課長が清華大学と中国美術学院城市設計学院を訪問し、原田昭学長、吉田惠介デザイン学部長、城間祥之デザイン学部教授が、清華大学にて特別講演を行った。 【特別講演】平成19年11月5日 「創造都市Creative Cityとデザイン教育」（原田　昭　理事長・学長） 「デザイン教育とまちづくり」（吉田　惠介　デザイン学部長） 「事例研究：札幌におけるIT機器の筐体およびインターフェースデザインと試作品作成」 （城間　祥之　デザイン学部教授）
平成19年11月9日	受入	IDCID（International Digital Context Innovation Design visiting program to Japan） 日本訪問団一行来学（教員12名、学生11名）
平成19年11月20日	受入	ライプチヒ大学関係者来学（教員1名）
平成19年12月6日	受入	㈱国際協力機構（JICA）平成19年度「南西アジアIT人材育成」研修一行来学（6名）
平成20年3月3日	受入	承徳医学院院長による学術交流協定調印記念講演と調印式（教員3名） （※詳細はp.10参照）

7　サテライトキャンパスの利用状況

利用目的	学内利用件数	学外貸出件数	計
セミナー	50	27	77
会　　議	166	25	191
学　　会	6	0	6
そ の 他	35	1	36
合計	257	53	310

平成２０年度入学者選抜結果

１　入学者選抜要項

1)　アドミッションポリシー

＜教育研究の理念＞

本学は、デザイン学と看護学を教育研究の対象とする。デザイン学と看護学は、いずれも人間を対象とした学問領域であることから、両者に共通する「人間重視」の考え方を常に基本とし、一人の人間から社会全体までを対象に、安全で快適な暮らしを創造できる幅広い教養と豊かな人間性を有する職業人を育成する。市民の負託にこたえ、「市民に開かれた大学」「市民の力になる大学」「市民が誇れる大学」という三つの視点を掲げて、地域貢献という使命を果していくため、時代の要請に柔軟に対応しながら質の高い教育研究を追求する。

＜教育研究の特長＞

デザイン学と看護学それぞれの専門性を極める教育を行うとともに、幅広くデザインと看護の連携を目指す。また、市民、産業界、公的機関などと連携することにより、幅広いネットワークを持った大学とし、地域課題等に対応した教育研究を積極的に展開する。

＜デザイン学部の求める学生像＞

1　人間尊重・人間重視の姿勢を持ち、デザインを通して社会に貢献しようとする姿勢を持った人
2　豊かな感性と見識を持って、主体的かつ協同して未来のデザインを創造することに意欲のある人
3　デザインを通じ、地域活性化のリーダーとして文化・産業の発展に寄与する意志を持った人

＜看護学部の求める学生像＞

1　人々の健康、心、暮らしに関心を持ち、生命の尊厳を理解しようとする姿勢を持った人
2　豊かな感性と探求心を持って、柔軟に物事を考え、自主的・意欲的に学修できる人
3　他者と協調し、信頼関係を築くことができ、地域に根ざした医療に貢献する意志と責任感を備えた人

2） 平成２０年度入学者選抜概要

入学定員・募集人員

学部・学科名	入学定員	募集人員				
		一般選抜		特別選抜		
		前期日程	後期日程	推薦入学	社会人	私費外国人留学生
デザイン学部 デザイン学科	80人	54人	14人	12人	若干名	若干名
看護学部 看護学科	80人	48人	－	32人	若干名	－

選抜日程

選抜区分		出願期間	試験日	合格発表等
特別選抜	推薦入学 社会人	平成19年 11月 1日（木） 〜 11月 7日（水）	平成19年 11月24日（土）	平成19年 12月 5日（水） 【入学手続期間】 平成19年 12月 5日（水）〜 12月11日（火）
	私費外国人留学生（※）	平成20年 1月28日（月） 〜 2月 6日（水）	平成20年 2月25日（月）	平成20年 3月 7日（金） 【入学手続期間】 平成20年 3月 7日（金）〜 3月14日（金）
一般選抜	前期日程	平成20年 1月28日（月） 〜 2月 6日（水）	平成20年 2月25日（月）	平成20年 3月 7日（金） 【入学手続期間】 平成20年 3月 7日（金）〜 3月14日（金）
	後期日程（※）	平成20年 1月28日（月） 〜 2月 6日（水）	平成20年 3月12日（水）	平成20年 3月21日（金） 【入学手続期間】 平成20年 3月21日（金）〜 3月27日（木）

（※）は、デザイン学部のみ実施

① 一般選抜募集要項（デザイン学部・看護学部）

試験会場

デザイン学部：札幌市立大学　芸術の森キャンパス

看 護 学 部：札幌市立大学　桑園キャンパス

選抜方法

入学者の選抜は、大学入試センター試験及び本学が実施する個別学力検査等の成績並びに調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。

学部・学科名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等
		教科	科目名等	科目名等
デザイン学部 デザイン学科	前期日程	国　語	「国」（古文・漢文を含む。）	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」のいずれかを選択
		地　歴 公　民	「世A」「世B」「日A」「日B」「地理A」「地理B」「現社」「倫理」「政経」から1科目	
		数　学	「数Ⅰ・数A」と「数Ⅱ・数B」の2科目	
		理　科	「物Ⅰ」「化Ⅰ」「生Ⅰ」「地学Ⅰ」から1科目	
		外国語	「英」（筆記及びリスニング）	
	後期日程	国　語	「国」（古文・漢文を含む。）	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」のいずれかを選択
		数　学	「数Ⅰ・数A」	
		外国語	「英」（筆記及びリスニング）	
看護学部 看護学科	前期日程	国　語	「国」（古文・漢文を含む。）	面　接
		数　学	「数Ⅰ・数A」	
		理　科	「物Ⅰ」「化Ⅰ」「生Ⅰ」「地学Ⅰ」から2科目	
		外国語	「英」（筆記及びリスニング）	

② 推薦入学募集要項（デザイン学部・看護学部）

試験会場

デザイン学部：札幌市立大学　芸術の森キャンパス

看　護　学　部：札幌市立大学　桑園キャンパス

選抜方法

学部・学科名	選抜方法
デザイン学部 デザイン学科	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」（いずれかを選択）、面接及び調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
看護学部 看護学科	小論文（看護を学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力を見る。）、面接及び調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。

③ 社会人特別選抜募集要項（デザイン学部・看護学部）

試験会場

デザイン学部：札幌市立大学　芸術の森キャンパス

看　護　学　部：札幌市立大学　桑園キャンパス

選抜方法

学部・学科名	選抜方法
デザイン学部 デザイン学科	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」（いずれかを選択）、面接及び調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
看護学部 看護学科	総合問題（国語、英語、自然科学、論述）、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。

④ 私費外国人留学生特別選抜募集要項（デザイン学部）

試験会場

札幌市立大学　芸術の森キャンパス

選抜方法

学部・学科名	選抜方法
デザイン学部 デザイン学科	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」（いずれかを選択）、面接、日本留学試験及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。

3） 平成２０年度３年次編入学者選抜概要

募集人員

学部・学科名等	募集人員
デザイン学部デザイン学科 （推薦入学）	10人（各コース若干名）
デザイン学部デザイン学科	10人（各コース若干名）
看護学部看護学科	10人

選抜日程・試験会場

学部・学科名	出願期間	試験日	試験会場	合格発表
デザイン学部 デザイン学科 （推薦入学）	平成19年 7月 2日（月） ～ 7月 4日（水）	平成19年 7月28日（土）	札幌市立大学 芸術の森キャンパス	平成19年 8月 8日（水）
デザイン学部 デザイン学科	平成19年 9月13日（木） ～ 9月20日（木）	平成19年 10月13日（土） 10月14日（日）	札幌市立大学 芸術の森キャンパス	平成19年 10月25日（木）
看護学部 看護学科	平成19年 8月15日（水） ～ 8月21日（火）	平成19年 9月15日（土）	札幌市立大学 桑園キャンパス	平成19年 10月 2日（火）

選抜方法

学部・学科名	選抜方法
デザイン学部 デザイン学科 （推薦入学）	入学者の選抜は、本学が実施する小論文（課題解決型の論述問題）、面接・試問及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
デザイン学部 デザイン学科	入学者の選抜は、本学が実施する小論文（課題解決型の論述問題）、英語、面接・試問及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
看護学部 看護学科	入学者の選抜は、本学が実施する論述試験、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。

2　選抜状況

1)　入学者選抜状況

①　選抜・入学状況

デザイン学部　（単位：人）

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数			入学者数
					一次合格者	追加合格者	計	
一般選抜	前期日程	54	171	169	63	0	63	59
	後期日程	14	202	122	15	0	15	15
特別選抜	推薦入学	12	40	40	12	0	12	12
	社 会 人	若干名	3	3	1	0	1	1
	私費外国人留学生	若干名	0	0	0	0	0	0

看護学部　（単位：人）

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数			入学者数
					一次合格者	追加合格者	計	
一般選抜	前期日程	48	139	137	48	0	48	47
特別選抜	推薦入学	32	77	77	34	0	34	34
	社 会 人	若干名	27	27	3	0	3	3

②　入学者の内訳

（単位：人）

学部	入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
		道内		道外	男	女
		札幌市内	札幌市外			
デザイン学部	87	43	30	14	28	59
看 護 学 部	84	41	39	4	9	75
合計	171	84	69	18	37	134

2)　編入学者選抜状況

①　選抜・入学状況　　（単位：人）

学部		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数			入学者数
					一次合格者	追加合格者	計	
デザイン学部（推薦入学）	空　　間	若干名	7	7	5	0	5	5
	製　　品	若干名	4	4	2	0	2	2
	コンテンツ	若干名	3	3	2	0	2	2
	メディア	若干名	1	1	1	0	1	1
	計	10	15	15	10	0	10	10
デザイン学部	空　　間	若干名	9	8	3	0	3	3
	製　　品	若干名	1	1	0	0	0	0
	コンテンツ	若干名	0	0	0	0	0	0
	メディア	若干名	4	3	3	0	3	3
	計	10	14	12	6	0	6	6
看護学部		10	30	30	10	3	13	8

②　入学者の内訳　　（単位：人）

学部	入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
		道内		道外	男	女
		札幌市内	札幌市外			
デザイン学部（推薦入学）	10	9	1	0	0	10
デザイン学部	6	6	0	0	2	4
看護学部	8	2	6	0	0	8
合計	24	17	7	0	2	22

附属図書館

1　概要

1）　施設規模

芸術の森キャンパス図書館……延べ床面積／1,500㎡

桑園キャンパス図書館……延べ床面積／500㎡

2）　図書・雑誌・視聴覚資料・電子ジャーナル所蔵数　（平成20年3月31日現在）

図書館の名称	図書の冊数				雑誌の種数		
	和書	洋書	うち視聴覚資料	計	和雑誌	洋雑誌	電子ジャーナル
芸術の森キャンパス図書館	54,534	7,368	2,354	61,902	271	51	5
桑　園キャンパス図書館	22,991	1,119	752	24,110	251	6	45
合計	77,525	8,487	3,106	86,012	522	57	50

3）　年間受入状況

区分			和	洋	計
芸術の森キャンパス図書館	図書（冊）	購入	3,972	541	4,513
		寄贈	154	6	160
		計	4,126	547	4,673
	雑誌（種）	購入	47	10	57
		寄贈	3	0	3
		計	50	10	60
桑園キャンパス図書館	図書（冊）	購入	3,630	115	3,745
		寄贈	1,494	8	1,502
		計	5,124	123	5,247
	雑誌（種）	購入	76	5	81
		寄贈	1	0	1
		計	77	5	82

2　利用状況

1）　開館時間・休館日

開館時間	平　日：午前9時～午後9時 土曜日：午前10時～午後4時 大学の長期休業期間中：午前9時～午後5時
休 館 日	日曜・祝日・年末年始

2）　利用資格

①　本学学生及び教職員

②　札幌市に在住・在勤する18歳以上の方（館内閲覧のみ）

3）　貸出冊数・期間

利用者	貸出冊数	貸出期間
学部生 （科目等履修生を含む）	10冊	図書：2週間 雑誌：2週間（製本予定のない雑誌のみ貸出可）
教職員	無制限	図書：2ヶ月間 雑誌：2週間（製本予定のない雑誌のみ貸出可）

4）　年間利用者数・貸出冊数等

図書館	利用者	開館日数	入館者数	貸出人数	貸出冊数	ILL件数	
						受付	依頼
芸術の森キャンパス図書館	学生・教職員	269	21,478	5,095	10,648	4	14
	市民等学外者	269	321	0	0	0	0
桑　　園キャンパス図書館	学生・教職員	271	23,964	3,001	7,058	17	247
	市民等学外者	271	454	0	0	0	0
合計		－	46,217	8,096	17,706	21	261

ILL：Inter-Library Loan

役員会、経営審議会及び教育研究審議会

1　役員会及び審議会の審議状況

1）　役員会

回数	開催日	議題
第1回	平成19年6月21日	・平成18事業年度業務の実績に関する報告について ・平成18年度決算について ・学則の改正について
第2回	平成19年8月10日	・平成18事業年度業務実績報告書の評価結果について ・札幌市立大学大学院基本構想案について
第3回	平成19年10月2日	・平成20年度予算編成方針について
第4回	平成19年12月17日	・学部長等の選考に関する規程について ・勤務条件に関する規程改正について
第5回	平成20年3月26日	・平成20年度年度計画及び予算について ・大学設置基準改正に係る学則等の改正について ・「履修証明書が交付される特別の課程」への対応等について ・助教制度導入に係る処遇等について

2）　経営審議会

回数	開催日	議題
第1回	平成19年6月21日	・平成18事業年度業務の実績に関する報告について ・平成18年度決算について ・学則の改正について
第2回	平成19年8月10日	・平成18事業年度業務実績報告書の評価結果について ・札幌市立大学大学院基本構想案について
第3回	平成19年10月2日	・平成20年度予算編成方針について
第4回	平成19年12月17日	・勤務条件に関する規程改正について
第5回	平成20年3月26日	・平成20年度年度計画及び予算について ・大学設置基準改正に係る学則等の改正について ・「履修証明書が交付される特別の課程」への対応等について ・助教制度導入に係る処遇等について ・情報セキュリティポリシーについて ・学内運営体制について ・審議委員の任命について

3） 教育研究審議会

回数	開催日	議題
第1回	平成19年6月21日	・平成18事業年度業務の実績に関する報告について ・平成18年度決算について ・学則の改正について
第2回	平成19年8月10日	・平成18事業年度業務実績報告書の評価結果について ・札幌市立大学大学院基本構想案について
第3回	平成19年10月2日	・平成20年度予算編成方針について
第4回	平成19年11月14日	・なし（報告事項のみ）
第5回	平成19年12月5日	・公立大学法人札幌市立大学における公的研究費の管理及び監査に関する規程について ・公立大学法人札幌市立大学学部長等の選考に関する規程について ・入学資格審査要項について
第6回	平成20年2月6日	・部局長の選考について
第7回	平成20年3月26日	・平成20年度年度計画及び予算について ・大学設置基準改正に係る学則等の改正について ・「履修証明書が交付される特別の課程」への対応等について ・助教制度導入に係る処遇等について ・情報セキュリティポリシーについて ・学内運営体制について ・審議委員の任命について

2　役員及び審議会委員名簿　（平成20年3月31日現在）

1）　役員

役職	氏名	現職
理事長	原田　　昭	札幌市立大学　理事長・学長
理　事	中村　惠子	札幌市立大学　副学長・看護学部長
理　事	金井　英明	其水堂金井印刷㈱　代表取締役
理　事	津川　敏典	㈶さっぽろ産業振興財団　専務理事
理　事	横内　龍三	㈱北洋銀行　取締役頭取
監　事	小寺　正史	弁護士
監　事	山崎　　峻	公認会計士

2）　経営審議会委員

氏名	現職
原田　　昭	札幌市立大学　理事長・学長
中村　惠子	札幌市立大学　副学長・看護学部長
津川　敏典	札幌市立大学　理事
横内　龍三	札幌市立大学　理事
菊嶋　明廣	札幌商工会議所　常務理事
平本　健太	北海道大学大学院経済学研究科　教授
松平　英明	㈶札幌市芸術文化財団　副理事長
山岸　正美	㈱マーケティング・コミュニケーション・エルグ　代表取締役
若山　登美子	㈳北海道看護協会　会長
池田　捨成	札幌市立大学　事務局長

3）　教育研究審議会委員

氏名	現職
原田　　昭	札幌市立大学　理事長・学長
中村　惠子	札幌市立大学　副学長・看護学部長
金井　英明	札幌市立大学　理事
大田　すみ子	㈳日本看護協会　北海道地区理事
丹羽　祐而	札幌市教育委員会　委員長
吉田　惠介	札幌市立大学　デザイン学部長
武邑　光裕	札幌市立大学　附属図書館長・デザイン学部教授
池田　捨成	札幌市立大学　事務局長

学内運営の概要

1　部局長会議

1）　年間活動概要

平成19年度は、下記の構成員により、原則として月1回（第1水曜日）開催し、法人の経営及び大学の教育研究を円滑に行うために必要な連絡、調整、協議を行った。

2）　会議開催状況

第1回		第2回	
開催日	平成19年4月3日	開催日	平成19年5月9日
議　題	・なし（報告事項のみ）	議　題	・助教制度導入スケジュール案について ・平成20年度デザイン学部編入学（推薦入学）について
第3回		第4回	
開催日	平成19年6月6日	開催日	平成19年7月4日
議　題	・平成20年度3年次編入学について ・助教制度導入に係る学則の改正等について ・平成18年度決算について	議　題	・知的財産関連規程の制定について
第5回		第6回	
開催日	平成19年8月1日	開催日	平成19年9月5日
議　題	・札幌市立大学大学院基本構想案について ・札幌市地方独立行政法人評価委員会における平成18事業年度業務実績報告書の評価結果（案）について ・役員会等の開催について ・高大連携事業について（北海道札幌新川高等学校）	議　題	・平成20年度予算編成方針について ・役員会等の開催について
第7回		第8回	
開催日	平成19年9月21日	開催日	平成19年10月3日
議　題	・札幌市立大学大学院基本構想案について	議　題	・なし（報告事項のみ）
第9回		第10回	
開催日	平成19年10月31日	開催日	平成19年12月5日
議　題	・公的研究費の管理及び監査に関する規程の制定について ・入学資格審査について ・指定規則の改正に伴う看護学部教育課程の改正について	議　題	・勤務条件に関する規程改正について ・学部長等の選考に関する規程について ・平成19年度年度計画執行状況及び平成20年度年度計画の策定について ・シンボルマークの商標登録について ・平成21年度入学者選抜試験実施日程について ・役員会、経営審議会、教育研究審議会の開催について
第11回		第12回	
開催日	平成20年1月9日	開催日	平成20年2月6日
議　題	・平成20年度学事暦について	議　題	・大学設置基準改正に係る対応について ・備品整備・施設改修計画について ・第6回教育研究審議会の開催について ・承徳医学院との学術交流協定について

第13回		第14回	
開催日	平成20年3月5日	開催日	平成20年3月13日
議　題	・大学設置基準改正に係る学則の改正について ・助教制度導入に伴う規程の改正等について ・情報セキュリティーポリシーについて ・「履修証明書が交付される特別の課程」への対応等について ・学内委員会等について ・平成20年度予算（案）について ・役員会、審議会の議題について	議　題	・平成20年度学内委員会等について

3）　構成員名簿

教職員名	所属・職位等
◎原田　　昭	理事長・学長
中村　惠子	副学長・看護学部長
吉田　惠介	デザイン学部長
武邑　光裕	附属図書館長・デザイン学部教授
池田　捨成	事務局長

◎印：議長

2　企画戦略会議

1）　年間活動概要

企画戦略会議は、平成19年度に計6回の会議を開催した。

本年度は、本法人の初めての取組となる平成18事業年度業務実績報告書について審議を行うとともに、その実績報告書に対する札幌市地方独立行政法人評価委員会からの評価案について審議を行った。また、開学3年目となる平成20年度からは一期生が就職活動を開始することから、その支援体制について審議し、平成20年4月から「キャリア支援センター」の設置と両学部に「キャリア支援委員会」を設けることとした。第5、6回の企画戦略会議では、平成20年度年度計画について審議を行い、役員会及び審議会を経て3月末日に札幌市へ年度計画の届出を行った。

2）　会議開催状況

第1回		第2回	
開催日	平成19年5月29日	開催日	平成19年8月1日
議　題	・平成18事業年度業務実績報告書について ・その他	議　題	・平成18事業年度に係る業務の実績に関する評価案について ・その他
第3回		第4回	
開催日	平成20年1月9日	開催日	平成20年1月29日
議　題	・就職支援について ・その他	議　題	・就職支援について ・その他
第5回		第6回	
開催日	平成20年3月5日	開催日	平成20年3月13日
議　題	・平成20年度年度計画について ・その他	議　題	・平成20年度年度計画について ・その他

3）　構成員名簿

教職員名	所属・職位等
◎原田　　昭	理事長・学長
中村　恵子	副学長・看護学部長
吉田　恵介	デザイン学部長
武邑　光裕	附属図書館長・デザイン学部教授
池田　捨成	事務局長

◎印：議長

3　教授会

1)　デザイン学部教授会

①　年間活動概要

デザイン学部教授会は、平成19年度に12回開催し、教育課程の編成、学生の入学・在籍、学生支援、施設整備、学部長の選考及びその他学部の教育等に関する事項など、幅広い事項について審議を行った。

また、教授会終了後には、毎回、各学内委員会及び学部委員会からの報告等を行う教員会議を開催した。

②　会議開催状況

第1回	
開催日	平成19年4月2日
議　題	・高専大学連携事業について ・新任教員の紹介 ・デザイン学部の教育について ・休学について ・履修登録単位数の上限について ・平成19年度入学者について

第2回	
開催日	平成19年4月11日
議　題	・代議員会（入試・科目等履修生）の設置について

第3回	
開催日	平成19年5月23日
議　題	・既修得単位の認定について ・編入学の単位認定に関する考え方について

第4回	
開催日	平成19年6月20日
議　題	・助教審査基準について ・D評価について

第5回	
開催日	平成19年7月18日
議　題	・代議員会（編入学合否）の設置について ・特別講義について ・教員相互の授業参観について

第6回	
開催日	平成19年9月19日
議　題	・札幌市立大学大学院基本構想案について ・科目等履修生の選考について ・代議員会（編入学合否）の設置について ・教員相互の授業参観について ・時間割の変更について ・施設設備整備計画について ・メンター制度について ・コースごとのプレゼンテーションについて

第7回	
開催日	平成19年10月17日
議　題	・デザイン学部施設整備について ・コースごとのプレゼンテーションについて ・編入学における既修得単位の認定について

第8回	
開催日	平成19年11月21日
議　題	・代議員会の設置について ・学生の休学について

第9回	
開催日	平成19年12月19日
議　題	・学部長の選考等について

第10回	
開催日	平成20年1月23日
議　題	・科目等履修生及び聴講生の募集について

第11回	
開催日	平成20年2月20日
議　題	・代議員会の設置について ・退学について

第12回	
開催日	平成20年3月19日
議　題	・退学、休学、復学について ・進級について ・編入学生の既修得単位の認定について

③　議長及び構成員

議　長：吉田　恵介（デザイン学部長）　　構成員：デザイン学部教授、准教授、講師

2)　看護学部教授会

①　年間活動概要

看護学部教授会は計12回の会議を開催し、看護学部の教育課程及び学生の入退学等に関する事項について審議を行い、本年度は、開学後初めて3年次への進級判定を行った。

また、学部長の任期満了に伴い、学部長候補者の選考及び候補者の推薦に関する必要事項について審議を行い、選挙管理委員会委員を定めるとともに実施細則等を整備した。

②　会議開催状況

第1回		第2回	
開催日	平成19年4月2日	開催日	平成19年4月11日
議　題	・平成19年度看護学部入学者について ・成績優秀な学生の履修登録について ・平成19年度教授会議事録の署名者について ・教員会議の開始時間について	議　題	・代議員会の設置について ・進学相談会への出席について
第3回		第4回	
開催日	平成19年5月23日	開催日	平成19年6月20日
議　題	・退学者について ・他大学の既修得単位認定について ・助教について ・定期試験について（クォーター科目） ・大学院について	議　題	・履修に関する学部内申し合わせ事項について
第5回		第6回	
開催日	平成19年7月18日	開催日	平成19年9月19日
議　題	・編入学試験実施に伴う代議員会の設置について ・平成20年度以降の科目責任者について	議　題	・札幌市立大学大学院基本構想案について ・看護学部教員の授業参観について ・学生アンケートについて
第7回		第8回	
開催日	平成19年10月17日	開催日	平成19年11月21日
議　題	・指定規則改正に伴う検討委員会の設置について	議　題	・代議員会の設置について
第9回		第10回	
開催日	平成19年12月19日	開催日	平成20年1月23日
議　題	・学部長選考細則について ・選挙管理委員会委員の互選について	議　題	・看護学部長候補者の推薦について ・進級判定について
第11回		第12回	
開催日	平成20年2月20日	開催日	平成20年3月19日
議　題	・大学設置基準改正にかかる対応について ・平成20年度時間割について	議　題	・3年次への進級判定について ・退学者について ・学則改正について

③　議長及び構成員

議　長：中村　惠子（副学長・看護学部長）　　構成員：看護学部教授、准教授、講師

4　地域連携研究センター

1）　年間活動概要

平成19年4月より地域連携研究センターが開設された。4月4日にセンター構成員全員による全体会議を開催し、センターの機能、業務、体制等について確認した。

センターの業務をより機能的に運営するために研究推進部門、人材育成・地域貢献部門、産学連携部門を立ち上げ、構成員がそれぞれの部門に位置づくこととした。また、それぞれの部門全体の情報交換ならびにセンターとしての運営を統括するために、センター長、部門長などを構成員とした運営会議を設け、月1回、定例開催することとした。

センター運営会議において協議した結果、経営戦略にも記載している産学連携を推進するためのリエゾン担当コーディネーターの配置、国際交流基本方針の策定、知的財産関連規程の制定、「公立大学法人札幌市立大学における公的研究費の管理及び監査に関する規程」の策定を行った。

また、事業面では、人材育成・地域貢献部門が中心となり市民ならびに職能人を対象とした公開講座を積極的に開催し、成果を得た。

2）　運営会議開催状況

第1回		第2回	
開催日	平成19年4月18日	開催日	平成19年5月16日
議　題	・札幌市立大学の国際交流協定に関する基本方針（案）について ・リエゾン担当コーディネーターについて ・運営会議開催日について（頻度、場所等）	議　題	・平成19年度の公開講座の企画について ・海外大学関係者との交流実績調査について
第3回		第4回	
開催日	平成19年6月13日	開催日	平成19年7月17日
議　題	・知的財産関連規程の制定について ・研究推進支援に係る本学情報システムの課題と緊急動議 ・外部資金受入状況 ・平成19年度の公開講座の企画について ・海外大学関係者との交流実績調査結果について 【その他】 ・サテライトキャンパス利用要領について ・プログラムオフィサー（PO）制度の説明会について	議　題	・JICA日系研修員事業への応募について 【その他】 ・サービス産業生産性向上支援調査事業への応募について ・科学研究費補助金交付者への説明会について ・研究交流会について
第5回		第6回	
開催日	平成19年9月12日	開催日	平成19年10月16日
議　題	・施設・備品整備に関する検討について ・講師料及び受講料の設定ついて ・地域貢献活動に係る学内アンケートの実施ついて ・紀要の発行ついて 【その他】 ・科学研究費補助金公募について	議　題	・「公立大学法人札幌市立大学における公的研究費の管理及び監査に関する規程」について ・北京における「札幌デイ（札幌節）」事業に係る協力について 【その他】 ・紀要編集委員会について

第7回	
開催日	平成19年11月14日
議　題	・提携を進める際の段取りについて ・地域連携研究センター他の英文名称について ・クリスマスカードの送付について 【その他】 ・北海道MOTコンソーシアム（推進協議会）について

第8回	
開催日	平成19年12月12日
議　題	・受託研究等外部資金の受け入れについて ・学術奨励研究費（国際学会発表者補助）の追加募集について ・平成19年度年度計画の執行及び平成20年度年度計画の策定について ・札幌市からの共催依頼について ・平成20年度市民及び専門講座・セミナーの開催方針について ・海外との提携を前提とした交流について（追加） 【その他】 ・府省共通研究開発管理システム（e-Rad）について ・産学連携講座の開催について

第9回	
開催日	平成20年1月16日
議　題	・研究交流会及び科学研究費補助金説明会の日程について ・承徳医学院との調印について ・平成20年度市民及び専門講座・セミナーについて ・総務委員会からの施設・備品整備に係る検討項目の再検討について ・平成19年度年度計画の執行及び平成20年度年度計画の策定について 【その他】 ・文部科学省「戦略的大学連携支援事業」について

第10回	
開催日	平成20年2月12日
議　題	・学術奨励研究費及び共同研究費の募集について ・地域連携研究センターのホームページについて ・さっぽろ緑花園芸学校の共催ついて 【その他】 ・部門の見直しについて ・NECパーソナルロボットPAPEROについて ・受託研究の受け入れ（研究代表者：酒井正幸教授）について ・e-Radについて

第11回	
開催日	平成20年3月28日
議　題	・学術奨励研究費及び共同研究費の募集について ・平成20年度の公開講座の開催について ・地域連携研究センターの見直しについて ・北洋銀行との包括協定の締結について 【その他】 ・受託研究・寄附の受け入れについて ・次年度事業申込みについて ・研究助成カレンダーについて

3） 構成員の範囲

教職員名	所属・職位等
◎原 田　　昭	理事長・学長
○武 邑　光 裕	附属図書館長・デザイン学部教授
○河 野　總 子	看護学部教授
城 間　祥 之	デザイン学部教授
田 中　敏 明	デザイン学部教授
エル サニ マロアン	デザイン学部准教授
斉 藤　雅 也	デザイン学部講師
三 谷　篤 史	デザイン学部講師
須之内　元洋	デザイン学部助手
スーディ神崎 和代	看護学部教授
清 水　光 子	看護学部准教授
佐藤　公美子	看護学部講師
新 納　美 美	看護学部講師
石 川　豊 治	事務局次長・桑園事務室長
上 田　理 子	事務局経営企画課地域連携担当課長

◎：議長・センター長
○：副センター長

5　アドミッションセンター

1）　年間活動概要

入学者選抜試験の実施、選抜方法の改善、学生確保に係る事業の計画的な推進を行う組織として、平成19年4月にアドミッションセンターを設置した。平成19年度は計11回の会議を開催し、前年度入試の結果分析をはじめ、平成20年度入学者選抜方法の検討、選抜試験実施要領の策定等を行った。

また、オープンキャンパスの開催、高校訪問の実施等、学生募集に向けた様々な取組について企画・運営を行った。

2）　運営会議開催状況

第1回	
開催日	平成19年4月4日
議　題	・平成19年度入学者選抜の実施結果について ・平成20年度入学者選抜スケジュールについて ・平成20年度入学者選抜要項について ・平成20年度3年次編入学者選抜試験について ・平成19年度入学生アンケートの実施について ・進学相談会等への参加について

第2回	
開催日	平成19年4月24日
議　題	・平成20年度デザイン学部3年次編入学（推薦入学）試験の概要について ・第1回オープンキャンパスについて ・入学者選抜試験実施結果の公表について

第3回	
開催日	平成19年5月15日
議　題	・平成20年度3年次編入学学生募集要項について ・平成20年度入学者選抜要項について ・大学資料の一斉送付について ・高校訪問について ・他学部に関するレクチャーについて ・オープンキャンパスに係る広報について ・平成19年度入学者アンケート実施結果について

第4回	
開催日	平成19年6月19日
議　題	・第1回オープンキャンパスについて ・キャンパス見学者への対応について ・平成20年度学生募集要項について

第5回	
開催日	平成19年7月17日
議　題	・平成20年度学生募集要項について ・第2回オープンキャンパスについて ・平成20年度デザイン学部3年次編入学（推薦入学）試験実施要領について

第6回	
開催日	平成19年9月5日
議　題	・平成20年度看護学部3年次編入学試験実施要領について ・第2回オープンキャンパスについて ・施設・備品整備に係る検討について

第7回	
開催日	平成19年10月3日
議　題	・平成20年度デザイン学部3年次編入学試験実施要領について ・札幌市立大学入学資格審査要項について ・AO入試について

第8回	
開催日	平成19年11月13日
議　題	・平成20年度特別選抜試験（推薦・社会人）実施要領について ・身体障がいを有するデザイン学部出願者に係る受験特別措置について ・大学入試センター試験業務従事者について ・平成21年度入学者選抜試験実施日程について

第9回	
開催日	平成19年12月11日
議　題	・平成20年度オープンキャンパスの実施について

第10回	
開催日	平成20年1月22日
議　題	・平成20年度年度計画について（アドミッションセンター関係分） ・広報活動について

第11回	
開催日	平成20年2月14日
議　題	・平成20年度一般選抜及び私費外国人留学生特別選抜出願結果について ・平成20年度一般選抜試験実施要領について

3） 構成員名簿

教職員名	所属・職位等
◎中 村　惠 子	副学長・看護学部長
○吉 田　惠 介	デザイン学部長
中 原　　宏	デザイン学部教授
細 谷　多 聞	デザイン学部准教授
山 田　　良	デザイン学部講師
坂倉　恵美子	看護学部教授
樋之津　淳子	看護学部教授
吉川　由希子	看護学部准教授
渡邉　由加利	看護学部講師
本間　のり子	事務局学生課長
芳 村　直 孝	事務局桑園担当課長

◎印：議長・センター長
○印：副センター長

6　学内委員会

1)　自己点検・評価委員会

①　年間活動概要

自己点検・評価委員会は平成19年度に計11回の委員会を開催し、自己点検・評価の実施に向け具体的な検討を行い、本学の初回の自己点検・評価については、平成18年度、平成19年度の2ヶ年の教育・研究活動を踏まえ、平成20年度に自己点検・評価を行うこととした。

平成19年度は自己点検・評価の実施に向け、点検・評価体制、実施スケジュール、点検・評価報告書作成マニュアル等について検討を行うとともに、大学の「基礎データ」の一つである平成18年度教員個人調書の収集も行った。

②　委員会開催状況

第1回	
開催日	平成19年4月25日
議　題	・委員長及び所管部局長挨拶 ・委員紹介 ・平成18年度自己点検・評価委員会活動報告

第2回	
開催日	平成19年5月14日
議　題	・教員個人調書について

第3回	
開催日	平成19年6月18日
議　題	・教員個人調書について ・自己点検・評価の進め方について

第4回	
開催日	平成19年7月11日
議　題	・教員個人調書及び教育研究業績発表件数の取扱いについて ・点検・評価項目と基礎データについて ・今後の進め方について

第5回	
開催日	平成19年9月12日
議　題	・点検・評価項目について ・教員個人調書の取扱いについて ・今後の進め方について

第6回	
開催日	平成19年10月10日
議　題	・教員個人調書の取扱いについて ・点検・評価項目について ・点検・評価分担案 ・点検・評価スケジュール ・自己点検・評価実施マニュアルについて ・学生、教員、職員アンケート調査について

第7回	
開催日	平成19年11月28日
議　題	・教員個人調書及び教育研究業績発表件数について（確認作業）

第8回	
開催日	平成19年12月12日
議　題	・教員個人調書の修正依頼等について ・点検・評価について ・点検・評価分担案について ・点検・評価スケジュールについて

第9回	
開催日	平成20年1月9日
議　題	・教員個人調書の取扱いについて ・点検・評価について ・平成20年度年度計画について

第10回	
開催日	平成20年2月13日
議　題	・教員個人調書の取扱いについて ・「自己点検・評価報告書作成マニュアル」について

第11回	
開催日	平成20年3月18日
議　題	・「自己点検・評価報告書作成マニュアル」について ・日本看護系大学協議会シンポジウム報告 ・平成19年度自己点検・評価委員会活動報告

2) 総務委員会

① 年間活動概要

総務委員会は、平成19年度に11回の委員会を開催し、キャンパスの有効活用、施設の学外者利用、年報の作成等についての検討等を行ったほか、平成19年度入学式を行った。

このほか、救急救命講習の開催や、年度後半には全学的な施設・備品整備について要望を取りまとめるなど、他のどの学内委員会等の所管事項にも属さない案件についても所管し、多様な取組を行った。

② 委員会開催状況

第1回	
開催日	平成19年4月25日
議　題	・施設・備品について ・防災訓練について ・平成19年度主要検討事項について

第2回	
開催日	平成19年5月30日
議　題	・危機管理マニュアルについて ・収蔵庫等芸術の森キャンパスの有効活用について ・大学施設の学外者利用について

第3回	
開催日	平成19年6月27日
議　題	・危機管理マニュアルに基づく整備事項（案）について ・収蔵庫整理について ・大学施設の学外者利用について

第4回	
開催日	平成19年7月25日
議　題	・両キャンパスの施設改修、備品整備等について ・年報の作成について

第5回	
開催日	平成19年9月26日
議　題	・施設改修、備品整備等について ・年報の作成について

第6回	
開催日	平成19年10月24日
議　題	・年報の作成について ・施設改修、備品整備等について

第7回	
開催日	平成19年11月28日
議　題	・年報の作成について ・施設改修、備品整備等について ・平成19年度年度計画の進捗状況について

第8回	
開催日	平成19年12月26日
議　題	・年報の作成について ・施設改修、備品整備等について

第9回	
開催日	平成20年1月30日
議　題	・年報の作成について ・施設改修、備品整備等について ・平成20年度年度計画（総務委員会関係分）について

第10回	
開催日	平成20年2月22日
議　題	・平成20年度入学式について ・駐車場整備について

第11回	
開催日	平成20年3月26日
議　題	・大学施設の学外者利用について

③ 救急救命講習の実施

開催日	会場	参加人数
平成19年9月13日	札幌市立大学桑園キャンパス	10人
平成19年9月18日	札幌市立大学芸術の森キャンパス	17人

3） FD委員会

① 年間活動概要

大学として、教員の資質の維持向上及び教育方法の改善を組織的に取組むため、平成19年度からFD委員会を設置し、13回の委員会を開催した。

主な活動として、全学または各学部におけるFD研修会（延べ21回）、教員相互の授業参観、学生の授業評価アンケートの活用等を効果的に実施し、教育方法を継続的に改善するための取組を積極的に行った。

② 委員会開催状況

第1回	
開催日	平成19年4月4日
議　題	・平成18年度総務委員会実績報告（FD研修実績） ・平成19年度年度計画について ・その他

第2回	
開催日	平成19年4月25日
議　題	・特色GP関連研修について ・学校教育法関連研修について ・その他（学部FD研修会の承認／研修への教職員の派遣）

第3回	
開催日	平成19年5月30日
議　題	・学校教育法関連研修について ・大学教育学会への参加について ・その他（各学部研修の承認／授業評価アンケート）

第4回	
開催日	平成19年6月27日
議　題	・教員相互の授業参観について ・その他（全学FD研修会の実施報告／学部FD研修会の承認）

第5回	
開催日	平成19年7月25日
議　題	・教員相互の授業参観について ・特色GP関連研修について ・授業評価アンケートについて ・その他（学校教育法関連研修の実施報告／学部FD研修会の承認／学部FD研修会申請様式（案））

第6回	
開催日	平成19年9月26日
議　題	・教員相互の授業参観について ・特色GP関連研修について ・授業評価アンケートについて ・その他（学部FD研修会申請様式（案）／学部FD研修会の承認）

第7回	
開催日	平成19年10月24日
議　題	・教員相互の授業参観について ・授業評価アンケートについて ・FD研修（PCM手法）について ・その他（学部FD研修会の承認）

第8回	
開催日	平成19年11月28日
議　題	・教員相互の授業参観について ・授業評価アンケートについて ・シラバスの記載方法等の指導・助言について ・その他(学部FD研修会の承認／学部FD研修会報告)

第9回	
開催日	平成19年12月10日
議　題	・授業評価アンケートについて

第10回	
開催日	平成19年12月26日
議　題	・平成19年度年度計画の執行について ・平成20年度年度計画の策定について ・その他（学部FD研修会報告／学部FD研修会申請）

第11回	
開催日	平成20年1月30日
議　題	・平成20年度年度計画について ・平成19年度FD研修会に関するアンケートについて ・FDネットワーク「つばさ」について ・その他（学部FD研修会申請／学部FD研修会報告）

第12回	
開催日	平成20年2月27日
議　題	・平成19年度FD研修会に関するアンケートについて ・その他（学部FD研修会報告）

第13回	
開催日	平成20年3月26日
議　題	・平成19年度FD研修会に関するアンケートについて ・その他（学部FD研修会報告）

③　FD研修会の実施

開催日	タイトル	講師	対象者及び参加人数
平成19年4月2日	所信表明	学内	デザイン学部（23人）
平成19年4月10日	看護学部のカリキュラム構築にあたって	学内	看護学部（11人）
平成19年4月18日	臨地実習における教員の役割	学内 近藤　ときえ （市立札幌病院看護部　副看護部長）	看護学部（34人）
平成19年5月8日	第46回ミラノサローネ国際家具見本市視察報告会	学内	デザイン学部（23人）
平成19年5月22日	デザイン学部新任教員研修会	学内	デザイン学部（10人）
平成19年6月20日	大学教育学会第29回大会報告	学内	全学（66人）
平成19年7月4日	平成19年度客観的臨床能力試験（OSCE）実施ならびに模擬患者（SP）養成について	学内	看護学部（34人）
平成19年7月11日	学校教育法関連研修	中津井　泉 （㈱リクルート「カレッジマネジメント」編集顧問）	全学（68人）
平成19年9月3日 ～4日	腰痛を防ぐ新たなトランスファー技術	学内 齋竹　一子 （東京天使病院　看護師） 川井　城樹 （江戸川医療専門学校作業療法学科　教員） 高城　宗敏 （介護老人保健施設エンジェルコート　相談員）	看護学部（延べ59人）
平成19年9月10日	研究交流会	学内	全学（58人）
平成19年9月19日	第57回東北・北海道地区大学一般教育研究会報告	学内	全学（60人）
平成19年9月20日 ～21日	フィジカルアセスメント	山内　豊明 （名古屋大学　教授）	看護学部（延べ47人）
平成19年9月27日	成人看護学領域における授業展開の概要	学内	看護学部（31人）
平成19年11月21日	大学教員のための図書館活用術	学内	デザイン学部（19人）
平成19年12月12日	PCM手法研修	山下　里愛 （アイ・シー・ネット㈱）	全学（58人）
平成19年12月19日	キャリア支援に関するセミナー	古藤　隆久 （㈱リクルート）	デザイン学部（35人）
平成19年12月25日	PhotoshopとIllustratorによるグラフィック作成講習	学内	デザイン学部（14人）
平成20年1月17日	卒業研究を支援する－教育計画の実際と指導のポイント－	藤崎　郁 （大阪大学大学院医学系研究科）	看護学部（38人）
平成20年1月17日	看護学教育における模擬患者養成とファシリテーターの役割	藤崎　和彦 （岐阜大学医学部　教授）	看護学部（51人）
平成20年2月20日	老年看護学領域の授業・実習展開の概要	学内	看護学部（34人）
平成20年3月13日	看護研究に求められる統計的手法の基礎的知識	福田　勝洋 （久留米大学　名誉教授）	看護学部（33人）

4） 図書委員会

① 年間活動概要

図書委員会については、平成19年度に計11回の委員会を開催した。

主な活動内容は、図書の一括購入を検討するとともに、FD研修会や各種講習会について企画・実施した。年度後半からは、図書館ニュースレター「のほほん」の作成、図書館整備に向けて要望の取りまとめを行い、必要な整備を行った。また、平成20年度より開始予定の市民への資料の貸出についての方針等を検討した。

② 委員会開催状況

第1回		第2回	
開催日	平成19年4月16日	開催日	平成19年5月9日
議　題	・委員長挨拶 ・委員紹介 ・図書・情報専門部会からの申送り事項 ・図書館司書との意見交換	議　題	・図書予算について ・選書について ・購入雑誌について ・スタジオ・シアターの利用ルールについて ・報告事項について
第3回		第4回	
開催日	平成19年6月19日	開催日	平成19年7月24日
議　題	・図書予算について ・一括購入について ・シネマテークについて ・夏休み前後の図書館スケジュールについて ・図書館主催市民公開講座について ・デザイン系電子ジャーナル講習会について ・図書館主催研究支援講習会（仮称）について	議　題	・報告事項について ・電子ジャーナル講習会について（看護学部） ・取寄せによる貸出について ・市民開放の年齢条件の緩和について ・図書館主催研究支援講習会（仮称）について ・図書館内の運用について
第5回		第6回	
開催日	平成19年9月12日	開催日	平成19年10月19日
議　題	・報告事項について ・施設・備品要求について ・共通教育系図書の一括購入について ・図書館主催研究支援講習会（仮称）について ・悪質延滞者に対する対応について ・北海道札幌平岸高等学校との連携について ・館内への飲み物の持込について ・市民への館外貸出について ・図書館ニュースレターについて ・図書館の課題	議　題	・報告事項について ・図書館ニュースレターについて ・冬休みのスケジュールについて ・雑誌の製本計画（デザイン）について ・看護学部より報告
第7回		第8回	
開催日	平成19年11月15日	開催日	平成19年12月21日
議　題	・報告事項について ・研究支援講習会 ・ニュースレター ・私費扱いILLの検討について ・芸術の森図書館（1F）の整備について ・ギンザ・グラフィックギャラリーについて	議　題	・報告事項について ・ニュースレターについて ・ギンザ・グラフィックギャラリーについて ・平成19年度年度計画について ・施設・備品整備に係る検討項目の再検討について

第9回	
開催日	平成20年1月24日
議　題	・報告事項について ・春休み時期の短時間開館等について ・4月からの市民への資料の貸出について ・芸術の森キャンパス図書館のレイアウト変更について ・平成20年度年度計画について ・ニュースレターについて

第10回	
開催日	平成20年2月26日
議　題	・報告事項について ・ホームページの改定について

第11回	
開催日	平成20年3月25日
議　題	・報告事項について ・委員会活動報告について ・来年度に向けて

5)　広報・情報委員会

①　年間活動概要

広報・情報委員会については、平成19年度に計10回の委員会を開催した。

主な活動内容は、広報関係では、学内外の広報活動、ホームページ、パンフレット等配布物、大学グッズ、学内ポータルサイトの整備について検討した。情報関係では、情報システムの運営に関する事項（認証システム、Webメールシステム等）について検討を進めた。また、札幌市立大学セキュリティーポリシーの基本方針について検討を行った。

②　委員会開催状況

第1回	
開催日	平成19年4月25日
議　題	○広報・情報委員会今年度の方針について ○情報関係について ・メンテナンス定例会の開催 ・デザイン学部情報系教室連絡会議の開催 ・研究用サーバーの設置スケジュール ・看護学部コンピューター室連絡会議と運用計画 ○広報関係について ・HPの更新 ・パンフレット案 ○今後の進め方

第2回	
開催日	平成19年5月25日
議　題	○広報関係（報告） ・大学案内パンフレットについて ・大学ポスターについて ・英語版パンフレットについて ・公式HPの更新について ・大学グッズ・大学歌について ○情報関係（報告） ・学生用Webメールについて情報系教室の学生認証について ・研究用サーバーの設置スケジュールについて ・情報系教室（デザイン学部・看護学部）の連絡会議について ・学生の持ち込みPCの接続について ・学内ネットワークの総点検について

第3回	
開催日	平成19年6月27日
議　題	○広報関係 ・大学案内パンフレットについて ・大学ポスターについて ・英語版パンフレットについて ・地下鉄構内電照看板について ・大学グッズについて ・学内ポータルサイトについて ○情報関係 ・学生の持ち込みPCについて ・研究用サーバーについて ・教員用PCについて ・教員用Webメールについて ・教員からの要望について

第4回	
開催日	平成19年7月25日
議　題	○広報関係 ・英語版パンフレットについて ・学内ポータルサイトについて ・地下鉄電照看板について ・大学グッズについて ・情報関係 ・停電作業（桑園キャンパス）について ・学生認証について ・学生の持ち込みPCについて ・教員用Webメールについて ・研究用サーバーについて

第5回	
開催日	平成19年9月26日
議　題	○広報関係 ・英語版パンフレットの制作について ・今年度の入試広報について ・HP更新業務の委託について ・来年度の大学案内パンフレット（日本語版）制作について ・地下鉄電照広告について ○情報関係 ・研究用サーバーについて ・教員用Webメールについて ・学生認証システムについて ・メディアコースからの要望について ・施設・備品要求について ・グローバルIPについて ・平成20年4月からの情報系教室、準情報系教室、アトリエの環境設定について ・10月のサーバーパッチ当て作業について

第6回	
開催日	平成19年10月24日
議　題	○広報関係 ・来年度の大学案内パンフレット（日本語版）について ・英語版パンフレットについて ・大学グッズについて ・大学公式HPについて ○情報関係 ・学生持ち込みPCの使用について ・Webメールについて ・来年度の情報系教室について ・ネットワークの総点検について ・認証システムについて

第7回	
開催日	平成19年11月28日
議　題	○広報関係 ・来年度の大学案内パンフレット（日本語版）について ・英語版パンフレットについて ・大学グッズについて ・来年度の広報計画について ・シンボルマークの使用について ・ポータルサイトの使用について ○情報関係 ・学生の持ち込みPCについて ・ネットワークの総点検について ・学内メールアカウント等作成のレギュレーションについて ・Webメールについて ・認証システムについて

第8回	
開催日	平成20年1月30日
議　題	○広報関係 ・大学案内パンフレットについて ・来年度の広報計画について ・平成20年度年度計画について ・大学公式HPの文字サイズについて ○情報関係 ・ネットワークの総点検について ・施設・備品整備に係る検討項目の再検討について ・認証システムについて ・Webメールについて ・セキュリティーポリシーについて ・来年度の情報系教室について

第9回		第10回	
開催日	平成20年2月21日	開催日	平成20年3月28日
議　題	○広報関係 ・大学案内パンフレットについて ・大学グッズ（風呂敷）について ・公式HPの新コンテンツ（地域連携研究センター関係）について ○情報関係 ・認証システムについて ・Webメールについて ・セキュリティーポリシーについて ・来年度のリース契約・保守契約について	議　題	○広報関係 ・大学案内パンフレットについて ・英語版パンフレットについて ・大学グッズ（風呂敷）について ・公式HPの更新及びその体制について ・広報・記録用写真撮影について ○情報関係 ・来年度のリース契約について ・来年度に向けて ・その他

6）　教務・学生委員会

①　年間活動概要

教務・学生委員会は、平成19年度に16回の委員会を開催し、共通教育、デザイン・看護両学部の専門教育に関する事項及び学生生活、課外活動支援に関する事項等について、年度計画を見据え、かつ実際の授業運営等に即して、必要となる協議を行った。

具体的には、学事暦、時間割、シラバス、定期試験及び授業評価アンケートに関すること、また、奨学金、大学祭に関すること等について議論を重ね、教務及び学生支援に関する基盤を構築した。

②　委員会開催状況

第1回		第2回	
開催日	平成19年4月3日	開催日	平成19年4月25日
議　題	・優秀な学生の定義について ・D評価の取扱いについて ・編入学単位の読み替えについて	議　題	・既修得単位の認定について ・平成19年度前期科目等履修生（札幌市立高等専門学校）の入学について ・平成19年度前期履修登録状況について ・学生団体の設立について ・学生の駐車場（芸術の森キャンパス）使用許可について ・特色GPについて
第3回		第4回	
開催日	平成19年5月16日	開催日	平成19年6月13日
議　題	・既修得単位の認定について ・編入学・単位認定について ・D評価の取扱いについて ・奨学金（日本学生支援機構）の推薦対象者について（在学採用） ・平成19年度前期の授業料減免対象者について	議　題	・後期科目の履修希望調査の実施について ・「公認クラブ運営協議会」の立ち上げについて ・年度計画（教務・学生委員会関連）について ・授業評価アンケートについて
第5回		第6回	
開催日	平成19年6月27日	開催日	平成19年7月11日
議　題	・定期試験のあり方について ・科目等履修生及び聴講生の募集について ・授業評価アンケートについて ・D評価の取扱いについて	議　題	・定期試験の実施について ・授業評価アンケートについて ・行事・試合等参加に伴う欠席について

第7回	
開催日	平成19年7月25日
議　題	・学内ポータルサイトについて ・公欠制度について ・後期ガイダンスについて ・学生アンケートについて ・大学祭について

第8回	
開催日	平成19年9月12日
議　題	・後期科目のクラス編成・変更点等について ・学生アンケートについて ・授業評価アンケートについて ・施設・備品整備計画について ・履修登録方法について ・定期試験における追試及び再試の取扱いについて ・公欠制度の具体的な内容について

第9回	
開催日	平成19年9月25日
議　題	・施設・備品整備計画について ・大学祭について ・奨学金の追加採用について

第10回	
開催日	平成19年10月24日
議　題	・学事暦（入学式）について ・前期の成績について ・デザイン学部編入学単位認定について ・受講者がなく休講となった授業について ・学部連携演習について ・大学祭について ・学生アンケートについて ・課外活動等届について

第11回	
開催日	平成19年11月7日
議　題	・学事暦について ・時間割について ・学部連携演習について ・平成20年度既修得単位認定スケジュールについて ・課外活動等届について ・学生アンケートについて ・後期授業料減免について

第12回	
開催日	平成19年11月28日
議　題	・学事暦について ・時間割について ・シラバス作成マニュアルの見直しについて ・学部連携演習について ・平成20年度既修得単位認定スケジュールについて ・学生アンケートについて ・無料職業紹介事業について ・奨学金の検討について ・証明書発行システムの検討について ・留学生の受入について

第13回	
開催日	平成19年12月12日
議　題	・学事暦について ・時間割について ・学部連携演習について ・リメディアル教育の必要性について ・単位互換制度等について

第14回	
開催日	平成19年12月26日
議　題	・学事暦について ・時間割について ・学部連携演習について ・遠隔授業、eラーニングシステムの検証について ・就職支援について ・施設・備品整備計画に係る検討項目の再検討について ・平成20年度年度計画の策定について

第15回	
開催日	平成20年1月16日
議　題	・時間割等について ・後期授業評価アンケートの実施について ・後期定期試験の実施について ・学部連携演習について ・科目等履修生及び聴講生の募集について ・シラバス、学生ハンドブック作成スケジュールについて ・平成20年度年度計画の策定について

第16回	
開催日	平成20年2月14日
議　題	・「配当年次等」及び「単位の計算方法」について ・キャリア支援について ・ガイダンスについて ・進級判定について ・成績の優秀な学生について ・施設・備品整備計画の検討結果について

7） 倫理委員会

① 年間活動概要

倫理委員会は研究を遂行する際に、被験者（研究協力者）等の人権擁護の観点から研究倫理に則った充分な配慮をした研究計画になっているかどうか審査している。

平成19年度においては、原則、月末を研究倫理審査申請の締切と設定し、毎月第2水曜日に委員会を開催した（開催回数12回）。年間を通しての審査申請の総数は34件であり、月平均2.8件の審査を実施した（最大審査件数7件）。審査は「承認」、「条件付承認」、「変更の勧告」、「非該当」のいずれかの審査結果とし、「条件付承認」となった申請については、修正箇所を確認し承認する迅速審査を行った。

倫理委員会では、倫理審査に加え、倫理審査の申請ならびに審査を簡便にするためにマニュアル作りを行い、1月に発表し、ホームページに公開した。

また、倫理審査の社会的透明性、客観性を担保し、同時に申請者や委員に係るリスク管理の保全のために、法律家の外部委員を受け入れることとした。その結果、11月より浅井俊雄弁護士が委員として審査に加わっている。

② 委員会開催状況

第1回		第2回	
開催日	平成19年4月3日	開催日	平成19年5月9日
議　題	・委員長挨拶 ・委員紹介 ・研究倫理関連規程及び関連資料 ・情報倫理関連規程	議　題	・研究倫理審査（2件） ・外部審査委員の受け入れについて
第3回		第4回	
開催日	平成19年6月13日	開催日	平成19年7月11日
議　題	・研究倫理審査（7件） ・外部審査委員の受け入れについて	議　題	・研究倫理審査（4件）
第5回		第6回	
開催日	平成19年8月3日	開催日	平成19年9月12日
議　題	・研究倫理審査（1件） ・外部審査委員の選定経緯について ・マニュアル作成の提案	議　題	・研究倫理審査（2件） ・マニュアル作成について（中間報告）
第7回		第8回	
開催日	平成19年10月18日	開催日	平成19年11月14日
議　題	・研究倫理審査（6件） ・外部審査委員について ・マニュアル作成について（中間報告）	議　題	・研究倫理審査（2件） ・マニュアル作成について
第9回		第10回	
開催日	平成19年12月12日	開催日	平成20年1月16日
議　題	・研究倫理審査（2件） ・研究倫理審査マニュアルの作成及び申請書の改訂について ・平成19年度年度計画の執行及び平成20年度年度計画の策定について ・非常勤講師が研究倫理審査を申請する場合について	議　題	・研究倫理審査（2件） ・研究倫理審査マニュアルについて ・アクションリサーチについて
第11回		第12回	
開催日	平成20年2月13日	開催日	平成20年3月13日
議　題	・研究倫理審査（4件）	議　題	・研究倫理審査（2件） ・「変更の勧告」の取扱いについて ・今年度の総括

8） 大学院設置特別委員会

① 年間活動概要

大学院設置特別委員会は平成19年度に計12回の委員会を開催し、平成19年10月には札幌市立大学大学院基本構想を策定した。本学が設置する大学院は、デザイン学部、看護学部をそれぞれ基礎に2つの研究科を設置するもので、平成22年4月の開設を目指し、平成21年5月に文部科学省に設置認可申請を行う予定である。

今年度は基本構想を踏まえ、カリキュラムを中心に検討を進め、両研究科それぞれの専門科目をはじめ、研究科間の連携を意図した授業科目について検討を行った。また、大学院の開設に向けた具体の整備スケジュールについてもあわせて検討を行った。

② 委員会開催状況

第1回		第2回	
開催日	平成19年4月13日	開催日	平成19年4月27日
議　題	・大学院構想第5次案について ・両研究科で共通に開講する授業科目について ・札幌市立大学大学院基本構想案のとりまとめについて	議　題	・札幌市立大学大学院基本構想案について
第3回		第4回	
開催日	平成19年5月9日	開催日	平成19年7月4日
議　題	・札幌市立大学大学院基本構想案について ・両研究科の連携について ・地域貢献について ・入学者選抜について ・地域連携研究センターとの連携について ・施設・設備について	議　題	・札幌市立大学大学院基本構想案（概要）について
第5回		第6回	
開催日	平成19年8月1日	開催日	平成19年8月8日
議　題	・札幌市立大学大学院（概要）について ・補足資料等の作成について	議　題	・札幌市立大学大学院基本構想案（概要）補足提出資料について ・今後の進め方について
第7回		第8回	
開催日	平成19年9月5日	開催日	平成19年9月13日
議　題	・札幌市立大学大学院基本構想案について ・今後の進め方	議　題	・札幌市立大学大学院基本構想案について ・今後の進め方
第9回		第10回	
開催日	平成19年10月18日	開催日	平成19年12月5日
議　題	・札幌市立大学大学院基本構想の補足説明資料について ・大学院に関する予算要求について ・大学院設置スケジュール	議　題	・大学院カリキュラムについて ・大学院設置スケジュール
第11回		第12回	
開催日	平成20年2月6日	開催日	平成20年3月28日
議　題	・両学部の進捗状況について ・研究科連携科目について ・定員等について	議　題	・両学部の進捗状況について ・定員等について ・需要調査について ・大学院計画の学生への周知について

9） 教員評価制度特別委員会

① 年間活動概要

当委員会において検討された教員評価制度の試行案について､全教員を対象として試行を実施し、その内容を確認して試行案の改善を行い、平成20年度の試行につなげる。

② 委員会開催状況

第1回	
開催日	平成19年5月9日
議　題	・ワーキンググループでの報告書の見直し及び作成したマニュアルについての検討

第2回	
開催日	平成19年5月29日
議　題	・教授会でマニュアル等を説明し、意見を聴取したことに対する検討

第3回	
開催日	平成20年3月4日
議　題	・配布した報告書の提出先及び締め切り日の設定について

10） 委員会委員名簿

区分		委員会名	委員名	
			教職員名	所属・職位等
学内委員会	常置委員会	自己点検・評価委員会	◎宮﨑　みち子 田中　敏明 吉田　和夫 大渕　一博 藤井　瑞恵 村松　真澄 渡辺　春志	看護学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部講師 看護学部講師 看護学部講師 事務局経営企画課長
		総務委員会	◎中村　惠子 城間　祥之 矢部　和夫 松井　美穂 宮﨑　みち子 大野　夏代 菊地　ひろみ 阿部　大	副学長・看護学部長 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部講師 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部講師 事務局総務課長
		FD委員会	◎城間　祥之 望月　澄人 矢部　和夫 松浦　和代 大野　夏代 髙室　典子 保田　玲子 本間　のり子 芳村　直孝	デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部講師 事務局学生課長 事務局桑園担当課長
		図書委員会	◎武邑　光裕 上遠野　敏 張　浦華 斉藤　雅也 加藤　登紀子 菊地　ひろみ 星　美和子 渡辺　春志	附属図書館長・デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師 看護学部教授 看護学部講師 看護学部講師 事務局経営企画課長
		広報・情報委員会	◎羽深　久夫 酒井　正幸 吉田　和夫 フィッシャー ニーナ 大渕　一博 スーディ神崎 和代 守村　洋 佐藤　公美子 星　美和子 渡辺　春志	デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師 看護学部教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部講師 事務局経営企画課長

区分		委員会名	委員名	
			教職員名	所属・職位等
学内委員会	常置委員会	教務・学生委員会	◎吉田　惠介	デザイン学部長
			齋藤　利明	デザイン学部教授
			杉　哲夫	デザイン学部教授
			原　俊彦	デザイン学部教授
			那須　聖	デザイン学部講師
			河野　總子	看護学部教授
			守村　洋	看護学部准教授
			菅原　美樹	看護学部講師
			渡邉　由加利	看護学部講師
			本間　のり子	事務局学生課長
			芳村　直孝	事務局桑園担当課長
		倫理委員会	◎坂倉　恵美子	看護学部教授
			石崎　友紀	デザイン学部教授
			酒井　正幸	デザイン学部教授
			三谷　篤史	デザイン学部講師
			加藤　登紀子	看護学部教授
			宮崎　みち子	看護学部教授
			吉川　由希子	看護学部准教授
			浅井　俊雄	弁護士
			渡辺　春志	事務局経営企画課長
			上田　理子	事務局経営企画課地域連携担当課長
	特別委員会	大学院設置特別委員会	◎中村　惠子	副学長・看護学部長
			吉田　惠介	デザイン学部長
			武邑　光裕	附属図書館長・デザイン学部教授
			渡辺　春志	事務局経営企画課長
		教員評価制度特別委員会	◎吉田　惠介	デザイン学部長
			中村　惠子	副学長・看護学部長
			武邑　光裕	附属図書館長・デザイン学部教授
			原　俊彦	デザイン学部教授
			河野　總子	看護学部教授
			松浦　和代	看護学部教授
			阿部　大	事務局総務課長
衛生委員会		芸術の森地区衛生委員会	◎石川　豊治	事務局次長・桑園事務室長
			石崎　友紀	デザイン学部教授
			松井　美穂	デザイン学部講師
			浜本　淳二	産業医
			池田　秀利	事務局総務課庶務係長
			大西　章博	事務局総務課人事担当係長
		桑園地区衛生委員会	◎石川　豊治	事務局次長・桑園事務室長
			保田　玲子	看護学部講師
			進藤　ゆかり	看護学部助手
			照井　レナ	看護学部助手
			浜本　淳二	産業医
			木田　敏郎	事務局桑園担当課学生支援係長
			大西　章博	事務局総務課人事担当係長

区分		委員会名	委員名	
			教職員名	所属・職位等
学部委員会	デザイン学部	教務委員会	◎齋藤　利明	デザイン学部教授
			上遠野　敏	デザイン学部教授
			望月　澄人	デザイン学部教授
			細谷　多聞	デザイン学部准教授
			那須　聖	デザイン学部講師
			片山　めぐみ	デザイン学部助手
		学生支援委員会	◎杉　哲夫	デザイン学部教授
			中原　宏	デザイン学部教授
			羽深　久夫	デザイン学部教授
			張　浦華	デザイン学部准教授
			山田　良	デザイン学部講師
			須之内　元洋	デザイン学部助手
	看護学部	教務委員会	◎宮﨑　みち子	看護学部教授
			大野　夏代	看護学部准教授
			髙室　典子	看護学部講師
			新納　美美	看護学部講師
			藤井　瑞恵	看護学部講師
			河村　奈美子	看護学部助手
			小坂　美智代	看護学部助手
			多賀　昌江	看護学部助手
			照井　レナ	看護学部助手
			松村　寛子	看護学部助手
			三上　智子	看護学部助手
		学生支援委員会	◎樋之津　淳子	看護学部教授
			清水　光子	看護学部准教授
			菊地　ひろみ	看護学部講師
			太田　晴美	看護学部助手
			神島　滋子	看護学部助手
			工藤　京子	看護学部助手
			塚辺　繭子	看護学部助手
			鶴木　恭子	看護学部助手
			福島　眞里	看護学部助手
			渕本　雅昭	看護学部助手

◎印：委員長

7　学部長等の選考

1）　選考概要

　デザイン学部長、看護学部長、附属図書館長の任期が平成20年3月31日で満了することに伴い、選考等を行った。

2）　選考等状況

平成20年1月11日	看護学部長選挙公示（※1）
平成20年1月16日	デザイン学部長選挙公示（※2）
平成20年1月22日	看護学部長選挙
平成20年1月23日	デザイン学部長選挙
平成20年2月6日	第6回教育研究審議会審議
平成20年2月12日	任期満了に伴うデザイン学部長、看護学部長、附属図書館長人事公表

※1　看護学部選挙管理委員：大野　夏代、守村　洋、吉川　由希子
※2　デザイン学部選挙管理委員：那須　聖、松井　美穂、山田　良

3）　選考結果

デザイン学部長　　吉田　惠介（再任）
看護学部長　　中村　惠子（再任）
附属図書館長　　武邑　光裕（再任）
発令年月日　　平成20年4月1日
任　　期　　2年間

資　　料

１　中期計画

公立大学法人札幌市立大学は、デザイン学部と看護学部を有する札幌市立大学を設置・管理運営する上での目標である中期目標を達成するために、次のとおり中期計画を策定する。

第１　中期計画の期間

中期計画の期間は、平成18年4月1日から平成24年3月31日までの6年間とする。

第２　大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置（住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置）

１　教育に関する目標を達成するための措置

⑴　教育成果に関する目標を達成するための措置

ア　将来の職業人としての自覚・責任の涵養を基礎として、専門分野の枠を超えて共通に求められる知識等を養うとともに、それぞれの専門分野に求められる知識・技術等を体系的に養う。

イ　インターンシップによる就業体験、医療機関等の実習、起業（アントレプレナーシップ）に対応した教育など実践的な能力を養う。

ウ　産業界、保健・医療・福祉機関、大学、行政等と連携した教育を行うとともに、本学の持つ様々な知的資源を地域に還元する仕組みをつくり、市民文化の向上やまちづくりに幅広く貢献する。

エ　学生による授業評価アンケートを平成18年度から導入するほか、卒業生からの情報収集、追跡調査等多様な方法により、教育の成果・効果を客観的に幅広く検証する方策を整備する。

⑵　教育内容に関する目標を達成するための措置

ア　入学者選抜

(ｱ)　本学の教育理念に基づき使命感及び勉学意欲を持った学生を確保するため、明確な入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を策定・公表する。

(ｲ)　アドミッション・ポリシーに基づき、一般選抜、推薦入学、社会人及び私費外国人留学生選抜を実施するほか、AO（アドミッション・オフィス）入試等多様な選抜方法の導入を検討する。

(ｳ)　平成20年度から3年次編入学を実施するなど、より高度な学習ニーズに対応する方策を整備する。

(ｴ)　入学者選抜方法の事後評価を継続的に行い、次年度以降の入学者選抜方法の改善・充実を図る。

(ｵ)　上記事項を機動的・専門的に実施するため、平成18年度に教職員で構成するアドミッションセンター等の専門組織を設置する。

イ　教育課程

(ｱ)　共通教育科目においては、「日本語表現法」、「プレゼンテーション」、「情報リテラシー」等専門分野の枠を超えて共通に求められる知識、思考法等の知的な技法などが身に付くよう教育課程を編成する。また、デザイン学部と看護学部の学生が共に学習することによって、両学部の交流を深めるとともに、「スタートアップ演習」を始め、異なる分野を志す学生が

互いの発想に触れることにより、広い視野を持つことができるよう教育課程を編成する。

㈀　各学部は当該学部の共通教育の位置付けを明確にし、共通教育と専門教育の体系性を考慮しながら、早期から専門教育を履修する教育課程を編成する。

㈁　「学部連携演習」など学部間の有機的な連携による授業を展開することにより、学生の専門性を拡充し、もって専門教育の充実を図る。

㈂　他大学との連携による単位互換、入学前・後の他大学等における取得単位の認定など単位制度の柔軟な運用について具体的な充実策を検討し、順次、整備・拡充する。

㈃　「スタートアップ演習」や「学部連携演習」では地域社会や学外機関と連携したフィールドワーク、調査研究等実践的な授業を展開するほか、寒冷地の特長を生かした「寒冷地デザイン」、「寒冷地医療」など、地域をテーマとした教育を進める。

ウ　教育方法及び履修指導方法

㈠　２キャンパス

a　両学部の学生が合同で学ぶ共通教育科目は「芸術の森キャンパス」で行い、専門教育科目はデザイン学部の学生は「芸術の森キャンパス」、看護学部の学生は「桑園キャンパス」で実施する。共通教育科目を受講する看護学部の学生が、同日中に2つのキャンパス間を移動することのないよう共通教育科目の教育課程及び時間割編成に配慮する。

b　図書の検索、貸出し・返却はどちらの図書館においても行えるようにする。

c　遠隔授業の増加及びeラーニング等による芸術の森と桑園キャンパスとの間のネットワーク上の情報量の増加に合わせ、適正な情報システムの拡張を図る。

㈡　多様な授業・履修形態

a　学問分野の特性に応じ、講義・演習・実習等の授業形態を組み合わせた教育を行うとともに、必要に応じて、多様なメディア機器等の活用、セミナー、討論、プレゼンテーション、現地調査などを実施する。

b　社会人学生ニーズ等に対応し、科目等履修生制度、聴講生制度、研究生制度、特別聴講学生制度を導入するとともに、長期履修学生制度等の導入について検討する。

㈢　実践的な授業の重視

a　デザイン関連企業・団体、保健・医療・福祉関係機関等社会の多様な組織と連携したインターンシップ・学外実習、臨地実習等を行い、より実務的な経験を得る機会の拡充を図る。

b　豊富な実務経験を持つ専任教員や企業人等の非常勤講師を活用するなど職業人育成のため実学の充実を図る。

c　専門知識と高度な技術を系統的に学習できるように体系付け、演習と実習を多く取り入れた教育課程を編成するなど職業人育成に即した授業を行う。

㈣　履修指導方法

a　シラバスは、学習到達目標が明確になるように作成し、ホームページ等で公開する。また、学生の意見を聴取するなどして一層の質的充実を図る。

b　全教員を対象として、各分野におけるFD（ファカルティ・ディベロップメント）を効果的に実施し、教育方法の継続的な改善を図る。

c　学生の段階的かつ効果的な履修と学業のきめ細やかな支援を可能とするセメスター制を実施する。

d　多様化する学生の資質・学力に対応して共通教育科目を充実・強化するとともに、必要

に応じてリメディアル教育（補完授業）の導入を検討する。

e　履修科目の過剰登録を防ぐ登録単位の上限制など単位の実質化のための措置を講じる。

f　大学院設置後には、演習・実習等におけるTA（ティーチング・アシスタント）制度を導入するとともに、少人数教育、習熟度別クラス、eラーニング、遠隔授業等個々の学生に見合った指導・教育を可能にする多様な授業形態や制度を整備する。

g　将来の進路に沿って適切に科目を履修できるよう、具体的な履修モデルを提示するとともに継続的な改善・工夫を図る。

エ　学生の成績評価

⑺　教育課程に適した公平かつ適切な成績評価を可能とする基準を設定する。

⑴　教育課程における目標の達成度の評価方法、各科目の年度ごとの評価の整合性等を継続的に検討し、成績評価制度の充実・改善を図る。

⑼　成績評価基準の周知徹底を図るため、評価基準をシラバス、ホームページ等で公開する。

⑽　成績評価を用いた優秀な学生に対する奨学金制度を検討するほか、表彰制度の整備、充実を図り、学生の研究・学習意欲を高める。

⑾　学生からの成績評価に対する照会等の窓口を設置する。

⑶　教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

ア　適正な教員の配置

⑺　学部の完成年次である平成21年度まで順次教員を採用し、教員組織を完成させる。その間に教育に関する目標を達成するため、授業科目や教育課程の見直しが行われた場合には、求められる教員の資質、研究実績等を把握し、必要に応じ教員組織を見直す。

⑴　大学院整備等で新たに必要となる教員を採用する場合には、将来的な教員の年齢構成等にも配慮する。

⑼　平成19年度に実施される学校教育法の改正に対応し、准教授並びに助教及び助手の適切な任用及び配置を行う。

⑽　教育現場と実務の積極的な交流により教育研究の充実を図るため、客員教授、特任教授、臨地教授等の制度を導入する。

⑾　教育効果を上げるため、授業形態、受講者数等に応じてTA制度を導入する。

イ　教員の資質の維持向上

次の取組を開学初年度から順次実施する。

⑺　ＦＤの実施体制

FDについては、専任教員の代表により構成するファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「FD委員会」という。）を設置し、当該委員会を中心にして行う。

⑴　授業開始前の対応

a　各教員が、授業内容・方法を決定するに当たり、大学・学部の教育上の目的、育成する人材像、各授業科目の教育目標・位置付け、他の授業科目との接続関係等について理解するために、これらの事項に関する学長、学部長等による研修等を行う。

b　大学での授業が未経験の教員に対しては、大学における教育制度の基本的な枠組みを理解させるために、FD委員会により、学校教育法等に係る研修を行う。

c　教員が作成するシラバスについて、FD委員会において、その記載項目、記載方法等に関する一定のルールを作成し、希望する教員に対して、記載方法等の指導・助言を行う。

⑼　**授業開始後の対応**

学生による授業評価アンケートや教員相互の授業参観を実施し、その結果を教員にフィードバックすることにより、授業の内容及び方法の改善に役立てる。

⑽　**その他の研修及び研究**

FDに関する講演会の開催、FDに関する意見、情報等の交換を行う場の設定、FDに関する研究会、研修会等への教職員の派遣等の取組を行う。

ウ　教育環境の整備

⑺　札幌市立高等専門学校及び札幌市立高等看護学院が使用しなくなる施設・設備の効果的な転用を図るため､教職員による施設利用の委員会を組織し､計画的な施設整備･改修を進める。

⑻　施設利用の点検・評価を行い、産学連携等に資する研究・実験スペースを確保するとともに、共用スペースや福利厚生施設の効果的で効率的な運用を図る。

⑼　学年進行に合わせ、専門教育に必要な教育研究システムや情報機器を整備するとともに、多様な授業形態を支援するために、平成18年度からeラーニングシステム、遠隔授業システム等を導入する。

⑽　備品・図書等整備のために教職員による委員会を組織し、年次整備計画の着実な実施を進めるとともに、毎年度、見直し等の計画調整を行い、良好な教育研究環境を整備する。

⑾　図書等の整備は、札幌市立高等専門学校からの移管図書約30,100冊、札幌市立高等看護学院からの移管図書約5,400冊に開学準備に揃えた約5,900冊の図書に加え、平成18年度には約6,500冊、平成19年度には約7,400冊を整備する。それ以降も図書や視聴覚資料、雑誌、電子ジャーナル等の充実を図る。

⑷　学生への支援に関する目標を達成するための措置

ア　学習支援及び学生生活支援

⑺　学生の修学・進路・生活及び心身の健康等にわたる各種相談等に教員が直接かつ柔軟に対応する体制を設ける。

⑻　学生のメンタルヘルス、生活相談等、学生生活全般（ハラスメント対策を含む。）を支援する体制を充実する。特に、平成18年度から専門的な職員を配置するなど学生の心身の健康の保持増進とカウンセリングのための機能強化を検討する。

⑼　学生の意見・要望を反映させるため、学生支援委員会などを設置し、学生に対するアンケート等を通じて、学生生活の実態や意向を把握しながら、学生生活を充実させる。

⑽　学生の自主的学習、課外活動などを支援するため、自家用車による通学ができるよう駐車場の整備について検討する。

⑾　豊かなキャンパスライフを送るため、課外活動の活性化を支援するとともに、課外活動施設・設備の充実を図る。また、食堂・売店等の福利厚生施設等を充実させる。

⑿　就職情報の収集・提供を一元化し、進路相談に応じる窓口を設置するとともに、学生の就職に関する戦略を構築し、キャリア教育、インターンシップ、就職ガイダンス等を充実するなど積極的に就職活動を支援する委員会などの学内体制を平成20年度までに整備する。

⒀　行政、地元の企業や関係機関・団体と連携した学生の就職支援体制の整備を推進する。

⒁　経済的理由により修学の継続が困難な学生に対する授業料の減免等、学生納付金の減免制度を整備する。あわせて、各種奨学金制度の活用を支援するほか、多様な奨学金制度の創設について検討する。

⑷　後援会・同窓会等の組織を設け、これらと連携し、学生生活の充実を図る。

イ　留学生及び障がいのある学生に対する支援

⑺　留学生に対する生活環境の向上のための各種支援、相談指導、地域社会との交流等を支援する。

⑴　障がいのある学生に対する修学上の支援と相談体制を構築する。また､必要に応じて設備･機器によるバリアフリー支援も併せて実施する。

2　研究に関する目標を達成するための措置

⑴　研究の方向性、研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置

ア　目指すべき研究の方向性

⑺　デザイン学部については、産業や芸術・文化の振興、都市機能・都市景観の向上等に寄与する研究を行う。

⑴　看護学部については、看護の基礎的な研究に加え、地域看護の充実及び市民の健康の保持増進に寄与する研究を行う。

⑵　環境、健康、生活、情報等をキーワードに両学部の共同研究に積極的に取り組み、保健・医療・福祉分野を対象とするデザインや看護等新しい研究領域の開拓を目指す。

⑸　自主研究に加えて、期間を限った受託・共同型の研究に取り組み、特に競争的外部研究費を導入した学内外で行う特徴あるプロジェクト型研究を推進する。

イ　研究の水準及び研究の成果

⑺　研究者を受け入れやすい環境（客員研究員・研修員制度、研修派遣制度等）を整備し、国内外の大学や研究機関及び民間企業等との研究者の人事交流を推進する。

⑴　大学の知を社会に還元するために、公開講座、研究会、講演会等の開催や広報活動を積極的に行う。

⑵　研究成果は紀要に掲載するとともに、教員一覧、研究内容の紹介等の情報をホームページ等において公開する。また､国内外を対象とした大学の教育･研究に関わる広報を充実させる。

⑸　産業界等との連携を深め、共同研究等を推進する体制を整備するとともに地域課題に対応した研究を促進する。

⑹　研究成果を教育課程にフィードバックすることにより、教育課程の一層の充実を図る。

⑷　研究成果は定期的に自己点検・評価、外部評価を行い、研究活動の検証体制を整備する。

⑵　研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置

ア　研究費

⑺　個人研究費については、固定的に配分する資金以外に、職業人の育成に資する教育にフィードバックできる研究、地域貢献やデザインと看護の連携に資する研究等大学において重点的に取り組むべき研究等に研究費を厚く配分し、中期目標の達成及び中期計画・年度計画の遂行を確保するために、教員からの申請等に基づき、学長等の判断により配分先を決定できる資金を、平成18年度に設ける。

⑴　平成22年度をめどに、教員が行う教育、研究、学内運営、地域貢献等の業績を評価する制度を導入するとともに、その評価の結果を研究費に反映させることとし、研究環境の向上のための研究資金獲得に対するインセンティブを与える。

⑵　共同研究費については、平成18年度から、地域貢献に資する共同研究に重点的に配分するとともに、そのうちの一定部分について、デザインと看護の連携に関する教員の共同研究の

ための研究費とし、デザインと看護の連携に関する研究を推進する。

イ　研究の実施体制

⑺　附属研究所（地域連携研究・支援センター）

地域社会への貢献を具体的に展開するために、平成19年度以降に附属研究所（地域連携研究・支援センター）を設置することとし、以下のような機能を整備する。また、こうした機能や取組を効果的に進めるために、平成18年度中にネットワークの拠点となる都心部サテライト施設を設置し、リエゾンオフィス機能を設ける。

a　産学公連携の促進機能

地元企業や他大学等との共同研究や受託研究による都市機能・都市景観の向上、デザインやIT関連等の産業振興策と連携した地域ブランド及び新産業の創出を支援する。

b　デザインと看護の共同研究機能

デザイン・看護両学部の連携によるユニバーサルデザインの視点に立った都市基盤整備や医療･福祉分野を対象とするデザイン研究に取り組む。また、デザインと看護の共同研究や異分野との横断的な取組により、市民の豊かな生活や健康を支援する。

c　地域の健康支援機能

看護職に対する専門的情報の収集･提供、相談･指導窓口の設置や、地域看護や在宅看護、介護に関する相談・研修等を通じて、市民のあらゆる健康な生活を支援する。

⑴　デザイン学部と看護学部の共同研究実施体制

各学部あるいは両学部における研究は、産・看・学・公の連携による取組を特色とし、基礎研究に配慮しつつ萌芽的・先端的研究への支援体制を整備し、学術研究の活性化と卓越した研究に取り組む。

また、道内外の大学・研究機関等と連携・協力して研究を推進する体制を整備する。

3　地域貢献等に関する目標を達成するための措置

⑴　地域貢献に関する目標を達成するための措置

ア　地域の産業、まちづくり、保健・医療・福祉等への貢献

⑺　IT関連分野、観光分野等のデザイン研究、北方圏の新しいデザインモデルの創造等に取り組む。

⑴　医療･看護･介護機器やバリアフリー住宅に関する研究開発等に取り組む。

⑼　地域住民等との連携による地域文化の掘り起こしや、都市機能・都市景観の向上につながる研究に取り組む。

⑵　地場産品のデザイン研究、農村等の環境や景観向上に関する研究、地域看護に関する研究に係る成果の他自治体への提供等に取り組む。

イ　教育面での貢献

⑺　リカレント教育、公開講座等の教育機能、企業等との窓口機能等を持った都心部サテライト施設を平成18年度中に設置する。また、都心部サテライト施設では、遠隔授業に対応した多様なメディア機器等の整備や情報ネットワーク等の充実を図る。

⑴　市内の生涯学習機関等と連携した多様なメニューを提供するとともに、デザイン分野及び看護分野における専門職業人の継続教育等への需要にこたえる各種プログラムを開発する。

⑼　平成18年度から、本学の教職員及び学生以外の市民に対して、図書館を開放する。

⑵　高校生対象の公開授業･授業聴講制度等高校生が大学の講義を受講できるシステムの整備、

高校関係者との協議会の設置等、高等学校との連携を強化する。また、小中学生に対しても大学の持つ教育機能を提供する。

(ｵ) 札幌市立高等専門学校及び札幌市立高等看護学院の並存期間中における両校の教育環境を維持・向上させるため、教育研究面で積極的に連携・協力する体制を構築する。

ウ　大学間連携

大学間の単位互換や大学施設の相互利用、大学間連携による共同講義、共同公開講座、共同研究等の実施などの施策について検討し、順次整備する。

エ　札幌市との連携

上記取組のうち、札幌市の行政施策と関連する部分については、札幌市が設立する公立大学法人であるメリットを生かして、当該施策との緊密な連携によって、様々な地域課題の解決に積極的に取り組み、地域貢献を実現する。

⑵　国際交流に関する目標を達成するための措置

ア　海外大学との連携等

(ｱ) 海外の大学・研究機関等との連携や協定による研究者・学生の交流制度等の充実を推進する。

(ｲ) 海外の優れた研究機関等との連携による国際共同研究を推進するとともに、国際会議等を開催し、研究活動の相互交流を促進する。

(ｳ) UMAP（アジア太平洋大学交流機構）等の大学関連国際機関へ参加する。

(ｴ) 上記事項を推進するため、国際交流の企画と推進を行う体制を整備する。

イ　留学生の受入れ

(ｱ) 海外の交流協定校等との教育研究の連携を強化するとともに、交流の実効性を高めるための明確な受入れ方針を確立する。

(ｲ) 留学生に対する生活環境の向上のための各種支援、相談指導、地域社会との交流等を支援する。

第３　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

１　運営体制・手法に関する目標を達成するための措置

⑴　理事長のリーダーシップに関する目標を達成するための措置

ア　公立大学法人の経営戦略の策定

平成18年度中に、公立大学法人全体の経営戦略を、役員会等の審議を経て、理事長が策定する。

イ　役員会及び理事のサポート

平成18年度から、理事長及び理事を構成員とし、中期目標、中期計画、予算・決算、重要な組織の設置・廃止等公立大学法人における最重要事項を審議する役員会を設置する。

理事は、複数任命するとともに、それぞれの理事が専門性を発揮して理事長をサポートするために、理事の役割を分担する。

ウ　企画戦略室の設置等

平成18年度から、理事長、学内理事、部局長等を構成員とし、公立大学法人の運営に係る戦略を企画・立案する企画戦略室を設置するとともに、事務局に、企画戦略室に係る業務をサポートする職員を5人程度配置する。

エ　学内の資金配分

⑺　研究費については、平成18年度から、個人研究費の一定割合を公立大学法人に留保し、それを理事長等の裁量により、重点的に取り組むべき研究に厚く配分する仕組みを導入する。

⑴　研究費以外の予算についても、平成19年度予算以降は、公立大学法人全体の経営戦略、札幌市立大学の教育研究上の理念・目的等を考慮して、理事長が予算編成方針を策定し、予算を重点的に配分するとともに、理事長が裁量により配分することができる資金を設けるなど、理事長が戦略的かつ柔軟に予算編成・資金配分を行うことができる仕組みを導入する。

⑵　公立大学法人の組織に関する目標を達成するための措置

ア　理事並びに経営審議会及び教育研究審議会の委員への学外者の登用

次の取組を平成18年度から実施する。

⑺　役員会の構成員となる理事には、経営、財務、地域貢献、産・看・学・公連携等に係る専門家・有識者である学外者を積極的に登用する。

⑴　経営審議会では、委員の半数以上を学外委員とすることを義務付け、その学外委員には、公立大学法人の経営に関する有識者として、他大学の教員、民間企業関係者等を登用する。

⑼　教育研究審議会にも、札幌市立大学の教育研究に対する外部からの意見を取り入れるために、デザイン又は看護に係る教育研究の有識者、後期中等教育関係者等2人程度の学外委員を登用する。

イ　教授会等

⑺　効果的かつ効率的に法人・大学運営を行うために、重要事項の審議は、できる限り役員会並びに経営審議会及び教育研究審議会にゆだね、教員の法人・大学運営に対する負荷を軽減し、より良い教育研究環境を提供するため、教授会及び学内委員会の審議事項を厳選するとともに、全学の学内委員会の数を常に15以下となるようにする。

⑴　民主的な学内運営に配慮し、意思決定プロセスの明確化・透明化を図るため、原則的に役員会等の重要な会議の議事内容にすべての教職員がアクセスすることができるようにするなど、情報の共有化を進める。

⑶　経営手法に関する目標を達成するための措置

ア　マネジメントサイクルの徹底

公立大学法人の経営戦略に基づいて、公立大学法人全体及び各部局単位で、企画立案から執行、評価、評価に基づく企画立案に至るマネジメントサイクルの徹底を図る。特に、執行状況を把握するための一定期間ごとの役員会等への業務実績報告、点検・評価委員会への業務執行データの蓄積等を行い、これらのデータを評価に生かすことができるような措置を講ずる。

イ　経営資源の管理・活用

理事長を始めとする経営層が、「ヒト」、「モノ」、「カネ」、「情報」といった公立大学法人の経営資源を把握するとともに、これらの経営資源を業務運営の改善及び効率化のために有効に活用する。特に、公立大学法人の運営によって得られた知識、技術等の「情報」は、まちづくり全体により大きな価値を生み出す「知と創造の拠点」となる本学を運営する上で極めて重要な経営資源であることから、情報システム等を用いた情報の共有化を徹底し、その情報を教育研究の活性化や地域貢献に活用する。

⑷　教職員の役割に関する目標を達成するための措置

ア　教職員による運営への関与

学内委員会では、教職員が一体となって公立大学法人を運営する体制を構築し、その企画立案・業務執行体制を強化するために、教員のみを構成メンバーとするのではなく、事務局職員もメンバーとする。

イ　専門性の高い事務局体制

高い専門性を有する事務局職員を確保するために、当初は相当数を占める札幌市からの派遣職員を毎年度計画的に、大学運営に識見を有するプロパー職員等に切り替えるとともに、専門性の高い人材の派遣を民間企業から受け入れる。

学部完成時には、プロパー職員、民間企業からの派遣職員等を事務局職員全体の半数以上とする。

2　教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置

⑴　学部・学科

学部・学科については、中期目標期間中の平成21年度に完成年次を迎えることから、完成年次までは、現在の体制を維持する。

平成22年度以降については、教育研究に対する社会的動向やニーズ、自己点検・評価、認証評価機関の評価結果、地方独立行政法人評価委員会の評価結果等を踏まえて、学部・学科体制について検討する。

⑵　大学院

大学院については、より高度な専門性を有する人材の育成、研究機能の向上を通じた一層の地域貢献の実現等に必要なものであることから、学部に基礎を置く大学院として、段階的に修士課程及び博士課程を設置することとし、具体的な設置時期、専攻分野、定員等について検討を進める。

3　人事の適正化に関する目標を達成するための措置

⑴　人事制度に関する目標を達成するための措置

ア　多様な任用・勤務形態の構築

㈠　任期制について

平成18年度から全教員に5年の任期制を導入し、任期の更新に業績評価結果を反映させることにより、教員の士気の高揚、教員組織の活性化を図る。

㈡　任用制度について

教育現場と実務の積極的な交流を行うために客員教授、特任教授、臨地教授等の制度を導入するとともに、様々な知識・経験を有する教職員を任用するために、公立大学法人であるメリットを生かして、本学における教育研究への支障が生じないよう配慮しつつ、裁量労働制などの柔軟な勤務形態、兼業許可制度などを導入する。

イ　専門性の高い事務局職員の育成

複雑化・高度化する事務に対応するため、大学事務に精通した高い専門性を有する職員を公立大学法人において育成する。

⑵　評価制度に関する目標を達成するための措置

㈠　教員が行う教育研究活動等を活性化させるとともに、教員の資質向上を図るため、教育、研究、学内運営、地域貢献等に関する業績を公正・公平に、かつ、客観的・多面的に評価する業績評価制度を導入するとともに、その評価結果を給与、研究費、任期の更新、昇任等に反映させる。

⑷　具体的な制度導入については、平成18年中に教員の業績評価制度並びに業績の評価結果を反映させる事項及び方法について検討する。

その検討結果に基づいて、平成19年及び平成20年の2年間にわたり教員の業績評価制度を試行的に実施し、平成21年から教員の業績評価制度を本格的に導入するとともに、平成22年度から給与、研究費、昇任等にその評価結果を反映させる。

⑺　教員に支給する給与及び研究費に評価結果を反映させる割合については、徐々にその割合を高くしていくこととする。

⑻　事務局職員についても、その勤務成績を適切に評価するため、公正・公平で客観的な評価システムについて検討の上、実施する。

⑶　教職員の配置・定員の適正化に関する目標を達成するための措置

学部の完成に向けて教員採用を行いながら、中・長期的な大学運営や教育研究活動の展開を把握するとともに、事務の効率化を図りながら定員管理を行うことで適正な教職員数を実現する。

4　事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置

⑴　財務会計システム、教学システム、図書システム等を導入することにより事務の効率化・合理化を図る。

⑵　事務処理の効率化・合理化のため、電子化された学籍情報を活用し、就職支援システム、証明書自動発行システム等の導入を進める。

⑶　ICカード学生証・教職員証、図書のIC管理タグの導入により、セキュリティが重視される施設への入退室管理、図書の貸出し・返却業務や蔵書点検等の省力化を図る。

⑷　電子メール、電子掲示板等の情報システムの積極的な活用によりペーパーレス化を図り、事務処理の迅速化・効率化を推進する。

⑸　事務局業務については、平成18年度から、当該業務の外部委託及び当該業務を行う職員の人材派遣による受入れ等を実施する。外部委託等による業務の効率化・合理化の効果が高いとの評価が行われた場合には、その業務を拡大する。

第4　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置

⑴　受託研究・共同研究

ア　受託研究及び共同研究を積極的に受け入れるために、平成18年度から、研究推進や連携促進のための学内委員会を設置するとともに、教員の研究成果に関する情報を収集し、そのデータベースを構築する。

イ　上記学内委員会及び附属研究所を中心に、民間企業、国、地方公共団体等における研究・調査に係るニーズを把握し、学内の研究成果と結び付けることができる体制を構築する。

⑵　科学研究費補助金等

科学研究費補助金等の競争的資金を積極的に獲得するために、競争的資金に係る情報収集、申請に係るサポート等を行う体制を早期に整備し、教員に対して競争的資金獲得のための申請を奨励する。

⑶　外部研究資金の適正な管理

公立大学法人で受け入れた受託研究・共同研究に係る外部からの研究費等外部研究資金については、その適正な管理を担保するために、内部監査や監事監査でのチェック等の体制を構築する。

⑷　自主事業の実施等

ア　平成18年度から、地域貢献につながる公開講座を実施する。

イ　教員が発明等を行った知的財産のうち、公立大学法人において有効に活用することができるものについては、公立大学法人に承継し、実施料等の収益を上げる。

２　経費の抑制に関する目標を達成するための措置

⑴　平成18年度から、両キャンパスにおいて重複する事務のうち、特に庶務、経理等の事務を本部がある芸術の森キャンパスにできるだけ集約する。

⑵　環境に配慮し、全教職員に省エネルギー・省資源に対する意識を醸成させることにより、光熱水費等の抑制を図る。

⑶　教職員の定員管理を行い、過度な人員配置を防止するとともに、業務の外部委託等を行う。

３　資産の運用管理に関する目標を達成するための措置

⑴　余裕資金が生じた場合については、取引銀行等と連携し、これら資金の安全かつ効果的な運用により、適正な管理を行う。

⑵　不動産等固定資産については、大学の教育研究に支障のない範囲で学外者に対し使用を認めることやその対価を徴収することを検討する。

⑶　知的財産については、利用価値の高い知的財産を積極的に活用するため、全学的な知的財産ポリシーを策定するとともに、知的財産の管理体制を確立する。

第５　教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価（以下「自己点検・評価」という。）並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置

１　自己点検・評価に関する目標を達成するための措置

⑴　点検・評価委員会の設置

平成18年度から、自己点検・評価を行う組織として、専任教員、事務局職員等の代表による点検・評価委員会を設置する。

⑵　自己点検・評価の実施

自己点検・評価については、点検・評価委員会が、自己点検・評価の評価項目及び当該評価項目ごとの評価基準を決定するとともに、当該評価項目に係るデータを収集・蓄積し、そのデータに基づいて、評価項目ごとに設定した評価基準を満たしているかどうかについて評価を行うことにより実施する。

⑶　結果の活用及び公表

評価結果は、点検・評価委員会から役員会等の全学的な重要組織に伝え、当該組織において包括的な改善計画を策定するとともに、学内委員会、事務局等で改善のための実行計画を策定し、改善を実行する。

また、評価結果は、ホームページでの公開や自己点検･評価報告書の作成･配布により公表する。

２　情報提供の推進等に関する目標を達成するための措置

⑴　情報提供に関する目標を達成するための措置

ア　ホームページ等による情報提供

平成18年度から、ホームページや刊行物を活用し、以下に掲げる情報等を積極的に提供する。

①　大学の設置の趣旨及び特色並びに学部ごとの教育研究上の目的及び特色

②　育成する人材像

③　教育課程の内容及び開設科目のシラバス等教育内容・方法
④　教員組織、施設・設備等の教育環境及び研究活動
⑤　選抜方法、受験者数、合格者数、入学者数等の入学者選抜に関する情報
⑥　公開講座等の大学における学習機会
⑦　卒業生の就職・進学状況
⑧　自己点検・評価、認証評価機関及び地方独立行政法人評価委員会の評価結果
⑨　設置認可申請書
⑩　学則その他の規程

イ　紀要の発行

教育研究活動の結果を掲載するために、審査を経た制作・論文を含めた紀要を定期的に発行する。

ウ　公開講座の実施等

市民向けの公開講座を開催するとともに、講演会等へ教員を積極的に派遣する。

⑵　個人情報の保護に関する目標を達成するための措置

公立大学法人札幌市立大学が保有する個人情報については、地方独立行政法人が札幌市の個人情報保護条例における実施機関となったことから、当該条例を施行するための規程を整備すること等により、適正な取扱いを行う。

第６　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

１　施設・設備の整備・維持管理に関する目標を達成するための措置

⑴　教育課程に沿った経年的な施設・設備の整備計画を策定し、教育・研究のニーズに適した整備を行う。

⑵　施設・設備の保守・修繕等の維持管理計画を策定し、毎年度の点検・調査により状況を評価し、実施に移行するマネジメントサイクルを確立する。

２　安全管理等に関する目標を達成するための措置

⑴　安全衛生管理への対応

事故等を未然に防止するために、全学的な安全衛生管理体制を整備するとともに、安全衛生管理に関する教職員及び学生の意識の向上を図る。

⑵　災害等に対する危機管理体制

災害等が発生した場合に対応するため、平成18年度中に危機管理マニュアルや防災計画を策定するとともに、関係機関や地域との連携等の危機管理体制を整備する。

⑶　公立大学法人の遵法・倫理

役員、教職員及び学生が違法行為を行うことを未然に防止するため、また、ハラスメント等を防止するため、さらに、違法行為等が行われた場合に適切に対応するための全学的な体制を構築する。

３　環境に関する目標を達成するための措置

⑴　マイクロガスタービン（天然ガスを燃料とする発電機で、廃熱を給湯等に熱利用する。）によるコージェネレーションシステム、地熱利用システム（地熱を暖房補助・自然冷房に用いる。）の導入によりエネルギーの有効利用を図る。

⑵　断熱・遮熱性能に優れた建築システムの採用（ダブルスキン構造）により、環境負荷を軽減す

るとともに、室温管理等を行い、省エネルギーを徹底する。

⑶　電子メール、電子掲示板等の情報システムの積極的な活用によりペーパーレス化を図る。

第７　予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

別紙参照

（注）運営費交付金は、一定の仮定の下に試算されたものであり、各事業年度の運営費交付金については、予算編成過程において各事業年度の札幌市の予算編成方針に基づき再計算され、決定される。

第８　短期借入金の限度額

１　短期借入金の限度額

2億円

２　想定される理由

運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れることが想定される。

第９　重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし。

第１０　剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。

第１１　施設及び設備に関する計画

施設・設備の改修・修繕	予定額	財源
・既存校舎の改修 ・経常的修繕費 ・大規模修繕	総額 504百万円	施設整備費補助金 （504百万円）

（注）一般的な耐用年数を基に試算しているため、金額については見込みである。具体的な額については、各事業年度の予算編成等において決定される。

第１２　人事に関する計画

１　適正な定員管理

学部完成年次（平成21年度）まで順次採用を行い、必要な教職員を確保する。

学部完成後には、大学の教育研究等の質の向上に関する目標や業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するために必要となる中・長期的な大学運営や教育、研究活動の展開を把握し、事務の効率化を図りながら定員管理を行うことで適正な教職員数を実現する。

２　専門性の高い事務局職員の育成

事務局職員について、複雑化・高度化する事務に対応するため、開学時には相当数を占める札幌市からの派遣職員を毎年度計画的に、大学運営に識見を有するプロパー職員等に切り替えるとともに、専門性の高い人材の派遣を民間企業から受け入れ、大学事務に精通した高い専門性を有する職員を公立大学法人において育成する。

学部完成時には、プロパー職員、民間企業からの派遣職員等を事務局職員全体の半数以上とする。

３　研修の充実

教職員の能力開発や意識向上を図るため、外部研修を含め研修体制を充実する。

第１３　中期目標の期間を超える債務負担

なし。

別紙　予算、収支計画及び資金計画（人件費の見積もりを含む）

１．予算（平成18年度～平成23年度）

（単位：百万円）

区分	金額
収入	
運営費交付金	9,354
授業料等収入	1,968
受託研究等収入	132
その他収入	64
計	11,518
支出	
教育研究経費	1,983
受託研究等経費	120
人件費	6,623
一般管理費	2,583
施設整備費	209
計	11,518

〔人件費の見積り〕

中期計画期間中総額6,623百万円を支出する。

ただし、退職手当は除く。

２．収支計画（平成18年度～平成23年度）

（単位：百万円）

区分	金額
費用の部	11,591
経常費用	11,591
教育研究経費	1,386
受託研究等費	120
人件費	6,623
一般管理費	2,511
減価償却費	736
雑損	215
収益の部	11,591
経常収益	11,591
運営費交付金収益	9,089
授業料等収益	1,968
受託研究等収益	132
資産見返運営費交付金戻入	11
資産見返物品受贈額戻入	112
雑益	279
物品受贈益	215
その他収益	64
純利益	0

３．資金計画（平成18年度～平成23年度）

（単位：百万円）

区分	金額
資金支出	11,518
業務活動による支出	11,309
投資活動による支出	209
財務活動による支出	0
次期中期目標期間への繰越金	0
資金収入	11,518
業務活動による収入	11,518
運営費交付金による収入	9,354
授業料及入学金検定料による収入	1,968
受託研究等による収入	132
その他収入	64
投資活動による収入	0
財務活動による収入	0

２　平成１９年度年度計画

Ⅰ　大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置（住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置）

１　教育に関する目標を達成するための措置

⑴　教育成果に関する目標を達成するための措置

・　共通教育科目は、大学教育を受けるための心構えや履修方法、主体的な問題解決能力を養う「導入科目」､文化や人間､社会に対する理解を目的とする「教養科目」､語学などのコミュニケーションツールの習得を目的とする「コミュニケーション科　目」に区分し、体系的な教育を行う。

・　専門科目を学ぶ前提や基礎となる「専門基礎科目」、専門的知識や技術を学ぶ「専門科目」に区分し、専門知識や高度な技術について体系的な教育を行う。

・　デザイン学部の教員は、空間、製品、コンテンツ、メディアの各コースの特色と他コースとの関係性、さらには専門分野全体の関係性を理解し、それを教育に反映させるため、コースごとにプレゼンテーションを行い、情報を共有することにより、体系的に教育を行う。また、学生の専門科目に対する理解を深めるため、デザイン専門科目を担当する教員による補習（特別講義）を行う。

・　看護学部の教員は、領域毎の特色と他領域との関係性、さらには専門分野全体の関係性を理解し、それを教育に反映させるため、領域ごとにプレゼンテーションを行い、各領域が情報を共有することにより、体系的に教育を行う。また、専門分野に求められる知識・技術等を体系的に養うために、看護学部長から教員に対して、大学の教育研究上の理念、特長及び目的と教育課程の構成との関係について研修を行う。

・　デザイン学部においては、学生に対し、デザインに関連する企業、行政等の取組事例やクリエーターの創作活動を知る機会（講演会、交流会、ワークショップ等）を設け、就業や起業に向けた情報を早い段階から提供するとともに、企業等に対し、デザイン学部の教育内容について周知を図る。

・　看護学部においては、保健、医療、福祉分野への関心と理解を深め、将来の看護職の動機付けや看護の働きかけを体験的に学ぶため、医療機関等での実習を1年次から段階的・体系的に実施する。また、実習施設に対して看護学部の教育課程における実習の役割・位置づけを周知するとともに、効果的・効率的・円滑に実習を行うために実習指導者会議を開催する。

・　多様な講師の活用や関連施設を活用した実習など産業界、保健・医療・福祉機関、高等教育機関、行政等と連携した教育を行う。

・　学生の地域活動参画を促進するため、情報提供等を行う。

・　学生による授業評価アンケートを実施し、その結果について、教務・学生委員会で検証を行うとともに、アンケートの実施方法、実施内容、成果の活用について検討し、改善を図る。

⑵　教育内容に関する目標を達成するための措置

ア　入学者選抜

・　アドミッションポリシーに基づき、使命感及び勉学意欲を持った学生を確保する。

・　アドミッションポリシーは、オープンキャンパスや高校訪問、大学説明会等で広く周知するほか、ホームページでも公開する。

・　アドミッションポリシーに基づき、一般選抜、推薦入学、3年次編入学、社会人及び私費外国人留学生選抜を実施する。
・　平成20年度の3年次編入学学生の受け入れ開始に向け、編入学試験を実施する。
・　入学者選抜方法の事後評価を行い、入学者選抜方法の改善・充実を図る。
・　入学者を対象としたアンケート調査を実施し、併願校等の状況等について検証する。
・　入試の実施、選抜方法の改善、学生確保に係る事業の計画的な推進を行う組織としてアドミッションセンターを設置する。

イ　教育課程

・「日本語表現法」、「プレゼンテーション」、「情報リテラシー」等専門分野の枠を超えて共通に求められる知識、思考法等の知的な技法などが身に付くよう教育課程を編成する。
・「スタートアップ演習」では、両学部の学生が専門分野を学ぶ上での問題点の発見や課題解決の手法等を習得させる。更に、その成果の発表などを通じ、異なる分野を志す学生が互いの発想に触れ、広い視野を持つことができるよう教育を行う。
・　デザイン学部においては、1年次から共通教育とともに、体系的にデザインの基礎となる専門教育科目を実施し、2年後期から始まるコース別専門教育に円滑に移行できるよう配慮する。
・　看護学部においては、1年次から専門知識・技術を習得するためにくさび型カリキュラムを導入し、専門教育科目を実施する。
・　1年次から「スタートアップ演習」で学部間の有機的な連携による授業を実施する。
・　様々な経験を経て入学した学生の入学前の取得単位認定を実施するとともに、他大学との単位互換等単位制度について検討を進める。
・「スタートアップ演習」において、地域の様々な課題を取り上げた実践的な授業を実施する。

ウ　教育方法及び履修指導方法

㈠　２キャンパス

・　両学部の学生が合同で学ぶ共通教育科目は「芸術の森キャンパス」で実施するが、共通教育科目を受講する看護学部の学生が、同日中に両キャンパス（芸術の森、桑園）間を移動することのないような時間割編成を行うなど、看護学部の学生の一層の負担軽減の方策について検討する。
・　図書館の図書の両キャンパス間の貸し出し等について、その具体的な実施方法等を検討する。
・　遠隔授業、eラーニングシステムを検証し、適正な情報システムの拡張を検討する。

㈡　多様な授業・履修形態

・　教育分野や教育内容の特性に応じ、演習、実習を取り入れた教育を行うとともに、必要に応じて、多様なメディア機器等の活用、セミナー、討論、プレゼンテーション、現地調査などを実施する。
・　科目等履修生規則及び聴講生規則に基づき募集を行う。

㈢　実践的な授業の重視

・　デザイン学部においては、学生に対し、デザインに関連する企業、行政等の取組事例やクリエーターの創作活動を知る機会（講演会、交流会、ワークショップ等）を設け、就業や起業に向けた情報を早い段階から提供するとともに、企業等に対し、デザイン学部の教

育内容について周知を図る。

・　保健、医療、福祉分野への関心と理解を深め、将来の看護職の動機付けや看護の働きかけを体験的に学ぶため､医療機関等での実習を1年次から段階的･体系的に実施する。また、実習施設に対して看護学部の教育課程における実習の役割･位置づけを周知するとともに、効果的・効率的・円滑に実習を行うために実習指導者会議を開催する。

・　実習先等におけるさまざまな危険を回避し、学生が安心して演習・実習を行うのに必要な保険の必要性・重要性を理解できるようにガイダンスを行い、傷害・賠償保険に加入させる。

・　豊富な実務経験を持つ専任教員、非常勤講師を採用し、職業人育成のための教育を行う。

・　実務経験豊富な外部講師を招聘し、特別講義等を行う。

・　学部の特性に応じて、講義、演習、実習を体系的に組み合わせ、専門知識や高度な技術を修得できるよう授業を行う。

㈡　履修指導方法

・　シラバスに「科目のねらい、目標」を明記するとともに、ホームページでも公開する。また、学生の授業評価等を参考にして、次年度のシラバスの充実を図る。

・　FD（ファカルティ　ディベロップメント）の効果的な実施を図るため、全教員を対象とした研修会を開催する。

・　FD委員会を設置し、教育方法の改善に取り組む。

・　学生の段階的かつ効果的な履修と学業のきめ細やかな支援を行うため、セメスター制を実施する。

・　学部ごとにセメスターにあわせて履修にあったての留意事項、スケジュール等についてガイダンスを実施する。

・　デザイン学部においては、2年後期のコース別教育にあたり、事前に適切なコース選択ができるようきめ細かな履修指導を行う。

・　看護学部においては、看護実習の開始前に、実習に当たっての履修指導を行う。

・「英語Ⅱ」は、TOEIC等の結果に基づき、習熟度に応じたクラス編成を行う。

・　一部専門基礎科目について補習（特別講義）を実施する。

・　履修科目の過剰登録を防ぐためキャップ制を導入し、登録単位に上限を設ける。

・　少人数教育、習熟度別クラス、eラーニング等個々の学生に見合った指導・教育を可能にする多様な授業形態による教育を実施する。

・　デザイン学部では空間、製品、コンテンツ、メディアの各コースごとに、看護学部では臨床、地域の区分により具体的な履修モデルを作成し、シラバスに明示する。

エ　学生の成績評価

・　学則で成績評価基準を定め、学生便覧に明示するとともに、科目ごとの評価方法をシラバス、ホームページで公開する。

・　成績評価基準の周知徹底を図るため、評価基準をシラバス、ホームページで公開する。

・　成績評価を用いた優秀な学生に対する奨学金制度や表彰制度の整備に向けた検討を進める。

・　学生からの成績評価に対する照会等について両キャンパスに設置した窓口において対応する。

⑶ 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

ア 適正な教員の配置

・ 平成20年度から授業を持つ予定の教員を中心に、計画的に教員を採用する。
・ 助教及び助手の適切な任用及び配置について検討を行う。
・ 実務経験の豊富な客員教授の活用を図る。

イ 教員の資質の維持向上

・ FD委員会を設置する。また、FD委員会を中心に以下の取り組みを行う。
・ 学長、学部長等は、授業開始前に、大学・学部の教育上の目的、育成する人材像、各授業科目の教育目標・位置付け、他の授業科目との接続関係等について研修を行う。
・ 大学での授業が未経験の教員に対しては、FD委員会が中心となり、学校教育法等に係る研修を行う。
・ FD委員会は、教務・学生委員会と連携してシラバスの記載項目、記載方法等に関する一定のルールを作成し、希望する教員に対して記載方法等の指導・助言を行う。
・ 学生による授業評価アンケートや教員相互の授業参観を実施し、その結果を教員にフィードバックすることにより、授業の内容及び方法の改善に役立てる。
・ FDに関する講演会や学内の研修会を実施するほか､両学部教員による研究交流会を実施し、情報交換を行う。
・ FDに関する外部の研究会や研修会に教職員を派遣する。

ウ 教育環境の整備

・ 札幌市立高等専門学校及び札幌市立高等看護学院の学年進行に伴う施設、設備の転用については、総務委員会の所管事項とし、教育・研究機能が向上するよう検討を行い、必要な整備を行う。
・ 学内施設利用に関する点検・評価を行い、効果的で効率的な施設運用を図るとともに、必要な措置を講ずる。
・ eラーニングシステム、遠隔授業システムを活用し、多様な授業を行う。
・ 専門教育に必要な教育研究システムや情報機器、備品等の整備について、優先度を考慮し逐次整備する。
・ 備品整備は総務委員会の所管事項とし、優先度等を勘案した整備計画の検討を行い、その結果等に基づき教育研究環境の整備を進める。
・ 図書の選定・充実を図るとともに、図書及び学術情報等に係る環境改善について定期的に検討する。
・ 図書等については､平成19年度中に約7,400点を整備するほか､視聴覚資料､雑誌､電子ジャーナル等についても選定作業を行い、充実を図る。

⑷ 学生への支援に関する目標を達成するための措置

ア 学習支援及び学生生活支援

学生の修学・進路・生活を支援するため、以下の取組みを行う。
・ 学生生活上必要な注意事項をガイダンス等の実施により周知する。
・ 両キャンパスに学生のメンタルヘルス、生活相談等、学生生活を支援するため、カウンセラーの専門職及び看護師を配置し、学生生活相談体制を整備する。
・ 学生の修学、進路、生活及び心身の健康にわたる学生生活をサポートするため、学部の学

生支援委員会を中心として相談体制を整備する。

・　学生支援委員会において、大学と学生の意思疎通を深め、学生の課外活動など、学生生活をサポートし、また、学生生活の実態や意向を把握するため、アンケートを実施する。
・　通学用の駐車場の必要性の検討を行う。
・　学生の福利厚生及び課外活動のための施設・設備の拡充を検討する。
・　学生の地域活動等に対して、情報提供、教職員の助言等を行う。
・　相談窓口において様々な就業に関する情報の提供を行うなど、その拡充を図るとともに、就職活動を支援する委員会の設置等支援体制の整備に向けた具体的な検討を行う。
・　行政、地元の企業や関係機関・団体と連携し、就業促進に資する実践的な教育を行う体制を整備する。
・　経済的理由により就学が困難な学生に対し、学生納付金の減免制度や各種奨学金制度の活用し、支援する。
・　学生に対し、就学ローンの周知を図る。
・　後援会組織と連携し、大学祭などの課外活動の支援を行う。

イ　障がいのある学生に対する支援

・　障がいのある学生に対し、就学相談を行うほか、定期試験の受験等についても必要に応じた措置を講ずる。また、必要に応じ、設備･機器等の拡充を行う。

2　研究に関する目標を達成するための措置

(1)　研究の方向性、研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置

ア　目指すべき研究の方向性

・　デザイン学部については、産業や芸術・文化の振興、都市機能・都市景観の向上、都市再生等に関する研究を行う。
・　看護学部については、看護の基礎的な研究、地域看護の充実及び市民の健康の保持増進に寄与する研究を行う。
・　デザイン学部と看護学部の共同研究を推進するとともに、学内の研究者相互の研究領域の理解を深めるため、研究交流会を実施する。
・　国内外の競争的資金に関する情報収集を積極的に行い、外部資金導入による研究の促進を図る。
・　教員に対し、科学研究費補助金の積極的な申請を促す。

イ　研究の水準及び研究の成果

・　大学の知を社会に還元するため、公開講座、研究会、講演会等を開催する。
・　教員の研究成果を掲載するため紀要（SCU Journal of Design & Nursing－札幌市立大学研究論文集－）を発行する。また、教員の研究分野、研究内容等の情報をホームページ等で公開する。
・　産業界等との連携を深め、共同研究等を推進する体制を整備するとともに地域課題に対応した研究を促進する。
・　研究活動等の検証・評価体制について検討する。

(2)　研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置

ア　研究費

・　基盤となる個人研究費、学術奨励等競争的研究費に加え、大学が様々な地域課題に取り組

む戦略的な研究に対応するため、理事長の裁量による戦略的経費の枠を設ける。
・　学部間の共同研究を奨励し、研究費を配分する。
・　教員評価制度特別委員会において作成された業績評価の試行を行うとともに、制度化に向けた検討を進める。
・　共同研究費については、特に、地域貢献に資するデザインと看護の連携した共同研究に重点的に配分し、両学部の連携研究を推進する。

イ　研究の実施体制

㈠　附属研究所（地域連携研究センター）

・　地域社会への貢献を具体的に展開するために、地域連携研究センターを設置する。
・　サテライトキャンパスにおいて、地域連携研究センターとの機能連携を図り、産学連携事業等の地域貢献事業を実施する。
・　地元企業や他大学等と連携を促進し、都市機能・都市景観の向上、デザインやIT関連等の産業振興等に関する共同研究等を進める。
・　デザイン関連分野の職業人教育等人材育成事業を進める。
・　都市整備、健康、医療･福祉等の幅広い分野で、異分野との横断的な連携により、デザインと看護の共同研究を推進する。
・　医療･福祉・健康分野で地域貢献に資する研究を推進するとともに、看護分野の職業人教育等人材育成事業を進め、地域看護や在宅看護、介護に関する相談・研修等を通じて、市民のあらゆる健康な生活を支援する。
・　地域看護や在宅看護・介護などに関して看護関係団体、他の看護系大学、行政等の関係機関と連携を促進し、研修会、講演会などを開催する。

㈡　デザイン学部と看護学部の共同研究実施体制

・　共同研究の実施に重点的に研究費を配分し、その推進を図るとともに、地域連携研究センターを中心として、道内外の大学・研究機関等と連携・協力し、横断的・先端的な研究推進体制を整備する。

3　地域貢献等に関する目標を達成するための措置

⑴　地域貢献に関する目標を達成するための措置

ア　地域の産業、まちづくり、保健・医療・福祉等への貢献

・　他の大学、研究機関や企業・行政との連携を促進し、IT関連分野、観光分野等のデザイン研究に取り組む。
・　医療･看護･介護機器等に関する研究開発等に取り組む。
・　地域住民等との連携による地域文化の掘り起こしや、都市機能・都市景観の向上につながる研究に取り組む。
・　地場産品のデザイン研究、農村等の環境や景観向上に関する研究、地域看護に関する研究に取り組み、道内の他自治体への地域貢献に取り組む。

イ　教育面での貢献

・　平成18年度に設置したサテライトキャンパスについては、平成19年度開設予定の地域連携研究センターと連携を図る。
・　札幌市生涯学習センター等と連携し、デザイン分野及び看護分野における専門職業人の継続教育等の検討を行う。

・　市民に対して、両キャンパスの図書館を開放する。
・　中学校及び高等学校に対して、出前講座や特別授業等を行う。
・　札幌市立高等専門学校及び札幌市立高等看護学院の教育環境を維持・向上させるため、教育研究面で積極的に連携・協力を図る。

ウ　大学間連携

・　大学図書館間の相互貸借、文献複写等学術情報に係る研究支援連携を行う。

エ　札幌市との連携

・　札幌市の政策課題に関し、情報交換の場を積極的に設け、地域課題の解決に対する取組みを行う。

⑵　国際交流に関する目標を達成するための措置

ア　海外大学との連携等

・　海外の大学・研究機関等との連携促進に向けた方針を定め、地域連携研究センターが中心となり、研究者・学生の交流を推進する。
・　国際会議の開催や参加等を通じて、国際的な大学・研究機関との連携、交流を促進する。
・　UMAP（アジア太平洋大学交流機構）等の大学関連国際機関に参加する。
・　地域研究連携センターを設置し、これを中心として国際交流の企画と推進を行う。

イ　留学生の受入れ

・　留学生受入規則に基づき、留学生の受入れ体制づくりについて検討する。

Ⅱ　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　運営体制・手法に関する目標を達成するための措置

⑴　理事長のリーダーシップに関する目標を達成するための措置

ア　公立大学法人の経営戦略の策定

・　経営戦略に基づき、理事長のリーダーシップにより、目標達成に向け着実な業務運営を行う。

イ　役員会及び理事のサポート

・　役員会において最重要事項の審議を行うとともに、各役員の専門性を発揮するため、役割を分担し理事長をサポートする。

ウ　企画戦略室の設置等

・　企画戦略室において経営戦略に係る事項を推進する。

エ　学内の資金配分

・　研究費については基礎的な個人研究費のほかに、学術奨励等競争的研究費を設ける。また、理事長の裁量により留保する戦略的経費の中から大学が様々な地域課題に取り組む戦略的な研究費に充てる。
・　平成20年度予算編成方針は、公立大学法人全体の経営戦略、札幌市立大学の教育研究上の理念・目的等を考慮し、策定するとともに、理事長が裁量により、戦略的かつ柔軟な予算配分を行う。

⑵　公立大学法人の組織に関する目標を達成するための措置

ア　理事並びに経営審議会及び教育研究審議会の委員への学外者の登用

・　学外から登用した専門家・有識者である理事の活用を図る。
・　学外から登用した経営に関する有識者である経営審議会委員の活用を図る。

・　学外から登用した教育研究に関する有識者である教育研究審議会委員の活用を図る。

イ　教授会等

・　大学運営に対する負荷を軽減し、より良い教育研究環境を提供するため、教授会及び学内委員会の審議事項を厳選し、全学の学内委員会の数を常に15以下となるようにする。

・　役員会等の重要な会議の議事内容が、すべての教員に周知されるよう情報共有の仕組みの見直し改善を進める。

⑶　経営手法に関する目標を達成するための措置

ア　マネジメントサイクルの徹底

・　公立大学法人の経営戦略に基づいて、公立大学法人全体及び各部局単位で、企画立案から執行、評価、評価に基づく企画立案に至るマネジメントサイクルの徹底を図る。

・　予算の執行状況を把握するため、役員会等に対し一定期間ごとに業務実績報告を行うとともに、自己点検・評価委員会が業務執行データの蓄積等を行い、これらのデータを評価に生かすことが出来るよう検討する。

イ　経営資源の管理・活用

・　役員会、経営審議会等を通じて理事長を始めとする経営層が、法人の経営資源の把握が容易となるよう努める。

・　理事長は経営戦略に基づき、効果的、効率的な経営資源の配分･活用についてそのリーダーシップを発揮する。

・　公立大学法人の有する知識、技術等の情報を、ホームページ等により積極的に情報提供し情報の共有化を図るとともに、教育研究の活性化や地域貢献に積極的に活用する。

⑷　教職員の役割に関する目標を達成するための措置

ア　教職員による運営への関与

・　学内委員会には、事務局職員も学内委員会の委員として参加し、教職員が一体となって公立大学法人の運営に積極的に関与する体制を構築する。

イ　専門性の高い事務局体制

・　高い専門性を有する事務局体制を維持するため､札幌市からの派遣職員を計画的にプロパー職員等に切り替えを進める。

２　教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置

⑴　学部・学科

・　学部・学科は、完成年次である平成21年度までは現在の体制を維持する。

⑵　大学院

・　大学院設置特別委員会において平成22年度開設に向けた具体的な専攻分野、定員等についての検討を進め、その結果を踏まえて、年度内の早期に大学院設置計画を策定するとともに、施設整備に関する基礎調査を行う。

３　人事の適正化に関する目標を達成するための措置

⑴　人事制度に関する目標を達成するための措置

ア　多様な任用・勤務形態の構築

・　教員評価制度特別委員会において作成された業績評価を試行するとともに、制度化に向けた検討を進める。

・　教員の裁量労働制・兼業許可制度について継続し運用する。

イ　専門性の高い事務局職員の育成

・　大学事務に精通した高い専門性を有する職員を育成するため、学内研修を実施するとともに、学外研修会等への参加を促進する。

⑵　評価制度に関する目標を達成するための措置

・　教員評価制度特別委員会において作成された業績評価を試行するとともに、制度化に向けた検討を進める。

・　事務局職員については、札幌市の勤務評価制度を参考にその勤務成績の評価システムを検討し、試行する。

⑶　教職員の配置・定員の適正化に関する目標を達成するための措置

・　学部の完成及び大学院設置に向け、計画的に教員採用を行うとともに、事務の効率化を図りながら定員管理を行い、適正な教職員数を実現する。

４　事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置

・　平成18年度に導入した財務会計システム、教学システム、図書システム等の改善を行い、事務の効率化・合理化を図る。

・　就職支援システム、証明書自動発行システム等、既存システムの拡充についての検討を進める。

・　ICカード学生証・教職員証、図書のIC管理タグの運用により事務の省力化を図る。

・　電子メールの積極的な活用によるペーパーレス化を図り、事務処理の迅速化･効率化を推進する。

・　事務局業務については、平成18年度に行った業務の外部委託、人材派遣の受け入れについて、業務の効率化・合理化の効果の検証・評価を行い、その結果等を踏まえ、委託業務を拡大するなどの業務改善を進める。

Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

１　外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置

・　受託研究・共同研究を積極的に受け入れるために、地域連携研究センターを設置する。また、教員の研究活動に関する情報を収集し、そのデータベースを構築する。

・　地域連携研究センター設置に併せ、民間企業、国、地方公共団体等における研究・調査に係るニーズを把握し、学内の研究成果と結び付けることができる体制を構築する。

・　科学研究費補助金等の競争的資金を積極的に獲得するために、地域連携研究センターの設置に併せて、競争的資金に係る情報収集、申請に係るサポート等を行う体制を整備し、教員に対して競争的資金獲得のための申請を奨励する。

・　外部研究資金について、定期的に監査を実施する。

・　地域貢献につながる公開講座を実施する。

・　知的財産規程に基づき、教員が発明等を行った知的財産の活用を支援する。

２　経費の抑制に関する目標を達成するための措置

・　事務局職員の配置にあたっては、庶務、経理等の事務を芸術の森キャンパスに集約するなど、適正な職員配置を行う。

・　冷房、暖房の温度設定管理を徹底し、光熱水費の抑制を図る。

・　清掃等の業務委託の際には、光熱水費の節約や環境に対する配慮について明記する。

・　教職員の適正な人員管理を行うとともに、必要に応じて事務局業務の外部委託を行う。

3　資産の運用管理に関する目標を達成するための措置

・　余裕資金の安全かつ効果的な運用を図る。
・　学内施設が地域等で有効に活用されるよう利用規程等に従って運用する。
・　知的財産ポリシーを策定するとともに、これに基づき知的財産の管理・運用を行う。

Ⅳ　教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　自己点検・評価に関する目標を達成するための措置

・　自己点検・評価委員会において、評価・実施に向けた準備を進める。
・　自己点検・評価の実施に向け、自己点検・評価委員会において評価項目及び評価基準等の検討を行うとともに、必要なデータの蓄積を行う。

2　情報提供の推進等に関する目標を達成するための措置

⑴　情報提供に関する目標を達成するための措置

・　学内の情報をわかりやすく、迅速に情報提供できるようホームページの逐次改善を行う。
　ホームページでは以下に掲げる情報等を積極的に提供する。
　①　大学の設置の趣旨及び特色並びに学部ごとの教育研究上の目的及び特色
　②　育成する人材像
　③　教育課程の内容及び開設科目のシラバス等教育内容・方法
　④　教員組織、施設・設備等の教育環境及び研究活動
　⑤　選抜方法、受験者数、合格者数、入学者数等の入学者選抜に関する情報
　⑥　公開講座等の大学における学習機会
　⑦　設置認可申請書
　⑧　学則その他の規程
　⑨　図書館に関する情報
　⑩　サテライトキャンパスに関する情報
　⑪　オープンキャンパスに関する情報
　⑫　大学行事に関する情報
　⑬　大学の資料請求に関する情報
・　オープンキャンパスや高校訪問、大学説明会等を開催し情報提供を行う。
・　本学における教育研究活動の結果を掲載するために、審査を経た制作・論文を含めた紀要（SCU Journal of Design & Nursing－札幌市立大学研究論文集－）を発行する。
・　市民向けの公開講座を開催するとともに、講演会等へ教員を積極的に派遣する。

⑵　個人情報の保護に関する目標を達成するための措置

・　個人情報保護事務取扱規程及び個人情報保護ポリシーに基づき個人情報の適正な取り扱いを行う。

Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　施設・設備の整備・維持管理に関する目標を達成するための措置

・　大学完成時に向け、教育課程に沿った施設・設備の整備計画を早期に策定し、これに従い、順次整備を進める。

・　施設・設備の保守・修繕等の維持管理に関して、点検・調査を行うとともに、状況の評価を実施に移行するマネジメントサイクルの確立に向けた検討を行う。

２　安全管理等に関する目標を達成するための措置

・　事故等を未然に防止するために、全学的な安全衛生管理体制を整備するとともに、教職員及び学生への周知を図る。

・　危機管理マニュアル及び防災計画に基づいた運用体制の整備を進める。

・　キャンパス・ハラスメント防止委員会を設置し、ハラスメントや違法行為が行われた場合の対応を行うとともに、防止策や対応策の周知を図る。

・　学則の周知徹底を図るため、学生便覧やホームページを積極的に活用する。

３　環境に関する目標を達成するための措置

・　本学が導入するマイクロガスタービン（天然ガスを燃料とする発電機で、廃熱を給湯等に熱利用する。）によるコージェネレーションシステム、地熱利用システム（地熱を暖房補助・自然冷房に用いる。）等について、エネルギー有効利用の検証を行う。

・　学用車のリースに当たっては、環境に配慮したハイブリッド車を使用する。

・　環境負荷軽減のため室温管理や適切な換気等を行い、省エネルギーを徹底する。

・　電子メールや情報システムの積極的な活用によりペーパーレス化を図る。

Ⅵ　予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

別紙のとおり

Ⅶ　短期借入金の限度額

１　短期借入金の限度額

2億円

２　想定される理由

運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れることが想定される。

Ⅷ　重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし。

Ⅸ　剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。

Ⅹ　施設及び設備に関する計画

・　札幌市立高等専門学校の学生数減少に伴う施設改修

・　札幌市立高等看護学院の廃止に伴う施設改修

・　経常的修繕等

総額　85百万円

（注）金額については見込みであり、上記のほか、業務の実施状況に応じた施設・設備の改善や、老朽度合いに応じた改修等を追加することもあり得る。

Ⅺ　人事に関する計画

・　学部の完成及び大学院設置に向け、計画的に教員採用を行い、必要な教職員を確保する。

・　札幌市からの派遣職員のプロパー化の推進により、大学事務に精通した高い専門性を有する職員を公立大学法人において育成する。

・　教職員の能力開発や意識向上を図るための学内研修会を行うとともに、必要に応じて外部研修に教職員の派遣を行う。

別紙　予算、収支計画及び資金計画（人件費の見積りを含む）

1．予算

（単位：百万円）

区分	金額
収入	
運営費交付金	1,583
授業料等収入	219
受託研究等収入及び寄附金収入	37
その他収入	11
計	1,850
支出	
教育研究経費	356
受託研究等経費及び寄附金事業費等	33
人件費	1,057
一般管理費	371
施設整備費	33
計	1,850

2．収支計画

（単位：百万円）

区分	金額
費用の部	
経常費用	1,827
教育研究経費	278
受託研究等費	33
人件費	1,057
一般管理費	353
減価償却費	106
収益の部	
経常収益	1,827
運営費交付金収益	1,542
授業料等収益	219
受託研究等収益	37
資産見返運営費交付金戻入	1
資産見返物品受贈額戻入	17
雑益	11
その他収益	11
純利益	0

3．資金計画

（単位：百万円）

区分	金額
資金支出	1,850
業務活動による支出	1,817
投資活動による支出	33
財務活動による支出	0
次期中期目標期間への繰越金	0
資金収入	1,850
業務活動による収入	1,850
運営費交付金による収入	1,583
授業料及入学金検定料による収入	219
受託研究等による収入	22
その他収入	15
投資活動による収入	0
財務活動による収入	0

３　平成１９年度決算

（単位：百万円）

区分	予算額	決算額	差額 （決算－予算）	備考
収入				
運営費交付金	1,583	1,583	0	
授業料等収入	219	223	4	
受託研究等及び寄附金収入	37	41	4	
その他収入	11	15	4	
計	1,850	1,862	12	
支出				
教育研究経費	356	453	97	（注1）
受託研究等経費及び寄附金事業費等	33	40	7	
人件費	1,057	998	△ 59	（注2）
一般管理費	371	286	△ 85	（注3）
施設整備費	33	52	19	（注4）
計	1,850	1,829	△ 21	
収入－支出	0	33	33	

○　予算と決算の差異について

（注1）　予算では、システム経費について、一般管理費に計上していたものの一部を、決算では教育研究経費に計上したこと等により、増加した。

（注2）　教員の欠員により、減少した。

（注3）　予算では、システム経費について、一般管理費に計上していたものの一部を、決算では教育研究経費に計上したこと等により、減少した。

（注4）　大学の使用用途に合わせて既存の施設を改修したこと等により、増加した。

4　教職員数　（平成20年3月31日現在）

1）　学部別教員数

学長	1
副学長	1
デザイン学部	26
看護学部	36
合計	64

2）　職位別教員数

		教授	准教授	講師	助手	計	非常勤講師
デザイン学部	男	15	2	5	1	23	25
	女	0	2	1	1	4	17
看護学部	男	0	1	0	1	2	38
	女	8	3	10	14	35	16
合計		23	8	16	17	64	96

3）　職員数

	事務系	司書系	教務系	技術･技能系	医療系	その他	計
男	23	0	0	2	1	0	26
女	23	8	0	0	0	0	31
合計	46	8	0	2	1	0	57

5　管理職一覧表　（平成20年3月31日現在）

役職名	教職員名
学長	原田　昭
副学長 兼 看護学部長	中村　惠子
デザイン学部長	吉田　惠介
附属図書館長	武邑　光裕
事務局長	池田　捨成
事務局次長 兼 桑園事務室長	石川　豊治
事務局総務課長	阿部　大
事務局学生課長	本間　のり子
事務局経営企画課長	渡辺　春志
事務局経営企画課地域連携担当課長	上田　理子
事務局桑園担当課長	芳村　直孝

6　教員一覧表　（平成20年3月31日現在）

デザイン学部	
職位	教員名
教　授	原田　　昭
教　授	吉田　恵介
教　授	武邑　光裕
教　授	石崎　友紀
教　授	上遠野　敏
教　授	齋藤　利明
教　授	酒井　正幸
教　授	城間　祥之
教　授	杉　　哲夫
教　授	中原　　宏
教　授	羽深　久夫
教　授	原　　俊彦
教　授	望月　澄人
教　授	矢部　和夫
教　授	吉田　和夫
准教授	エル サニ マロアン
准教授	張　　浦　華
准教授	フィッシャー ニーナ
准教授	細谷　多聞
講　師	大渕　一博
講　師	斉藤　雅也
講　師	那須　　聖
講　師	松井　美穂
講　師	三谷　篤史
講　師	山田　　良
助　手	片山　めぐみ
助　手	須之内　元洋

看護学部	
職位	教員名
教　授	中村　惠子
教　授	加藤　登紀子
教　授	河野　總子
教　授	坂倉　恵美子
教　授	スーディ神崎 和代
教　授	樋之津　淳子
教　授	松浦　和代
教　授	宮﨑　みち子
准教授	大野　夏代
准教授	清水　光子
准教授	守村　　洋
准教授	吉川　由希子
講　師	菊地　ひろみ
講　師	佐藤　公美子
講　師	菅原　美樹
講　師	髙室　典子
講　師	新納　美美
講　師	藤井　瑞恵
講　師	星　　美和子
講　師	村松　真澄
講　師	保田　玲子
講　師	渡邉　由加利
助　手	太田　晴美
助　手	神島　滋子
助　手	河村　奈美子
助　手	工藤　京子
助　手	小坂　美智代
助　手	進藤　ゆかり
助　手	多賀　昌江
助　手	塚辺　繭子
助　手	鶴木　恭子
助　手	照井　レナ
助　手	原井　美佳
助　手	福島　眞里
助　手	渕本　雅昭
助　手	松村　寛子
助　手	三上　智子

7　学生定員及び学生数

1)　学生定員　（平成19年5月1日現在）

学部	入学定員	3年次編入学定員	総定員
デザイン学部	80	20	360
看　護　学　部	80	10	340
合計	160	30	700

2)　学生数　（平成19年5月1日現在）

学部別		男女別		出身地別			計
				道内		道外	
デザイン学部	看護学部	男	女	札幌市内	札幌市外		
164	162	76	250	157	134	35	326

3)　科目等履修生・聴講生　（平成20年3月31日現在）

学部	科目等履修生	聴講生	計
デザイン学部	2	0	2
看　護　学　部	1	0	1
合計	3	0	3

8　授業料等

（単位：円）

学部生				科目等履修生・聴講生			
検定料	入学料		授業料	検定料	入学料		授業料
	札幌市内居住者	札幌市外居住者			札幌市内居住者	札幌市外居住者	
17,000	141,000	282,000	535,800	9,800	14,100	28,200	14,800 (1単位につき)

9　奨学金貸与・授業料減免実施状況　（平成20年3月31日現在）

1)　奨学金貸与状況

年次	日本学生支援機構		その他	計
	第1種	第2種		
1年生	36	41	0	77
2年生	24	60	0	84
合計	60	101	0	161

2)　授業料減免実施状況

年次	学期	全額減免者	半額減免者	計
1年生	前期	0	6	6
	後期	0	7	7
2年生	前期	0	8	8
	後期	0	9	9
合計	前期	0	14	14
	後期	0	16	16

10　学生の入選・受賞

デザイン学部

入選・受賞年月	氏名	タイトル及び入賞・受賞の別	主催者
平成19年9月	関口　祥子 他9人	札幌メディア・アート・トライアル2007 グランプリ・市民賞	札幌メディア・アート・フォーラム
平成19年9月	山本　真理子 他5人	アイアン・フィルムメーカー・コンテスト2007 2位	さっぽろフィルムコミッション
平成19年9月	砂田　圭介 他4人	アイアン・フィルムメーカー・コンテスト2007 5位	さっぽろフィルムコミッション
平成19年11月	阿部　由理	札幌市長 「2008年海外向けグリーティングカード」	札幌市総務局国際部
平成19年11月	織笠　晃彦	FIX･MIX･MAX!アワード　奨励賞	FIX･MIX･MAX!実行委員会
平成19年11月	冨田　香代子	FIX･MIX･MAX!アワード　入選	FIX･MIX･MAX!実行委員会
平成19年11月	大和田　留美	エコデザインアワード2007　HTB賞	SAPPOROエコデザインプロジェクト実行委員会
平成19年11月	牛田　美穂	エコデザインアワード2007　学生賞	SAPPOROエコデザインプロジェクト実行委員会
平成19年11月	木村　尚史	エコデザインアワード2007　入選	SAPPOROエコデザインプロジェクト実行委員会
平成19年11月	塩地　恵美	エコデザインアワード2007　入選	SAPPOROエコデザインプロジェクト実行委員会
平成19年12月	木村　尚史	エンタテイメントパッケージアワード(epa8th) 奨励賞	エンタテイメントパッケージアワード実行委員会
平成20年3月	織笠　晃彦 他4人	DoCoMoクリエイターズカップ iモーション学生部門　グランプリ	DoCoMoクリエイターズカップ2007実行委員会
平成20年3月	砂田　圭介 他5人	DoCoMoクリエイターズカップ iモーション学生部門　優秀賞	DoCoMoクリエイターズカップ2007実行委員会

11　学生の課外活動　（平成20年3月31日現在）

	公認団体
1	バスケットボール部
2	吹奏学部
3	軽音楽部
4	美術部「noumenon（ノメノン）」
5	バドミントン部
6	YOSAKOIソーラン部「真花（マナカ）」
7	テニスサークル「テニサー」
8	芸森地域キャストサークル「非魔人團（ヒマジンダン）」
9	絵本ボランティアサークル「しゃぼん玉」

12　後援会

学生の福利厚生の推進等、学生生活の充実に向けて必要な支援を行い、教育目的の達成に寄与することを目的とする後援会（平成19年2月発足）は、平成19年度役員8名体制となった。

＜概要＞

役　　員	（会　長）　藤本　欣也 （副会長）　小菅　恵 （理　事）　荒井　昌子、塩地　弘光、樋口　千郁、三上　敬良 （監　事）　大條　雅弘、竹内　信行
主な事業	・課外活動（部活動、大学祭等）支援 ・後援会報「SSA　News」の発行など
後援会費	40,000円（ただし、編入学者は20,000円）

13　教育・研究刊行物一覧

発行年月	名称
平成19年4月	シラバス
平成19年4月	学生生活ハンドブック
平成19年5月	平成20年度デザイン学部3年次編入学学生募集要項（推薦）
平成19年6月	大学案内パンフレット
平成19年6月	平成20年度入学者選抜要項
平成19年6月	平成20年度デザイン学部3年次編入学学生募集要項
平成19年9月	平成20年度学生募集要項（特別選抜）
平成19年11月	平成20年度学生募集要項（一般選抜）
平成20年1月	札幌市立大学附属図書館ニュースレター　のほほん創刊号
平成20年3月	SCU Journal of Design & Nursing －札幌市立大学研究論文集－ 第2巻第1号
平成20年3月	札幌市立大学年報 平成18年度第1号

14　施設

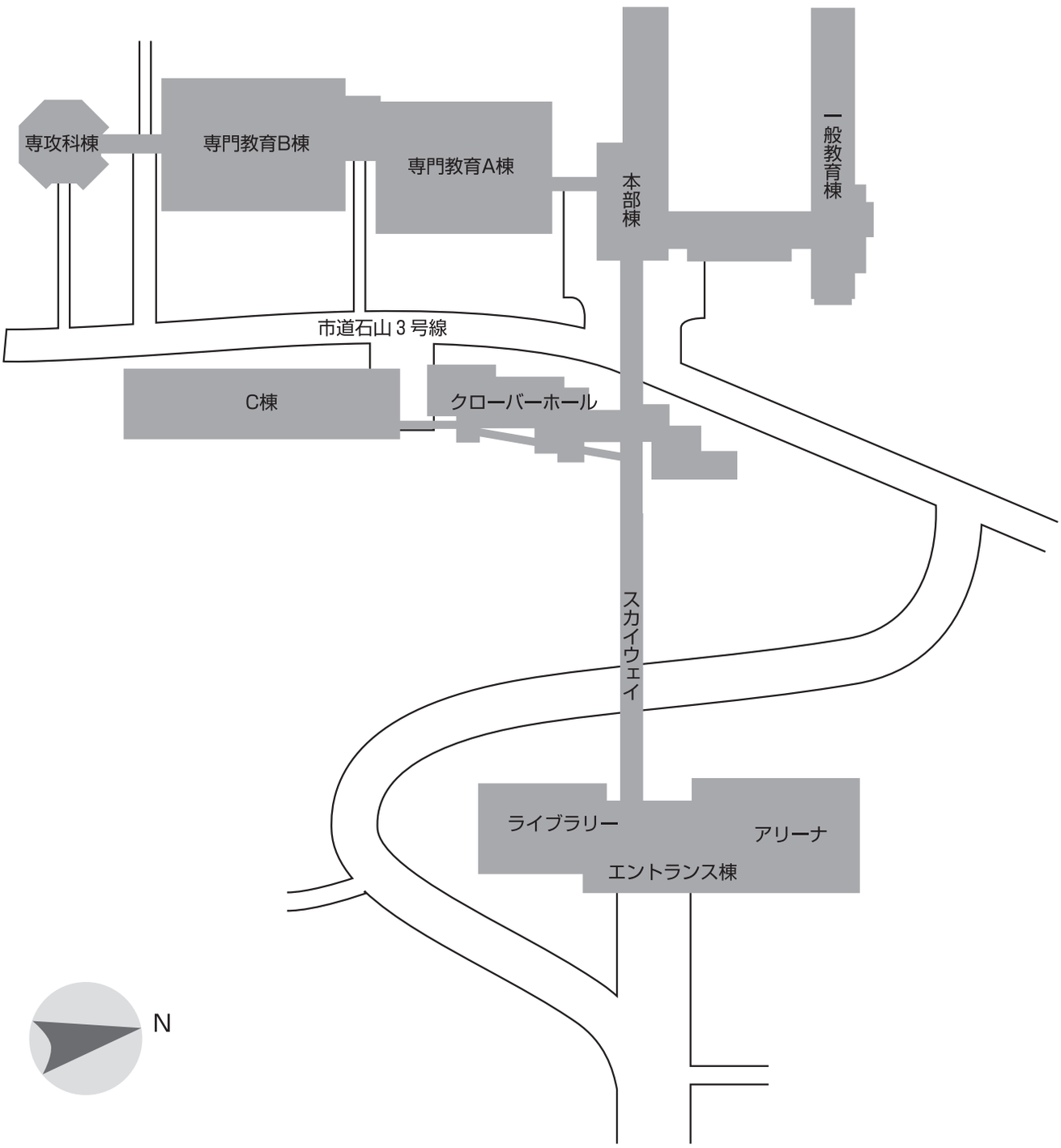
1）　校地・校舎、講義室・演習室等の面積　（平成20年3月31日現在）

区分	校地・校舎		講義室・演習室等	
	校地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	総数	面積（㎡）
芸術の森キャンパス	167,617	21,873	54	5,780
桑園キャンパス	18,152	9,310	21	2,123
合計	185,769	31,183	75	7,903

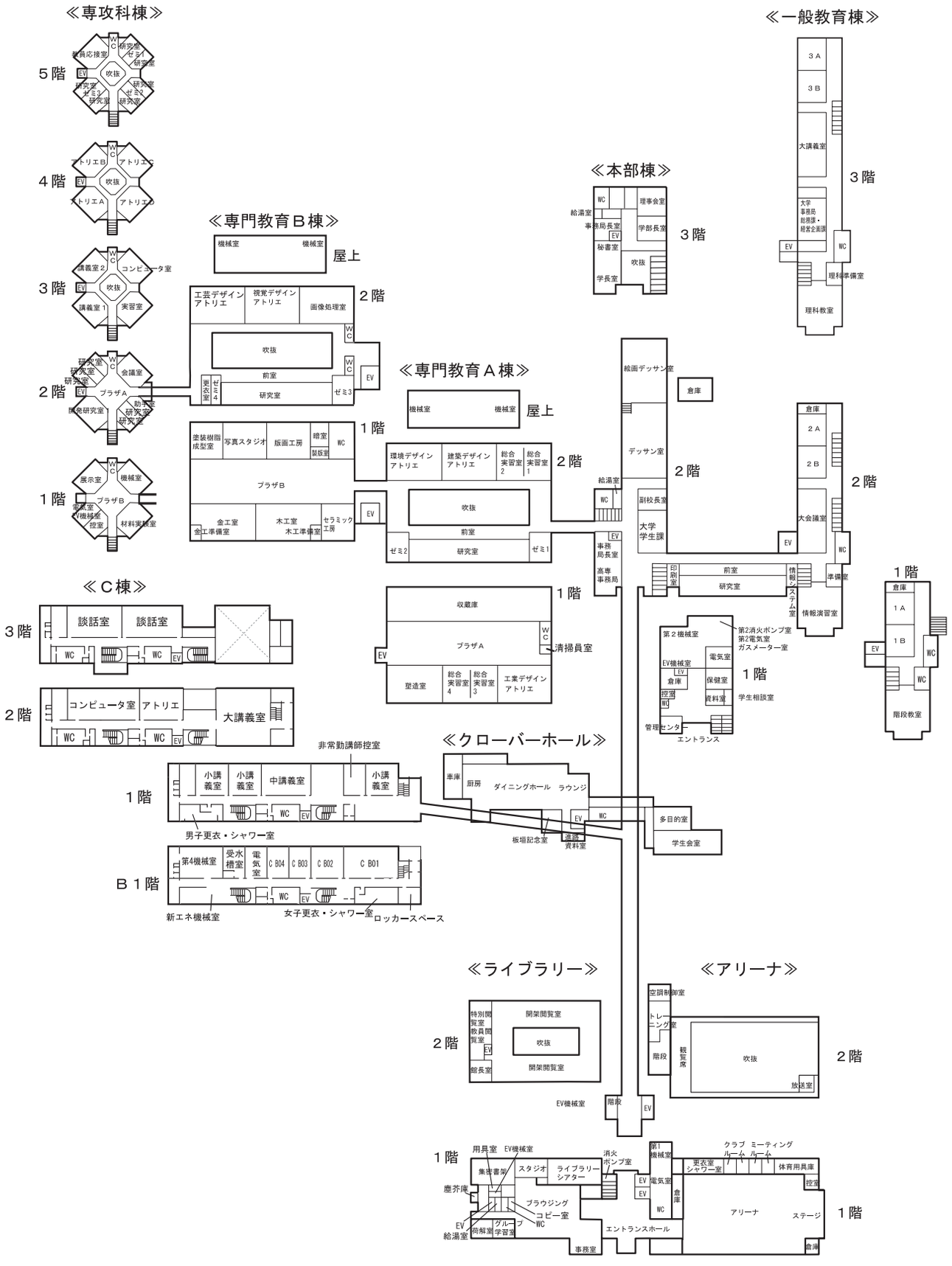
2)　芸術の森キャンパス　〔大学本部・デザイン学部〕

＜施設配置図＞

〒005-0864　北海道札幌市南区芸術の森1丁目
TEL：011-592-2300（代）
FAX：011-592-2369



＜校舎配置図＞


≪専攻科棟≫
５階
４階
３階
２階
１階
教員応接室
研究室
吹抜
ゼミ1
ゼミ2
ゼミ3
ゼミ4
アトリエA
アトリエB
アトリエC
アトリエD
講義室1
講義室2
コンピュータ室
実習室
会議室
ブラザA
ブラザB
展示室
機械室
材料実験室
≪専門教育Ｂ棟≫
屋上
機械室
工芸デザインアトリエ
視覚デザインアトリエ
画像処理室
前室
更衣室
研究室
塗装樹脂成型室
写真スタジオ
版画工房
暗室
製版室
金工室
金工準備室
木工室
木工準備室
セラミック工房
≪専門教育Ａ棟≫
環境デザインアトリエ
建築デザインアトリエ
総合実習室1
総合実習室2
≪本部棟≫
理事会室
学部長室
学長室
事務局長室
秘書室
給湯室
≪一般教育棟≫
３Ａ
３Ｂ
大講義室
理科準備室
理科教室
大学事務局・総務課・経営企画課
絵画デッサン室
デッサン室
倉庫
副校長室
大学学生課
事務局長室
高専事務局
２Ａ
２Ｂ
大会議室
印刷室
情報システム室
情報演習室
準備室
≪Ｃ棟≫
談話室
コンピュータ室
アトリエ
大講義室
収蔵庫
清掃員室
整造室
工業デザインアトリエ
総合実習室3
総合実習室4
第２機械室
第2消火ポンプ室
第2電気室
ガスメーター室
EV機械室
電気室
保健室
資料室
学生相談室
管理センター
エントランス
１Ａ
１Ｂ
階段教室
非常勤講師控室
小講義室
中講義室
男子更衣・シャワー室
第4機械室
受水槽室
C B04
C B03
C B02
C B01
新エネ機械室
女子更衣・シャワー室
ロッカースペース
≪クローバーホール≫
厨房
ダイニングホール
ラウンジ
多目的室
学生会室
板垣記念室
資料室
≪ライブラリー≫
特別閲覧室
教員閲覧室
開架閲覧室
館長室
≪アリーナ≫
空調制御室
トレーニング室
観覧席
放送室
階段
用具室
集密書架
スタジオ
ライブラリーシアター
消火ポンプ室
第1機械室
更衣室
シャワー室
クラブルーム
ミーティングルーム
体育用具庫
控室
倉庫
アリーナ
ステージ
塵芥庫
ブラウジング
コピー室
グループ学習室
倒解室
給湯室
エントランスホール
事務室

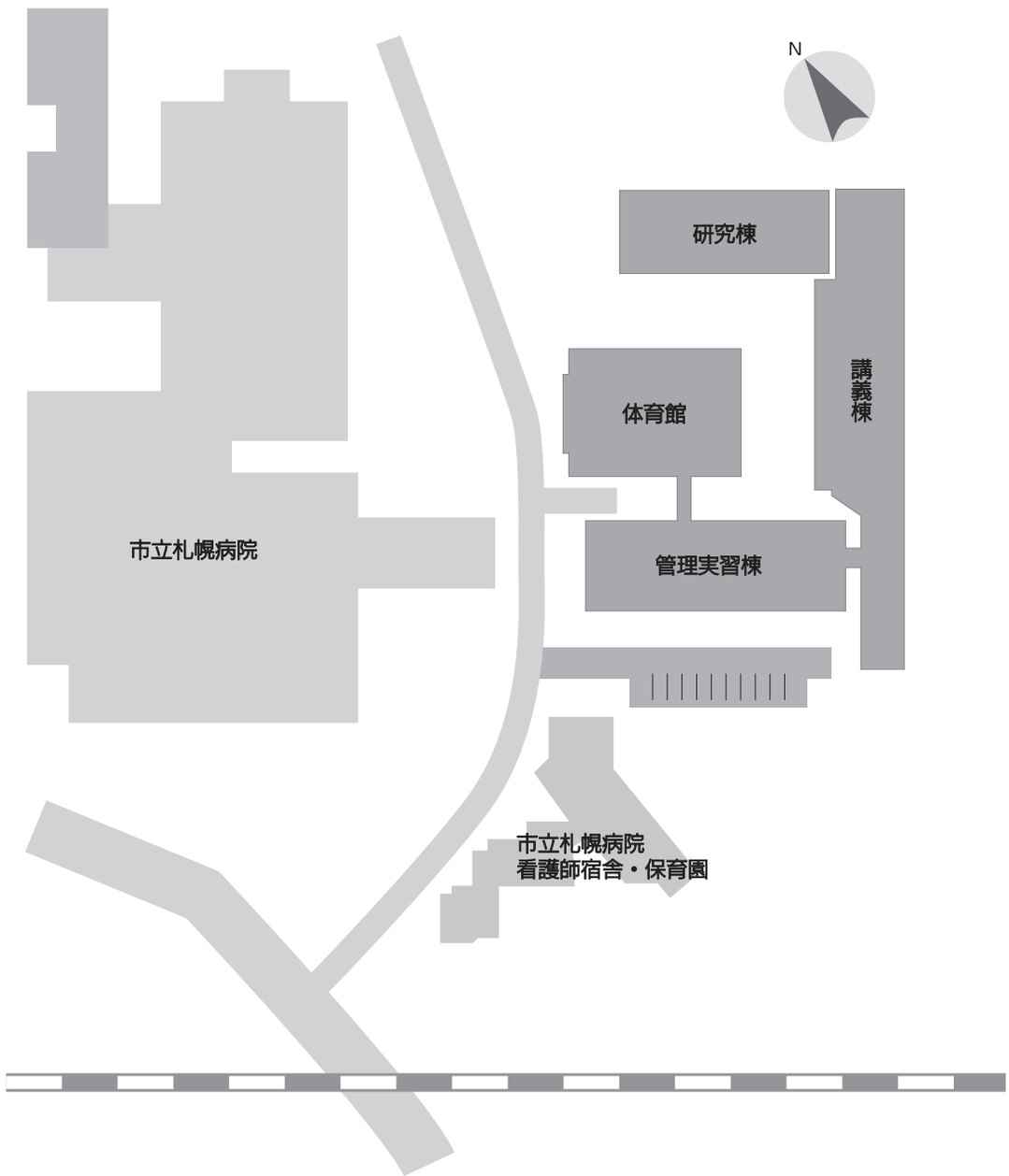
3） 桑園キャンパス 〔看護学部〕

＜施設配置図＞

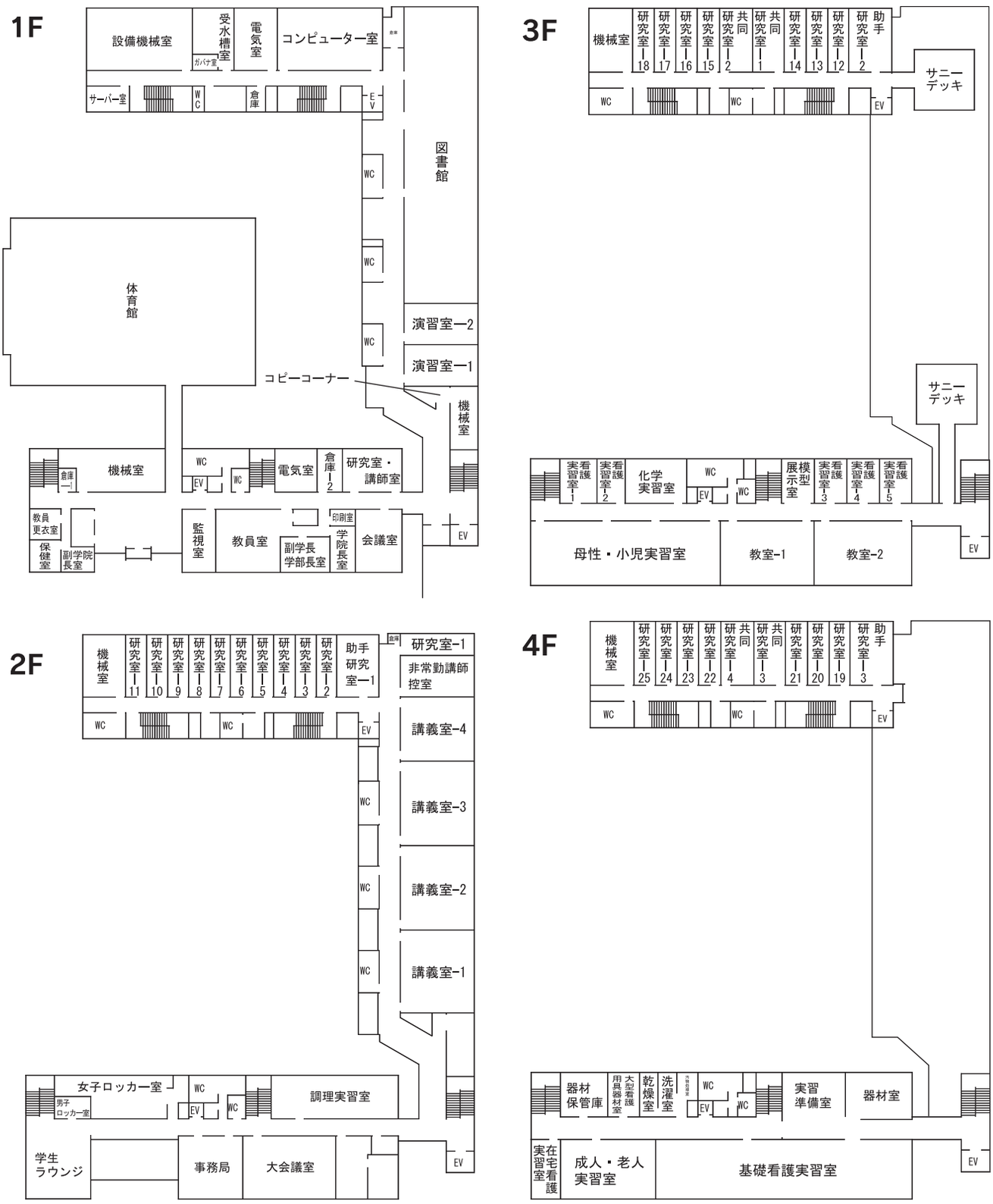
〒060-0011　北海道札幌市中央区北11条西13丁目

TEL：011-726-2500（代）

FAX：011-726-2506



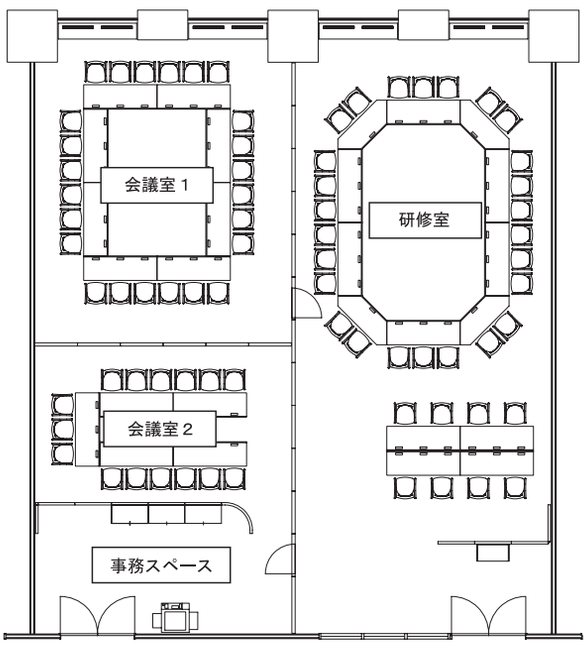
＜校舎配置図＞


1F
設備機械室
受水槽室
ガバナ室
電気室
コンピューター室
倉庫
サーバー室
WC
EV
図書館
体育館
演習室―2
演習室―1
コピーコーナー
機械室
倉庫―1
電気室
倉庫―2
研究室・講師室
教員更衣室
保健室
副学院長室
監視室
教員室
副学長学部長室
印刷室
学院長室
会議室
3F
機械室
研究室―18
研究室―17
研究室―16
研究室―15
共同研究室―2
共同研究室―1
研究室―14
研究室―13
研究室―12
助手研究室―2
サニーデッキ
看護実習室―1
看護実習室―2
化学実習室
模型展示室
看護実習室―3
看護実習室―4
看護実習室―5
母性・小児実習室
教室-1
教室-2
2F
機械室
研究室―11
研究室―10
研究室―9
研究室―8
研究室―7
研究室―6
研究室―5
研究室―4
研究室―3
研究室―2
助手研究室―1
研究室-1
非常勤講師控室
講義室-4
講義室-3
講義室-2
講義室-1
女子ロッカー室
男子ロッカー室
調理実習室
学生ラウンジ
事務局
大会議室
4F
機械室
研究室―25
研究室―24
研究室―23
研究室―22
共同研究室―4
共同研究室―3
研究室―21
研究室―20
研究室―19
助手研究室―3
器材保管庫
大型看護用具器材室
乾燥室
洗濯室
実習準備室
器材室
在宅看護実習室
成人・老人実習室
基礎看護実習室

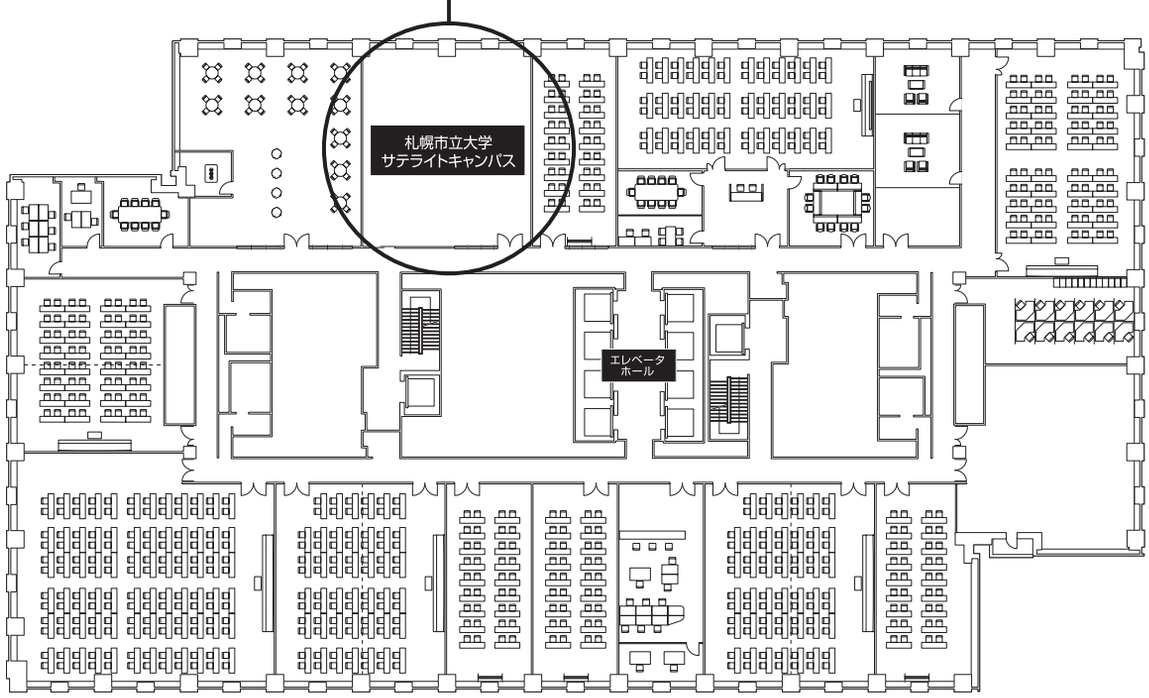
4)　サテライトキャンパス

〒060-0003　北海道札幌市中央区北3条西4丁目　日本生命札幌ビル5階
TEL：011-218-7500（代）
FAX：011-218-7507

＜室内平面図＞

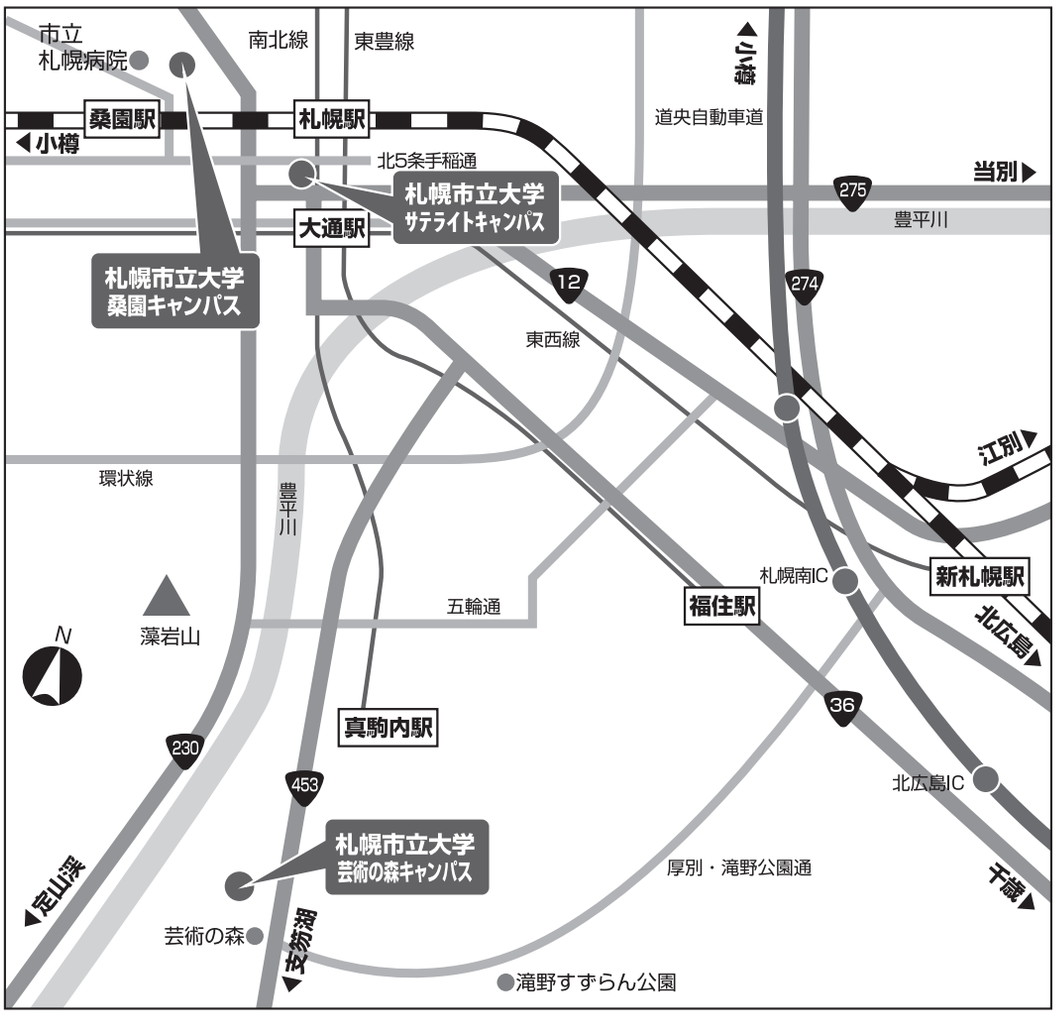


＜日本生命札幌ビル5階平面図＞

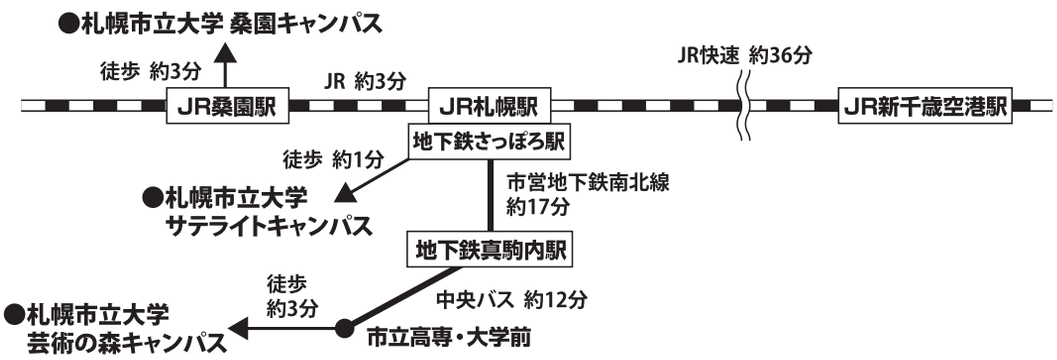


15 大学への交通アクセス

1） アクセスマップ



2） 交通案内



編集後記

札幌市立大学年報第2号をお送りいたします。

開学2年目を迎え、教職員、学生数が増えるとともに、年報のページ数も昨年度から大幅に増えました。年報をご一読下されば、これは単に人数が増えたためだけではなく、教職員、学生の相互の関連性が深まり、その活動の幅も前年度よりも格段に多様性が増した結果であることがご理解いただけると思います。掲載内容が増えた分、編集作業が昨年度よりも大変であったことは否めませんが、この年報第2号は札幌市立大学が、芸術の森キャンパスの木々のごとく、横に縦に成長していることの証となることを確信しております。本号も学内外の多くの方々にご高覧いただければ幸いです。

原稿提出や編集作業にあたり、今年度も教職員の皆様から多大なご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

平成20年12月

総務委員会　松井　美穂（デザイン学部講師）

「札幌市立大学のシンボルマークについて」
札幌市立大学のシンボルマークは、
英国の著名なクリエイティブグループtomatoの
ジョン・ワーウィッカー氏によってデザインされました。
雪の結晶のイメージは、札幌の自然環境を特徴づけると共に、
大学での学習過程を図像的にあらわしたものです。

札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY

札幌市立大学年報　平成１９年度　第２号

編　　集　総務委員会
編集責任者　中村　惠子（総務委員会委員長）
発　行　日　平成20年12月31日
発　　行　札幌市立大学
〒005-0864　北海道札幌市南区芸術の森1丁目
TEL：011-592-2300　FAX：011-592-2369
URL　http://www.scu.ac.jp
E-mail：nenpo@scu.ac.jp